

2021年度 生活情報デザイン専攻 開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■1回生 教養科目

人間と仏教Ⅰ	香月 拓	1
人間と仏教Ⅱ	CI委員長	3
社会活動実践	CI委員長他	5
社会人基礎演習Ⅰ	中里 弘穂	7
社会人基礎演習Ⅲ	成田裕行・上坂範恵	9
野外スポーツ	内田 雄・出村友寛	11
英語Ⅰ	野本 尚美	13
英語Ⅱ	野本 尚美	15
情報メディア入門	帆谷 和浩	17

■1回生 専門科目

生活科学論	田中洋一・前田博子	19
衣生活論	前田 博子	21
食生活論	谷 政八	23
住生活論	内山 秀樹	25
情報デザイン総論	田中 洋一	27
情報活用論	帆谷 和浩	29
情報活用演習	帆谷 和浩	31
プログラミングⅠ	田中 洋一	33
マルチメディア演習	澤崎 敏文	35
* Web制作演習	吉村 正照	37
ビジネス実務総論	澤崎 敏文	39
ビジネス実務演習Ⅲ	倉内 克代・大森 廣子	42
秘書概論	大竹口 麻里	45
会計学入門	大西 新吾	47
簿記演習	大西 新吾・林 律子	49
* コミュニケーション演習Ⅰ	宮沢 好美	51
* コミュニケーション演習Ⅱ	森川 徹志	54
ビジネス文書演習	諏訪 いずみ	56
デザイン表現入門	橋本 洋子	58
色彩学	橋本 洋子	60
デッサン	浅野 桃子	62
グラフィックデザインⅠ	西畑 敏秀	64
グラフィックデザインⅡ	西畑 敏秀	66
* インテリアデザインⅠ	林 公一朗	68
キャリアプランニング	田中 洋一	70
企業研究Ⅰ	澤崎 敏文	72
企業研究Ⅱ	前田 博子	74
インターンシップ	田中洋一他	76
マイプロジェクト	田中洋一他	78

2021年度 食物栄養専攻 開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■1回生 教養科目

人間と仏教Ⅰ	香月 拓	79
人間と仏教Ⅱ	CI委員長	81
社会活動実践	CI委員長他	83
* 社会人基礎演習Ⅰ	中里 弘穂	85

* 社会人基礎演習Ⅱ	森川 徹志	87
野外スポーツ	内田 雄・出村友寛	89
英語Ⅰ	モラレス・ガルシア・サマリー・セステ	91
英語Ⅱ	モラレス・ガルシア・サマリー・セステ	93
情報メディア入門	島田 貢明	95
■1回生 専門科目				
生活科学論	富永 良史	97
衣生活論	堀 照夫	99
食生活論	高木 康之	101
住生活論	内山 秀樹	103
人間関係論	清水 聡	105
* 食品学総論	小林 恭一	107
* 食品学各論	小林 恭一	109
* 食品化学実験	小林 恭一	111
* 食品加工学	小林 恭一	113
栄養学総論	高木 康之	115
栄養学各論	高木 康之	117
* 栄養学実習	木内 貴子	119
* 公衆栄養学	牧野みゆき	121
調理学	森 恵見	123
調理学実習Ⅰ	森 恵見	125
食品衛生学	野村 卓正	127
食品衛生学実験	野村 卓正	131
食品検査法	森 恵見	134
栄養指導論Ⅰ	相良多喜子	136
* 給食管理	木内 貴子	138
解剖生理学	齋藤 正一	140
有機化学	吉見 泰治	142

2021年度 幼児教育学科 開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■1回生 教養科目				
人間と仏教Ⅰ	香月 拓	144
人間と仏教Ⅱ	CI委員長	146
社会活動実践	CI委員長他	148
日本の憲法	早川 秋子	150
野外スポーツ	内田 雄・出村友寛	152
情報メディア入門	諏訪いずみ	154
■1回生 専門科目				
教育原理	増田 翼	156
教育の方法と技術	田中 洋一	158
* 子ども家庭福祉	小川智枝・賞雅さや子	160
* 社会福祉	近藤 俊英	162
* 子ども家庭支援論	小川 智枝	164
* 社会的養護Ⅰ	橋本 達昌	166
発達心理学	乙部 貴幸	168
教育心理学	乙部 貴幸	170
* 子どもの健康と安全	川端起代美	172
* 子どもの食と栄養Ⅰ	木内 貴子	174
* 教育課程総論	松川 恵子	176

* 保育内容指導法(健康)	江端 佳代	179
* 保育内容指導法(人間関係)	江端 佳代	181
* 保育内容指導法(環境)	山下 清美	183
保育内容指導法(言葉)	前田 敬子	186
* 保育内容指導法(表現)	山下 清美	188
文章表現の基礎	前田 敬子	190
身体表現の基礎	乾 典子	192
造形表現の基礎	重村 幹夫	194
音楽表現の基礎	河野久寿・川崎美砂子	196
子どもと健康	内田 雄	198
* 子どもと人間関係	小川 智枝	200
子どもと環境	大久保嘉雄	202
子どもと言葉	前田 敬子	204
子どもと表現(造形)	重村 幹夫	206
子どもと表現(音楽)	木下 由香	208
音楽(ピアノ基礎演習)	河野久寿他	210
* 乳児保育Ⅰ	高間 佳子	212
* 乳児保育Ⅱ	高間 佳子	214
リトミック	南出 眞代	216
* 教育実習Ⅰ	松川 恵子	218
* 教育実習Ⅱ	松川 恵子・河合 紀子・中里 弘穂	220
* 保育実習Ⅰ	小川 智枝・松川 恵子・中尾 繁史	222
* 保育実習指導Ⅰ	小川 智枝・中尾 繁史・山下 清美	224

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
香月 拓			
生活科学学科 教養科目		講義	ナンバリング：10A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼濟」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。 そのため、釈尊の生涯や仏教における人間観を学ぶことを通して、「本当の自分とは何か」を尋ねていく。 なお、授業は遠隔非同期（オンデマンド）にて実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べるができる。	生活DP1	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	生活DP6	20
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べるができる。	生活DP7	20
	目標④「仁愛兼濟」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べるができる。	生活DP8	10
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	生活DP9	30
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクションー仏教に何を学ぶのか	授業の取り組み方に関しての説明をする
	2	仏教とは何か	
	3	和の精神と仁愛兼濟	
	4	仁愛学園の歴史とキャンパスのモニュメント	
	5	四恩	事前に『和』 p. 1～15、p. 40～45を読んでおくこと
	6	釈尊の生涯ー誕生、青色青光・各々安立	
	7	釈尊の生涯ー青年期の苦悩	
	8	釈尊の生涯ー出家～降魔	
	9	釈尊の生涯ー成道、自己への目覚め	
	10	釈尊の教え①	
	11	釈尊の教え②	
	12	釈尊の生涯ー涅槃、死もまたいのちのすがた	
	13	釈尊入滅後の仏教	
	14	親鸞の生涯	
	15	歎異抄	
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポート課題を提出させる。		
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。毎回、3時間程度の事前・事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①毎回の課題20% 目標②毎回の課題20% 目標③毎回の課題20% 目標④最終レポート10% 目標⑤毎回の課題20%、最終レポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園は「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたAHの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号 重み付け%	
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	生活DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP1	10
	目標③仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP6	10
	目標④「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	生活DP8	25
	目標⑤自らを振り返る態度を身につける。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月 2年後の理想像と1年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入 ※遠隔非同期にて実施
	2	4月 降誕会	※遠隔非同期にて実施
	3・4	5月 開学記念日	※詳細は後日連絡
	5	5月 第1回講義	第1回レポート ※遠隔非同期にて実施
	6	6月 第2回講義	第2回レポート ※遠隔非同期にて実施
	7	9月 CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月 成道会	
	9	1月 讃仰会(追弔会)	
	10	2年次 4月 降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11・12	5月 開学記念日	
	13	9月 CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月 成道会	
	15	12月 讃仰会(追弔会)・・・講演	第3回レポート
	16	1月 2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入
	定期試験	試験に代わって、全講義終了後に『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。	
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（10%） 目標③第2回レポート（10%） 目標④第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標⑤第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP2	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP6	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP8	20
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP9	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP2	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP6	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP7	10
目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP8	20	
目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP9	10	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。	
	活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。		
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。		

評価の配点比率	目標①②レポート（100%）
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期または後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
中里 弘徳			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会で活躍するために必要な能力を理解するとともに、自己の将来を見通し、働くこと、職業を持つことの意義を考えることである。その上で現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を学ぶ。次に社会人として仕事を遂行する上で必要なコミュニケーションの取り方や職場での言葉遣い、電話応対等のビジネスマナーを実習を通して学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①働くこと、職業を持つことの意義を理解する。	生活DP2	20
	目標②現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を理解する。	生活DP9	30
	目標③社会で必要なコミュニケーション能力の基礎を身に着ける。	生活DP6	20
	目標④職場での言葉遣い、電話応対、来客応対等のビジネスマナーを習得する。	生活DP5	20
	目標⑤自分の適性を理解し、自己の職業観を確立する。	生活DP4	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の目的の理解と自分の将来を考察する	本授業が実習を多く取り入れた楽しい授業であること 職場生活に有益な授業であることを理解する
	2	働くことの必要性和意義の理解	事後課題として職業インタビューを実施する
	3	現代社会と働く環境の理解	職業インタビューの結果をグループで分析し仕事のやりがいや苦勞を考える
	4	職場で必要とされるビジネスマナー	挨拶動作などの実習を行い、プレゼンテーションがスムーズにできるようにする
	5	ビジネス敬語の演習 (基本)	日常生活で耳にする敬語に関心を持つ
	6	ビジネス敬語の演習 (応用)	ビジネス敬語の小テスト実施 事後課題としてプレゼンテーションの原案作成
	7	プレゼンテーション実習	プレゼンテーション実習 (評価対象) 実習を通し人前で話すことに慣れる
	8	仕事の進め方の基本 (基本講義)	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する グループワーク
	9	仕事の進め方の基本 (応用実習)	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する グループワーク
	10	ビジネス電話の応対実習 (基本講義)	ビジネス電話の基本を実習を通して理解する
	11	ビジネス電話の応対実習 (応用実習)	電話応対の小テスト実施 相手に好感を与える電話応対ができるようになる
	12	来客応対・訪問のマナー実習	職場や就職活動で必要となる訪問・来客応対のマナーを実習を通して学ぶ
	13	ビジネス文書作成 (基本形式、社内文書)	事後課題として書類送付状を作成してくる
	14	ビジネス文書作成 (社外文書、書類送付状作成)	就職活動に必要なビジネス文書の作成を学ぶ
15	交流分析とまとめ	自己の適性を把握する	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。事前学習ではテキストの該当する箇所を読んでわからない用語は調べて参加してください。
教科書	中里弘穂著『キャリア形成とコミュニケーションスキル』（三恵社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：中里弘穂編著『若者のキャリア形成を考える』（晃洋書房）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方や評価方法については、第1回目の授業で説明する。小テストや提出課題は評価を付し授業期間内に返却する。授業や課題についての質問は休憩時間や授業後に対応する。定期テストについては試験範囲と採点ポイントを明確にし、成績評価を含め質問がある場合には、電子メールで連絡を受けることで学生本人に回答する。（電子メール：nakazato@go.jin-ai.ac.jp）
評価の配点比率	目標① 職業インタビューのレポート10% 定期試験10% 目標② 提出課題10% 定期試験20% 目標③ プレゼンテーション実習10% 定期試験10% 目標④ ビジネス敬語の小テスト10% 電話対応の小テスト10% 目標⑤ 定期試験10%
受講上の注意	本科目は単にビジネスマナーを学ぶのではなく、職業や働き方を理解し社会人として仕事を継続する上で必要なビジネスマナーを学ぶことを目的としている。
教員の実務経験	本教員はキャリアコンサルタントとして若者の就職支援、企業団体従業員の教育・キャリア形成支援を担当してきた。その経験を活かし社会で働くうえで必要となること、社会人として仕事を継続する上で求められる仕事の進め方やビジネスマナーを理解させ、併せて職業人としてのキャリア形成を考える授業を行っている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
成田 裕行・上坂 範恵			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10B103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、公務員試験対策として必須の数的処理の対策を通じて、数的思考力を身に付けることである。そのために、以下の4単元を学ぶ。(1) 判断推理・・・文章を通じて物事を推理したり、人やモノの位置・方位の推理、命題などを学習する。(2) 数的推理・・・簡単な数学の公式を基に整数の性質や方程式、確率などを学習する。(3) 資料解釈・・・グラフや表の読み取り方を学習する。(4) 図形・・・図形の計量問題、切断、展開図などを学習する。なお、上記単元について(1)～(3)を上坂、(4)を成田が担当する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①図形の面積、体積など計量、計算が出来るようになる。	生活DP3	25
	目標②物事の事象を推理することが出来るようになる。	生活DP4	65
	目標③各種、資料を読み取ることを通じて、資料を解釈出来るようになる。	生活DP5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス(授業、試験の概要) 判断推理①論理、集合の要素の個数(ベン図、キャロル図) -1	担当:上坂、成田 事後学習:基本問題の演習
	2	判断推理①論理、集合の要素の個数(ベン図、キャロル図) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	3	判断推理②集合の要素の個数(交わりの最小個数)、順序、位置(位置・座席表) -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	4	判断推理②集合の要素の個数(交わりの最小個数)、順序、位置(位置・座席表) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	5	判断推理③位置(円卓・道をへだてて、方位・作図)、対応(対応関係、スケジュール表、対応の数値条件) -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	6	判断推理③位置(円卓・道をへだてて、方位・作図)、対応(対応関係、スケジュール表、対応の数値条件) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	7	判断推理④対応(やりとり)、勝ち負け、うそつき -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	8	判断推理④対応(やりとり)、勝ち負け、うそつき -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	9	判断推理⑤暗号、推理・手順 -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	10	判断推理⑤暗号、推理・手順 -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	11	資料解釈(実数、割合、指数、前年比、増加率、いろいろな資料) -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	12	資料解釈(実数、割合、指数、前年比、増加率、いろいろな資料) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
	13	図形①回転と軌跡、道順、折り紙 -1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
	14	図形①回転と軌跡、道順、折り紙 -2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習

15	図形②平面構成、正多面体・展開図、サイコロ -1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
16	図形②平面構成、正多面体・展開図、サイコロ -2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
17	数的推理①整数(約数と倍数、割り算の余り、 整数の性質、数列) -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
18	数的推理①整数(約数と倍数、割り算の余り、 整数の性質、数列) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
19	数的推理②整数(n進法)、方程式・不等式、 割合と比(割合、比、売買算) -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
20	数的推理②整数(n進法)、方程式・不等式、 割合と比(割合、比、売買算) -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
21	数的推理③割合と比(濃度)、速さ -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
22	数的推理③割合と比(濃度)、速さ -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
23	数的推理④その他の文章題(仕事算、ニュートン 算、年齢算、平均算)、場合の数 -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
24	数的推理④その他の文章題(仕事算、ニュートン 算、年齢算、平均算)、場合の数 -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
25	数的推理⑤確率 -1	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
26	数的推理⑤確率 -2	担当:上坂 事後学習:基本問題の演習
27	図形③積木、投影図、立体の切断、回転体、 平面図形の計量(角度、三平方の定理) -1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
28	図形③積木、投影図、立体の切断、回転体、 平面図形の計量(角度、三平方の定理) -2	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
29	図形④平面図形の計量(相似比、面積比、円、 扇形と移動図形)、立体図形の計量 -1	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
30	図形④平面図形の計量(相似比、面積比、円、 扇形と移動図形)、立体図形の計量 -2 総まとめテスト	担当:成田 事後学習:基本問題の演習
定期試験	定期試験に代わって、講義終了前もしくは終了後に毎回チェックテストを行うとともに、最終講義時に総まとめテストを実施する。	
準備学習に必要な 時間	初回授業時に配付する講義予定表記載の最重要問題および重要問題を毎回2時間程度、復習として実施する。	
教科書	大原出版株式会社 テキスト(数的処理BⅠ、数的処理BⅡ、数的処理BⅢ) 問題集(数的処理BⅠ、数的処理BⅡ、数的処理BⅢ)	
参考図書、教材、 準備物等	特になし	
課題(試験・レ ポート等)の フィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目の授業開始時に説明する。予習は必要ないが、復習として、毎回必ず関連する問題を解いていく。講義を出席すれば理解は出来るが、理解=問題が解ける、ではない。問題集を解くことで実力が付いてくる。試験は授業終了後もしくは開始前に実施し、その都度、結果をフィードバックする。	
評価の配点比率	目標①単元チェックテスト5%×4回=20%。総まとめテスト5%。 目標②単元チェックテスト5%×10回=50%。総まとめテスト15%。 目標③単元チェックテスト5%×1回=5%。総まとめテスト5%。	
受講上の注意	公務員試験対策として教養試験の3分の1を占める重要な科目になる。講義を受講すれば、基本的事項は十分に学べる。また民間の就職試験対策としての活用も一部可能である。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラー ニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	1年次	1単位	選択
担当教員			
内田 雄・出村 友寛			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。そのために今年度は、野外スポーツの中から、ゴルフを集中的に行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に野外スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	生活DP7	50
	目標② 野外スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	生活DP3	30
	目標③ 野外スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	生活DP3	10
	目標④ 野外スポーツの特徴を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	生活DP1	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	①ゴルフの運動効果、スイングの基本	全体オリエンテーションを含む
	2	②フルスイングショット	
	3	③9番アイアン打撃	
	4	①7番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	5	②5番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	6	③アイアンのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用
	7	①アプローチショット	学内運動場を使用
	8	②ピッチとラン	学内運動場を使用
	9	③パッティング	
	10	①ウッドショット打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	11	②ドライバーとスプーン	学外ゴルフ打撃場を使用
	12	③ウッドのテストとまとめ	
	13	①ルールとマナー	
	14	②コースでのプレーの仕方	
	15	③ミニ・ラウンド	ゴルフ場を使用
定期試験	試験に代わって、集中授業終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	授業で習得した練習内容や技能の振り返りとして、各回45分程度の事後学習が必要		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントして配布予定。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。レポートは、評価後にフィードバックします。		

評価の配点比率	目標①、②実技試験80% 目標③、④レポート20%
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
野本 尚美			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 教養科目		講義	ナンバリング：10D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、基礎的な英語表現を身に付けることである。 仕事で英語を用いることを念頭に置きながら、様々な英語表現や基礎的な文法事項について会話文や簡単な自己表現ライティングを軸に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①英語で書かれた文章を読んで、その内容を理解することができる。	生活DP1	40
	目標②積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	生活DP6	40
	目標③異なる文化について理解を深める意欲がある。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Unit 1 Welcome to the Big Apple 現在形	授業の進め方、予習や復習の仕方を説明する
	2	Unit 2 What's the Boss Like? 代名詞	授業前にGrammar Checking (p. 23)を解いてくること
	3	Unit 3 Masa's First Day on the Job 前置詞	授業前にGrammar Checking (p. 29)を解いてくること
	4	Unit 4 Summer Fun 過去形	授業前にGrammar Checking (p. 35)を解いてくること
	5	Unit 5 Hotel Guest Satisfaction 可算名詞・不可算名詞	授業前にGrammar Checking (p. 41)を解いてくること
	6	Unit 6 Brainstorming 進行形	授業前にGrammar Checking (p. 47)を解いてくること
	7	Unit 7 Glad to Be of Service 疑問文	授業前にGrammar Checking (p. 53)を解いてくること
	8	Unit 8 Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	授業前にGrammar Checking (p. 59)を解いてくること
	9	Unit 9 New York State 未来形	授業前にGrammar問題(p. 65)を解いてくること
	10	Unit 10 Sports Talk 比較級・最上級	授業前にGrammar問題(p. 71)を解いてくること
	11	Unit 11 Tour Day 助動詞	授業前にGrammar問題(p. 77)を解いてくること
	12	Unit 12 Party Time! 現在完了形	授業前にGrammar問題(p. 83)を解いてくること
	13	Unit 13 Office Meeting 関係詞	授業前にGrammar問題(p. 89)を解いてくること
	14	Unit 14 A Bit of History 受動態/Unit 15 Farewell, Masa and Lucy 接続詞	授業前にGrammar問題(p. 95, 101)を解いてくること
15	プレゼンテーション発表会	前期の期末定期試験期間中に試験を実施する。プレゼンについての感想や反省点をまとめ、ミニレポートとして提出する。	
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回30分～1時間程度の事前・事後学習が必要です。予習動画を配信した場合には必ず授業前に視聴してください。授業後は単語と「Grammar Checking」を見直して復習をし、次回の授業に臨んでください。		
教科書	Robert Hickling・臼倉美里著『English Missions! Basic ミッション型 大学英語の総合演習：基礎編』（金星堂、2019）		

参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内容についての確認テスト 40% 目標②プレゼンテーション 40% 目標③ミニレポート 20%
受講上の注意	基礎的な英単語や英文法を学びます。わからないところは積極的に質問してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
野本 尚美			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻		講義	ナンバリング：10D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、ビジネスの現場で用いられる基礎的な英語表現を身に付けることである。単語や文法の学習、音読練習などを取り入れながら、ビジネス英語の基礎について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①基礎的な英語表現を用いて書かれた文章を読んで、その内容を理解することができる。	生活DP1	40
	目標②積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	生活DP6	40
	目標③異なる文化について理解を深める意欲がある。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction / Unit 1: This is my first visit there.	授業の進め方、予習や復習の仕方を説明する
	2	Unit 2: How do you like Bangkok?	授業前にGrammar問題(p. 17)を解いてくること
	3	Unit 3: It's going well so far.	授業前にGrammar問題(p. 23)を解いてくること
	4	Unit 4: Have they decided on the design yet?	授業前にGrammar問題(p. 29)を解いてくること
	5	Unit 5: Could you take a look at them? / 発表(プレゼンテーション) 準備	授業前にGrammar問題(p. 35)を解いてくること
	6	Unit 6: My flight was canceled. / 発表(プレゼンテーション)	授業前にGrammar問題(p. 41)を解いてくること
	7	Unit 7: What do you want me to do? / 発表(プレゼンテーション)	授業前にGrammar問題(p. 47)を解いてくること
	8	Unit 8: She knows marketing very well.	授業前にGrammar問題(p. 53)を解いてくること
	9	Unit 9: Thank you for coming to our interview.	授業前にGrammar問題(p. 59)を解いてくること
	10	Unit 10: The competition will be very strong.	授業前にGrammar問題(p. 65)を解いてくること
	11	Unit 11: This is where we hold meetings.	授業前にGrammar問題(p. 71)を解いてくること
	12	Unit 12: I'd like to talk about our latest model.	授業前にGrammar問題(p. 77)を解いてくること
	13	Unit 13: You are much better than me.	授業前にGrammar問題(p. 83)を解いてくること
	14	Unit 14: If I were you, I wouldn't miss it.	授業前にGrammar問題(p. 89)を解いてくること
	15	Unit 15: I'd like to propose a toast.	前期の期末定期試験期間中に試験を実施する
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回30分～1時間程度の事前・事後学習が必要です。授業後は学習した単語と「Grammar」を見直して復習をし、次回の授業に臨んでください。		
教科書	角山照彦・Simon Capper著『Let's Read Aloud More! 音読で極める基礎英語』(成美堂、2015)		

参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
評価の配点比率	目標①授業内容についての確認テスト 40% 目標②プレゼンテーション 40% 目標③ミニレポート 20%
受講上の注意	基礎的な英単語や英文法を学びます。わからないところは積極的に質問してください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
帆谷 和浩			
生活科学学科 教養科目※生活情報デザイン専攻	情報処理士資格選択・ビジネス実務士資格選択	講義	ナンバリング：10D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学、職場、家庭にて必要となるコンピュータリテラシーの基礎的な能力を理解・習得することである。 本学のICT環境を習熟し、情報倫理・OSの基礎・タッチタイピング・インターネットの利用・文書作成・表計算の基礎を学ぶとともに、栄養士としての事例課題に取り組むことにより、現場でのICT活用法についても学ぶ。また、初年次教育科目として、情報収集の方法（図書館の活用を含む）、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①情報を取り扱う多様なメディア（媒体）の特徴を理解し、適切に活用できる。	生活DP6	20
	目標②コンピュータの基本的な操作法、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど基本ソフトウェアを効率的に使用できる。	生活DP3	30
	目標③作成した情報コンテンツを、他人と比較を通して、情報の受け手の立場で評価する。	生活DP9	10
	目標④公開されているオープンデータを参照し、統計的な処理ができる。	生活DP5	20
	目標⑤インターネット活用を通して、情報リテラシーの基礎な考え方を身につけている。	生活DP4	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 授業における内容と心構え Moodle、画面設定、メールの設定	配布した操作説明のプリントを読んで、PCへのログイン等の操作に慣れておくこと
	2	タッチタイピング 入力テスト1	Word の基本機能の操作比較理解 タイピングソフトの練習は以下毎回講義内及び事後学習として行う
	3	電子メール（作成・送信、受信、返信）	配布プリントで復習しておくこと
	4	情報収集（情報検索・図書館活用）の基礎	事前に配布したプリントを熟読し内容を理解しておくこと Moodle演習課題、ミニレポート提出
	5	文書作成の基礎-1 文書の構成 日付、挨拶文、文字編集（フォント、網かけ、ルビ、文字位置）、文字数	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	6	文書作成の基礎-2 表の作成（罫線、文字位置、均等割付）、切取線、段組み、透かし、並べ替え、表内計算	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	7	レポート作成の基礎	レポート作成の理解（実技） Moodle演習課題、Word 実技 Excelの基本機能の操作、画面キャプチャー応用理解
	8	表計算の基礎-1 スプレッドシート、表計算ソフトの機能	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
9	表計算の基礎-2 効率の良い関数入力と作表方法 関数を用いた集計方法、最頻値、順位付け、並べ替え	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出	

10	表計算の基礎-3 文字列関数、日付・時刻関数、検索・置換、文字の取り出しと結合	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
11	表計算の基礎-4 同じ結果となる関数 フィルタ機能、データベース関数、複数条件付き関数	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
12	表計算の基礎-5 同じ結果となる複数条件集計 グラフ作成、画像配置、図形描画の活用、統計処理	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
13	プレゼンテーションの基礎 スライド作成、アニメーション機能、スライドショーの作成	PowerPointの機能を理解する Moodle演習課題、ミニレポート提出
14	プレゼンテーション資料の作成のための情報収集、整理、発信（PDFファイルの作成）	Word および Excelの基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
15	スプレッドシート活用のまとめ Excel 実技試験 提出レポートの作成 最終レポート課題	Moodle 効率の良い表計算と関数の理解（実技試験） （反省） 最終レポート課題は、締め切りを厳守
定期試験	試験期間中に試験は実施しない。	
準備学習に必要な時間	毎回、タッチタイピング練習も含め3時間程度の事前・事後学習が必要。事前に教科書及び配布プリントの該当項目のページに目を通しておくことが望ましい。	
教科書	『30時間でマスター Office2019』（実教出版）	
参考図書、教材、準備物等	タイピングソフトウェアTypeQuick USB版（日本データパシフィック）『電子メールを使おう』（配布プリント）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第1回のガイダンスで説明する。課題は、基本的に講義時間内で作成・提出とする。指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。Moodle小テスト及び発展課題は、事後学習として行う。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（hotaboo@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。	
評価の配点比率	目標①最終課題10%、授業内課題5%、Moodle上の小テスト5% 目標②最終課題10%、タイピング10%、授業内課題5%、発展課題5% 目標③最終課題5%、授業内課題5% 目標④最終課題5%、授業内課題10%、発展課題5% 目標⑤最終課題10%、授業内課題5%、Moodle上の小テスト5%	
受講上の注意	初年次教育科目として入学後の学習及び社会人として必要となる情報処理の基礎を身につけると同時に、現場で活用できる力を修得することを目標としています。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	必修
担当教員			
田中 洋一・前田 博子			
生活科学学科生活情報デザイン専攻 専門科目 (学科共通科目)	情報処理士資格選択・ビジネス実務士資格選択	講義	ナンバリング：14A101
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、生活科学のテーマにもとづき、グループで主体的に学ぶ方法を身につけることである。本授業では、生活科学学科の根幹をなす「衣と生活」「食と生活」「住と生活」「情報と生活」という各分野に関する4つのシナリオを用いた課題解決型学習 (Problem Based Learning) を行う。グループ作業を通してシナリオから問題を発見し、学習者自身が学習の計画を立てる。計画をもとに個別の調べ学習を行うが、グループで合意形成しながら学習することにより、一人では得られない学習成果を得る。この課題解決型学習を4回繰り返すが、各回の最後には、グループ発表と自己評価を実施する。最終的に、衣・食・住・情報を統合して、生活(暮らし)の課題解決を考える。</p> <p>※本授業は、初年次教育科目である。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①衣・食・住・情報に関する、自分の関心・興味のある知識について説明できる。	生活DP2	40
	目標②論理的に考えることにより、課題を発見できる。	生活DP4	8
	目標③根拠にもとづき、課題を解決できる。	生活DP5	26
	目標④他者と合意形成し、グループ全体としての発表ができる。	生活DP6	8
	目標⑤多様性の意義を理解し、適切に自己評価・相互評価ができる。	生活DP9	18
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、シナリオを用いたPBLの説明、アイスブレイク等のグループワーク	事後学習にて本授業の学習方法をしっかりと理解する。 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記述。
	2	PBL1「衣と生活」グループワークによる課題発見	LMS (仁短Moodle) にプロブレママップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習 (個別学習) を行う。
	3	PBL1「衣と生活」グループワークによる課題解決	LMS (仁短Moodle) に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	4	PBL1「衣と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、「衣と生活」のレポートを書き、LMS (仁短Moodle) に提出。
	5	PBL1「衣と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価、 PBL2「食と生活」グループワークによる課題発見	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。LMS (仁短Moodle) にプロブレママップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習 (個別学習) を行う。
	6	PBL2「食と生活」グループワークによる課題解決	LMS (仁短Moodle) に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	7	PBL2「食と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、「食と生活」のレポートを書き、LMS (仁短Moodle) に提出。
	8	PBL2「食と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価、 グループワークによるPBL1及びPBL2の振り返り	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、PBL1～PBL2の振り返りを行う。
	9	PBL3「住と生活」グループワークによる課題発見	LMS (仁短Moodle) にプロブレママップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習 (個別学習) を行う。

10	PBL3「住と生活」グループワークによる課題解決	LMS (仁短Moodle) に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
11	PBL3「住と生活」グループ発表①と相互評価	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、「住と生活」のレポートを書き、LMS (仁短Moodle) に提出。
12	PBL3「住と生活」グループ発表②と相互評価・自己評価、 PBL4「情報と生活」グループワークによる課題発見	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。LMS (仁短Moodle) にプロブレムマップを提出。事後学習にて、個人の調べ学習 (個別学習) を行う。
13	PBL4「情報と生活」グループワークによる課題解決	LMS (仁短Moodle) に個別学習を提出。事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
14	PBL4「情報と生活」グループ発表と相互評価	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、「情報と生活」のレポートを書き、LMS (仁短Moodle) に提出。
15	PBL4「情報と生活」グループ発表と相互評価・自己評価、 グループワークによるPBL1～PBL4の振り返り、 衣・食・住・情報を統合した生活 (暮らし) を考察	相互評価にはLMS (仁短Moodle) を用いる。事後学習にて、PBL1～PBL4の振り返りを行う。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に衣・食・住・情報を統合した生活 (暮らし) に関するレポートを作成し、LMS (仁短Moodle) に提出。	
準備学習に必要な時間	調べ学習のため、毎回3時間程度の予習・復習が必要です。	
教科書	使用しない	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『問題解決のためのリテラシー強化書 (講義編)』 (河合塾)、『レポート・論文作成に役立つ文書表現力』 (noa出版)	
課題 (試験・レポート等) のフィードバック	レポートに関しては、LMS (仁短Moodle) を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。	
評価の配点比率	目標①レポート40% (10%×4回) 目標②プロブレムマップ8% (2%×4回) 目標③個別学習16% (4%×4回)、統合レポート10% 目標④グループ発表8% (2%×4回) 目標⑤振り返りノート18% (1%×14回+15回目4%)	
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。各回の最後、経験学習サイクルの3点に関して、仁短Moodleの振り返りノートに記述します。グループ作業が中心のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がグループで主体的に学ぶことをめざしています。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
前田 博子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目(学科共通科 目)		講義	ナンバリング：14A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、衣服を着用することの意を哲学的視点から省察し、考える力を身につけることである。衣服文化からファッション産業と幅広く学び、社会が抱える問題についての解決策等を模索する。コーディネートや自身の衣服調査実践を交えて考察する。ものが溢れる世の中だからこそ、消費者としての考え方やその方法について暮らしの中で実践できることを深く考え、自ら学習する姿勢を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①衣服についての知識を身につける。	生活DP1	20
	目標②衣服環境についての知識を身につける。	生活DP2	20
	目標③衣服環境における問題の解決策を提示できる。	生活DP5	20
	目標④社会や文化の多様性を理解している。	生活DP9	20
	目標⑤課題に対して主体的に行動する態度を身につけている。	生活DP8	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	マスクの作り方を探す	材料や道具を買わずに家にあるものを工夫してつくるための情報を探す。
	2	マスク制作	マスクの完成度によって評価される課題ではありません。前回調べたことを実践し、感じたことや考えたことをレポートにまとめる。マスク制作に必要な材料を集めておきましょう。
	3	ファッションコーディネート/マスクコーデの提案	レポートの提出
	4	調査/わたしの服①	衣服をアイテム毎に分類し自身の傾向を知る。レポート提出
	5	調査/わたしの服②	衣服の生産国調査を調査する。レポート提出
	6	本を読む/衣服への理解を深める	鷲田清一『ひとはなぜ服を着るのか』第一部「気になる身体 (p12-24)」
	7	ファストファッション①	レポート提出
	8	ファストファッション②	レポート提出
	9	TPOヘア&メイク	『ひとはなぜ服を着るのか』第一部「コスメティックー変身の技法 (p58-68)」 レポート提出
	10	服をつくる	服の作り方を調べる。つくった服と既製服を比べレポートにまとめる。 レポート提出
	11	ファッショントレンド春夏/資料作成	雑誌、画材道具、マスキングテープ等用意
	12	ファッショントレンド秋冬/資料作成	雑誌、画材道具、マスキングテープ等用意
	本を読む/モノと人、衣服との関わりについて知る	田中忠三郎『物には心がある。消えゆく生活道具と作り手の思いに魅せられた人生』麻の腰巻き、そして女性下着の研究 (p18-21)、パンツはくとカモ腐る	

	13	(p24-27)、暗く貧しい生活の中でも「女として美しくありたい」(p28-29)、囲炉裏が家族を作る(p56-59)、ドンジャの中、裸で眠る親と子(p82-85)、生命の布「ボド」ー「座産」(p166-169)
	14	ファストファッション③ DVD鑑賞のため面接授業(日時については後日連絡)
	15	これからの衣生活について レポート提出
定期試験	試験は実親しないが毎回のレポートや課題にて成績評価をおこなう。	
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。	
教科書	田中忠三郎著「物には心がある」 鷺田清一著「ひとはなぜ服を着るのか」	
参考図書、教材、準備物等	適時指示する。	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	レポートに関しては、LMS(仁短Moodle)を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。	
評価の配点比率	レポート及び課題100% 目標①レポート20% 目標②レポート20% 目標③レポート10%提出課題10% 目標④提出課題20% 目標⑤提出課題20%	
受講上の注意	洋服を着るということは毎日あたりまえに行うことです。だからこそ日常的にバランスのとれたコーディネートの必要となります。 日頃からファッションについての関心を深めるために「自分らしさ」を意識した洋服選びを心がけてください。 課題に必要な材料はB301に期間を決めて置いておきますので、各自持ち帰ってください。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
谷 政八			
生活科学学科生活情報専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：14A103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、現代社会の中で、好ましい食生活のあり方を「食と健康」の視点から習得することを目指す。 いま、国際化、情報化の社会になって、食生活は豊かになった半面、問題点も指摘されている。学生は、現代の食環境の変遷を手繰りながらこれからの生活の豊かさ、健康な生活を考える手掛かりとする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①現代社会が抱えている食生活の背景ともなる社会環境の変化の係わりが理解できる。	生活DP1	15
	目標②食生活の背景となる産業と経済に関わる問題点を理解することができる。	生活DP2	30
	目標③食生活における健康と栄養の問題を健康づくりの礎として身につけることができる。	生活DP3	25
	目標④食生活の文化的な伝承と創造を育むための豊かなコミュニケーションについて考えることができる。	生活DP4	20
	目標⑤「食」が自分自身にとって大切なことであると知ったうえで食生活のあり方を身につけている。	生活DP9	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	現代の食事情の問題点 「食」の意義	
	2	日本の食生活の歴史 その1 祖先は何を食べてきたのか?	
	3	日本の食生活の歴史 その2 食生活の変遷	
	4	食料の問題 食料資源と需給、自給率などの関係	食料に関するTPP、SDGsなどについて
	5	地域の特産物振興と産業 安心安全な食産業	食品加工、食品添加物、食品衛生 (食中毒)
	6	福井の特産物を知ってみよう	調査・演習：事前に自主学習として調査する。
	7	健康と栄養の問題 その1 日本人の健康づくり	演習：食事バランスガイド・エネルギー代謝量の求め方を学ぶ (予習・復習)
	8	健康と栄養の問題 その2 日本人の食事摂取基準について	ライフサイクルと栄養 肥満とやせ
	9	食品の成分とはたらき 食品の栄養	食品成分表 五原味・おいしさとは?
	10	食品の機能性 六大栄養素の特性	栄養素と非栄養素
	11	食べものことからからだの仕組み	消化と吸収、生体リズム
	12	栄養素のはたらきとゆくえ	物質代謝 (同化作用と異化作用の相互作用)
	13	食品と文化 日常食品の文化的背景	伝統食品、食文化
	14	食生活と文化 伝承と創造 (行事と食事)	伝統的食行事(晴れの日、ケの日)福井県
15	食教育 学校での食育・社会での食育・生涯にわたる食育		
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。(レポート提出)		

準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前・事後学習が必要。 特に下記は必ず実施すること。復習1、2、3、4：各30分、予習5、6、7、8：各60分、復習9、10、11、12：各30分、予習13、14、15：各60分
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	プリント教材を資料として配布する。 参考図書：谷政八 編集代表 最新栄養学 中央法規出版（平成22年）、奥恒行・山田和彦編集 谷政八共著 基礎から学ぶ生化学 南江堂（平成31年）、上野川修一編 日本の食を科学する 朝倉書店、藤沢良知編 栄養・健康データハンドブック2015・2016 同文書院（平成27年） 日本食生活史 渡辺実編 吉川博文館
課題（試験・レポート等）のフィードバック	講義は、視聴覚機器を使用したプリント資料を利用するので授業内容を記入する。その都度ノート・メモ用紙を配布するので、用紙の提出を評価の対象にする。授業内容によって課題演習を取り入れるので提出する。評価された後各自にフィードバックし提出物は返却する。
評価の配点比率	目標①ノートの内容テスト 15% 目標②ノートの内容テスト 15% 食糧と経済関係のレポート15% 目標③ノートの内容テスト 15% 健康と栄養に関するレポート10% 目標④ノートの内容テスト 10% 食生活と文化に関するレポート10% 目標⑤ノートの内容テスト 10% 以上の項目を総合評価して成績の評価とする。
受講上の注意	本授業から、健康な生活環境を「食」を視点にグローバル化する変化を様々な情報媒体で収集して、利用できるように日頃から努める様に心がけて欲しい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
内山 秀樹			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、環境デザイン分野の住まいに関する導入が目的である。人間にとって最も基本的な生活空間であるとともに一生のうち最も多くの時間を過ごしている「住まい」について、「眠る」、「食べる」、「着る」、「入浴・排泄」などの生活行為の視点から”住まう”ことの意味と人と住まいの関係のあり方、望ましい住環境について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人間とすまいの関係や環境と住文化について説明することができる。	生活DP9	20
	目標②生活行為と住空間のあり方について説明することができる。	生活DP1	40
	目標③自宅の間取りをわかりやすく描き、住環境の問題点を抽出することができる。	生活DP4	20
	目標④住環境の良否について適切に評価し、説明することができる。	生活DP5	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業ガイダンス／1 人と生活・住まい 1 人間とは	授業までに、授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	2	1 人と生活・住まい 2 集まって住む～3 環境と住まい 課題①「わが家の間取りチェック」の説明	課題①「わが家の間取りチェック」自宅の間取りを簡単に描き、バリアフリーの観点からの問題点と住空間的に優れている点を整理する。
	3	2 生活行為と生活空間 A 眠る(1) 1 睡眠の生理～3 就寝様式	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	4	A 眠る(2) 4 就寝空間の計画	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	5	B 食べる(1) 1 食事について～3 食事の文化と変遷	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	6	B 食べる(2) 4 食事の場、調理の場の計画～5 調理と環境問題	授業内容に相当する箇所までテキストを予習しておくこと
	7	受講生が課題①を発表し、それについて講評する。	課題①を説明できるように準備しておくこと
	8	D 排泄・入浴(1) 1 排泄する～4 水環境	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	9	D 水回り空間(2) 5 現代の衛生空間～6 衛生空間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	10	E ふれあう・くつろぐ(1) 1 今日のふれあいについて～3 今日のふれあい・くつろぎ空間	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと
	11	良い住まいとは～優れた住まいの事例の動画等による解説	課題②レポート「住まいに関する動画をみて」視聴した動画の概要と学んだこと、考えたことなどをレポートにまとめる。
12	E ふれあう・くつろぐ(2) 4 居間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習しておくこと 課題③についての説明を行う 住宅展場にいき、関心を持った2物件について調査、ヒヤリングした内容をレポートにまとめる	

	13	F 子どもを育てる(1) 1 子供とは～3 子供と生活	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	14	F 子どもを育てる(1) 4 子供と住まい～5 子供部屋の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	15	G 高齢者が住む・安らぐ 1 高齢者と高齢社会～4 高齢者の住まいの計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること 課題③「住宅展示場見学レポート」提出締め切り
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回時間程度の事前事後学習が必要。		
教科書	林 知子他『住まい方から住空間をデザインする一図説住まいの計画』(彰国社 最新版)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：小宮洋一、片山勢津子、他『新しい住まい学』(井上書院 2016)、定行 まり子・沖田富美子『生活と住居(光生館 2013)、水上裕、岩崎俊之、他『住まいのミカタ 暮らしに役立つ住居学』(学芸出版社 2009)、小澤紀美子編『豊かな住生活を考える-住居学』(彰国社 2002)		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	課題や試験は期末または採点が済み次第、各自に返却する。		
評価の配点比率	目標①期末試験20% 目標②期末試験40% 目標③「わが家の間取りチェック」20% 目標④「住まいに関するビデオをみて」10%、「住宅展示場見学レポート」10% 計20%		
受講上の注意	住まいのプランニングやインテリア関連分野を目指す方はもちろん、今後、生活者として不可欠の知識、理解を得ることができる基本的な内容であるため、受講することが望ましい。 机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
田中 洋一			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	情報処理士資格必修・ビジネス 実務士資格必修	講義	ナンバリング：14E102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、問題解決能力を身につけることである。 そのため、すぐには答えが見つからないがリアリティのある事例に取り組み、自ら課題を発見し、それを解決していくため、デザイン思考にもとづく問題解決手法のマインドセットや方法論を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①考えを可視化した後、ルーブリックにもとづきレポートを作成できる。	DP 2	15
	目標②多面的かつ順序立てて、モノゴトを考えることができる。	DP 4	15
	目標③デザイン思考にもとづき、適切な判断ができる。	DP 5	25
	目標④他者の声に耳を傾け、自分の考えを自分の表現（口頭、文章等）で伝えることができる。	DP 6	20
	目標⑤グループで目標を共有し、同僚支援及び率先垂範ができる。	DP 9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、カードゲームを用いたアイスブレイク	グループワーク、事後学習にて、対話の方法を振り返り、マイセオリーを実践する。 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記事。
	2	デザイン思考ミニワーク①「自分の課題」に関するペアワーク	ペアワーク、事後学習：デザイン思考ミニワークシートを仕上げる。プロトタイプ案を考える。
	3	デザイン思考ミニワーク②「自分の課題」に関するペアワーク	ペアワーク、事後学習：デザイン思考ミニワークを仕上げる。プロトタイプを仕上げる。
	4	共感①観察力：じっくりミレー	グループワーク、事後学習：共感や観察に関するマイセオリーを実施する。
	5	共感②質問力：QFTシート	グループワーク、事後学習：QFTシートを完成させる。
	6	共感③インタビュー力：他己紹介	ペアワーク、事後学習：他己紹介文を仕上げる。
	7	問題定義①情報分析力：コンセプトマップ、レポート作成	グループワーク、事後学習：レポートを作成する。
	8	問題定義②課題発見力：プレスト、KJ法、SWOT分析「生活情報専攻の広報」	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：課題発見シートを仕上げる。
	9	創造①発想力：世界のCM、お絵描き	グループワーク、事後学習：発想シートを仕上げる。
	10	創造②構想力：「生活情報デザイン専攻の広報」（実現性、有用性、革新性）	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：構想力シートを仕上げる。
	11	プロトタイプ：「生活情報デザイン専攻の広報」	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：プロトタイプを仕上げる。
	12	テスト：「生活情報デザイン専攻の広報」	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：テストシートを仕上げる。
	13	ストーリーテリング①制作	グループワークによる問題解決型学習、事後学習：ストーリーテリングを仕上げる。
	14	ストーリーテリング②発表	グループワークによる問題解決型学習、発表、事後学習：改善提案をまとめる。
15	振り返り	グループワーク、事後学習：最終レポートを作成する。	
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、最終レポートを提出。		

準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の予習・復習が必要です。詳細は、仁短Moodle上に示します。
教科書	適宜、必要な資料を配付する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『世界のトップデザインスクールが教える デザイン思考の授業』日本経済新聞出版、『問題解決のためのリテラシー強化書（講義編）』河合塾、『レポート・論文作成に役立つ 文書表現力』noa出版。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	デザイン思考ミニワークシート等、紙メディアの提出物は、仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。レポートの提出等には仁短Moodleを用いて、課題モジュールのコメント機能等で結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①コンセプトマップ5%、レポート作成10% 目標②QFTシート5%、課題発見シート5%、発想力シート5% 目標③デザイン思考ミニワークシート10%、構想力シート5%、プロトタイプ5%、テストシート5% 目標④他己紹介文10%、ストーリーテリング10% 目標⑤振り返りノート15%（1%×15回）、最終レポート10%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明しますが、基本的に隣席の学習者とのペアワーク及びグループワークで進行します。各回の最後、経験学習サイクルの3点に関して、仁短Moodle上の振り返りノートに記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がペア及びチームで主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
帆谷 和浩			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	情報処理士資格必修・ビジネス 実務士資格必修	講義	ナンバリング：14B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学及び職場にて情報を扱う知識やスキルを身につけることである。テキストを通して情報の収集・分析・整理・保管・表現の方法、表計算、データ管理、プレゼンテーションについて学ぶ。授業初回および期末試験として情報活用力診断テストを行い、自身の成長を実感してもらう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①情報を活用するための基礎的な知識・技能が身についている。	DP 1	30
	目標②情報を多面的かつ順序立てて分析し活用できる。	DP 4	20
	目標③職場において情報を管理する知識・技能が身についている。	DP 2	20
	目標④情報を活用する的確な判断力を身につけている。	DP 5	20
	目標⑤生活の中で主体的に情報活用力を活かせる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、プレテスト	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	2	電子メール1（登録、作成、送信、受信、返信）	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	3	電子メール2（転送・フィルタ、添付）	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	4	インターネット（Web、SNS、ブログ）	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	5	情報検索	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	6	情報倫理（著作権、肖像権、個人情報）、情報セキュリティ	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	7	表計算1（数式、セル参照、関数）	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	8	表計算2（グラフ）	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	9	データベース	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	10	ファイル・データ管理	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	11	文書表現	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	12	ビジュアル表現	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	13	プレゼンテーションの基本	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
	14	プレゼンテーション資料作成1	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。
15	プレゼンテーション資料作成2	教科書の指定部分を予習してくる。毎回、課題を課す。	
定期試験	情報活用力診断テストRastiおよび入力テストを行う。		

準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の事前学習が必要。
教科書	『考える 伝える 分かちあう 情報活用力』（noa出版）、 情報活用力診断テストRasti（NPO法人ICT利活用力推進機構、大阪商工会議所）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：インターネット上や市販のWord、Excelの文献
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。 質問等がある場合は、電子メールで連絡してください。試験はRastiの結果を配布してフィードバックします。
評価の配点比率	目標①～④情報活用力診断テスト（Web試験）60% 目標①～④課題30% 目標⑤入力テスト10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	必修
担当教員			
帆谷 和浩			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	情報処理士資格必修	演習	ナンバリング：14B103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、事務処理に必要不可欠な道具となっている表計算ソフトを利用した集計処理およびデータ管理の方法を身につけることである。 そのため、表計算ソフトの基本的かつ効率の良い使用法を学び、課題を通してデータの活用方法やさまざまな観点からデータを捉える方法を学ぶ。また、Microsoft Office Specialist試験の対策を行い、試験に合格できる知識を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①表計算の基本的な知識が身についている。	DP 1	15
	目標②表計算ソフトExcelの基本操作が身についている。	DP 1	15
	目標③目的に応じて、適切なデータ処理を選択できる。	DP 5	20
	目標④ビジネスの場で用いるExcelの機能を理解している。	DP 2	20
	目標⑤ビジネスの場で用いる実用的な表を順序立てて作成できる。	DP 4	10
	目標⑥Excelの知識を実生活に活かすことができる。	DP 7	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ワークシートの操作、印刷とBackstage	毎回の説明と課題を課す。
	2	セルのデータ作成とオートフィル	
	3	セルの範囲指定方法、並べ替え	
	4	セルの書式設定とページ設定	
	5	ワークシートとブックの管理	
	6	数式と関数による集計	
	7	条件付き論理	
	8	グラフと図	
	9	ブックの共有とコメントの管理	
	10	フィルタ、データベース関数、複数条件関数	
	11	テキスト第1回模擬試験の実施、解説	
	12	テキスト第2回模擬試験の実施、解説	
	13	テキスト第3回模擬試験の実施、解説	
	14	テキスト第4回模擬試験の実施、解説	
	15	テキスト第5回模擬試験の実施、解説	
定期試験	期末試験またはMOS試験を行う。		
準備学習に必要な時間	課題のため、各回1時間程度の事後学習が必要。		
教科書	『Microsoft Office Specialist Microsoft Excel 2019 対策テキスト&問題集』（FOM出版）		
参考図書、教材、準備物等	参考図書:Excelに関する書籍		

課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題、試験ともにMoodleにてフィードバックを行う。MOS試験の場合は結果をプリントしたものをフィードバックする。
評価の配点比率	目標①～④実技試験70% (期末試験またはMOS試験) 目標⑤⑥課題30%
受講上の注意	Excelは様々な会社で使われていますので、将来役立つと思います。MOS Excelの取得を目指しましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	必修
担当教員			
田中 洋一			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	情報処理士資格必修	演習	ナンバリング：14B102
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、プログラミングの楽しさに触れると共に、問題解決能力・論理的思考力・創造力を身につけることである。 そのため、小学生でも簡単に使用できるブロック型プログラム言語Scratchを用いて、ゲーム制作およびプログラミングの初歩を学ぶ。 小学生にプログラミングを教えるCoderDojoプロジェクトをケースとして、例題や教え方を考える。変数、関数、条件分岐、乱数を使用したアルゴリズムの基本を学習する。また、デザイン思考のプロセスを知り、プログラム制作に活用でき、自分の思考・判断・表現を振り返ることができる。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①プログラミングの基礎的なキーワード(変数、関数、条件分岐等)について説明できる。	DP1	11
	目標②論理的思考力：物事を整理し構造的にとらえることができる。	DP4	29
	目標③問題解決能力：他者の体験等を追体験することにより、問題を再定義できる。	DP5	13
	目標④創造力：「想像する→作る→遊ぶ→共有する→振り返る→再び想像する」というサイクルを繰り返すことにより、新しい価値のあるものを作ることができる。	DP5	28
	目標⑤制作を通して、自分に自信を持ち、プログラミングを楽しめる。	DP7	19
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	事後学習：Blockly Gamesのプログラムを体験 ※毎回、仁短Moodleにて振り返りノートの記述。
	2	Scratch入門（繰り返し）	アニメーションを作ろう（例題1）、図形を描こう（例題2）、事後学習：すべてのプログラムを完成
	3	Scratch入門（条件分岐&変数）	2つ以上のものを動かそう（例題3）、音を鳴らそう（例題4）、乱数を用いたゲームを制作しよう（例題5）、事後学習：ピンポンゲームの完成
	4	処理の繰り返しを用いたピンポンゲームを制作しよう	ピンポンゲーム（課題1）を制作、事後学習：独自ピンポンゲーム及びプログラム説明ページの完成
	5	ピンポンゲームの相互評価・自己評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返り。
	6	条件分岐を用いた迷路ゲームを制作しよう	迷路ゲーム（課題2）を制作、事後学習：独自迷路ゲーム及びプログラム説明ページの完成
	7	迷路ゲームの相互評価・自己評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返る。
	8	変数及び数値演算を用いたリングキャッチゲームを制作しよう	リングキャッチゲーム（課題3）を制作、事後学習：独自リングキャッチゲーム及びプログラム説明ページの完成
	9	リングキャッチゲームの相互評価・自己評価	事後学習：他者のゲームを体験して、良い点をコメントする。自己を振り返る。
	10	小学生時代の遊びを振り返ろう	ペアワーク、事後学習：オリジナルゲームを企画する
	11	小学生向けオリジナルゲームを企画・制作しよう	事後学習：オリジナルゲームの制作を開始
	12	小学生向けオリジナルゲームを制作しよう	事後学習：オリジナルゲームを制作する
	13	小学生向けオリジナルゲームの完成&口頭試問①	事後学習：オリジナルゲーム及びプログラム説明ページの完成
14	オリジナルゲームの相互評価&口頭試問②	事後学習：オリジナルゲームを相互評価する	

	15	オリジナルゲームの口頭試問③と全体振り返り	事後学習：振り返りのまとめ
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、仁短Moodleに振り返りのまとめを提出。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。詳細は、仁短Moodle上に示します。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：インターネット上や市販のScratchに関する文献		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	デザイン思考ワークシート等、紙メディアの提出物は、仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。ゲームの公開及びプログラム説明は、仁短Moodleにて履修者間で共有し、コメント機能を用いて、相互評価や教師評価をフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①課題プログラム説明シート11%（課題1～3：2%×3個、オリジナルゲーム：5%） 目標②BlocklyGames体験1%、例題10%（例題1～5：各2%）、課題18%（課題1～3：各6%） 目標③プログラミング的思考ワーク3%、共感ワークシート5%、相互評価ワークシート5% 目標④小学生向けオリジナルゲーム23%（第1歩ワークシート3%、ゲーム制作10%、口頭試問10%）、自己評価ワークシート5% 目標⑤振り返りノート14%（1回～14回：各1%）、振り返りのまとめ5%		
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。各回の最後、経験学習サイクルの3点に関して、仁短Moodle上の振り返りノートに記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者が主体的に学ぶことをめざしています。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
澤崎 敏文			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14B104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、画像・サウンド・動画などのマルチメディアコンテンツを利用し、様々な手法で映像作品を制作する技術を身につけることである。特に、ビジネスにおける動画による情報発信を念頭に置き、スマートフォン、PowerPoint等の動画への活用方法を学ぶ。マイク、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、タブレット等に加えて、スマートフォンで撮影した音声、画像や映像をパソコンへ取り込み、編集。最後に、テーマに沿った映像作品の制作を通して、映像作品制作の知識・技術を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①映像編集および関連する用語、作成手順を理解できる。	DP 1	30
	目標②パソコンへマルチメディアコンテンツを取り込み、編集できる。	DP 4	10
	目標③テーマに沿った映像作品が制作できる。	DP 6	30
	目標④チームで協働して作品を作成することができる。	DP 9	20
	目標⑤映像作品の制作にあたり著作権や肖像権などに気を付けることができる。	DP 4	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要と動画作成の流れ	様々な動画作成（編集）手法について、機材、アプリケーションソフト等についての概要を学びます。
	2	動画作成から配信までの流れを学ぶ	動画作成の目的設定、構成、内容の設計から実際の撮影、編集までを学びます。
	3	動画編集アプリの活用と基本的な考え方（1）	Windowsフォトを活用した動画作成の流れを学んだあとで、実際に短い動画作品を作成してみます。
	4	動画編集アプリの活用と基本的な考え方（2）	Windowsフォトを活用した動画作成の流れを学んだあとで、実際に短い動画作品を作成してみます。
	5	PowerPointによる動画作成の基本	業種を問わず企業のオフィス内にあるPowerPointを活用した動画作成について、その基本的な流れ、作成方法を学びます。
	6	PowerPointへのビデオ素材等の取込みと編集（1）	スマートフォン、デジタルカメラ等をコンピュータ内に取込み、映像編集を行う方法を学びます。
	7	PowerPointへのビデオ素材等の取込みと編集（2）	ビデオ編集課題スマートフォン、デジタルカメラ等をコンピュータ内に取込み、映像編集を行う方法を学びます。
	8	YouTubeの設定方法と配信の基本を学ぶ	作成した映像作品（動画）をインターネット上のプラットフォーム（YouTube）で自ら配信できるように、その設定、流れなどを学びます。
	9	映像作品作成の準備	
	10	映像作品の撮影(1)	
	11	映像作品の撮影(2)	
	12	映像作品編集(1)	
	13	映像作品編集(2)	映像作品課題
	14	映像作品の発表と相互評価	
15	映像作品の修正	映像作品課題	

定期試験	試験にかわって課題(映像作品)を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習、課題制作で毎回1時間程の事前・事後学習が必要。
教科書	「PowerPointでかんたん！動画作成」(技術評論社) ISBN 978-4-297-11940-9
参考図書、教材、準備物等	教材としてMoodle上で配布予定
課題(試験・レポート等)のフィードバック	課題はすべてMoodle上へ提出してもらい、フィードバックもMoodle上で行う。
評価の配点比率	目標①確認テスト20% 目標①～⑤映像作品課題40%、サウンドデータ編集課題10%、コマ撮りアニメ撮影課題10%、ビデオ編集課題20%
受講上の注意	動画作成は将来的に役立つ場面もできますので、この機会に習得しましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input checked="" type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
吉村 正照			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14B504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、Web制作の技術を基本から身につけることである。Webに関する基本的な知識や実際にプロの開発現場で用いられる技術を学びながら、レスポンスデザインによるスマートフォン最適化など多くのWebサイトで使用されている技法を習得していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①Webメディアの特徴を理解し、Webらしいページデザインができる。	DP 1	30
	目標②コンピュータとツールの使い方を習得し、効率的に速く正確に制作できる。	DP 1	30
	目標③利用者の立場に立ったページデザインができる。	DP 6	20
	目標④実現したいデザインのために自ら調べて実装できる。	DP 7	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Web制作概論（歴史、画面の構成要素、制作の流れ）	Webの歴史やインターネットの仕組み、制作をしていく上での基礎知識を理解する。普段見ているWebサイトを制作者視点で見てみる。
	2	HTML：見出し、本文、画像、リンク、コンテンツの埋め込み	文字や画像を表示する方法やリンクについて理解する。用途に応じた画像の形式を覚える。今回新しく学んだ技法を復習する。
	3	CSS：文字、色	文字のサイズや色を変更する方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	4	CSS：レイアウト	CSSによるレイアウトの方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	5	CSS：余白、ボーダー	余白や線をつける方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	6	CSS：%によるレイアウト	%を用いたレイアウトの方法を理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	7	CSS：レスポンスデザイン	画面の幅に応じてスタイリングを変更する仕組みを理解する、今回新しく学んだ技法を復習する。
	8	CSS：セレクタの書き方	状況に応じたセレクタの書き方を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	9	シングルページのウェブサイト制作	シングルページのウェブサイトの制作方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	10	複数ページのウェブサイト制作	複数ページのウェブサイトの制作方法を理解する。今回新しく学んだ技法を復習する。
	11	期末課題：コンテンツ制作	期末課題（ポートフォリオサイトを予定）のコンテンツを作成する。次回までにすべてのコンテンツをデータで準備する。
	12	期末課題：HTMLコーディング	コンテンツをHTMLでマークアップする。次回までにすべてのコンテンツをHTML化しておく。
	13	期末課題：CSSコーディング	HTMLをCSSでスタイリングする。次回までにすべてのスタイリングを完了しておく。
	14	期末課題：全体調整、ブラッシュアップ	教員のレビューを受けて、課題の完成度を高めていく。次の発表内容を準備する。
15	期末課題：プレゼンテーション	制作した作品について発表する。他の学生の作品を参考に、改善点を修正する。	

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、修正した期末課題を再提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。Web制作の技法を習得するためには「継続的にコードを打って覚える」ことが必要となる。また、日頃から「制作者の視点」でWebサイトを見られるようになることが望ましい。
教科書	『Webデザイン基礎入門』（エムディエヌコーポレーション 2019）
参考図書、教材、準備物等	授業内で紹介する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はすべてe-ラーニングシステム（Moodle）で受け付けた上でフィードバックする。 小テスト（毎回）：授業で学んだ知識を5問程度出題し、自動採点によりフィードバックする。 小品（毎回）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出してもらう。点数とコメントによりフィードバックする。 質問はMoodleに記載のメールアドレスまたはMoodleメッセージで受け付ける。
評価の配点比率	目標①課題作品20%、授業毎の課題10% 目標②課題作品20%、授業毎の課題10% 目標③課題作品10%、授業毎の課題10% 目標④課題作品10%、授業毎の課題10%
受講上の注意	自分自身のコンピュータにも制作環境を整えること。Webはみなさんの生活に欠かせないものになり、現在もどんどんと進化をしているところです。この新しい分野にぜひチャレンジしてみてください。
教員の実務経験	20年近いウェブデザイナーとしての実務経験を活かし、実際にプロの現場で利用されているツールを使って演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
澤崎 敏文			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	ビジネス実務士資格必修	講義	ナンバリング：14C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会人として必要なビジネススキル（コミュニケーション、情報処理、企画立案、プレゼン、企画実行能力）への基礎的理解をとおして、自らのキャリア形成に必要な知識・技能の習得をおこなうことである。具体的には、企業における事業活動を念頭におき、業務処理のいくつかの場面やそこでのコミュニケーションを取り上げ、実務でのキャリア形成につなげていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ビジネス実務に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、組織システムを理解することができる。	DP 2	50
	目標②ビジネス上のコミュニケーションに関する基礎的な知識・技能をもとに、状況に応じた多面的分析を行うことができる。	DP 4	20
	目標③ビジネス実務に関する基礎的な知識をベースに、ビジネス上の諸問題に対し、適切な判断を行うことができる。	DP 5	20
	目標④自身の将来のキャリアについて考え、主体的に取り組む意欲・態度を形成することができる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ビジネス実務とは ビジネスとは、仕事での価値について考えます。	事後学習：会社で働くということについて調べ、自分の考えをまとめたうえでレポートとして提出
	2	キャリア形成と職業意識、コミュニケーション 社会人としてのキャリア形成、働くことの意味について考えます。	教科書「よくわかる社会人の基礎知識（ぎょうせい）」の第一部第一章について事前に読んでキャリア形成に関する自分の考えをまとめておくこと。 LMS (Moodle) 上の確認問題の実施と、自分自身の目標設定に関するレポートを提出
	3	ビジネス文書の基本 - ビジネス文書の意義	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、実際にどのようなものがやり取りされ、なぜ必要か、また、どのような形式で作成していくかの基礎を習得する。 ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS (Moodle) 上の確認問題を実施すること
	4	ビジネス業務の基本 - 社外文書、社内文書	具体的なビジネス文書の種類から学びます。社内文書（教科書p117～）、社外文書(教科書p130～)の基本的な違いについて概要を学びます。 ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS (Moodle) 上の確認問題を実施すること
	5	ビジネス文書の基本と実務 - 稟議の意義と実際	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。具体的には以下のとおり。 文書作成（起案）から稟議、発送、保管までのサイクルの理解 報告、連絡、相談と社内コミュニケーション ビジネス文書の基礎を復習したうえで、LMS (Moodle) 上の確認問題を実施すること
6	ビジネス文書作の基本と実務 - 往復文書、メール等	ビジネス文書の基本を学び、様々な種類や役割について、その概要を学びます。特に、この回では、ビジネスに欠かすことができなくなった電子メール等のやり	

0		とりの実際や注意点などを実例を用いて学びます。 課題：LMS (Moodle) 上のビジネスメールに関するレポート課題を実施すること
7	ビジネス文書の基本と実務 - 報告書の意義	ビジネス実務で必要とされる基礎的な文書について、それぞれの形式が持つ意味を理解することで、ビジネス文書活用の意義を確認する。特に、ビジネス実務での意思伝達、記録を残す意味で重要な報告書の意義（形式から実際のやり取り）を理解します。 課題：LMS (Moodle) 上の報告書に関する確認問題を実施すること
8	会議業務を考える	会社・組織での会議業務について考えます。会議の種類や進め方、準備等について、主催する側、参加する側双方の視点で会議業務の実際について学びます。教科書「会議業務を考える (p.94 - p.105)」を中心に事前に内容を読み理解しておくこと。 課題：LMS (Moodle) 上の会議のあり方に関するレポート、ならびに、確認問題を実施すること
9	会議業務と議事録等の事務の意義	会議業務に必須となる「議事録」について、その一般的な必要事項を学んだあとで、実際に作成された議事録をベースに問題点、改善点等について考察を行います。 課題：LMS (Moodle) 上の議事録に関するレポートを提出してください
10	来客対応と訪問	来客対応の良しあしが会社の印象を左右するとも言われます。社会人としてビジネスをしていくうえで必要となるマナーの一環として来客対応があります。これらの基礎を理解し、実践で活用できる知識・技能を身につけます。 課題：LMS (Moodle) 上の来客対応、名刺交換、訪問に関する確認問題を実施すること
11	電話対応の実際	電話対応における心構えやマナーについて学びます。電子メールやウェブ上でのやり取りが増えた現在でも、電話対応はビジネス実務で重要な役割を担っています。それらの重要性やコミュニケーションのあり方の実際を学び考察します。 課題：LMS (Moodle) 上の電話対応を考える確認問題を実施すること
12	会社に関する基礎知識 - 会社に関する法的な基礎知識のまとめ	会社の基礎について学びます。業種・業界・職種などの違い、会社（株式会社、合同会社等）の違いを学んだうえで、組織のあり方や働き方について考えます。 課題：LMS (Moodle) 上の会社の基礎知識に関する確認問題を実施すること
13	実務に必要な法律と事務に関する知識	今回、次回の2回をとおして、仕事の取り組み方、法律、税金、保険等の知識について学びます。社会人として必要なルール、ビジネスをするうえで知るべき事項など、今までと違い、覚えなければいけない知識も多いので、しっかりと取り組みましょう。 課題：LMS (Moodle) 上の仕事に関する法律の確認問題を実施すること
14	実務に必要な税金、保険等に関する知識	前回、今回の2回をとおして、仕事の取り組み方、法律、税金、保険等の知識について学びます。社会人として必要なルール、ビジネスをするうえで知るべき事項など、今までと違い、覚えなければいけない知識も多いので、しっかりと取り組みましょう。 課題：LMS (Moodle) 上の仕事に関する税金、保険の確認問題を実施すること
15	まとめ（授業内容全体の確認） まとめの確認テストの実施	これまでの学習内容を再確認するために、まとめの確認テストを実施します。 また、確認テストの内容を踏まえて、全体の振り返り、テスト結果に対するフィードバックを実施します。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回2時間程度の時間が必要。	
教科書	「よくわかる基礎知識 マナー・文書・仕事のキホン」（ぎょうせい ISBN978-4-324-09452-5）	
参考図書、教材、準備物等	また、適宜プリント等を配布する。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業種を問わず、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の理解・習得を目指して課題を実施していきます。LMS(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われるので、LMS上で頻繁に実施される課題に関するフィードバック、電子メール等でのお知らせ等を必ず確認してください。	
評価の配点比率	目標① 15回目に実施するまとめの確認テスト 30% 目標① 授業で提出するレポート課題 20% 目標② 授業で提出するレポート課題 20% 目標③ 授業で提出するレポート課題 20% 目標④ 授業で提出するレポート課題 10%	
受講上の注意	この科目は「ビジネス実務士資格」必修科目。	
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。	

アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)
-------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
倉内 克代・大森 廣子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14C503
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は医療現場を事務的な側面からサポートする医療事務職に求められる基礎的能力を身につける事です。 医療事務職の仕事の内容は主に①患者さんの受付での応対とその日の診療費を計算し患者さんに負担して頂く診療費の一部を徴収する日々の「受付業務」②患者さんから徴収しなかった診療費の残りを一月分にまとめて、患者さんが加入している保険組合に請求する「請求事務」の2点になります。これらの仕事に必要な「医療保険制度」「患者接遇」「医科診療報酬点数」「診療報酬明細書点検」についての知識を学習します。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①医療事務の基礎的な知識・技能を身につけている。	DP 2	60
	目標②医療事務の具体的な問題に対して、論理的に考えることができる。	DP 4	20
	目標③医療事務職としてのキャリアを形成するため、主体的に学ぶことができる。	DP 7	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス【大森担当】 医療機関を受診した場合の受付から診察、会計までの保険制度や診療報酬点数等を具体的な事例で説明し、医療事務講座の学習の概要を理解する。	補足説明：本授業は（財）日本医療教育財団主催の「医療事務技能審査試験」を受験し「メディカルワーク」の資格取得を目標とする講座です。 事前学習：本講義の概要を知るために、このシラバスを読んでおく。
	2	オリエンテーション 医療保険制度1【大森担当】 医療事務の業務の流れを理解し、保険診療を行う医療機関と保険医が守るべき規則を理解する。	事後学習：テキスト1を復習しテキストの練習問題を解く。
	3	医療保険②【倉内担当】 窓口業務に必要な医療保険制度のしくみについて理解する。	事後学習：テキストのインデックス貼り。テキスト1の復習。
	4	医療保険③【倉内担当】 医療保険の種類と被保険者証の見方を理解する。	事後学習：テキストのインデックス貼り。テキスト1の復習とテキストの参考資料のポイントの理解。 "
	5	医療保険④【倉内担当】 後期高齢者家等制度と診療報酬請求の流れを理解する。	事後学習：テキストのインデックス貼り。テキスト1の復習。
	6	医療保険⑤【倉内担当】 公費負担医療制度と介護保険制度を理解する。	事後学習：テキストのインデックス貼り。テキスト1復習。医療保険制度の確認プリントの課題実施。受験対策問題集【A】学科問題の課題実施
	7	初再診料①【倉内担当】【大森担当】 初再診料の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。薬剤料の計算方法の理解と電卓の使用方法を学ぶ。	補足説明：受験対策問題集回収返却 6回目の課題提出 事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「初診料・再診料」の問題を解く。薬剤料計算方法の復習プリントの実施
	8	初再診料②【倉内担当】 初再診料の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、初再診料の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「初診料・再診料」の問題を解く
	9	入院料【倉内担当】 入院料の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。明細書の記載要領を理解し、	事前学習：スタディブックの入院の課題の実施 事後学習：テキスト3を復習し基礎ドリルの「入院料」の問題を解く。

	入院料の明細書点検方法を学ぶ。	
10	医学管理等【倉内担当】 医学管理等の点数算定方を学び具体的な演習問題を解き理解する。明細書の記載要領を理解し、医学管理等の明細書点検方法を学ぶ。	事前学習：スタディブックの医学管理等の課題の実施 事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「医学管理等」の問題を解く。
11	在宅医療【倉内担当】 在宅医療の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。明細書の記載要領を理解し、在宅医療の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「在宅医療」の問題を解く。 7回～11回の確認プリントの課題実施。
12	処置①【倉内担当】【大森担当】 処置の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	補足説明：基礎ドリル回収返却 11回目の課題提出 事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「処置」の問題を解く。
13	処置②【倉内担当】 処置の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、処置の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「処置」の問題を解く。
14	手術・麻酔①【倉内担当】 手術・麻酔の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「手術・麻酔」の問題を解く。
15	手術・麻酔②【倉内担当】 手術・麻酔の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、手術・麻酔の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「手術・麻酔」の問題を解く。
16	検査①【倉内担当】 検体検査の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「検査」の問題を解く。
17	検査②【倉内担当】 検体検査の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、検体検査の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「検査」の問題を解く。
18	検査③【倉内担当】 生体検査の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「検査」の問題を解く。
19	検査④【倉内担当】 生体検査及び病理診断の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、生体検査及び病理診断の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「検査」の問題を解く。12回～19回の確認プリントの課題実施
20	患者接遇マナー①【倉内担当】 患者接遇の基本を理解し、おじぎの仕方、笑顔の作り方等を実際に体験する。また電話応対の基本も学ぶ。	補足説明：19回目の課題提出 事後学習：テキスト2の復習。受験対策問題集【A】の学科問題の課題実施
21	患者接遇マナー②【倉内担当】【大森担当】 医療人として注意すべき個人情報の取り扱いを事例等より理解する。窓口業務における受付事例を紹介し、その対応方法について理解する。	補足説明：基礎ドリル、受験対策問題集回収返却 事後学習：テキスト2を復習し、基礎ドリルの「患者接遇」の問題を解く。
22	患者接遇マナー③【倉内担当】 受付にて患者さんからの問い合わせ等にどう応えるかをグループで考え、会話文で書いてみる。	事後学習：テキスト2を復習し、基礎ドリルの「患者接遇」の問題を解く。受験対策問題集の実技1問題の課題実施
23	投薬①【倉内担当】 投薬の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	補足説明：22回目の課題提出 事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「投薬」の問題を解く。
24	投薬②【倉内担当】 投薬の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、投薬の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「投薬」の問題を解く。
25	注射①【倉内担当】 注射の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「注射」の問題を解く。
26	注射②【倉内担当】 注射の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、注射の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「注射」の問題を解く。
27	画像診断①【倉内担当】 画像診断の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「画像診断」の問題を解く。
28	画像診断②【倉内担当】 画像診断の点数算定方法の復習と明細書の記載要領を理解し、画像の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「画像診断」の問題を解く。
29	リハビリテーション等【倉内担当】 リハビリテーション等の点数算定方法を学び具体的な演習問題を解き理解する。明細書の記載要領を理解し、リハビリテーション等の明細書点検方法を学ぶ。	事後学習：テキスト3を復習し、基礎ドリルの「リハビリテーション等」の問題を解く。23回～29回の確認プリントと受験対策問題集【A】の学科問題の実施
30	明細書記載【倉内担当】【大森担当】 32回目からの明細書点検の理解のために、いままで学習した各項目の明細書記載要領を振り返る。	補足説明：基礎ドリル・受験対策問題集回収返却 29回目の課題提出 事後学習：マイベストノート「修了試験学科問題」実施
31	明細書作成【倉内担当】【大森担当】 前回の明細書記載要領を理解した上で、外来と入院のカルテより白紙の明細書を使って、手書きの明細書を作る体験をする。	補足説明：マイベストノート「修了試験学科解答用紙」提出 返却 事前学習：テキスト4 P197～P228の切り取り

32	明細書点検①【倉内担当】 医事システム（医療事務用PC）の特徴を理解し、テキストのカルテ症例と明細書を突き合わせて点検する方法を学ぶ。	事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。
33	明細書点検②【倉内担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストのカルテ症例と明細書を突き合わせて点検する方法を学ぶ。	事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。マイベストノート「修了試験学科問題」再実施、「実技問題」実施
34	明細書点検③【倉内担当】【大森担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストのカルテ症例と明細書を突き合わせて点検する。	補足説明：マイベストノート「修了試験学科・実技解答用紙」提出 返却 事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。
35	明細書点検④【倉内担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストのカルテ症例と明細書と突き合わせて点検する。	事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。
36	明細書点検⑤【倉内担当】 今までの学習内容を復習しながら、テキストのカルテ症例と明細書と突き合わせて点検する。	事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。マイベストノート「実技問題」再実施
37	明細書点検⑥【倉内担当】【大森担当】 明細書上の点検方法の理解と公費負担医療制度の明細書の紹介。診療報酬明細書での保険請求の流れを理解する。	補足説明：マイベストノート「修了試験実技解答用紙」提出 事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。
38	明細書点検演習【倉内担当】 演習問題を自力で点検し、自身の点検能力の達成度を知ると共に、理解不足部分を復習し、理解度を上げる。	事後学習：テキスト4を復習し、明細書点検方法を理解する。
39	明細書点検演習【倉内担当】 38回目の続き及びマイベストノート「修了試験解答用紙」を返却し誤答箇所を各自で訂正し再提出する。	事後学習：受験対策問題集【A】実技II問題の実施 受験対策問題集を各自進める
40	数算定演習・明細書点検演習【倉内担当】 39回の事後学習課題内容での個別質問で理解度を上げる。受験対策問題集を各自進め、個別質問で理解度を上げる。	事後学習：実施した演習問題の復習 受験対策問題集を各自進める
41	患者接遇演習【倉内担当】 実際の受付事例に基づいた患者応対問題を演習し、自身の知識不足等の確認を行う。	事後学習：実施した演習問題の復習 受験対策問題集を各自進める
42	総合演習・講義の振り返り【倉内担当】 学習してきた内容の総まとめ。各人の苦手な科目の演習を実施し理解を深める。講義終了にあたって講義の感想や自身の振り返りをし、受験に臨むにあたっての今後の学習方法を考える。	事後学習：総合確認テストの実施
定期試験	定期試験に代わって、全講義終了後に「総合確認テスト」を自宅で行い提出する。	
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。テキストを読み返ししながら、基礎ドリル・確認プリント等を行うことで学習内容の理解度を自己確認する。問題集等の進捗状況確認のため、それらの提出を定期的に指示する。	
教科書	テキスト1～4（※厚生労働省認定教材）スタディブック、ハンドブック （著者：（株）ニチイ学館 出版：（株）東京丸の内出版 2021） 医科診療報酬点数表 （出版：（株）社会保険研究所 2020）	
参考図書、教材、準備物等	教材：マイベストノート、インデックスシール、医療事務用電卓 基礎ドリル（問題編/解答編）、受験対策問題集（問題編/解答編）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	基礎ドリルは復習状況を確認後返却する。確認プリントは回収後評価し、解答解説を添えて返却。返却時に授業内で補足説明する。マイベストノート「修了試験」は学科と実技に分けて実施。それぞれ採点返却後、誤答箇所を自力で訂正し再度提出。最終的に誤答箇所は添削又は口頭説明で補足する。	
評価の配点比率	確認プリント、修了試験、総合確認テストの評価 60% 課題提出物の評価 20% 授業への参加態度 20%	
受講上の注意	【（一般財団法人）日本医療教育財団主催 医療事務技能審査試験（医科）について】 ①上記の資格試験の受験希望者は8月18日に4コマの講習（模擬試験）を受講すること。 ②試験日は8/22（日）在宅試験（試験申込受付期間：7/19～7/26 受験料7700円を申込書に添えて申込むこと） 詳細はガイダンスで説明します。	
教員の実務経験	（株）ニチイ学館が行う医療事務講座を担当する教員が医療事務講座の基礎的能力を身につけるために、実状に即したテキスト、ドリル、問題集、確認プリントを使用し講義する。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート） ■グループワーク □発表（プレゼンテーション） □実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） □自主学习支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
大竹口 麻里			
生活科学学科生活情報専攻 専 門科目	ビジネス実務士資格選択	講義	ナンバリング：14C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、秘書業務に関する基礎的知識について学習し、社会の一員として働くための基本的姿勢を身に付けることである。 秘書検定の勉強を通して、秘書としての資質や役割、言葉遣い、ビジネスマナー、会社組織の仕組みなど、社会人として身に付けるべき知識及び技術について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①秘書としての資質や役割について説明できる。	DP 8	10
	目標②秘書業務に必要な一般知識を身に付けている。	DP 2	30
	目標③適切な敬語表現を使うことができる。	DP 6	20
	目標④職場において必要とされる文書を作成することができる。	DP 4	20
	目標⑤秘書として必要とされる能力や人柄について省察できる。	DP 5	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための確かな判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：建学の精神「仁愛兼濟」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	マナー・接遇（敬語、接遇用語、人間関係と話し方・聞き方・断り方）	授業の進め方、予習や復習の仕方などについて説明を行う。宿題としてp23までの練習問題を解いておくこと。
	2	マナー・接遇（指示の受け方、報告の仕方、依頼・説得の仕方、電話応対）	授業後にp35までの練習問題を解いておくこと。
	3	マナー・接遇（来客応対、慶事・パーティーのマナー）	授業後にp45までの練習問題を解いておくこと。
	4	マナー・接遇（弔事のマナー、贈答・見舞いのマナー）	授業後に p 59までの練習問題を解いておくこと。
	5	技能（会議の知識、社内文書、社外文書）	授業後にp73までの練習問題を解いておくこと。
	6	技能（社交文書、グラフの書き方、受信文書の取り扱い）	授業後にp89までの練習問題を解いておくこと。
	7	技能（「秘」扱い文書の取り扱い、郵便の知識、ファイリング、資料の整理）	授業後に p 103までの練習問題を解いておくこと。
	8	技能（スケジュール管理、オフィスのレイアウトと整理）	授業後に p 113までの練習問題を解いておくこと。
	9	一般知識（カタカナ用語・略語、企業の基礎知識、経営管理の知識）	授業後に p 123までの練習問題を解いておくこと。
	10	一般知識（人事・労務、マーケティングの知識）	授業後にp133までの練習問題を解いておくこと。
	11	一般知識（企業会計・財務・税務の知識）	授業後に p 139までの練習問題を解いておくこと。
	12	必要とされる資質（秘書としての心構え、求められる人柄、機密保持）	授業後に p 153までの練習問題を解いておくこと。
	13	必要とされる資質（求められる能力）	授業後に p 161までの練習問題を解いておくこと。
	14	職務知識（秘書の役割と機能）	授業後に p 183までの練習問題を解いておくこと。
	15	職務知識（秘書の業務）	
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		

準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の事後学習が必要。授業で学習したテキストのページの練習問題を解いておくこと。
教科書	西村この実『現役審査委員が教える秘書検定2級.3級テキスト&問題集』（成美堂出版2016）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：実務技能検定協会『秘書検定実問題集2級』（早稲田教育出版）、実務技能検定協会『秘書検定実問題集3級』（早稲田教育出版）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明する。質問は授業の前後に教室にて受け付ける。何かあればotake-m@mx4.fctv.ne.jpに連絡すること。
評価の配点比率	目標①②⑤筆記試験60% 目標③④演習への取り組み 40%
受講上の注意	一般常識からビジネスマナー、幅広い教養を身につけることは就職活動時に役にたつことでしょう。興味をもって取り組みましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
大西 新吾			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14C104
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、会計学の基本原理の学びを通して、会計という「言語」の基本を身につけることです。会計はビジネス社会における一つの重要な「言語」です。企業はこの会計「言語」を使って、企業を取り巻く様々な利害関係者（ステークホルダー）とコミュニケーションをとっています。そうした意味から、会計は一つの「情報（メディア）」とみることができます。会計という「言語」・「情報」について学びながら、ビジネス社会について考えていきましょう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「言語」、「情報」として会計学を学ぶことを通して、情報技術に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	DP1	10
	目標②会計学の基本原理の学びを通して、マネジメント技法に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	DP2	60
	目標③会計データのとらえ方を学ぶことを通して、問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけることができる。	DP5	20
	目標④会計「言語」の理解を通して、自らのキャリアを形成する態度を身につけることができる。	DP7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 DP2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス（企業と会社、業種、規模、種類、福井県の現状）	（予習）あらかじめ「企業」と「会社」の違い、日本にはどんな業種があるのかについて調べてください。（復習）授業後、福井県内の興味ある企業について調べてみてください。
	2	会計と経営（会計の定義、種類、役割、会計と法）	テキスト第1章、第4章（予習）第1節、第2節（8頁～15頁）を読んでおくこと。「会計」とは何か、調べてみる。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	3	会計と複式簿記システム（複式簿記の仕組み、会計情報の利用者）	テキスト第2章、第3章（予習）第2節、第3節（16頁～23頁）を読んでおくこと。「複式簿記」について調べてみる。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	4	財務諸表の体系（会計期間と財務諸表4表）	テキスト第5章（予習）第8節（42頁～50頁）を読んでおくこと。「決算」とは何か調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	5	貸借対照表＜資産＞の部（1）流動資産（当座（金融）資産等）	テキスト第6章（予習）第9節、第10節（52頁～63頁）を読んでおくこと。「預金」にはどんな種類があるのか調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	6	貸借対照表＜資産＞の部（2）固定資産（有形・無形・繰延）	第6章（予習）第11節（64頁～69頁）を読んでおくこと。「固定資産」にはどのようなものがあるのか、調べてみる。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	7	貸借対照表＜負債＞の部および＜純資産＞の部	第6章（予習）第12節、第14節（70頁～74頁、81頁～88頁）を読んでおくこと。「借入金」とは何か、「資本金」とは何か、調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
	8	損益計算書の構造と5つの利益	第7章（予習）第15節（92頁～96頁）を読んでおくこと。「利益」とは何か、調べてみる。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。

9	商品売買と仕入債務・売上債権（掛け取引、手形決済）	第7章（予習）第16節（97頁～101頁）を読んでおくこと。「掛け取引」とはどんな取引か、「手形」とは何か、調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
10	商品の在庫管理（商品有高帳）と売上原価の算定	第7章（予習）第16節（97頁～105頁）を読んでおくこと。「売上原価」とは何か、調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
11	販売費及び一般管理費	第7章（予習）第16節（102頁～103頁）を読んでおくこと。「販売費及び一般管理費」について調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
12	決算（1）減価償却	第6章（予習）第13節（77頁）第16節（103頁）を読んでおくこと。「減価償却」とは何か、調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
13	決算（2）引当金	（予習）第12節（73頁～74頁）を読んでおくこと。「引当金」とは何か、調べておくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
14	会計情報の活用（B/Sを使った簡単な分析）	第10章（予習）第24節（161頁～169頁）を読んでおくこと。（復習）テキストの復習をし、ミニ課題に取り組むこと。
15	会計情報の活用（P/Lを使った簡単な分析）と総まとめ	第10章（予習）第25節（170頁～178頁）を読んでおくこと。（復習）テキストを復習し、ミニ課題に取り組むこと。 定期試験に備えて、1回目から14回目までの授業内容の振り返りを行うこと。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う（成績に占める割合70%）。	
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事前および事後の学習が必要となる。テキストを予習・復習に徹底的に使用すること。	
教科書	片山覚ほか『入門会計学 改訂版 一決算書が読めるようになるエッセンス』（実教出版）	
参考図書、教材、準備物等	桜井久勝『会计学入門』（日経文庫）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の理解を深めるために、毎回、ミニ課題を出します。課題は毎回2点満点評価で15回あります（成績に占める割合30%）。各課題は採点し、その結果をその都度、フィードバックします。疑問点がある場合には、メールまたはオフィスアワーを利用してください。	
評価の配点比率	目標①期末試験10% 目標②毎回の課題10%、期末試験50% 目標③毎回の課題10%、期末試験10% 目標④毎回の課題10%	
受講上の注意	テキストはあくまでも授業の補助的立場です。授業を受ける前に、テキストを利用して予習をしてください。授業ではテキストに記載されていないことも学習しますから、授業中はノートを取るなどして、授業後は復習をしてください。 授業の進度によっては、学習の順番を前後させることがあります。その場合には、あらかじめ連絡します。なお、この授業は、後期の「簿記演習」につながりますから、後期に「簿記演習」を履修する予定のある方は本授業を履修することが望ましいです。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
大西 新吾・林 律子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専攻科目		演習	ナンバリング：14C504
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、前期に学習した「会計学入門」をベースにして、会計記録から決算書の作成に至る一連の流れを、「複式簿記」という技法を通して身につけることです。 企業は決算書を作成し、公開する必要がありますが、その決算書は「複式簿記」の技法を通して作成されます。皆さんが多言語（たとえば「英語」）を学習する際に、日本語を多言語に言い換えるためのルールとして「文法」を学習しますが、「複式簿記」というシステムは、その「文法」に相当します。複式簿記という会計「言語」の文法を学びながら、ビジネス社会について考えていきましょう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①複式簿記の学びを通して、マネジメント技法に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	DP 2	60
	目標②複式簿記を通して作られた会計データの分析を通して、問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけることができる。	DP 4	30
	目標③複式簿記を通して、様々な業種を考察することで、自らのキャリアを形成する態度を身につけることができる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業全体に関すること、簿記と会計	テキスト序章（予習）例題、（復習）練習問題
	2	貸借対照表・損益計算書	テキスト第1章、第2章（予習）例題、（復習）練習問題
	3	仕訳の決まりと転記	テキスト第3章（予習）例題、（復習）練習問題
	4	仕訳帳と総勘定元帳	テキスト第3章（予習）例題、（復習）練習問題
	5	小テスト1と解説・確認	（予習）テキスト序章～第3章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	6	現金出納帳と現金過不足の取扱い	テキスト第4章（予習）例題、（復習）練習問題
	7	小口現金出納帳	テキスト第4章（予習）例題、（復習）練習問題
	8	当座預金出納帳	テキスト第5章（予習）例題、（復習）練習問題
	9	その他の預金及び複数口座の取扱い	テキスト第5章（予習）例題、（復習）練習問題
	10	小テスト2と解答・解説	（予習）テキスト第4章～第5章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	11	商品売買（1）分記法と3分法	テキスト第6章（予習）例題、（復習）練習問題
	12	商品売買（2）売掛金元帳と買掛金元帳	テキスト第6章（予習）例題、（復習）練習問題
	13	商品売買（3）仕入帳と売上帳	テキスト第7章（予習）例題、（復習）練習問題
	14	商品売買（4）売上高・売上原価と売上総利益	テキスト第7章（予習）例題、（復習）練習問題
	15	商品売買（5）商品有高帳	テキスト第7章（予習）例題、（復習）練習問題
16	小テスト3と解答・解説	（予習）テキスト第6章～第7章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認	

		すること。
17	約束手形と手形記入帳	テキスト第8章（予習）例題、（復習）練習問題
18	債権と債務（1）貸付金と借入金、未収入金と未払金	テキスト第9章（予習）例題、（復習）練習問題
19	債権と債務（2）前払金と前受金、立替金と預り金	テキスト第9章（予習）例題、（復習）練習問題
20	債権と債務（3）仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金	テキスト第9章（予習）例題、（復習）練習問題
21	小テスト4と解答・解説	（予習）テキスト第8章～第9章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
22	会社の決算（1）貸倒引当金	テキスト第10章（予習）例題、（復習）練習問題
23	会社の決算（2）減価償却	テキスト第11章（予習）例題、（復習）練習問題
24	株式会社の設立と利益の配当・積立	テキスト第12章（予習）例題、（復習）練習問題
25	会社の税金 一法人税・消費税・租税公課	テキスト第13章（予習）例題、（復習）練習問題
26	伝票会計 一伝票制と伝票の集計	テキスト第14章（予習）例題、（復習）練習問題
27	試算表 一合計試算表・残高試算表・合計残高試算表	テキスト第15章（予習）例題、（復習）練習問題
28	決算整理 一仕訳の修正、売上原価の計算、貯蔵品勘定、費用・収益の見越しと繰延べ	テキスト第16章（予習）例題、（復習）練習問題
29	精算表	テキスト第17章（予習）例題、（復習）練習問題
30	財務諸表の作成とまとめ	テキスト第18章（予習）例題、（復習）練習問題 定期試験に関しては、「期末試験直前復習問題」を配布するので、繰り返し練習すること。 また、小テスト1～4をもう一度見直してくること。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。	
準備学習に必要な時間	事前の学習として毎回30分程度、テキストの例題までを読んでから授業に参加すること。また、事後の学習として、毎回30分程度の時間をかけて、テキストの練習問題を復習すること。	
教科書	片山覚ほか『新・入門商業簿記』（創成社）	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定 簿記講義3級』（中央経済社）、その他、市販の日商簿記検定3級関連テキスト及び問題集	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の進度に応じて、小テストを4回実施します。小テストの評価は各10点です。小テストは返却し、解答も配布します。解説を聞いても不明点や疑問点がある場合には、メールまたはオフィスアワーを利用してください。	
評価の配点比率	目標①小テスト20%、期末試験40% 目標②小テスト10%、期末試験20% 目標③小テスト10%	
受講上の注意	この授業は、はじめて簿記を学ぶ人、あるいは全商簿記検定の3級までの内容を学んだことのある人を対象にしています。なお、この授業は、前期の「会計学入門」と連動しているので、合わせて受講することが望ましいです。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
宮沢 好美			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、対人コミュニケーションに的を絞り、心理学・行動科学に基づいた実践的なコミュニケーション方法の習得です。職場で良好なコミュニケーションを図ることができないためにストレスを抱え悩み、健康を害するという人は増加傾向にあります。コミュニケーションの基礎的理論を学習し「聴く・話す・伝える」「グループワーク」を通して、より豊かな対人関係のあり方とは何かを考えるきっかけとします。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①自分の考えや感じたことを整理できる。	DP 2	20
	目標②自分の考えを聞き手に伝えるための的確な言葉選びができる。	DP 2	20
	目標③自分の考えや思いを聞き手に印象深く伝えることができる。	DP 6	20
	目標④他者の言葉に耳を傾けることができる。	DP 6	15
	目標⑤言葉を使って他者とよりよいコミュニケーションをはかることができる。	DP 8	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：建学の精神「仁愛兼濟」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、なぜ「コミュニケーションを学ぶ」のかを全員で考察し、コミュニケーションの機能についてグループワークを行います。 1) 授業の進め方 2) 自己紹介ワーク 3) なぜコミュニケーションを大学で学ぶのか？ 4) スマートフォン等の機器、 5) パソコン、LMSの利用について 6) グループ演習の進め方について	互いに心が満たされる対人コミュニケーションの重要性やその機能について議論します。 自己紹介ワーク(グループ)
	2	コミュニケーションの基本過程、コミュニケーション力を高める要素・スキルについて理解する① ・伝える伝わるために ・伝達力トレーニング ・演習：自分の考えを書いてまとめてみよう 様々なグループで様々な意見交換をしてみよう グループの意見をまとめて、発表してみよう	グループワーク：ブレインストーミング、ワールドカフェ等の議論を実施します。 自分の考えを書いて、グループで意見交換をして、意見をまとめて発表までを短時間に行う演習を実施 事後学習：議論に関するレポートをMoodleに提出すること。
	3	コミュニケーションの基本過程、コミュニケーション力を高める要素・スキルについて理解する② ・論理的な話し方の基礎を理解 ・演習：論理的に伝えることのメリットを体験的に学習する	グループワーク：自分のまとめた内容を元に、グループで話し合い、他人の意見に耳を傾ける。他人の意見を批判的(いい意味で)に捉えて、論理的、構造的な構成になっているか考える。 ・グループでの意見交換(理由等を添えて自分の意見を言おう) ・グループでの意見をまとめてみよう。 ・発表してみよう(代表が発表) 事後学習：次回のワークに向けて事前準備。提示するテーマについて論理的に伝えられるよう準備する
4	非言語コミュニケーションについて理解し、その効果を体験的に学ぶ ・印象について体験しながら理解する ・演習：表情・声の出し方・態度などを工夫すると伝わり方がどう違うか検討する	非言語コミュニケーションについて理解し、その効果を体験的に学ぶ ・印象について体験しながら理解する ・演習：表情・声の出し方・態度などを工夫すると伝わり方がどう違うか検討する	

5	聴くための知識とスキルを習得する ・傾聴法 「傾聴」とは何かを学習し、相手の話を聴くときの在り方、姿勢、態度、聴き方の技術についてペアワークを通して聴くことの重要性を学ぶ	ペアワーク：傾聴法のワークを行い、互いに振り返り意見交換。どのような聴き方が効果的かを体験的に学習する。
6	質問するための知識とスキルを習得する ・相手を理解するための「質問する」に焦点をあてる。質問の種類や効果的な質問の特徴を理解し、活用できるようになる	事前学習：配布資料の質問の種類について調べてくる 事後学習：授業で学習したことを踏まえて授業外で効果的な質問を意識して実践する。
7	相手と自分をよく知る ・コミュニケーションパターンについての知識を深め、自分のコミュニケーションパターンに気づき、相手や場面に応じて伝え方や聴き方を調整できるよう学習する (交流分関・ソーシャルスタイル)	対人コミュニケーションを円滑にする上で自己理解・他者理解を深めることも重要です。 心理学の理論を用いて、自己のコミュニケーションパターンに気づきさらにコミュニケーションスキルの成長を促します。
8	一人でするブレインストーミング演習：発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。	発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。そのためのアイデア発散のためのツール「ブレインストーミング」を実施するための手法「アイデアの花」について学ぶ。 事後課題：アイデアの花のシートを完成させて指定期日までに提出すること
9	プレゼンテーション（自己PR）と評価、論理演習1 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します。	グループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表します。 事後学習：発表の準備、振り返り
10	プレゼンテーション（自己PR）と評価、論理演習2 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します	グループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表します。 事後学習：発表の準備、振り返り
11	プレゼンテーション（自己PR）と評価、論理演習3 発想を豊かにし、様々な人との意見交換を通して論理的な表現力を身につけていく。 発表内容をスマートフォン等を使ってリアルタイムに相互評価、議論します	グループワーク：多様な意見をまとめ、論理的、構造的に文章化し、発表します。 事後学習：発表の準備、振り返り
12	ワールドカフェ演習（1）：多様な意見を聞き、まとめるための手法であるワールドカフェについて、演習をとおして学ぶ	グループワーク：自分の意見をまとめて、論理的に伝えます。 事後学習：ワールドカフェで出された意見をまとめて、発表できるよう準備しておくこと。
13	ワールドカフェ演習（2）：多様な意見を聞き、まとめるための手法であるワールドカフェについて、演習をとおして学ぶ。	グループワーク：ワールドカフェで出された意見を集約し、これまで学習した「論理的な構成」「傾聴法」「効果的な質問」「非言語コミュニケーション」などを踏まえた上でまとめます。最終的にグループごとに意見を発表し、全体で議論を行います。 事後学習：最終課題（レポート）に向けた準備
14	コミュニケーションのこれまでの学びを踏まえて、コミュニケーションの本質について考えます。真の信頼関係に支えられた対人関係を築くために大切な『相互理解』。いかに相互理解を深めるかそのプロセスと具体的なステップについて学習する	演習：相互理解を深めるワークを行います。 事後学習：感想をミニレポートにまとめる。 最終課題（レポート）に向けた準備
15	このコースのまとめ、最終課題の提示と方針の説明これまで得た知識やスキルを活用して意見をまとめます	グループワーク事後学習：最終課題（レポート）に向けた準備
定期試験	試験に代わって、全講義終了時にレポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回60分程度の予習（発表準備など）と復習が必要。	
教科書	使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	教材：授業中に配布するプリント その他、必要に応じて指示する。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	コミュニケーションをキーワードに、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の習得とその応用を目指して演習活動を実施していきます。LMS（Moodle）を利用して課題の配布・提出が行われます。毎回グループワーク等の演習活動をおこなうので、遅刻がないようにしてください（演習活動ができなくなります）。欠席、遅刻等がある場合には、事前または事後に電子メールで連絡すること。	
評価の配点比率	目標① 授業内の演習活動、5%、中間、最終レポート 15% 目標② 授業内の演習活動、5%、接続表現、論理等に関する課題、ミニテスト 15% 目標③ 授業内の演習活動、5%、中間、最終レポート 15% 目標④ 授業内の演習活動、5%、自己アピールでの相互評価 10% 目標⑤ 授業内の演習活動、5%、最終プレゼンテーション 20%	
受講上の注意	自己理解や相互交流を深める為にゲーム的な要素や心理学の理論も取り入れます。楽しみながらコミュニケーションの面白さや大切さを感じてもらえればと思います。	
教員の実務経験	バックグラウンドは心理学で、臨床心理学、産業組織心理学（職場のメンタルヘルス）が専門です。病院臨床をはじめ民間企業や陸上自衛隊などで職場のメンタルヘルス向上に携わり、コミュニケーション研修なども実施。その経験を活かし、コミュニケーションにおける基本的な知識やスキルを学び、実践を通してコミュニケーションとは何かについて体系的に考える講義を行う。	

アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) レゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク リッカー、スマホ使用等)	<input checked="" type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 反転授業	<input checked="" type="checkbox"/> 発表 (ブ) <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 (ク)
-------------------	---	--	---	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
森川 徹志			
生活科学学科生活情報ビジネス 専攻 専門科目	情報処理士資格選択・ビジネス 実務士資格選択	演習	ナンバリング：14C105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、日本語の書き言葉による適切な表現のありかたを身につけることである。授業では、話し言葉・書き言葉それぞれの特性、文章表現の基本的技法などについて学び、「書き言葉表現」の基礎固めを演習する。演習ではパソコンを用いて、要約文やレポートなどを作成し相互評価を行う。教材配布、課題提出などでLMS（仁短Moodle）を積極的に取り入れるのでLMSの操作方法に慣れておくこと。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①文章表現に必要な心構えを把握し、自身の表現に適切に応用できる。	DP 6	30
	目標②文書構造の要素を適切に用いて、他者に対し論理的に伝達できる。	DP 4	20
	目標③知的財産権に対する理解を深め、自身の表現に柔軟に取り込むことができる。	DP 2	10
	目標④文章表現力の向上に意欲的に取り組み、生活のさまざまな場面で活用できる。	DP 7	20
	目標⑤他者との協働作業を通じて、多様な価値観を認め合うことができる。	DP 8	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：ビジネス活動に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：情報に関する知識・技能にもとづき、論理的・合理的な思考力を身につけている。 DP 6：コミュニケーションに関する知識・技能にもとづき、他者の声に耳を傾け、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 DP 8：建学の精神「仁愛兼濟」や地域文化にもとづき自己を確立した上、多様な文化や考えの意義を理解し、共に生きる態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の内容と進め方、受講上の諸注意、文章表現の心構えについて	書き言葉による文章表現の基礎力を養うため、毎回の授業後半でレポート作成演習を行う。LMSを用いて、作成したレポートの相互評価も実施する。課題は必ず提出すること。
	2	なぜ上手に書けないかを考える、考えを深める作法	文章を上手に書くことの本質を知る。考えを深めるための手法を知り、活用する。
	3	「文」についての理解、文の成分についての理解	文を成り立たせる条件について知り、文章表現に生かす。
	4	主語・述語についての理解	主語・述語の〈3つの形態〉について認識し、文章表現に生かす。
	5	修飾語についての理解	修飾語の特性を認識し、適切な順序で文を組み立てられるようにする。
	6	文の種類についての理解①単文・重文・複文、「ねじれ文」についての理解	単文・重文・複文おのおのの特徴を認識し、文章表現に生かす。
	7	文の「短さ」についての理解	第5回の授業内容と合わせ、主語と述語の適切な組み合わせ方について説明できるようにする。
	8	文の種類についての理解②事実を述べた文・意見を述べた文	事実を述べた文と意見を述べた文の違いを理解し、文章表現に生かす。
	9	「文章」と「文」の違いについての理解、文と文の関係についての理解	文と文との関係性を分類し、「文章」という語の持つ本質的意味を意識することで文章表現に生かす。
	10	接続語についての理解①接続語の類型	接続語の6つの類型を認識し、文章表現に生かす。
	11	指示語についての理解	書き言葉表現における「こそあど言葉」の種類や、「こそあど言葉」以外の指示語について認識し、文章表現に生かす。
	12	指示語についての理解②「こそあど言葉」以外の指示語、文章の「わかりやすさ・正確さ」についての理解①比喩の活用	比喩など、文章のわかりやすさを助けるための表現について認識する。

	13	文章の「わかりやすさ・正確さ」についての理解②過不足ない情報の提示、文章の構造についての理解	過不足ない情報の提供（5W1H）を意識し、文章表現に生かす。
	14	文章の「わかりやすさ・正確さ」についての理解③正確な説明の条件、レポート作成演習①書誌情報の書き方	自ら課題を立て、説得力ある結論に導くために諸文献を準備する。
	15	レポート作成演習②論拠の組み立て方、授業の振り返り	第1回～第14回の授業内容を基に、与えられた課題についてのレポートを作成する準備を行う。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に期末レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前に30分、もしくは事後に30分程度の学習が必要。学習に必要な資料は、適宜LMS（Moodle）で配付・公開する。		
教科書	使用しない（担当者が作成したデジタル教材を適宜共有・配布する）。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：後藤禎典 『上手な文章を書きたい！～社会人のための文章力トレーニング～』（光文社 電子書籍） 教材：必要に応じてWord書類等のデジタルファイルを配付する。各回授業後、授業スライドを公開する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回のガイダンスで説明する。 学習課題を出し提出を求めることもあるので、興味と真剣さをもって取り組んでほしい。課題のフィードバックは適宜LMS（Moodle）を通じて行う。 質問等がある場合はLMS（Moodle）のメッセージング機能、または電子メールで連絡すること。		
評価の配点比率	期末課題60%（目標①・②・③）、演習課題40%（目標①・②・④・⑤）		
受講上の注意	日常的な文章表現は、一定の「型」を習得すると質がぐっと向上します。苦手意識を取り払って前向きに取り組む、この先長く使える表現技術を身に付けてください。		
教員の実務経験	雑誌・大学案内・ニュースサイト等での編集・執筆実績を持つ教員が、その経験を生かし、日本語の「書き言葉」によるコミュニケーションの在り方について演習形式で展開する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input checked="" type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
諏訪 いずみ			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目	情報処理士資格選択・ビジネス 実務士資格選択	演習	ナンバリング：14C505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、事務分野での仕事を想定した文書作成と情報通信技術全般の基礎知識を修得することである。 企業において日常業務の生産性を高めることや効率化をはかることは共通目的であり、文書作成アプリケーションの豊富な機能を効果的に活用してさまざまなビジネス文書の作成することが求められます。授業ではビジネス文書の作成に必要な知識を学んだうえで実践的なアプリケーションの操作技術を身につけます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①文章作成用のアプリケーションを用いて基本的なビジネス文書作成ができる。	DP 1	30
	目標②ビジネス文章を作成する上での基本的な知識を説明できる。	DP 2	30
	目標③ビジネス文章を作成する上で基本となる日本語力を説明できる。	DP 4	20
	目標④実務処理をする上で必要な情報機器の基礎知識を説明できる。	DP 5	10
	目標⑤ビジネス文書の作成を通して自らのキャリアを形成する意欲がある。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：授業の目標・内容、授業評価、日商PC検定の説明、授業の取り組み方法 ビジネス文書とは、ライティング技術	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
	2	基本的なビジネス文書の作成1（文書作成 3級レベル） 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 確認課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
	3	基本的なビジネス文書の作成2（文書作成 3級レベル） 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 確認課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
	4	わかりやすいビジネス文書の作成① 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 教科書課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
	5	わかりやすいビジネス文書の作成② 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 確認課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：教科書(第6章)の操作方法を再度確認した上で、わかりやすいビジネス文書に関する演習課題を実施。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
	6	図形を組み合わせた図解の作成① 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 教科書課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。 発展的演習課題は以後復習として事後学習で行う
	7	図形を組み合わせた図解の作成② 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 確認課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：教科書(第7章)の操作方法を再度確認した上で、図形を組み合わせた図解の作成に関する演習課題を実施。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。

8	別アプリケーションのデータの利用① 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 教科書課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
9	別アプリケーションのデータの利用② 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 確認課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：教科書(第8章)の操作方法を再度確認した上で、図形を組み合わせた図解の作成に関する演習課題を実施。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
10	実践演習 -社内外文書1- 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 実践課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：実践演習で間違えた箇所について、教科書(第6-8章)の操作方法を確認した上で、実践演習の完成版を作成する。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
11	実践演習 -社内外文書2- 知識科目の解説 小テスト(文書作成分野) 実践課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：実践演習で間違えた箇所について、教科書(第6-8章)の操作方法を確認した上で、実践演習の完成版を作成する。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
12	実践演習 -社内外文書3- 小テスト(文書作成分野) 実践課題作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：実践演習で間違えた箇所について、教科書(第6-8章)の操作方法を確認した上で、実践演習の完成版を作成する。次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
13	ビジネスメールの作成・演習 小テスト(文書作成分野) ビジネスメールの解説と正誤問題 ビジネスメール作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
14	模擬実技試験 - 1回目 - 小テスト(文書作成分野) 課題文書作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
15	模擬実技試験 - 2回目 - 小テスト(文書作成分野) 課題文書作成	e-learningの教材を使用。 事後学習：次回の小テストの準備学習をe-learningの教材を使用して行う。
定期試験	定期試験は実施しない。	
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。特に、情報通信技術全般の基礎知識やビジネス文書作成の知識に関する自主学習は、e-learningの教材を活用して行うこと。	
教科書	教科書：『よくわかるマスター日商PC検定試験 文書作成 2級 公式テキスト&問題集』日本商工会議所編 (FOM出版) 『日商PC検定試験 文書作成・データ活用・プレゼン資料作成 2級知識科目 公式問題集』(FOM出版)	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『30時間でマスターするoffice 2016』(実教出版) 『よくわかるマスター日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト&問題集』日本商工会議所編 (FOM出版) 資料：小テストとその解説、演習課題をMoodleにて配布する。	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明する。質問等がある場合は、オフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡すること。小テストおよび演習課題は、日商PC検定試験3、2級レベルを出題する。課題に関してはMoodleまたはe-mailで返す。	
評価の配点比率	目標①授業内の演習問題15%、模擬実技試験10%、発展的演習課題5%、 目標②授業内の演習問題5%、模擬実技試験10%、授業内的小テスト15% 目標③授業内の演習問題5%、模擬実技試験5%、授業内的小テスト10% 目標④授業内の演習問題5%、授業内的小テスト5% 目標⑤模擬実技試験5%、発展的演習課題5%	
受講上の注意	、	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
橋本 洋子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14D101
添付ファイル			

授業の概要	人とのコミュニケーションをよりスムーズにするための表現力をデザイン手法から探り、習得することを目的とする。 日常生活でコミュニケーションが得意・不得意に関わらず、伝えることを求められる場面は非常に多い。デザイン手法を基に、その伝達手段のエLEMENTとしての表現方法について、演習を通して試行・体験する。また、グループワークを通し、お互いの能力を活かしたグループワークやプレゼンテーションを目指す。さらに、一つのことを完成させるプロセス全体を体験することで、その流れや段取り、知る(識る)重要性など、総合的なシミュレーションも兼ねる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①自分の考えをまとめるにあたり、事前調査や試行錯誤を繰り返すことができる	DP 3	30
	目標②モノの特徴を的確に捉え、概ね表現できる	DP 6	15
	目標③自分の役割を自覚し、向上心を持って制作することができる	DP 9	20
	目標④具体的な相手を設定でき、それに必要な表現方法で表現できる	DP 6	15
	目標⑤目標を立て、計画的に完成に向けて事を進めることができる	DP 4	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 3：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	●オリエンテーション ●伝わるとは？(伝える・伝わる)分かるとは？	事前学習：「伝わる」「伝える」の違いについて自分の考えをノートに書き出す。
	2	●アイデアの法則 栄養のないところには何も生まれない・育たない。	事前学習： 事後学習：
	3	●10秒でお絵描き 伝わるか？伝わらないか？ 特徴を形にする	事前学習：一般的な動物・野菜・果物の特徴をノートに書きとめる。 事後学習：授業内容の復習。
	4	●意味のある変化 ・オリジナルのビーナスを考える <課題1「オリジナルビーナス」>	事前学習：ビーナスについて調べ、ノートにまとめる。 事後学習：「オリジナルのビーナス」完成していない場合は仕上げ、次週に提出のこと
	5	●線画の練習 なぞって慣れよう！	事前学習：自分が描きやすい鉛筆・シャープペンシルを探そう。(芯の硬さも) 事後学習：苦手な部分を復習しよう。
	6	●棒人間を描く 基本を覚える 応用する	事前学習：マッチ棒に手足をつけた人を描こう(ポーズも) 事後学習：授業でしたことの復習をしよう。
	7	●1枚の紙から立体(切り起こし) 切り起こした部分(穴)も作品の一部(単なる穴にしない)	事前学習：基本の図形を全てノートに描く 事後学習：課題が完成していない場合は仕上げ、次週に提出のこと

8	●1枚の紙から立体（ポップアップ形） 基本を覚える（壁から・床から） 応用する（積む・並べる）	事前学習：1枚の紙から立方体を作る方法POP-UPを調べる 事後学習：課題が完成していない場合は仕上げて、次週に提出のこと
9	●双六ゲームを作ろう①（グループワーク） 今までのことを応用する グループごとに調べたことを共有する 計画を立てる	事前学習：双六ゲームについて調べて、ノートに記録。 事後学習：自分の役割の作業をする
10	●双六ゲームを作ろう②（グループワーク） どんな双六を目指すか（コンセプト） 構想を立てる	事前学習：目指したい参考となるものを集める 事後学習：制作にあたり必要なことを調べる・資料を集める
11	●双六ゲームを作ろう③（グループワーク） 調べたこと・集めた資料・考えたことの共有 具体的に双六を簡易的に作ってみる（必要事項の確認）	事前学習：自分の考えたことなどをノートにまとめる 事後学習：試作ゲームから得たこと等をノートにまとめておく
12	●双六ゲームを作ろう④（グループワーク） 遊べるゲーム作り（するべき事を全て書き出す） 役割分担 制作（今日の目標は）	事前学習：本制作でのすべきことをノートに書き出ししておく 事後学習：自習に向けての準備
13	●双六ゲームを作ろう⑤（グループワーク） 制作（完成を目指す）	事前学習：授業内の段取りの確認と準備 事後学習：双六ゲームが完成していない場合は次週までに仕上げる
14	●双六ゲームで遊ぼう！（グループ行動） 他グループのゲームで遊ぼう！	事前学習：完成したゲームを再度見直す 事後学習：グループごとのゲームの感想や改善点をノートにまとめる
15	●ゲームの感想を発表し合う（グループ・全体） ●まとめ	事前学習：他グループのゲームについての感想をまとめる 事後学習：ノートから授業全体を振り返る
定期試験	試験期間には行わない。 課題の提出が必要で、それらの課題等で採点する。	
準備学習に必要な時間	毎回60分程度（調べる・考える・練習する・課題等）	
教科書	使用しない。 必要に応じて、資料を配布する。	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：その都度紹介 教材：必要に応じてプリントを配布。 準備物：この授業専用のノート、カッターナイフ（替え刃も）、カッター用定規、コンパスなど	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業時間内に終わらない場合は、次の授業までに提出。 諸事情により授業内容が前後する場合有り（その場合は連絡します） 提出課題は、評価（A・B・C）をつけて返却	
評価の配点比率	課題80% 授業での取り組み姿勢20% 課題作品の評価内訳 目標①自分の考えをまとめるにあたり、事前調査や試行錯誤を繰り返すことができる 30% 目標②モノの特徴を的確に捉え、概ね表現できる 15% 目標③自分の役割を自覚し、向上心を持って制作することができる 20% 目標④具体的に相手を設定でき、何が必要かを理解できる 15% 目標⑤目標を立て、計画的に完成に向けて事を進めることができる 20%	
受講上の注意	考えることは、できるだけ自主学習で行い、授業時間には制作を行うように心がけること	
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとして色彩指導に携わる。 また、大学、短期大学、専門学校、デザイン講座等で、専任講師・非常勤講師を務める。 それらの経験を活かし、講義に演習等を交えながら、生活の中で使える色彩学を目指した授業を行なっている。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート） ■グループワーク ■発表（プレゼンテーション） ■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） □自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
橋本 洋子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14D103
添付ファイル			

授業の概要	色彩の基本を身につけることを本授業の目的とする。 生活の中で、いかに色彩が重要な役割を果たしているかを多角的に学ぶ。 色彩検定3級のテキストを基に、実際に配色カード等を使って色彩の特性などを体験し、さらに色彩の現象等についても実験検証する。また、多様性という観点から、カラーユニバーサルデザインについても理解を深める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①実際の生活の中で、色彩基礎知識が活用されている事例を探することができる。	DP 3	25
	目標②色はなぜ見えるのか概ね理解している。	DP 3	25
	目標③カラーユニバーサルデザインを概ね理解している。	DP 8	15
	目標④色の多様性について概ね理解している。	DP 8	15
	目標⑤色彩心理の基本を概ね理解している。	DP 6	10
目標⑥色彩調和の基本を概ね理解している。	DP 6	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 3：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：建学の精神「仁愛兼濟」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	●オリエンテーション（この授業について） ●色のはたらき	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	2	●光と色 色はなぜ見える？ 光の性質と色 ・スペクトルを作ろう！ ●光と色 目のしくみ	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	3	●光と色 照明と色 ●光と色 混色（加法と減法）	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	4	●色の表示 分類と三属性・PCCS	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	5	●色彩心理 色彩心理効果（暖寒・進後・軟硬・軽重・連想など）	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	6	●色彩心理 色の視覚効果（色彩対比 色彩同化 補色残像 色陰現象など）	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	7	●色彩調和 色相から考える（同一・類似・中差・対照） ・配色カード199b	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	8	●色彩調和 トーンから考える（同一・類似（縦・横）・対照） ・配色カード199b	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
	9	●色彩調和 色彩イメージ 三属性と配色イメージ ・配色カード199b	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
10	●色彩調和 配色の基本的な技法（アクセントカラー・セパレーション・グラデーション） ・配色カード199b	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読みノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する	

11	●ファッション 基本のコーディネート ・色相とトーン	事前学習：色彩検定3級テキスト 該当ページを読み ノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
12	●インテリア カラーコーディネート (心理 効果・色覚効果)	色彩調和 色彩検定3級テキスト 該当ページを読み ノートにまとめる 事後学習：テキストとノートを参考に復習する
13	●色のユニバーサルデザイン 多様性・見え方 の違い (色覚異常・遺伝・高齢者の見え方) ・資料配布	事前学習：ユニバーサルデザインについて調べ、ノ ートにまとめる 事後学習：資料・ノートを参考に復習する
14	●色のユニバーサルデザイン 色覚異常の種類 と混同色 ・資料配布	事前学習：カラーユニバーサルデザインについて調 べ、ノートにまとめる 事後学習：資料・ノートを参考に復習する
15	●色のユニバーサルデザイン デザインの進め 方・Illustratorのとチェック方法 ・チェックしてみ よう！	事前学習：自分の作品をパソコンで観れるように準備 事後学習：チェックの結果、どうするといいいのか改善 点を考える
定期試験	試験期間中には行わない。 課題(プリント等含む)の提出が必要で、それらで採点する。	
準備学習に必要な 時間	毎回45分程度 該当するテキストを読み、ノートにまとめる	
教科書	「色彩検定 公式テキスト3級編」 (公益社団法人 色彩検定協会)	
参考図書、教材、 準備物等	参考図書：「暮らしの中の色彩学入門 [色と人間の感性]」 (株式会社新曜社 2014) 「色と光のはなし 科学の目で見る日常の疑問」 (技報堂出版株式会社 2017) 「色彩検定 公式テキストUC級」 (公益社団法人 色彩検定協会) 教材： 必要に応じてプリントを配布する 準備物： 「ベーシックカラー140」カッター(替え刃)、カッターマット、スティックのり、「配色カード 199」、色鉛筆、定規、コンパスなど (「ベーシックカラー140」と「配色カード199」は 授業内で配布)	
課題 (試験・レ ポート等) の フィードバック	天候などの状況により授業内容が前後することが有る 課題は、評価 (A・B・C) を付け、気になる点や誤りにはコメントを添えて返却する。	
評価の配点比率	課題80% 授業への取り組み姿勢20% 課題には下記の目標を含むので、全ての課題提出が望ましい。 目標①身近な事例を見つけることができる 20%。 目標②色はなぜ見えるのか概ね理解している 20%。 目標③カラーユニバーサルデザインを概ね理解している 10%。 目標④色の多様性について概ね理解している 10%。 目標⑤色彩心理の基礎を理解している 20%。 目標⑥色彩調和の基礎を理解している 20%。	
受講上の注意	アイデア出しなどは事前学習と考え、授業中はできるだけ制作作業に集中すること 授業中提出に間に合わない場合は、次週までに仕上げ必ず提出すること	
教員の実務経験	企業内デザイナーとして、製品・カタログ・販促品の企画デザインを行い、さらにフリーのデザイナーとして 色彩指導に携わる。 また、大学、短期大学、専門学校、デザイン講座等で、専任講師・非常勤講師を務める。 それらの経験を活かし、講義に演習等を交えながら、生活の中で使える色彩学を目指した授業を行なってい る。	
アクティブ・ラー ニング、ICT活用	□課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート) □グループワーク ■発表 (プ レゼンテーション) ■実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業 (ク リッカー、スマホ使用等) □自主学习支援 (LMS 等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
浅野 桃子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14D104
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、デッサンやドローイングなどを通してものの見方や考え方を学び、描くことやつくることの基本から、見る力（観察力）と発見する力（洞察力）を、それらを活かして表現する力（伝達力）を習得することです。</p> <p>「授業の計画」に示すとおり、様々な描画材や支持体を使用し道具の特性を理解し、ものの見方や考え方をうい観察から描いたりつくったりしながら、構想から制作まで多様な方法を経験することで、表現の基礎を学びます。随時表現に必要な講義をし実技とともに知識も得ます。他者に伝える、伝わるように良質な表現を獲得していきます。</p> <p>そして、基礎から展開し表現の幅を広げ、さらに自分の表現につながることを目指します。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①表現の基本を身につけるために構想することができる。	DP 3	14
	目標②実技を通して描画材など素材を理解し扱うことができる。	DP 3	7
	目標③実技や講義を通して基本的なものの見方や考え方の知識が得られている。	DP 3	7
	目標④実技を通して描くつくるための技術が得られている。	DP 3	7
	目標⑤実技を通して知識や技術を獲得し、成果物から獲得に到達していることが分かる。	DP 3	21
	目標⑥成果物が良質で、他者に適切に伝達されており完成している。	DP 3	14
	目標⑦授業を振り返り、レポートを組立て考察を進め自らの実践に活かす内容として探求している。	DP 5	20
目標⑧成果物を他者に伝わるよう創意工夫し発表を行うことができる。	DP 6	10	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 3：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス/イントロダクション 講義：『表現すること、描く準備』 実技1-1「改めてましてははじめまして」自己紹介ボードの制作	事前学習：シラバスの内容を確認しておく。 事後学習：自己紹介ボードの素材を収集する。
	2	実技1-2「改めてましてははじめまして」自己紹介ボードの制作と合評会	事前学習：自己紹介ボードの素材を収集する。 事後学習：授業を振り返り、自己紹介ボードについてミニレポートを作成する。※以降、ミニレポートの提出は授業内に行う。
	3	講義：『体の延長 手の先、気持ちの先』画材の主にデッサンやドローイングで使用する描画材や支持体について 実技2-1「顔を見つける」顔のデッサンの制作	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：顔のデッサンの制作を進める。
	4	実技2-2「顔を見つける」顔のデッサンの制作と合評会	事前学習：顔のデッサンの制作を進める。 事後学習：授業を振り返り、顔のデッサンについてミニレポートを作成する。
	5	実技3-1「触れる手」手のデッサンの制作 (構内のスケッチを実施予定)	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：手のデッサンの制作を進める。
	6	実技3-2「触れる手」手のデッサンの制作と合評会	事前学習：手のデッサンの制作を進める。 事後学習：授業を振り返り、手のデッサンについてミニレポートを作成する。
	7	講義：『目の驚異、光と色彩』画材の主に水彩絵具についてとその他の画材（油絵具など）について 実技4-1「はじまりのりんご」りんごの着色デッサンの制作	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：りんごの着色デッサンを進める。
	8	実技4-2「はじまりのりんご」りんごの着色デッサンの制作と合評会	事前学習：りんごの着色デッサンを進める。 事後学習：授業を振り返り、りんごの着色デッサンについてミニレポートを作成する。

9	実技5「命名100色」色彩の研究と制作と合評会	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：色彩研究を完成させる。授業を振り返り、色彩研究についてミニレポートを作成する。
10	実技6-1「わたしの双子石」石の模刻、着彩の制作	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：石の模刻を進める。
11	実技6-2「わたしの双子石」石の模刻、着彩の制作と合評会	事前学習：石の着彩を進める。 事後学習：石の模刻、着彩について、授業を振り返り、ミニレポートを作成する。
12	実技7「お弁当計画」半立体の工作物の制作と合評会	事前学習：描画材などを準備物を用意する。 事後学習：工作物を完成させる。授業を振り返り、工作物についてミニレポートを作成する。
13	講義：『わたしとあなた、個と全体を伝える、伝わる』これまでの実技を活かし、構想からリサーチ、制作から発表までの計画について 実技8-1「仁愛女子短期大学絵巻物」の構想、リサーチ、制作	事前学習：「絵巻物」の素材を収集しておく。 事後学習：「絵巻物」のためのリサーチを進める。
14	実技8-2「仁愛女子短期大学絵巻物」の制作	事前学習：「絵巻物」のためのリサーチを進める。 事後学習：「絵巻物」のための制作を進める。
15	実技8-3「仁愛女子短期大学絵巻物」の制作と発表、と合評会と講評会	事前学習：「絵巻物」のための制作を進め、発表の準備をする。 事後学習：「絵巻物」とこれまでの授業を振り返り、レポートを制作する。
定期試験	試験期間中の試験は実施しない。試験に代わって、第15回の発表と授業後のレポートを課す。	
準備学習に必要な時間	1時間から2時間程度。	
教科書	授業内で適宜プリントなどで配布する。	
参考図書、教材、準備物等	準備物:スケッチブック、鉛筆、プラスチック消しゴム、練り消しゴム、水彩絵具、アクリルガッシュ、ペーパーパレット、水彩用筆、水入れ、雑巾、粘土、など。 準備物については第1回のガイダンスで説明する。共有で使用する画材もある。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験については上記の通り。第15回の発表については講評会において、第15回の授業後のレポートについてはコメントを記載し、事前事後学習のミニレポートは授業内でフィードバックをする。	
評価の配点比率	目標①～⑥【総合評価50%】実技1から7までの成果物→構想力20%、描画材など素材の理解と扱い10%、基本的な見方考え方などの知識10%、描くつくる技術10%、到達度30%、完成度20% 目標⑦【総合評価10%】実技1から7までのミニレポート→構想力20%、考察力25%、独自性25%、到達度30% 目標⑧【総合評価20%】第15回の成果物（実技8）→構想力20%、描画材など素材の理解と扱い10%、基本的な見方考え方などの知識10%、描くつくる技術10%、到達度30%、完成度20% 目標⑨【総合評価10%】第15回の発表（実技8）→構想力20%、考察力25%、独自性25%、到達度30% 目標⑩【総合評価10%】第15回のレポート→構想力20%、考察力25%、独自性25%、到達度30%。	
受講上の注意	事前事後学習や準備物の用意を必ず行うこと。描くことつくることによるこびを十分に楽しみながら、他者に伝える、伝わるまで試行錯誤をしましょう。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
西畑 敏秀			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14D102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、視覚デザインにおいて重要な表現要素の構成や創造力の基本的な力を養うことである。そのため、表現の基礎となる発想や企画に関して学ぶ。その上で、文字の組み方や配色等の基本的ルールを学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①緻密で正確な作業を自らの手で習得する。	DP 3	50
	目標②パソコンでの操作に先立ち、発想や企画があってこそその表現であることを理解できる。	DP 5	30
	目標③制作者自身の意図を持った文字の組み方や配色等基本的なルールについても学び、グラフィックデザインII、IIIでの実践的なデザインに対応できる基礎力を習得することができる。	DP 7	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 3：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	はじめに・オリエンテーション 基礎デザイン課題 (1)	鉛筆・モノトーン (塗りつぶし)
	2	基礎デザイン課題 (2)	鉛筆・モノトーン (グラデーション)
	3	基礎デザイン課題 (3)	鉛筆・平面分割構成 (5本以内の直線)
	4	基礎デザイン課題 (4)	鉛筆・平面分割構成 (5本以内の曲線)
	5	基礎デザイン課題 (5)	フリーハンド-カーブ定規デザイン/具象 (コピー用紙に下絵スケッチ)
	6	基礎デザイン課題 (6)	フリーハンド-カーブ定規デザイン/具象 (ケント紙に清書)
	7	基礎デザイン課題 (7)	フリーハンド-カーブ定規デザイン/抽象 (コピー用紙に下絵スケッチ)
	8	基礎デザイン課題 (8)	フリーハンド-カーブ定規デザイン/抽象 (ケント紙に清書)
	9	基礎デザイン課題 (9)	タイルパターンデザイン (コピー用紙に下絵スケッチ)
	10	基礎デザイン課題 (10)	タイルパターンデザイン (ケント紙に清書)
	11	基礎デザイン課題 (11)	アクリルガッシュ-カラスロ (平筆) 平塗り練習
	12	基礎デザイン課題 (12)	アクリルガッシュ-カラスロ・(面相筆) 輪郭練習
	13	基礎デザイン課題 (13)	色相・明度構成 (アイデアスケッチ)
	14	基礎デザイン課題 (14)	色相・明度構成 (色塗り, 仕上げ清書)
	15	基礎デザイン課題 (15)	平面分割・カラートーン構成 (アイデアスケッチ)
	16	基礎デザイン課題 (16)	平面分割・カラートーン構成 (色塗り, 仕上げ清書)
	17	基礎デザイン課題 (17)	平面構成-抽象イメージ (アイデアスケッチ)
	18	基礎デザイン課題 (18)	平面構成-抽象イメージ (色塗り, 仕上げ清書)
19	基礎デザイン課題 (19)	平面構成-音のイメージ (アイデアスケッチ)	

20	基礎デザイン課題 (20)	平面構成-音のイメージ (色塗り, 仕上げ清書)
21	基礎デザイン課題 (21)	平面構成-季節のイメージ (アイデアスケッチ)
22	基礎デザイン課題 (22)	平面構成-季節のイメージ (色塗り, 仕上げ清書)
23	基礎デザイン課題 (23)	平面構成-スポーツのイメージ (アイデアスケッチ)
24	基礎デザイン課題 (24)	平面構成-スポーツのイメージ (色塗り, 仕上げ清書)
25	基礎デザイン課題 (25)	平面構成-文字のイメージ (アイデアスケッチ)
26	基礎デザイン課題 (26)	平面構成-文字のイメージ (色塗り, 仕上げ清書)
27	基礎デザイン課題 (27)	写真トリミング・構成デザイン (アイデアスケッチ)
28	基礎デザイン課題 (28)	写真トリミング・構成デザイン (色塗り, 仕上げ清書)
29	基礎デザイン課題 (29)	ネーミング企画・キャラクターデザイン (アイデアスケッチ)
30	基礎デザイン課題 (30)	ネーミング企画・キャラクターデザイン (色塗り, 仕上げ清書)
定期試験	試験は実施しない	
準備学習に必要な時間	毎回30分程度、画材の種類、特徴や感触を事前に確認しておくこと	
教科書	教科書は使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	なし	
課題 (試験・レポート等) のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス	
評価の配点比率	授業課題100% 目標①50% 目標②30% 目標③20%	
受講上の注意		
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー4年、広告企画制作会社でアートディレクター4年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年 県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援 (LMS 等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
西畑 敏秀			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14D105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題をとおして発想・表現要素・表現技術を学ぶことである。ビジュアル・コミュニケーションのためのグラフィックデザインについて「ポスター」や「広告」などの広報ツールや「マーク・ロゴタイプ」や「ピクトグラム」などの演習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①実際に社会で活用されている案件の課題を実践することで現実的なデザインに対応できる応用力を習得できる。	DP 3	40
	目標②他のアプリケーションソフトと連動した作品制作や編集に活用できる。	DP 5	30
	目標③今後さまざまな書類、印刷物、提案書を作成できる基本的なデジタルデータ処理能力習得できる。	DP 7	30
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 3：多様な素材を扱う技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：適切なデザイン手法を用いて、独創的な表現・運営ができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：社会における自分の役割を自覚し、感謝の心を持って主体的に行動することができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	はじめに／オリエンテーション	
	2	グラフィックデザインの役割	
	3	演習課題／マーク・ロゴタイプ／講義・スケッチ制作 (1)	依頼者の情報を把握する
	4	演習課題／マーク・ロゴタイプ／講義・スケッチ制作 (1-2)	キーワードの調査、検索
	5	演習課題／マーク・ロゴタイプ／mac制作 (2)	デザインの方向性、企画意図の整理
	6	演習課題／マーク・ロゴタイプ／mac制作 (2-2)	デジタルオペレーション
	7	演習課題／マーク・ロゴタイプ／提出・講評 (3)	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
	8	演習課題／マーク・ロゴタイプ／提出・講評 (3-2)	依頼主の条件を満たしているか
	9	演習課題／ピクトグラム (1)	目的とアイデアの検証
	10	演習課題／ピクトグラム (1-2)	アイデアスケッチ制作
	11	演習課題／ピクトグラム／mac制作 (2)	デザインの方向性、企画意図の整理
	12	演習課題／ピクトグラム／mac制作 (2-2)	デジタルオペレーション
	13	演習課題／ピクトグラム／提出・講評 (3)	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
	14	演習課題／ピクトグラム／提出・講評 (3-2)	テーマの条件を満たしているか
	15	演習課題／アートディレクションとコピー (1)	まず企画ありき～表現のための企画
	16	演習課題／アートディレクションとコピー (1-2)	企画と連動したコピーライティング
	17	演習課題／写真とイラストレーション、文字 (1)	テーマにそった写真の企画を考案すること
	18	演習課題／写真とイラストレーション、文字 (1-2)	テーマにそったイラストイメージを考案すること
19	演習課題／ポスター (1)	情報を効果的に伝える手段と技法	

20	演習課題／ポスター（1-2）	アイデアスケッチ
21	演習課題／ポスター／mac制作（2）	限られた条件下での試作シュミレーション
22	演習課題／ポスター／mac制作（2-2）	ビジュアルとコピーを効果的に構成・デザイン
23	演習課題／ポスター／提出・講評（3）デザインコンクール出品	客観性、無意識状態でどう印象づけるか
24	演習課題／ポスター／提出・講評（3-2）デザインコンクール出品	配色・タイポグラフィの検証、イメージは伝わるか
25	演習課題／モノグラム（1）	単純さと美しさ～世界のピクトグラム
26	演習課題／モノグラム（1-2）	アイデアスケッチ
27	演習課題／モノグラム／mac制作（2）	書体が持つイメージの活用
28	演習課題／モノグラム／mac制作（2-2）	デジタルオペレーション
29	演習課題／モノグラム／提出・講評（3）	独自性はあるか、造形美が感じられるか、
30	演習課題／モノグラム／提出・講評（3-2）	目指す印象を最終的にデザインできたか
定期試験	試験は実施しない	
準備学習に必要な時間	毎回30分程度、前回の操作や手順を復習して次回に備えておくこと	
教科書	教科書は使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	なし	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス	
評価の配点比率	授業課題100% 目標①40% 目標②30% 目標③30%	
受講上の注意		
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー4年、広告企画制作会社でアートディレクター4年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年。県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
林 公一朗			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14D106
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インテリアデザインについての基礎知識を習得し、自分なりのインテリアデザインを企画・制作できる能力を身につけることである。 インテリアの主要エレメント（アクセントエレメント、コアエレメント、ベースエレメント、その他のエレメント）や、インテリア・スタイル（クラシック、エレガント、モダン、カジュアル等）、インテリア・テイストについての知識を教科書を基に学んでいく。 前述の授業内容について学んだ後、単なる色彩や造形からのインテリア・デザインではなく、自身のライフスタイルから必要とされるアイテムやエレメントなどを選択・組み合わせ、快適な住空間（アメニティ）の創造を目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①インテリアデザインについて、自分の考えを記述することができる。	DP 7	30
	目標②インテリアデザインについて、基本的な知識を身につけることができる。教科書 第1章から3章	DP 8	12
	目標②インテリアデザインについて、基本的な知識を身につけることができる。教科書 第4章から10章	DP 3	28
	目標③インテリアに関するコラージュを企画立案することができる。	DP 7	10
	目標④企画立案した課題に対して目的に沿った素材・材料等を集めることができる。	DP 4	15
	目標⑤企画・立案・制作した課題を、第三者にわかりやすく伝えることができる。	DP 6	5
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 3：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 DP 8：建学の精神「仁愛兼濟」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：インテリアデザインについて第1章 風土と歴史における住まい	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	2	第2章 現代のライフスタイルと住まい	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	3	第2章 現代のライフスタイルと住まい	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	4	第4章 住まいの材料と構法	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	5	第5章 室内環境の計画	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	6	第6章 インテリアの計画	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	7	第7章 インテリアと家具	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	8	第8章 インテリアの設備・機器	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	9	第9章 空間のデザインと表現	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	10	第10章 住まいの実務と資格	教科書に沿った講義。最後にミニレポートを記述し発表する。
	11	課題制作(1)：インテリアコラージュの企画立案	「私の部屋」というテーマに対してインテリア・デザインをコラージュとしてまとめ上げるための企画書を作成する。
12	課題制作(2)：インテリアコラージュの製作① インテリアデザイナー試験過去問の実施(1)	自ら設定したコンセプトを基に、コラージュを完成させるための素材・材料等を集める。	

	13	課題制作(3):インテリアコラーズの製作② インテリアデザイナー試験過去問の実施(2)	収集した素材・材料等をどのように貼り合わせていくのか、コンセプトに沿った表現方法を考える。
	14	課題制作(4):インテリアコラーズの製作③ インテリアデザイナー試験過去問の実施(3)	次週までにコラーズを完成させておく。
	15	課題制作(5):インテリアコラーズの発表	製作したコラーズを発表する(1人2分・600文字程度)
定期試験	試験期間中の試験は実施しない。		
準備学習に必要な時間	1回目から10回目までは教科書を用いた授業となるので、授業までに事前学習として該当ページ(各10ページ)を必ず黙読しておくこと。(1時間程度) 11回目からの「インテリア・コラーズ」の企画立案には多くの時間が必要となるため、それまでの授業を通じて予め構想を練っておくことが大事である。		
教科書	(株)彰国社『図解 住まいとインテリアデザイン』		
参考図書、教材、準備物等	プレゼンボード制作時の材料: インテリアマテリアルが掲載されたカタログや雑誌類、ハサミ、カッター、のり、A3用紙、その他		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	授業内での課題提出とする。 15回の授業終了後の課題提出は原則認めない。 課題(インテリアコラーズ)提出物は、学習管理システム(LMS)の仁短Moodleを用いて、PDFデータとして学生へフィードバックする。		
評価の配点比率	目標①: 課題①教科書の内容を基にしたレポートの記述(4%×10回=40%) 目標②: 課題①のレポート内容(優・良: 2%×10回=20%、可: 1%×10回=10%) 目標③: 課題②インテリアに関するコラーズの企画(15%) 目標④: 課題②解決・製作するための素材・材料の収集(5%)、コラーズの内容(A=10%、B=8%、C=6%) 目標⑤: 課題②のプレゼンテーション(5%)		
受講上の注意	遅刻厳禁。私語が目立つ場合は座席指定とする。 授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで説明する。 第1回目から10回目までは、授業の内容を基にしたミニレポートを記述し発表する。 インテリア・デザインは生活の中に深く係っており、その知識を高めることは生活を豊かなものにするのに繋がります。本授業を通じて、様々な視点からデザインを思慮できる人間となれるよう期待しています。		
教員の実務経験	一級建築士として様々な建築物の設計・デザインに携わっているという実務経験を活かし、建築物と密接な関係性があるインテリア・デザインについて、幅広く知識や実例などを講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
田中 洋一			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14E102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、SEL (Social and Emotional Learning：社会性と情動の学習) を通して、自尊感情や対人関係能力を育成し、キャリアをデザインすることです。 そのため、マインドフルネスやライフデザイン・ポートフォリオ作成等の実践により自己理解、質問ワークやプロセス・エデュケーションの実践により社会や他者の理解及び対人関係スキル、ジェネリックスキルテストや働く価値ワークショップ等の実践により自己マネジメント及び責任ある意思決定を育んでいきます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①客観的に自己や他者を観察できる。	DP 2	20
	目標②経験を省察することにより、マイセオリーを作成できる。	DP 4	24
	目標③自分の経験から判断し、ライフデザイン・ポートフォリオを作成できる。	DP 5	22
	目標④自分の強みや経験にもとづき、他者に対して自己をPRできる。	DP 6	20
	目標⑤自分の強み・弱みを理解した上、自らの働く価値やキャリアを設計できる。	DP 7	14
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、名画鑑賞	グループワーク。グループプロセスに目を向ける。 事後学習：自分のトリセツ。 毎回、仁短Moodleへ振り返りノートを提出。
	2	マインドフルネス入門	グループワーク、事後学習：1週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述
	3	ジェネリックスキルテスト (PROGテスト)：現在のジェネリックスキルについて知る	別日時に合同でテスト(約100分)
	4	ヨガ瞑想①	グループワーク、事後学習：1週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述
	5	マインドフルリスニング&ヨガ瞑想②	グループワーク、事後学習：1週間のマインドフルネス実践をワークシートに記述
	6	質問ワーク「自分の課題」	グループワーク、事後学習：課題の再定義を行う
	7	正解のないコンセンサス・ワークショップ	グループワーク、事後学習：リフレクションシートの提出
	8	ジェネリックスキルの振り返り：自分の強みと弱みを知り、2年間の計画と自己PRを考える	グループワーク、事後学習：PROGの強化書提出
	9	過去回帰から理念を導く (ペアメンタリング)	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：過去回帰シートの完成
	10	人生の核心をつかむ (ペアメンタリング)	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：核心シートの完成
	11	核心に沿った目標を立てる (NVC)	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：ライフデザイン・ポートフォリオの作成
	12	ライフデザイン・ポートフォリオの発表	ポートフォリオの共有、事後学習：ライフデザイン・ポートフォリオの完成
	13	働く価値に関するワークショップ	グループワーク、事後学習：言の葉シートの完成
	14	ライフプランの作成	ペアワーク及びグループワーク、事後学習：ライフプランの完成
15	自己PRプレゼンテーション	ペアワーク、事後学習：プレゼン・ルーブリックによる評価提出	

定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、自己PRプレゼン動画及び統合レポートを提出。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。詳細は、仁短Moodle上に示します。
教科書	適宜、必要な資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：サーチ・インサイド・ユアセルフ―仕事と人生を飛躍させるグーグルのマインドフルネス実践法（チャディー・メン・タン、英治出版、2016）。教材：PROGテスト及びPROGの強化書、はたかちカード。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	紙メディアの提出物は、学習管理システム（LMS）の仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。仁短Moodleへの提出物に関しては、課題モジュールのコメント機能やフィードバック・モジュールで結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①名画鑑賞シート5%、マインドフルネス実践シート6%（2%×3回）、質問ワークシート2%、コンセンサスシート5%、過去回帰シート2%、 目標②振り返りシート14%（1%×14回）、統合レポート10% 目標③ライブデザイン・ポートフォリオ（音声付）8%、過去回帰シート5%、理念シート3%、核心シート3%、目標シート3%、 目標④自己プロフィール2%、取説シート5%、自己PR文5%、自己PR動画8%、 目標⑤はたかちシート2%、言の葉シート5%、PROG強化書2%、ライブプランシート5%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明しますが、基本的に隣席の学習者とのペアワークで進行します。各回の最後、eポートフォリオ（仁短Mahara）上の振り返りノートに自分の行動変容に関して記述します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がペアやグループで主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
澤崎 敏文			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14E103
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、福井県における企業活動等を調査・研究することで、社会人として必要な知識や技能の習得をすることである。 金融、販売、製造、公的機関等の業界を総合的に学ぶため、テクノフェア等の業界イベントに参加し、企業調査を行う予定。また、福井商工会議所での新商品・新サービスプレス発表会の様子（動画を活用予定）から、企業活動の実際について理解を深める。グループごとに調査企業を選定し、発表、相互評価等を行うことにより、企業に対する理解を深めていく。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①福井県の主要な産業やそれらを代表する企業等について、主な業務内容を理解し説明することができる。	DP 2	40
	目標②企業における課題を見つけ出し、適切な提案をすることができる。	DP 5	20
	目標③状況に応じて必要な調査を主体的に実施することができる。	DP 7	20
	目標④課題に対してチームで協働して取り組むことができる。	DP 9	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 福井県の産業と企業の歴史	福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように企業が成長してきたかを考える。
	2	福井県の企業を考える 福井県の企業の特徴などを分野別に考察します。福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように企業が成長してきたかを考える。	事後学習として、福井県庁のホームページ「実は福井の技」から、福井県内企業の特徴について事前に調べておくこと。
	3	企業調査&研究の方法について、金融業について 1) グループワークにより調査、発表を実施するための発表企業の最終決定、発表順の決定を行います。 2) 福井の金融業界について（銀行、その他の金融機関）	事後学習として、福井県庁のホームページ「実は福井の技」から、自分のグループで調べる企業について、その他資料を調査し研究をすすめること。
	4	福井のものづくり企業を考える 福井の企業（特に中小企業）の特徴について、マーケットリーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチという4つの視点から考察を行います。また、福井テクノフェアに出展する技術系企業について全体で議論を行います。	テクノフェア参加企業の資料（福井商工会議所作成）から、調査対象企業について授業後に調査を行い、まとめること。
	5	企業現地調査（1） 現地調査（テクノフェア）の事前準備として、参加企業についてグループごとに調査を行います。	事前課題：事前に配布された現地調査企業一覧（テクノフェア参加企業一覧）を確認し、調査を実施したい企業を5～7社選定し、質問項目をリストアップしておくこと。
6	企業現地調査（2） 現地調査（テクノフェア）にて、企業の方々に対するインタビューを実施。グループでまとめます。	グループごとの調査活動を実施します。 学生は、キャリアプランニングで作成した名刺を持参のうえ、スーツ等で企業調査（インタビュー）を実施してください。	

7	企業現地調査(3) 現地調査(テクノフェア)にて、企業の方々に対するインタビューを実施。グループでまとめます。	グループごとの調査活動を実施します。学生は、キャリアプランニングで作成した名刺を持参のうえ、スーツ等で企業調査(インタビュー)を実施してください。
8	企業現地調査(4) 現地調査(テクノフェア)後、グループに分かれて、調査内容をまとめ、簡易発表を行います。	事後課題：調査後、その内容についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
9	企業調査、研究発表1 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
10	企業調査、研究発表2 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
11	企業調査、研究発表3 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
12	企業調査、研究発表4 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
13	企業調査、研究発表5 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
14	企業調査、研究発表6 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料をパワーポイントにて作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された企業についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)
15	企業研究のまとめ これまでの企業、これからの企業という視点で、企業の地域における役割について考えます。	事後課題：講義中に示された参考文献等を調査し、最終課題(レポート)に向けた事前準備を実施すること。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	授業準備(企業事前調査)、事後学習(調査まとめ・レポート作成等)に毎回2時間程度必要。	
教科書	毎回プリント等を配布します。	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「実は福井」の技(福井県産業労働部)	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	企業等の業界・業種を問わず、幅広い知識を身につけ、社会人として実務の場面で活用できる力の習得を目指します。 LMS(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われます。	
評価の配点比率	目標① グループで実施するプレゼンテーション、および、授業のまとめ(各授業毎の研究発表に対するレポート) 40% 目標② 企業課題に対するまとめ(各授業毎の研究発表に対するレポート) 20% 目標③ 企業課題に対する調査内容 20%(最終レポート) 目標④ 授業内でのグループワーク、演習課題 20%	
受講上の注意		
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、企業活動の基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
前田 博子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		講義	ナンバリング：14E104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、福井県における伝統工芸と地域社会を調査・研究することで、社会人として必要な知識や技能の習得をすることである。 地域産業とそのイベント企画を総合的に学ぶため、RENEW等の地域産業イベントに参加し、工房訪問を行う予定。また、卒業生からものづくりと仕事との関わり、デザインの役割を学び、デザインとものづくりとの関わりについて理解を深める。体験したことを発表、相互評価等を行うことにより、ものづくりとのこれからのデザインとの関わりを思索する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	福井県のものづくり・イベントを理解し説明することができる。	DP 2	10
	ものづくりに携わる人の話を聞いて、自分の考えを述べることができる。	DP 6	30
	状況に応じて必要な調査を主体的に実施することができる。	DP 7	30
	ものづくりと地域社会について考え、今のわたしたちが出来る事を考えられる。	DP 5	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 福井県の産業と企業の歴史 福井県のものづくりを調べる	福井県の風土から、産業にどのような特色があるのかを調べる。
	2	調査&研究の方法について 1) グループワークによりイベント調査、発表を実施するための発表イベントの決定、発表順の決定。 2) 福井のイベントについてグループで発表資料を作成。	福井県のものづくりの特徴などを分野別に考察。福井県の歴史的な背景から、産業にどのような特色があり、どのように産業が栄えてきたか、衰えてきたかを考える。
	3	発表	事前学習として、発表データの作成(形式自由) 事後学習として、相互評価をおこなう。
	4	福井のものづくり・イベントを考える	事後学習として、RENEWのホームページから、イベントの特徴について事前に調べておくこと。
	5	工房現地調査(1) 現地調査(RENEW)の事前準備として、参加企業についてグループごとに調査を行います。	事前課題：事前に配布されたmapを確認し、訪問したい工房を5～7箇所選定し、HP等で工房の概要を理解しておくこと。
	6	工房現地調査(2) 現地調査(RENEW)にて、工房を訪問し、ものづくりを体験する。グループでまとめる。	グループごとの調査活動を実施します。 体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。
	7	工房現地調査(3) 現地調査(RENEW)にて、工房を訪問し、ものづくりを体験する。グループでまとめる。	グループごとの調査活動を実施します。 体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。
	8	工房現地調査(4) 現地調査(RENEW)にて、工房を訪問し、ものづくりを体験する。グループでまとめる。	グループごとの調査活動を実施します。 体験の記録として写真、動画等を撮っておくこと。事前に撮影の許可をもらうこと。
9	工房調査、研究発表1 グループごとに、訪問した工房体験について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料を作成、事前にMoodleに提出すること。 事後課題：研究発表で議論された工房についてレポート課題を提出すること(A4、1枚)	

10	工房調査、研究発表2 グループごとに、訪問した工房体験について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料を作成、事前にMoodleに提出。 事後課題：研究発表で議論された工房についてレポート課題を提出。A4、1枚)
11	工房調査、研究発表3 グループごとに、各グループで決定した企業の調査内容について発表を行います。また、全体でそれら内容についてディスカッションを実施します。	事前課題：発表予定のグループは、発表資料を作成、事前にMoodleに提出。 事後課題：研究発表で議論された工房についてレポート課題を提出。A4、1枚)
12	企画者に学ぶ／RENEW	疑問に思っていたことや、聞いておきたいことなど質問をリストアップしておく。 まとめレポートの提出
13	先輩に学ぶ／ものづくり産業と視覚デザインとのかかわり	聞いておきたいことなど質問をリストアップしておく。 まとめレポートの提出
14	先輩に学ぶ／地域イベントへの参画（企画・取材）	聞いておきたいことなど質問をリストアップしておく。 まとめレポートの提出
15	企業研究のまとめ これまでの企業、これからの企業という視点で、企業の地域における役割について考えます。	これまでの学びを踏まえて、最終レポートの提出
定期試験	試験は実施しない。	
準備学習に必要な時間	事前学習（発表資料）、事後学習（まとめレポート作成等）に毎回1時間程度必要。	
教科書	使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	適時配布。 田中元子『マイパブリックとグラウンドレベル：今日からはじめるまちづくり』晶文社	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。	
評価の配点比率	目標① 発表資料10% 目標② 各授業毎の提出レポート、まとめレポート30% 目標③ 発表資料、まとめレポート、最終レポート30% 目標④ 最終レポート 30%	
受講上の注意		
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	選択
担当教員			
田中 洋一・内山 秀樹・大西 新吾・澤崎 敏文・西畑 敏秀			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14E501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インターンシップを通して、キャリアを形成する心構えを身につけることである。そのため、「ふくいインターンシップ」（合同企業ガイダンス、事前研修会、インターンシップ、事後研修会）や伝統工芸職の就業を体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①論理的・合理的に考える。	DP 4	20
	目標②問題に対して的確な判断を行う。	DP 5	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝える。	DP 6	20
	目標④主体的に行動する。	DP 7	20
	目標⑤多様な文化や考えの意義を理解する。	DP 8	10
	目標⑥仕事場の一員として協働する。	DP 9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 DP 8：建学の精神「仁愛兼済」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	
	2	インターンシップの説明	
	3	合同企業説明会	
	4	事前研修	
	5	インターンシップ	4コマ×3日
	6	事後研修会	
定期試験	試験に代わって、報告書を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の予習・復習が必要です。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配付する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	報告書に関しては、仁短Moodleにてフィードバックする。		
評価の配点比率	目標①～⑥：振り返りシート20%、ワークシート30%、インターンシップ報告書50%		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
田中 洋一・澤崎 敏文・前田 博子・内山 秀樹・橋本 洋子			
生活科学学科生活情報デザイン 専攻 専門科目		演習	ナンバリング：14E105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、身の回りのモノコトヒトへの興味関心から課題を発見し、「実践から学ぶ」ことを学ぶことである。 そのため、課題の見つけ方、調査方法、発表方法をプロジェクト活動を通して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①自分の興味・関心からプロジェクトテーマを見つけられる。	DP 4	20
	目標②プロジェクトテーマに合った研究方法を選ぶことができる。	DP 5	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝えられる。	DP 6	20
	目標④主体的に行動することができる。	DP 7	20
	目標⑤多様な文化や考えを理解できる。	DP 8	10
	目標⑥他者と協力できる。	DP 9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	DP 4：問題を多面的かつ順序立てて分析する思考力を身につけている。 DP 5：問題を発見・解決するための的確な判断力を身につけている。 DP 6：他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 DP 8：建学の精神「仁愛兼済」にもとづき、多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 DP 9：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	
	2	興味関心マップの作成	
	3	図書館の活用法	
	4	研究の方法（1）アンケート	
	5	研究の方法（2）インタビュー	
	6	ゼミ分け	
	7	プロジェクトテーマ探し	
	8	プロジェクトテーマの決定	
	9	先行研究の調査	
	10	データの収集	
	11	データの分析	
	12	データの考察	
	13	発表動画制作(1)	
	14	発表動画制作(2)	
15	まとめ		
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、発表ポスターを提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、1 時間程度の予習・復習が必要です。		
教科書	必要に応じて、資料を配付する。		
参考図書、教材、	上野千鶴子「情報生産者になる」（筑摩書房）等		

準備物等	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	紙での提出物は、適宜返却する。課題に対するフィードバックは、仁短Moodleで行う。プロジェクト型学習のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。質問等がある場合は、担当教員へ連絡してください。
評価の配点比率	目標①～⑥：ワークシート20%、振り返りノート30%、発表動画20%、質疑応答10%、報告書20%
受講上の注意	卒業研究及び専門演習における心構えや方法論を学ぶ科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
香月 拓			
生活科学学科 教養科目		講義	ナンバリング：10A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼濟」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。 そのため、釈尊の生涯や仏教における人間観を学ぶことを通して、「本当の自分とは何か」を尋ねていく。 なお、授業は遠隔非同期（オンデマンド）にて実施する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べるができる。	生活DP1	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	生活DP6	20
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べるができる。	生活DP7	20
	目標④「仁愛兼濟」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べるができる。	生活DP8	10
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	生活DP9	30
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬） 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクションー仏教に何を学ぶのか	授業の取り組み方に関しての説明をする
	2	仏教とは何か	
	3	和の精神と仁愛兼濟	
	4	仁愛学園の歴史とキャンパスのモニュメント	
	5	四恩	事前に『和』 p. 1～15、p. 40～45を読んでおくこと
	6	釈尊の生涯ー誕生、青色青光・各々安立	
	7	釈尊の生涯ー青年期の苦悩	
	8	釈尊の生涯ー出家～降魔	
	9	釈尊の生涯ー成道、自己への目覚め	
	10	釈尊の教え①	
	11	釈尊の教え②	
	12	釈尊の生涯ー涅槃、死もまたいのちのすがた	
	13	釈尊入滅後の仏教	
	14	親鸞の生涯	
	15	歎異抄	
定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポート課題を提出させる。		
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。毎回、3時間程度の事前・事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①毎回の課題20% 目標②毎回の課題20% 目標③毎回の課題20% 目標④最終レポート10% 目標⑤毎回の課題20%、最終レポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園は「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたAHの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連 学習成果番号 重み付け%	
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	生活DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP1	10
	目標③仁愛学園の歩みについて説明できる。	生活DP6	10
	目標④「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	生活DP8	25
	目標⑤自らを振り返る態度を身につける。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月 2年後の理想像と1年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入 ※遠隔非同期にて実施
	2	4月 降誕会	※遠隔非同期にて実施
	3・4	5月 開学記念日	※詳細は後日連絡
	5	5月 第1回講義	第1回レポート ※遠隔非同期にて実施
	6	6月 第2回講義	第2回レポート ※遠隔非同期にて実施
	7	9月 CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月 成道会	
	9	1月 讃仰会(追弔会)	
	10	2年次 4月 降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11・12	5月 開学記念日	
	13	9月 CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月 成道会	
	15	12月 讃仰会(追弔会)・・・講演	第3回レポート
	16	1月 2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入
	定期試験	試験に代わって、全講義終了後に『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。	
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（10%） 目標③第2回レポート（10%） 目標④第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標⑤第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP2	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP6	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP8	20
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	生活DP9	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP2	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP6	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP7	10
目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP8	20	
目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	生活DP9	10	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。	
	活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。		
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。		

評価の配点比率	目標①②レポート (100%)
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期または後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
中里 弘徳			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会で活躍するために必要な能力を理解するとともに、自己の将来を見通し、働くこと、職業を持つことの意義を考えることである。その上で現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を学ぶ。次に社会人として仕事を遂行する上で必要なコミュニケーションの取り方や職場での言葉遣い、電話応対等のビジネスマナーを実習を通して学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①働くこと、職業を持つことの意義を理解する。	生活DP2	20
	目標②現代社会における働く環境や働き方の多様性を理解し、社会で必要とされる態度や考え方を理解する。	生活DP9	30
	目標③社会で必要なコミュニケーション能力の基礎を身に着ける。	生活DP6	20
	目標④職場での言葉遣い、電話応対、来客応対等のビジネスマナーを習得する。	生活DP5	20
	目標⑤自分の適性を理解し、自己の職業観を確立する。	生活DP4	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の目的の理解と自分の将来を考察する	本授業が実習を多く取り入れた楽しい授業であること 職場生活に有益な授業であることを理解する
	2	働くことの必要性和意義の理解	事後課題として職業インタビューを実施する
	3	現代社会と働く環境の理解	職業インタビューの結果をグループで分析し仕事のやりがいや苦勞を考える
	4	職場で必要とされるビジネスマナー	挨拶動作などの実習を行い、プレゼンテーションがスムーズにできるようにする
	5	ビジネス敬語の演習 (基本)	日常生活で耳にする敬語に関心を持つ
	6	ビジネス敬語の演習 (応用)	ビジネス敬語の小テスト実施 事後課題としてプレゼンテーションの原案作成
	7	プレゼンテーション実習	プレゼンテーション実習 (評価対象) 実習を通し人前で話すことに慣れる
	8	仕事の進め方の基本 (基本講義)	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する グループワーク
	9	仕事の進め方の基本 (応用実習)	職場で必要となるコミュニケーションを実習を通して理解する グループワーク
	10	ビジネス電話の応対実習 (基本講義)	ビジネス電話の基本を実習を通して理解する
	11	ビジネス電話の応対実習 (応用実習)	電話応対の小テスト実施 相手に好感を与える電話応対ができるようになる
	12	来客応対・訪問のマナー実習	職場や就職活動で必要となる訪問・来客応対のマナーを実習を通して学ぶ
	13	ビジネス文書作成 (基本形式、社内文書)	事後課題として書類送付状を作成してくる
	14	ビジネス文書作成 (社外文書、書類送付状作成)	就職活動に必要なビジネス文書の作成を学ぶ
15	交流分析とまとめ	自己の適性を把握する	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。事前学習ではテキストの該当する箇所を読んでわからない用語は調べて参加してください。
教科書	中里弘穂著『キャリア形成とコミュニケーションスキル』（三恵社）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：中里弘穂編著『若者のキャリア形成を考える』（晃洋書房）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方や評価方法については、第1回目の授業で説明する。小テストや提出課題は評価を付し授業期間内に返却する。授業や課題についての質問は休憩時間や授業後に対応する。定期テストについては試験範囲と採点ポイントを明確にし、成績評価を含め質問がある場合には、電子メールで連絡を受けることで学生本人に回答する。（電子メール：nakazato@go.jin-ai.ac.jp）
評価の配点比率	目標① 職業インタビューのレポート10% 定期試験10% 目標② 提出課題10% 定期試験20% 目標③ プレゼンテーション実習10% 定期試験10% 目標④ ビジネス敬語の小テスト10% 電話対応の小テスト10% 目標⑤ 定期試験10%
受講上の注意	本科目は単にビジネスマナーを学ぶのではなく、職業や働き方を理解し社会人として仕事を継続する上で必要なビジネスマナーを学ぶことを目的としている。
教員の実務経験	本教員はキャリアコンサルタントとして若者の就職支援、企業団体従業員の教育・キャリア形成支援を担当してきた。その経験を活かし社会で働くうえで必要となること、社会人として仕事を継続する上で求められる仕事の進め方やビジネスマナーを理解させ、併せて職業人としてのキャリア形成を考える授業を行っている。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
森川 徹志			
生活科学学科 食物栄養専攻 教養科目		演習	ナンバリング：10B102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、日本語の書き言葉・話し言葉による適切な表現のありかたを身につけることである。授業では、それぞれの言葉の特性、文章表現の基本的技法などについて学ぶことを通じ「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」からなる社会人基礎力を養う。テキストや音声など各種デジタルデータを取り扱うとともに、教材配布、課題提出などでLMS（仁短Moodle）を積極的に取り入れるので、パソコンならびにLMSの操作方法に慣れておくこと。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①敬語の使い方や基本的な語彙の用法を習得し、いろいろな相手と円滑にコミュニケーションをとることができる。	生活DP2	20
	目標②自分が日本語を使う一人の主体であることを自覚し、日本語のより良い使い方を実践できる。	生活DP4	30
	目標③相手や場面に即した定型的な種類の表現ができる。	生活DP6	20
	目標④講義・演習内容に関心を持ち、積極的に理解しようとする。	生活DP8	10
	目標⑤他者との協働作業を通じて、多様な価値観を認め合うことができる。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。（精進） 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業の内容と進め方、受講上の諸注意、日本語表現の心構えについて	話し言葉による日本語表現の基礎力を養うため、毎回授業冒頭におおむね3～4人、1分間スピーチを行う。授業ではグループワークも積極的に取り入れる。授業後には振り返りノートの提出を課すので、忘れずに必ず提出すること。
	2	事実を述べた文・意見を述べた文	事実を述べた文と意見を述べた文の違いを理解し、文章表現に生かす。
	3	本の読み方	情報や知識を得るための読書法を意識し、あらかじめ選んだ新書について「あらましノート」を書く。
	4	新聞記事の構成とその読み方	新聞紙面・記事の構成を理解し、記事の各段落から中心文を見つけ、要約文を書く。
	5	正しい引用・参照の方法、レポート作成のポイント	説得力ある主張に導くための諸文献の引用・参照法、書誌情報の記述法などについて知る。
	6	主語・述語についての理解、「ねじれ文」についての理解	主語・述語の〈3つの形態〉や、単文・重文・複文おのおの特徴を認識し、文章表現に生かす。
	7	文章構成の基本	5W1Hや三段論法など文章構成の基本を認識し、「1行ライティング」による文章表現を行う。
	8	インタビュー演習①第1回～7回授業をふまえたインタビュー記事の作成	授業前半の学びを振り返り、「話す」「聞く」「書く」を活用したインタビュー記事を作成する。
	9	話し言葉と書き言葉	話し言葉を書き言葉に変換する演習を通して、話し言葉・書き言葉それぞれの特性を意識する。
	10	敬語の用法①尊敬語・謙譲語	尊敬表現・謙譲表現特有の語句と用法について知る。練習問題を通して表現力を身につける。
11	敬語の用法②丁寧語・美化語	丁寧表現・美化表現特有の語句と用法について知る。練習問題を通して表現力を身につける。	

	12	敬語の用法③クッション言葉、敬語使用の留意点	人間関係を円滑にする言葉の活用や、敬語使用上の留意点を知り、練習問題を通して理解を定着する。
	13	手紙のマナー	手紙文の典型的な形式を知り、実使用の場面を想定した直筆の手紙を書く。
	14	メールのマナー	メールの基本的な使い方、メール特有のマナー、可読性を高めるレイアウトなどを知り、実使用の場面を想定したメールを書く。
	15	インタビュー演習②第9回～14回授業をふまえたインタビュー記事の作成	書き言葉を意識するとともに、敬語表現を適切に用いてインタビュー記事を作成する。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に期末レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前に30分、もしくは事後に30分程度の学習が必要。学習に必要な資料は、適宜LMS (Moodle) で配付・公開する。		
教科書	松浦照子編『実践 日本語表現 短大生・大学1年生のためのハンドブック』（ナカニシヤ出版）		
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じてWord書類等のデジタルファイルを配付する。各回授業後、授業スライドを公開する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回のガイダンスで説明する。学習課題を出し提出を求めることもあるので、興味と真剣さをもって取り組んでほしい。課題のフィードバックは適宜LMS (Moodle) を通じて行う。質問等がある場合はLMS (Moodle) のメッセージング機能、または電子メールで連絡すること。		
評価の配点比率	期末課題60%（目標①・②・③・④）、演習課題40%（目標①・②・④・⑤）		
受講上の注意	話し言葉・書き言葉ともに、日常的な日本語表現は一定の「型」を習得すると質がぐっと向上します。苦手意識を取り払って前向きに取り組む、この先長く使える表現技術を身に付けてください。		
教員の実務経験	雑誌・大学案内・ニュースサイト等での編集・執筆実績を持つ教員が、その経験を生かし、日本語の「書き言葉」によるコミュニケーションの在り方について演習形式で展開する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input checked="" type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	1年次	1単位	選択
担当教員			
内田 雄・出村 友寛			
生活科学学科 教養科目		演習	ナンバリング：10C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。そのために今年度は、野外スポーツの中から、ゴルフを集中的に行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に野外スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	生活DP7	50
	目標② 野外スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	生活DP3	30
	目標③ 野外スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	生活DP3	10
	目標④ 野外スポーツの特徴を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	生活DP1	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。（和敬）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	①ゴルフの運動効果、スイングの基本	全体オリエンテーションを含む
	2	②フルスイングショット	
	3	③9番アイアン打撃	
	4	①7番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	5	②5番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	6	③アイアンのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用
	7	①アプローチショット	学内運動場を使用
	8	②ピッチとラン	学内運動場を使用
	9	③パッティング	
	10	①ウッドショット打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	11	②ドライバーとスプーン	学外ゴルフ打撃場を使用
	12	③ウッドのテストとまとめ	
	13	①ルールとマナー	
	14	②コースでのプレーの仕方	
	15	③ミニ・ラウンド	ゴルフ場を使用
定期試験	試験に代わって、集中授業終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	授業で習得した練習内容や技能の振り返りとして、各回45分程度の事後学習が必要		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントして配布予定。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。レポートは、評価後にフィードバックします。		

評価の配点比率	目標①、②実技試験80% 目標③、④レポート20%
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

講義科目名称： 英語 I

授業コード： 1610701

英文科目名称： English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
モラレス・ガルシア・サマリー・セレステ			
生活科学学科食物栄養専攻 教養科目		講義	ナンバリング：10D101
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業では、テキストを使用しながら、リスニング、基本的な会話の上達を目指します。 The goal of this course is to develop basic listening and conversation skills through repeating and working with small groups and to develop confidence in using English. Also build new vocabulary and new phrases through dialogues.</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①英語で書かれた文章を読んで、その内容を理解することができる。	生活DP1	40
	目標②積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	生活DP6	40
	目標③異なる文化について理解を深める意欲がある。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Unit0 Welcome to English Firsthand	・授業開始時、前回の復習から開始するので、各自事前に30分～1時間の復習を毎回行うこと。 ・前期終了時、ミニレポートを作成し、提出すること。(テーマは後日発表)
	2	Unit1 Part1 How are you?	
	3	Unit1 Part2	
	4	Unit2 Part1 Do you understand?	
	5	Unit2 Part2	
	6	Unit3 Part1 This is my room	
	7	Unit3 Part2	
	8	Mid test	
	9	Unit4 Part1 When do you get up?	
	10	Unit4 Part2	
	11	Unit5 Part1 Who's that?	
	12	Unit5 Part2	
	13	Unit6 Part1 That's a great shirt!	
	14	Unit6 Part2	プレゼンテーション①
15	Final test 筆記テスト①・解説	ミニレポート (Your storyのU1～U3までの中から)	
定期試験	第7回目の授業時と、最終授業時に筆記テストを行う。		
準備学習に必要な時間	前回授業時の復習として30分～1時間程度必要。特に、各ユニットのVocabulary Maps p131～と、Grammar explanations P138～を見て、次回の授業に臨むこと。		
教科書	English firsthand access fifth edition student book (日本出版貿易)		
参考図書、教材、	辞書 (電子辞書が望ましい)。		

準備物等	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験の解説は、試験後に行う。
評価の配点比率	目標①授業内容についての確認テスト 40% 目標②プレゼンテーション 40% 目標③ミニレポート 20%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input checked="" type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
モラレス・ガルシア・サマリー・セレステ			
生活科学学科食物栄養専攻		講義	ナンバリング：10D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、テキストを使用しながら、リスニング、基本的な会話の上達を目指します。 The goal of this course is to develop basic listening and conversation skills through repeating and working with small groups and to develop confidence in using English. Also build new vocabulary and new phrases through dialogues.		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①英語で書かれた文章を読んで、その内容を理解することができる。	生活DP1	40
	目標②積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	生活DP6	40
	目標③異なる文化について理解を深める意欲がある。	生活DP9	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学习について
	1	Unit0 Welcome to English Firsthand Unit7 Part1	・授業開始時、前回の復習から開始するので、各自事前に30分～1時間の復習を毎回行うこと。 ・前期終了時、ミニレポートを作成し、提出すること。(テーマは後日発表)
	2	Unit7 Part2	
	3	Unit8 Part1 Let's eat!	
	4	Unit8 Part2	
	5	Unit9 Part1 I really enjoy it!	
	6	Unit9 Part2	
	7	Mid test 筆記テスト・解説	
	8	Unit10 Part1	
	9	Unit10 Part2	
	10	Unit10 Part3 プレゼンテーション	プレゼンテーション②
	11	Unit11 Part1 Where did you go?	
	12	Unit11 Part2	
	13	Unit12 Part1 Will I be famous?	
	14	Unit12 Part2	
15	Final test 筆記テスト・解説	ミニレポート (Your storyのU4～U6までの中から)	
定期試験	第7回目の授業時と、最終授業時に筆記テストを行う。		
準備学習に必要な時間	前回授業時の復習として30分～1時間程度必要。特に、各ユニットのVocabulary Maps p131～と、Grammar explanations P138～を見て、次回の授業に臨むこと。		
教科書	English firsthand access fifth edition student book (日本出版貿易)		
参考図書、教材、準備物等	辞書 (電子辞書が望ましい)。		

課題（試験・レポート等）のフィードバック	試験の解説は、試験後に行う。
評価の配点比率	目標①授業内容についての確認テスト 40% 目標②プレゼンテーション 40% 目標③ミニレポート 20%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input checked="" type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
島田 貢明			
生活科学学科 教養科目※食物栄養専攻		講義	ナンバリング：10D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学、職場、家庭にて必要となるコンピュータリテラシーの基礎的な能力を理解・習得することである。 本学のICT環境を習熟し、情報倫理・OSの基礎・タッチタイピング・インターネットの利用・文書作成・表計算の基礎を学ぶとともに、栄養士としての事例課題に取り組むことにより、現場でのICT活用法についても学ぶ。また、初年次教育科目として、情報収集の方法（図書館の活用を含む）、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①情報を取り扱う多様なメディア（媒体）の特徴を理解し、適切に活用できる。	生活DP6	20
	目標②コンピュータの基本的な操作法、文書作成、表計算、プレゼンテーションなど基本ソフトウェアを効率的に使用できる。	生活DP3	30
	目標③作成した情報コンテンツを、他人と比較を通して、情報の受け手の立場で評価する。	生活DP9	10
	目標④公開されているオープンデータを参照し、統計的な処理ができる。	生活DP5	20
	目標⑤インターネット活用を通して、情報リテラシーの基礎的な考え方を身につけている。	生活DP4	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。（反省）	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 授業における内容と心構え Moodle, 画面設定、メールの設定	配布した操作説明のプリントを読んで、PCへのログイン等の操作に慣れておくこと
	2	タッチタイピング 入力テスト1	Word の基本機能の操作比較理解 タイピングソフトの練習は以下毎回講義内及び事後学習として行う
	3	電子メール（作成・送信、受信、返信）	配布プリントで復習しておくこと
	4	情報収集（情報検索・図書館活用）の基礎	事前に配布したプリントを熟読し内容を理解しておくこと Moodle演習課題、ミニレポート提出
	5	文書作成の基礎-1 Word入門とタイピング	Word の基本機能の操作比較理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	6	文書作成の基礎-2 Word入門（ページ設定と文書配布）	Word の基本機能の操作理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	7	文書作成の基礎-3 Word入門（文書の構成と編集）	文書作成（実技） Moodle演習課題
	8	文書作成の基礎-4 Word入門（文書作成の実際）	Word 文書のレイアウト Moodle演習課題、ミニレポート提出
	9	文書作成の基礎-5 Word入門（表・画像・図形を活用した文書作成）	Word で様々な形式のデータをレイアウトする Moodle演習課題、ミニレポート提出
	10	表計算の基礎-1 Excel入門（データ入力の基本）	Excelの基本機能の操作理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
11	表計算の基礎-2 Excel入門（関数の利用）	Excelの基本機能の操作理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出	

	12	表計算の基礎-3 Excel入門 (グラフ・条件判定と順位付け)	Excelの基本機能の操作理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	13	表計算の基礎-4 Excel入門 (便利な機能)	Excelの基本機能の操作理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	14	レポートの書き方 (WordとExcelの活用含む)	Word および Excelの活用理解 Moodle演習課題、ミニレポート提出
	15	プレゼンテーションの基礎 PowerPoint入門 (スライド作成の基礎) 最終レポート課題	スライド作成とプレゼンテーションでの利用を学ぶ 最終レポート課題は、締め切りを厳守
定期試験	試験期間中に試験は実施しない。		
準備学習に必要な時間	毎回、タッチタイピング練習も含め3時間程度の事前・事後学習が必要。事前に教科書及び配布プリントの該当項目のページに目を通しておくことが望ましい。		
教科書	『30時間でマスター Office2016』 (実教出版)		
参考図書、教材、準備物等	タイピングソフトウェアTypeQuick USB版 (日本データパシフィック) 『電子メールを使おう』 (配布プリント)		
課題 (試験・レポート等) のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第1回のガイダンスで説明する。課題は、基本的に講義時間内で作成・提出とする。指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。Moodle小テスト及び発展課題は、事後学習として行う。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール (shimada@jin-ai.ac.jp) で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①最終課題10%、授業内課題5%、Moodle上の小テスト5% 目標②最終課題10%、タイピング10%、授業内課題5%、発展課題5% 目標③最終課題5%、授業内課題5% 目標④最終課題5%、授業内課題10%、発展課題5% 目標⑤最終課題10%、授業内課題5%、Moodle上の小テスト5%		
受講上の注意	初年次教育科目として入学後の学習及び社会人として必要となる情報処理の基礎を身に着けると同時に、現場で活用できる力を修得することを目標としています。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	必修
担当教員			
富永 良史			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：16A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、生活科学のテーマにもとづき、グループで主体的に学ぶ方法を身につけることである。本授業では、生活科学学科の根幹をなす「衣と生活」「食と生活」「住と生活」「情報と生活」という各分野に関する4つのシナリオを用いた課題解決型学習 (Problem Based Learning) を行う。グループ作業を通してシナリオから問題を発見し、学習者自身が学習の計画を立てる。計画をもとに個別の調べ学習を行うが、グループで合意形成しながら学習することにより、一人では得られない学習成果を得る。この課題解決型学習を4回繰り返すが、各回の最後には、グループ発表と自己評価を実施する。 ※本授業は、初年次教育科目である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①衣・食・住・情報に関する、自分の関心・興味のある知識について説明できる。	生活DP2	12
	目標②論理的に考えることにより、課題を発見できる。	生活DP4	18
	目標③根拠にもとづき、課題を解決できる。	生活DP5	25
	目標④他者と合意形成し、グループ全体としての発表ができる。	生活DP6	20
	目標⑤多様性の意義を理解し、適切に自己評価・相互評価ができる。	生活DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、PBLについて、アイスブレイクなどのグループワーク	事後学習にて本授業の学習方法をしっかりと理解する。 ※毎回、振り返りノートに学びの成果を記述する。
	2	PBL1 「衣と生活」 グループワークによる課題発見	事後学習にて、発見した課題について調べ学習を行い、振り返りノートにまとめておく。
	3	PBL1 「衣と生活」 グループワークによる課題解決	事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	4	PBL1 「衣と生活」 グループ発表と相互評価	事後学習にて、「衣と生活」のミニレポートを書き、次回提出。
	5	PBL2 「食と生活」 グループワークによる課題発見	事後学習にて、発見した課題について調べ学習を行い、振り返りノートにまとめておく。
	6	PBL2 「食と生活」 グループワークによる課題解決	事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	7	PBL2 「食と生活」 グループ発表と相互評価	事後学習にて、「食と生活」のミニレポートを書き、次回提出。
	8	前半の振り返り。どのように学び、何を身につけたかをグループワークで対話する	事後学習にて、前半における、自らの学びの姿勢に関する自己評価を行い、レポートにまとめる。次回提出。
	9	PBL3 「住と生活」 グループワークによる課題発見	事後学習にて、発見した課題について調べ学習を行い、振り返りノートにまとめておく。
	10	PBL3 「住と生活」 グループワークによる課題解決	事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
11	PBL3 「住と生活」 グループ発表と自己評価	事後学習にて、「住と生活」のミニレポートを書き、次回提出。	

	12	PBL4 「情報と生活」 グループワークによる課題発見	事後学習にて、発見した課題について調べ学習を行い、振り返りノートにまとめておく。
	13	PBL4 「情報と生活」 グループワークによる課題解決	事後学習にて、グループ発表の準備を行う。
	14	PBL4 「情報と生活」 グループ発表と自己評価	事後学習にて、「情報と生活」のミニレポートを書き、次回提出。
	15	グループワークによるPBL1～4の振り返り。衣・食・住・情報と生活の関係を考察。	事後学習にて、前後半すべてを通じての、自らの学びの姿勢と成果に関する自己評価を行い、レポートにまとめる。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に、衣・食・住・情報と生活の関係を考察したレポートを作成し、提出する。		
準備学習に必要な時間	調べ学習のため、毎回3時間程度の予習・復習が必要です。		
教科書	適宜、プリント等を配布する		
参考図書、教材、準備物等	なし		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。各回の最後、振り返りノートに自分の行動変容に関して記述します。紙での提出物は、後日返します。グループ作業が中心のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tominaga.hassou@gmail.com）で連絡してください。		
評価の配点比率	目標①ミニレポート12% 目標②ワークシート18% 目標③ワークシート25% 目標④グループ発表20% 目標⑤振り返りノート25%		
受講上の注意	本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がグループで主体的に学ぶことをめざしています。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■ 課題解決型学習（PBL） ■ 討議（ディスカッション、ディベート） ■ グループワーク ■ 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） ■ 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
堀 照夫			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：16A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、服飾表現の歴史や現代の被服心理を通して、生活環境の中で衣服を着用する目的と機能を明確にすることである。 その上で、衣服の造形と着装、衣服の素材、衣服の衛生・管理を取り上げて、衣生活活動に必要な基本および科学的な知識や技術を習得する。また、手作りあるいは注文服から既製服への推移、繊維・アパレル産業の動向、「衣」に関する消費者の問題を取り上げて、学生との対話をも参考に衣生活の現状と課題を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会生活において問題を発見するための衣服の知識・技術を身につけることである。	生活DP2	20
	目標②世界の衣服の歴史と発展を説明できることである。	生活DP1	20
	目標③身近な繊維・アパレル製品を科学的に理解することである。	生活DP3	20
	目標④多様化、複雑化する現代社会の中で衣服を選択・購入し、美しく快適に着用し管理するなど、衣生活活動を健全に営むことである。	生活DP9	30
目標⑤今後の衣服の展開を予測することである。	生活DP5	10	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。 生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	現代生活と衣服（人と衣服とのかかわり）	繊維の歴史を含む。最後に小テスト。
	2	衣文化の変遷（西洋における服飾）	最後に小テスト。
	3	衣文化の変遷（日本における服飾）	最後に小テスト。
	4	衣文化の変容（現代における服飾）	課題提示およびレポート作成。最後に小テスト。
	5	服飾による表現	グループディスカッションを実施。内容をプレゼンする。最後に小テスト。
	6	着心地と衣服内気候	最後に小テスト。
	7	体形把握と衣料サイズ	最後に小テスト。
	8	被服の構成（平面構成と立体構成）	最後に小テスト。
	9	既製服の生産と流通	最後に小テスト。
	10	繊維・糸・布の構造	課題提示およびレポート作成。最後に小テスト。
	11	衣服素材の各種加工	最後に小テスト。
	12	衣服の汚れと洗濯	最後に小テスト。
	13	衣服の管理と環境問題	課題提示およびレポート作成。最後に小テスト。
	14	衣服の選択、購入と繊維製品の品質表示	最後に小テスト。
15	「衣」に関する消費者問題と対応	最後に小テスト。	
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の復習ができれば良い。予習は不要。		
教科書	使用しない。		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：内藤道子他『改訂 衣生活論』（建帛社） 島崎恒蔵・佐々井啓『衣服学』（朝倉書院2009） 佐々井啓『衣生活学』（朝倉書院2007） 田村照子『衣環境の科学』（建帛社2007）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	1) 講義資料や課題はプリント資料で配布する。 2) 課題の回答は手書きで、評価結果はフィードバックし、成績の参考にする。 3) 試験はプリントで配布し、回答は直接試験用紙に記入。
評価の配点比率	筆記試験70%（目標①～④）、授業中の課題30%（目標④～⑤）
受講上の注意	短大卒として必要な常識レベルの衣料・服装に関する事項を理解し、身に着けることを目的としている。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input checked="" type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	選択
担当教員			
高木 康之			
生活科学学科食物栄養専攻 専 門科目 (学科共通科目)	フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16A103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康な食生活を営むために必要な基礎知識を身につけることである。そのため、栄養現象の営みの場である食生活についてその変容を概観し、食を生活の中にどのように位置づけるように営んで行くかなどについて、食生活の現状や食生活における影響要因などから学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①健康と食生活行動との関連性について正しい知識を身につける。	生活DP3	10
	目標②食生活の変容、現状について把握できる。	生活DP3	20
	目標③自分の食生活を見直し、より健康な生活を営む力を身につける。	生活DP5	20
	目標④食生活における影響要因を把握し、食を取り巻く環境や問題点について考えることができる。	生活DP4	20
	目標⑤心身の健康管理のための食生活について、問題意識をもって取り組む姿勢を身につける。	生活DP8	10
	目標⑥自分の考えをまとめ示すことができる。	生活DP6	10
目標⑦ノートや資料を整理し活用することができる。	生活DP6	10	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP3：人間と自然に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。 生活DP6：社会生活において他者とのコミュニケーションのための表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP8：自分の最も自分らしい個性を輝かせるため、主体的に行動する態度を身につけている。(精進)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	健康な食生活	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	2	食生活の変遷	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	3	食生活の現状	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	4	食料・食材の安全性の現状	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	5	栄養素摂取状況と健康状態の変遷	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	6	食品の栄養的機能	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	7	食品の感覚的機能	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	8	食品の生体調節機能	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
	9	食事の情動・充足感の認知システム	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題 (小テスト) の実施
10	味覚嫌悪学習	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと	

		課題（小テスト）の実施
	11 人間社会と食生活	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	12 食事の種類が健康に及ぼす影響	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	13 食が及ぼす心の病	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	14 食と情報教育	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	15 これからの食生活	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
定期試験	最終課題（15回の講義終了後）を筆記試験の替りとする。	
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の予習・復習が必要。 毎回、教科書の該当する箇所を読み概容を確認する。	
教科書	福田靖子、小川宣子編 食生活論 朝倉書店 2018	
参考図書、教材、準備物等	講義の中で随時紹介	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、Moodle等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 課題に質問がある場合は、オフィスアワーや電子メール、Moodleを利用する。	
評価の配点比率	目標①期末試験10% 目標②期末試験10% 小テスト10% 目標③期末試験10% 小テスト10% 目標④期末試験10% 小テスト10% 目標⑤期末試験10% 目標⑥期末試験10% 目標⑦期末試験10%	
受講上の注意	毎時間ノート等で授業内容をまとめ整理すること。 毎時間ごとに課題を課す。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
内山 秀樹			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：16A104
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、環境デザイン分野の住まいに関する導入が目的である。人間にとって最も基本的な生活空間であるとともに一生のうち最も多くの時間を過ごしている「住まい」について、「眠る」、「食べる」、「着る」、「入浴・排泄」などの生活行為の視点から”住まう”ことの意味と人と住まいの関係のあり方、望ましい住環境について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人間とすまいの関係や環境と住文化について説明することができる。	生活DP9	20
	目標②生活行為と住空間のあり方について説明することができる。	生活DP1	40
	目標③自宅の間取りをわかりやすく描き、住環境の問題点を抽出することができる。	生活DP4	20
	目標④住環境の良否について適切に評価し、説明することができる。	生活DP5	20
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP1：人間と文化に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業ガイダンス／1 人と生活・住まい 1 人間とは	授業までに、授業内容に相当する箇所までテキストを予習してくる
	2	1 人と生活・住まい 2 集まって住む～3 環境と住まい 課題①「わが家の間取りチェック」の説明	課題①「わが家の間取りチェック」自宅の間取りを簡単に描き、バリアフリーの観点からの問題点と住空間的に優れている点を整理する。
	3	2 生活行為と生活空間 A 眠る(1) 1 睡眠の生理～3 就寝様式	授業内容に相当する箇所までテキストを予習してくる
	4	A 眠る(2) 4 就寝空間の計画	授業内容に相当する箇所までテキストを予習してくる
	5	B 食べる(1) 1 食事について～3 食事の文化と変遷	授業内容に相当する箇所までテキストを予習してくる
	6	B 食べる(2) 4 食事の場、調理の場の計画～5 調理と環境問題	授業内容に相当する箇所までテキストを予習してくる
	7	受講生が課題①を発表し、それについて講評する。	課題①を説明できるように準備しておく
	8	D 排泄・入浴(1) 1 排泄する～4 水環境	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくる
	9	D 水回り空間(2) 5 現代の衛生空間～6 衛生空間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくる
	10	E ふれあう・くつろぐ(1) 1 今日のふれあいについて～3 今日のふれあい・くつろぎ空間	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくる
	11	良い住まいとは～優れた住まいの事例の動画等による解説	課題②レポート「住まいに関する動画をみて」視聴した動画の概要と学んだこと、考えたことなどをレポートにまとめる。
12	E ふれあう・くつろぐ(2) 4 居間の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくる 課題③についての説明を行う 住宅展場いき、関心を持った2物件について調査、ヒヤリングした内容をレポートにまとめる	

	13	F 子どもを育てる(1) 1 子供とは～3 子供と生活	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	14	F 子どもを育てる(1) 4 子供と住まい～5 子供部屋の計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること
	15	G 高齢者が住む・安らぐ 1 高齢者と高齢社会～4 高齢者の住まいの計画	教科書の授業内容に相当する箇所まで予習してくること 課題③「住宅展示場見学レポート」提出締め切り
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回時間程度の事前事後学習が必要。		
教科書	林 知子他『住まい方から住空間をデザインする一図説住まいの計画』(彰国社 最新版)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：小宮洋一、片山勢津子、他『新しい住まい学』(井上書院 2016)、定行 まり子・沖田富美子『生活と住居(光生館 2013)、水上裕、岩崎俊之、他『住まいのミカタ 暮らしに役立つ住居学』(学芸出版社 2009)、小澤紀美子編『豊かな住生活を考える-住居学』(彰国社 2002)		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	課題や試験は期末または採点が済み次第、各自に返却する。		
評価の配点比率	目標①期末試験20% 目標②期末試験40% 目標③「わが家の間取りチェック」20% 目標④「住まいに関するビデオをみて」10%、「住宅展示場見学レポート」10% 計20%		
受講上の注意	住まいのプランニングやインテリア関連分野を目指す方はもちろん、今後、生活者として不可欠の知識、理解を得ることができる基本的な内容であるため、受講することが望ましい。 机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
清水 聡			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目 (学科共通科目)		講義	ナンバリング：16A503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会的場面における人間関係を学ぶことである。複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している「社会的場面」における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会的場面で外に表れた行動から、その場面における人間のこころの動きをある程度理解できる。	生活DP2	20
	目標②社会的場面における行動の法則性を理解した上で、日常生活で出会う場面に一段階深い問題意識を持てるようになる。	生活DP4	20
	目標③社会的場面における行動の法則性を理解した結果、社会生活上の問題を解決する能力を向上させる。	生活DP5	16
	目標④所属集団の他のメンバーについて省察するレポートを作成する過程で、他者の立場への理解度を向上させる。	生活DP7	29
	目標⑤同じ社会的場面においても人により考え方や行動の仕方に差異があることを学ぶことにより、所属集団における自己のあるべき姿について考察できる。	生活DP9	15
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	生活DP2：人間と社会に関する基本的な知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	生活DP4：社会生活において課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 生活DP5：社会生活において課題を解決するための適切な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	生活DP7：他者と協働し、他者に対して感謝する態度を身につけている。(和敬) 生活DP9：人や文化の多様性の意義を理解し、自らを振り返る態度を身につけている。(反省)	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	人間関係論とは、社会的促進	授業の進め方や評価の詳細について説明する。
	2	集団と人間1(集団の定義と集団の形成)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	3	集団と人間2(集団の凝集性)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	4	集団と人間3 (斉一性への圧力と集団規範)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	5	集団と人間4 (集団による問題解決)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	6	リーダーとリーダーシップ	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	7	集団内の人間関係の測定方法	実習を行い、それを踏まえレポート課題を出す。前回の授業の復習をして小テストに備える。
	8	自己1 (自己概念と自尊感情)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の自尊感情の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	9	自己2 (自己開示と自己呈示)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の自己開示の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	10	自己3 (自己意識と対人行動)	レポート課題を提出する。前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身のセルフ・モニタリングの状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
	11	魅力と対人関係 (対人魅力の規定要因)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	12	援助と攻撃1 (援助行動の規定要因)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の援助規範意識の状態について質問紙の結果から考察した小レポートを作成する。
13	援助と攻撃2 (攻撃行動の源泉と攻撃の抑制)	前回の授業の復習をして小テストに備える。自分自身の攻撃性について質問紙の結果から考察した小	

		レポートを作成する。
	14 社会的推論1 (帰属理論)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	15 社会的推論2 (ヒューリスティック)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
定期試験	試験に代わって、小テストおよびレポートで総合的に評価する。	
準備学習に必要な時間	毎回の小テストに備えて、授業中に指示したポイントを中心に前週の授業の復習を最低2時間は行うことが必要となる。また第7回目に課したレポート課題の作成には数日以上要する。レポート等は、評価後にフィードバックする。	
教科書	使用しない	
参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。	
課題 (試験・レポート等) のフィードバック	授業の取り組み方および評価の方法については第1回目の授業の冒頭に説明する。第7回目に課すレポート課題については、作成上のポイントを詳細に記述したプリントを配布した上で説明する。	
評価の配点比率	初回を除く毎回の授業中に行う小テスト (全14回) 56% (目標①~③)、中途に課すレポート29% (目標④)、授業内容に関連した質問紙の結果から自分自身の状態について小レポート15% (目標⑤)	
受講上の注意	一般常識よりもう一つ深いレベルで人間関係を理解できるようになって欲しいです。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
小林 恭一			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、今後、科学的に栄養と食品について学ぶ上での基礎を身につけることである。食品学は、食品成分と栄養・健康との関わり、食品成分と色、味、香り、物性、品質等との関わり、調理、加工、保存中に起こる食品成分の化学変化、栄養・機能性の変化等、食品の本質を研究し体系づける学問である。食品学総論は、今後、栄養と食品について科学的に理解していくための基礎となるものである。そのため、食品の成分の理化学的性質を理解し、食品成分の変化とその利用、食生活との関わりを学び、食生活と健康、嗜好性、食物連鎖、食糧と環境問題等について理解を深める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①食品の基礎となる各成分について理解している。	DP 1	30
	目標②食品の1次機能、2次機能、3次機能を説明できる。	DP 3	30
	目標③食事内容を食品成分で説明ができる。	DP 4	20
	目標④食生活と健康、嗜好性、食物連鎖、食糧と環境問題等について理解し、表現することができる。	DP 6	10
	目標⑤食品の1次機能、2次機能、3次機能について自ら関心を持つことができる。	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 DP 4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食の歴史の変遷、食生活と健康、食と環境問題	ガイダンスを含む。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	2	食品の分類、食品成分表	事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	3	食品の一次機能：水分、炭水化物	事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	4	脂質	事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	5	たんぱく質	小テスト実施。事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	6	無機質（ミネラル）	事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	7	ビタミン	事前学習：食品成分表による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	8	食品の二次機能：色素成分、香り成分	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	9	味成分	小テスト実施。事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	10	食品の三次機能	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	11	食品中の有害成分	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	12	食品の成分変化（たんぱく質、脂質、炭水化物）	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。

	13	食品の成分変化（褐変、酸化、発酵）	小テスト実施。事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	14	食品の物性	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	15	食品の表示と規格基準	事前学習：配付資料による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の予習・復習が必要。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じて資料を配付する。 参考図書：医歯薬出版編 日本食品標準成分表2019（七訂），医歯薬出版（株）2019 津田謹輔・伏木亨・本田佳子監修 Visual栄養学テキスト食べ物と健康 I 食品学総論 中山書店 2018		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については1回目に説明する。毎回簡単な小テスト（課題）を実施して理解度を確認、結果を本人にフィードバックする。質問がある場合は、オフィスアワーを利用する。		
評価の配点比率	目標①期末試験 10% 小テスト 20% 目標②期末試験 10% 小テスト 20% 目標③期末試験 10% 小テスト 10% 目標④期末試験 10% 目標⑤期末試験 10%		
受講上の注意			
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員が、食品学の基礎知識に新しい知見を加え、食品の持つ栄養機能、味覚機能、健康維持機能について講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
小林 恭一			
生活科学学科食物栄養専攻 専 門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、今後、科学的に栄養と食品について学ぶ上での基礎を身につけることである。食品学は、食品成分と栄養・健康との関わり、食品成分と色、味、香り、物性、品質等との関わり、調理、加工、保存中に起こる食品成分の化学変化、栄養・機能性の変化等、食品の本質を研究し体系づける学問である。食品学各論では、植物性食品、畜産食品、水産食品に分類された個々の食品そのものについて学ぶとともに、微生物を利用した食品について理解を深める。今後、栄養と食品について科学的に理解していくための基礎となるものである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①個々の食品の栄養成分、機能、特徴について理解している。	DP 1	30
	目標②個々の食品の生産、消費について理解している。	DP 3	30
	目標③個々の食品の性状と加工や調理と関連づけて理解できる。	DP 4	20
	目標④食料と環境問題について理解し実生活に応用できる。	DP 6	10
	目標⑤新しい食材に関する情報について、自ら積極的に調べることができる。	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 DP 4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	穀類、米、小麦、大麦、トウモロコシ、ソバ、雑穀	ガイダンスを含む。事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	2	イモ類、サツマイモ、ジャガイモ、サトイモ、ヤマノイモ、コンニャクイモ、その他	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	3	マメ類、大豆、アズキ、インゲンマメ、エンドウ、ソラマメ、その他	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	4	種実類、種類、性状、化学成分	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	5	野菜類、野菜類の種類、性状と化学成分	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	6	果実類、果実の種類、性状、化学成分	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	7	きのこ、きのこの種類、性状と化学成分	小テスト。事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	8	海藻類、海藻の種類、性状、化学成分	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	9	食肉類、種類、食肉の性状、筋肉組織、屠殺後の変化、食肉類の化学成分、食肉類の加工品	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	10	乳類、牛乳の性状・成分、牛乳の利用、その他の乳類	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	11	卵類、卵の生物的特性と一般成分の特徴、卵の利用と加工	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
12	魚介類、魚肉の組織、成分、特殊成分、魚介類の鮮度、死後変化及び貯蔵中の変化、各種魚介類、魚介類の加工品	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。	

	13	食用油脂、食用油脂の種類と用途、製法、保存、	小テスト。事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	14	甘味料、うま味料、酸味料、食塩、香辛料について	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
	15	嗜好飲料、茶、コーヒー、清涼飲料、アルコール飲料	事前学習：教科書による予習。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。		
準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の予習・復習が必要。		
教科書	菅原龍幸監修田所忠広・安井明美編著・Nブックス 新版食品学Ⅱ 建帛社 (2016)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：医歯薬出版編日本食品標準成分表2019（七訂）医歯薬出版（株）2019		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については1回目に説明する。毎回簡単な小テスト（課題）を実施して理解度を確認、結果をフィードバックする。質問がある場合は、オフィスアワーを利用する。		
評価の配点比率	目標①期末試験 10% 小テスト 20% 目標②期末試験 10% 小テスト 20% 目標③期末試験 20% 目標④期末試験 10% 目標⑤授業に取り組む態度 10%		
受講上の注意			
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員が、個々の食品の特性や生産の実態、地域に固有な特産物の栄養機能、味覚機能、健康維持機能について、これまでの研究成果をふまえて講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
小林 恭一			
生活科学学科食物栄養専攻 専 門科目	栄養士免許必修	実験	ナンバリング：16D501
添付ファイル			

授業の概要	本実験授業の目的は、食品や栄養を理解するための化学実験の基礎を学ぶことにある。 ①物質の性質を表す単位や薬品に関する基礎知識の理解と実験器具・機器類の操作法、試薬の調整法などを習得する。 ②食品に含まれている特定の物質を検出する定性分析、定量分析を行う。 ③実験は小グループ（2～4人を1班とする共同作業）で行い、課題あるいは実験内容をまとめたレポートを提出する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①実験を正しく安全に行う心得や基本技術を身につけ、必要な計算ができる	DP3	30
	目標②呈色反応を理解し、栄養素の定性分析ができる	DP4	30
	目標③滴定法・比色分析法を学び、食品成分の定量分析ができる	DP6	20
	目標④グループで協力し実験を行い、結果をまとめレポートが提出できる	DP9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 DP4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP9：「仁愛兼濟」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：実験の心得、実験の基礎知識（物質濃度と単位・データの整理法）	有効数字、レポートの書き方等についても説明する。 事前：教科書による予習。事後：ノートの整理 実験の進捗状況により内容を変更する場合があります。
	2	実験の基本操作（器具、試薬の取り扱いなど） （物質濃度と単位・データの整理法）	計量器具を使って正確に精秤・定容する実験操作法を学ぶ。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノートの整理
	3	中和滴定による食酢中の酢酸濃度測定	水酸化ナトリウム溶液による食酢の中和滴定。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：観察結果をレポートにまとめ提出。
	4	酢酸以外の有機酸を含む食品のpH測定と中和滴定	果汁飲料のpH測定と酸度測定 事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノートの整理、レポート提出。
	5	食塩の定量（原理の説明、試薬の調製）	事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノートの整理。
	6	食塩の定量（モル法による醤油中の塩素の定量）	事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ、提出。
	7	一般成分の定量（常圧乾燥法による水分の定量、直接灰化法による灰分の定量）	恒量を求めるための電子天秤による秤量を行う。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノート記録まとめ。
	8	一般成分の定量（乾燥後、灰化後の重量測定、水分、灰分の計算）	恒量を求めるための電子天秤による秤量を行う。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ、提出。
	9	一般成分：脂質の定量の原理と実際（ソックスレー脂肪抽出装置の実演）	事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ、提出。
10	たんぱく質の定性分析（実験概要説明・試薬の調製）	鶏卵・ゼラチンのたんぱく質溶液を調製する。 次週の実験に使用する試薬を調製。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノート記	

		録まとめ
11	たんぱく質の定性分析（定性分析の実際）	凝固・凝集・塩析・ビウレット反応・ニンヒドリン反応について実験を行う。たんぱく質の定性分析についてまとめを行う。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ、提出。
12	ミネラルの測定（リンの定量、試薬、試料の調製）	溶液に溶けていて見えない物質と化合物を結合させることによって発色させて、その量を比色することによって知る方法を学ぶ。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：ノート整理
13	ミネラルの測定（モリブデン青比色法によるリンの比色分析）	灰化試料を用い、塩酸で抽出、モリブデン青比色法により、食品中のリンを定量する。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ提出。
14	ビタミンCの定量（インドフェノール容量法による）	清涼飲料水に含まれるアスコルビン酸（ビタミンC）含量を測定する。 事前：配付資料、教科書による予習。事後：レポートのとりまとめ提出。
15	全体のまとめ、食品分析（一般成分）の実際	食品分析を専門に行う機関での検査や近赤外線を用いた非破壊分析について紹介する。 事前：これまでのレポートの見直し、確認。事後：実験の振り返り、レポート、ノート整理。
定期試験	試験に代わって、適時レポートを提出。	
準備学習に必要な時間	事前学習0.5 時間（実験の内容について操作内容や原理をテキストで予習しておく） 事後学習3 時間（結果の整理とレポート作成）	
教科書	滝田聖親他共著 新基礎食品学実験書 三共出版（2007）	
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じて資料を配布。ノート、レポート用紙、グラフ用紙を準備する。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは毎回、結果を集計して次の講義に結果を配付して、講評を行う。個々のレポートにもコメントを記して返却する。	
評価の配点比率	学習目標① レポート30% 学習目標② レポート30% 学習目標③ レポート20% 学習目標④ 実験に臨む姿勢20%（実験に臨む姿勢とは、事前の準備・適正な身支度ができている、グループ内での協力作業ができる、授業中の質問に答える、携帯等無関係な操作をしない、危険行為の回避などの行動をさす。）	
受講上の注意	安全のため実験中は白衣を着用し、かかとの無い靴（ズック）などの動きやすい履き物を使用する。 また、実験に適した髪型で参加すること（長髪者は髪をヘアゴムなどで束ねること）。 実験は、ガス、火、薬品を使用し、引火・爆発などの危険を伴うため注意事項を理解し遵守すること。	
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員の指導の下、食品の化学分析に必要な実践的な能力を身につけるための実験・実習を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input checked="" type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
小林 恭一			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許選択・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目標は、食の専門家として正しい判断ができる知識、基礎研究および食品開発ができる能力を身につけることである。現代の食生活において、加工食品は欠かせないものとなっている。食品加工の目的は、原料農林水産物の保存・品質保持、栄養性・嗜好性の向上、利便性・輸送性・経済性の向上などだが、これら食品加工の意義・目的に触れながら、食品保存及び食品加工の原理を学ぶ。また、個々の加工食品ごとの加工操作の特徴・方法及び技術、食品の規格や表示についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①食品の保存法、製造工程などについて理解している。	DP 1	40
	目標②現代社会における加工食品の役割について理解している。	DP 2	20
	目標③複雑多様化している加工食品を正しく選択できる。	DP 3	20
	目標④食品の技術開発に必要な能力を身につけている。	DP 5	10
	目標⑤新しい加工技術や加工食品について関心を持ち、積極的に調べることができる。	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食品加工の目的、意義	ガイダンスを含む。事後学習：配付資料の整理、ノートまとめ
	2	食品の加工時における変化	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	3	食品保存の原理（1）、食品の劣化要因（生物的要因、化学的要因、物理的要因）	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	4	食品保存の原理（2）、殺菌・食品添加物による保存	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	5	食品の保存原理（3）、温度操作・水分制御・pHの調節による保存	レポート提示（次回に提出）。事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足、レポート作成。
	6	穀類の加工	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	7	豆類・いも類の加工	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	8	野菜類・果実類の加工	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	9	畜肉類・乳類・卵の加工	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	10	水産物の加工、魚介類の成分特性、魚介類の加工	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	11	発酵食品（酒、味噌、醤油等）	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
	12	食用油脂、調味料	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
13	香辛料・嗜好飲料（茶、コーヒー、ココア等）	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートの	

	10		まとめ、参考図書による補足。
	14	食品包装、役割・材料・方法、表示	レポート提示（次回に提出）。事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足、レポート作成。
	15	新しい食品加工技術	事前学習：配付資料による予習。事後学習：ノートのまとめ、参考図書による補足。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の事後学習が必要。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じて資料を配布する。 参考図書 1) 宮尾茂雄・北尾悟編著・「四訂 食品加工学」・建帛社（2019） 2) 吉田勉編著・「新食品加工学」・医師薬出版（1999） 3) 小倉長雄ほか・「食品加工学」・建帛社（1998）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出したレポートはコメントを添えて返却する。質問がある場合は、オフィスアワーを利用する。		
評価の配点比率	目標①期末試験40% 目標②期末試験20% 目標③期末試験20% 目標④レポート10% 目標⑤レポート10%		
受講上の注意	授業の取り組み方については1回目に説明する。日頃からスーパー、コンビニ等で売られている加工食品のパッケージや表示に関心を持ってください。		
教員の実務経験	公設試験研究機関において食品開発、食品分析、技術指導に携わった経験を持つ教員が、食品加工の目的・対象・方法に関する基本的な知識、及び加工技術について、製品の具体例を挙げながら、実情に即した講義を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
高木 康之			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養士免許・フードスペシャリスト資格取得に必要な専門的知識を身につけることにある。そのために、ヒトが食べる食物はどのような成分からできており、どのような働きをもっているか、からだの中に入るとどこでどのような作用を発揮するか、栄養素の何が不足するとどのような症状を起こしてくるのかなど、これらの基礎知識を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養素の種類とその特徴を理解できる	DP 1	20
	目標②栄養素の消化・吸収と体内動態が理解できる	DP 2	20
	目標③身体を構成する栄養素は食物に含まれていることを理解し食物摂取の意義を説明できる	DP 3	20
	目標④ノートや資料を整理し活用できる	DP 5	10
	目標⑤疾病予防と健康の保持増進に役立つ食生活を組み立てることができる	DP 6	20
	目標⑥自分の考えを示すことができる	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	栄養の概念	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	2	栄養学史	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	3	食物の摂取	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	4	消化器の構造と機能	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	5	管腔内消化の調節、膜消化	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	6	栄養素別の消化・吸収（たんぱく質、糖質、脂質）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	7	栄養素別の消化・吸収（ビタミン）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	8	栄養素別の消化・吸収（ミネラル）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	9	たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、アミノ酸の臓器間輸送	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと

		課題（小テスト）の実施
10	摂取するたんぱく質の量と質の評価	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
11	糖質代謝の臓器差、血糖とその調節	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
12	食物繊維・難消化性糖質	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
13	脂質の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
14	ビタミン、ミネラル	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
15	エ水・電解質、エネルギー代謝	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
定期試験	最終課題（15回の講義終了後）を筆記試験の替りとする。	
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の予習・復習が必要。 毎回、教科書の該当する箇所を読み概容を確認する。	
教科書	鈴木和春、真鍋祐之、梶田泰孝 基礎栄養学 第一出版 2019	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：授業の過程で随時提示	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、Moodle等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 課題に質問等がある場合は、オフィスアワーや電子メール、Moodleを利用する。	
評価の配点比率	学習目標①期末試験10% 小テスト10% 学習目標②期末試験10% 小テスト10% 学習目標③期末試験10% 小テスト10% 学習目標④期末試験10% 学習目標⑤期末試験20% 学習目標⑥期末試験10%	
受講上の注意	毎時間ノート等で授業内容をまとめ整理すること。 毎時間ごとに課題を課す。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
高木 康之			
生活科学学科食物栄養専攻 専 門科目	栄養士免許必修・フードスペ シャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16E501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養士免許、フードスペシャリスト資格取得に必須の専門知識を身につけることである。そのため、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の基礎知識を学ぶ。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う生理的变化や身体的特徴を把握し、各ライフステージに必要な栄養管理のあり方について基本的考え方を理解する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）と、栄養状態に応じた栄養管理（栄養マネジメント）ができる。	DP 1	10
	目標②妊娠・成長・加齢に伴う生理的变化や特徴が理解できる。	DP 2	20
	目標③栄養必要量を判定する為の科学的根拠を説明できる。	DP 3	20
	目標④健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の特徴や機能が理解できる。	DP 5	20
	目標⑤環境、ストレスと栄養について理解し適正な食品の選択ができる。	DP 6	20
	目標⑥自分の考えをまとめ示すことができる。	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	栄養状態の実態と把握	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	2	食事摂取基準の基礎的理解（基礎理論）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	3	食事摂取基準の基礎的理解（エネルギー・ライフステージ別食事摂取基準）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	4	人の成長・発達・加齢変化	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	5	妊娠期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	6	授乳期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	7	乳児期の栄養（生理的特徴）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	8	乳児期の栄養（栄養補給法）	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
	9	幼児期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと

		課題（小テスト）の実施
10	学童期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
11	思春期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
12	成人期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
13	高齢期の栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
14	運動と栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
15	環境と栄養	教科書の該当する内容を読み、概容を確認しておくこと 課題（小テスト）の実施
定期試験	最終課題（15回の講義終了後）を筆記試験の替りとする。	
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の予習・復習が必要。 毎回、教科書の該当する箇所を読み、概容を確認する。	
教科書	多賀昌樹、山田哲雄、勝間田真一、佐藤七枝 応用栄養学 第一出版 2020年	
参考図書、教材、準備物等	「応用栄養学」ライフステージからみた人間栄養学 森基子他著（医歯薬出版）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、Moodle等を用いて授業時間内で学生へフィードバックする。 課題に質問がある場合は、オフィスアワーや電子メール、Moodleを利用する。	
評価の配点比率	目標①期末試験10% 目標②期末試験10% 小テスト10% 目標③期末試験10% 小テスト10% 目標④期末試験20% 目標⑤期末試験10% 小テスト10% 目標⑥期末試験10%	
受講上の注意	毎時間ノート等で授業内容をまとめ整理すること。 毎時間ごとに課題を課す。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
木内 貴子			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修	実習	ナンバリング：16E503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は乳児期、幼児期、学童期、成人期など各ライフステージにおいて、健康の維持・増進に寄与する食の在り方について理解し、その時期に適した献立の作成や調理の技術を身に付けることである。そのために、各ライフステージにおける栄養的特徴をふまえた上で、身体的、生理的状況を的確に評価・判定することを基本とし、食事摂取基準や食事計画上の注意点について理解を深める。授業では栄養状態の評価判定に基づいた献立作成の方法、対象者の特性を理解し料理という具体的な形での栄養管理の方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①各ライフステージの特性に合った食の在り方を理解し、適切な栄養アセスメント（栄養状態の評価・判定）ができる。	DP 1	30
	目標② 日本人の食事摂取基準を理解し、これを各ライフステージごとの特性に応じた献立作成に利用できる。	DP 3	10
	目標③ 対象者の衛生上、調理上の特性を理解し、具体的に献立、料理として表現できる。	DP 4	20
	目標④ 対象者に応じた栄養アセスメントの結果から食生活の方針など、適切な栄養計画を立て、栄養マネジメント（栄養管理）する能力を身に付ける。	DP 6	30
	目標⑤ グループ活動では和を尊重し協力しながら学びを高めることができる。	DP 9	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。 DP 4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：「仁愛兼濟」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 栄養学実習の概要 食品構成と献立作成	授業の取り組み方の説明 「日本人の食事摂取基準（2020年版）」の活用方法 献立作成の概要 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：「日本食品成分表」の基礎知識を整理する
	2	妊娠・授乳期の栄養①	妊娠・授乳期の栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：妊娠授乳期の付加量について整理する
	3	妊娠・授乳期の栄養②	妊娠・授乳期の調理実習 事前学習：妊娠・授乳期の栄養について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	4	乳児期の栄養①	乳児期の栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 厚生労働省「授乳・離乳の支援ガイド」にて離乳食の進め方の目安を確認する。 事後学習：離乳食の進め方について整理する
	5	乳児期の栄養②	乳児期の調理実習 調乳 事前学習：乳児期の栄養の特性について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
	6	幼児期の栄養①	幼児期の栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：幼児期における間食の意義について整理する

7	幼児期の栄養②	幼児期の調理実習 事前学習：幼児期の栄養の特性について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
8	学童期・思春期の栄養①	学童期・思春期の栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：郷土食を伝える学校給食を考える
9	学童期・思春期の栄養②	学童期・思春期の調理実習 事前学習：学童期・思春期の栄養の特性について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
10	成人期の栄養①	成人期の栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：成人期（青年期、壮年期、実年期）各ステージの栄養の特性を整理する
11	成人期の栄養②	成人期の調理実習 事前学習：成人期の栄養の特性について確認する 事後学習：実習の記録と栄養計算
12	高齢期の栄養①	高齢期栄養の特性、栄養計画から食事計画への展開、献立作成 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：高齢期の生理的機能の特徴について整理する
13	高齢期の栄養②	高齢期の調理実習 事前学習：高齢期の栄養の特性について確認する、とろみ剤の特徴について調べる 事後学習：実習の記録と栄養計算
14	特殊環境と栄養 運動と栄養	特殊環境・運動の基本事項と栄養 グループワーク：課題検討 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：発表資料の作成
15	特殊環境と栄養 運動と栄養	グループワーク：目的別栄養ケアの実施 事前学習：テーマに即した情報の収集、発表媒体の作成 事後学習：発表の振り返り
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施します。	
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習を要します。献立を授業内に完成させるために事前学習では献立作成に必要な資料を準備しておきましょう。事後学習で授業内容をノートにまとめるようにしましょう。	
教科書	堀江祥允 片山直美 堀江和代 編著「ライフステージ・ライフスタイル 栄養学実習書」（光生館 2020）	
参考図書、教材、準備物等	「日本人の食事摂取基準2020年版」（第一出版(株) 2020）、「日本食品成分表8訂」（医歯薬出版(株) 2021）、山本由喜子 編「応用栄養学実習 ワークブック」（株みらい 2020）、その他、適宜案内します。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで詳しく説明します。計算機を準備してください。課題の提出は期日厳守とします。課題は確認後に返却します。課題・レポートの内容が十分でない場合は再提出となることがあります。作成した献立やレポートは体系的に整理しておきましょう。	
評価の配点比率	期末定期試験40%、課題（献立作成、調理実習報告書）50%、実習の取り組み10% 目標① 期末定期試験20%、課題10% 目標② 期末定期試験5%、課題5% 目標③ 課題20% 目標④ 期末定期試験15%、課題15%、 目標⑤ 実習の取り組み10%	
受講上の注意	この授業を通して、対象者個々の栄養状態を的確に評価・判定し、さまざまな状態を想定しながら適切な食事につなげられるよう、実践力を身に付けましょう。また、自身の食生活を振り返る機会としましょう。調理実習では白衣、帽子、上履きを適切に着用し、衛生管理に努めましょう。	
教員の実務経験	病院の管理栄養士業務に携わった経験のある教員が、各ライフステージにおける栄養的特徴について解説し、実践的な栄養管理能力を身に付けるための実習を行います。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
牧野 みゆき			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16F102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、国や地域社会を含む集団レベルでの疾病予防と健康の保持増進に必要な理論と方法について、栄養学の立場から実践的な学問として捉えることである。栄養士を目指す者として、時代の潮流を読み取り、新たな健康課題に対応する力を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①公衆栄養学の基礎知識を理解する。	DP1	40
	目標②公衆栄養活動実施に関連する指針・ツールを利用できる。	DP3	40
	目標③日頃から健康・栄養問題に関心を持つようになる。	DP6	10
	目標④自分の考えを的確に表現することができる。	DP8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	公衆栄養学の概念 1)公衆栄養学の意義と目的 2)公衆栄養活動の歴史	事前にテキストp1～6を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	2	公衆栄養マネジメント 1)公衆栄養活動の進め方 2)公衆栄養のマネジメントサイクル	事前にテキストp7～23を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	3	公衆栄養マネジメント 3)公衆栄養プログラム	事前にテキストp24～39を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	4	栄養疫学 1)栄養疫学に必要な指標 2)食習慣と健康・生活習慣病に関する栄養疫学研究の例	事前にテキストp40～46を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	5	栄養疫学 3)栄養疫学調査 4)食事調査	事前にテキストp46～63を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	6	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 1)国民の健康状態と公衆栄養施策の変遷	事前にテキストp64～72を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	7	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 2)食生活の変化(国民健康・栄養調査結果から)	事前にテキストp73～84を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	8	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 3)高齢社会の健康・栄養問題	事前にテキストp84～95を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	9	わが国の健康・栄養問題の現状と課題 4)食料需給と自給率	事前にテキストp95～103を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	10	わが国の健康・栄養施策 1)公衆栄養の施策と法規	事前にテキストp104～114を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	11	わが国の健康・栄養施策 2)健康日本21(第2次)	事前にテキストp114～118を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	12	わが国の健康・栄養施策 3)特定健診・特定保健指導	事前にテキストp118～126を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	13	わが国の健康・栄養施策 4)実施に関する指針、ガイドライン、ツール	事前にテキストp126～133を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	14	諸外国の健康・栄養政策 1)諸外国の健康・栄養問題	事前にテキストp134～141を読んでおく 授業後、小テストを実施する
	15	諸外国の健康・栄養政策 2)国際機関の健康・栄養施策	事前にテキストp142～145をを読んでおく 授業後、小テストを実施する

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	前もってテキストを読んでまとめておくなど2時間程度を要する。
教科書	友竹浩之他「公衆栄養学概論」（講談社）2020年
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「日本人の食事摂取基準2020年版」
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テストは次回返却し、解説する。
評価の配点比率	目標①期末定期試験30%、小テスト10% 目標②期末定期試験30%、小テスト10% 目標③情報収集ファイル10% 目標④期末定期試験10%
受講上の注意	日ごろから新聞や雑誌等で健康・栄養に関する情報を得るように心がけ、指定のファイルに綴じて毎月提出する。これも評価の対象となる。
教員の実務経験	行政管理栄養士として、地域の公衆衛生、健康教育、食生活改善等の職務に携わった経験をもつ。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
森 恵見			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16G101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、特に食べ物の嗜好性に多大な影響を及ぼすと思われる「調理操作中に起こる様々な現象」を科学的にとらえて理解することである。具体的に学べるよう、調理学実習Ⅰと平行しながら学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①おいしさとは何かを習得し、食品を調理することによって生じる化学的変化、物理的変化、嗜好性の変化の理論を理解できる。	DP1	40
	目標②調理中に起こる様々な現象を、科学の目でとらえて的確に処理することができる。	DP3	30
	目標③常に新しい情報を得て、栄養士として調理の大切さを体感できる。	DP5	20
	目標④食品を扱うものとして、自分の行動に責任をもつことができる。	DP8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 調理学とは？	食べ物のおいしさの要因について、栄養計算の方法（成分表と電卓持参） 小テスト
	2	味の評価と調味料	しょうゆ、味噌、塩、砂糖の調理、栄養計算の方法と給油率の計算方法（成分表と電卓持参） 小テスト
	3	調理操作1	非加熱操作について 小テスト
	4	調理操作2	加熱操作について 小テスト
	5	米と米粉の調理性	米と米粉を調理することによる変化について 小テスト
	6	小麦粉の調理性	小麦粉を調理することによる変化について 小テスト
	7	いも類の調理性	いも類を調理することによる変化について 小テスト
	8	豆類の調理性	豆類を調理することによる変化について 小テスト
	9	野菜・果物の調理性	野菜や果物を調理することによる変化について（色、臭い） 小テスト
	10	獣鳥肉類の調理性	肉類を調理することによる変化について（色、臭い） 小テスト
	11	魚介類の調理性	魚介類を調理することによる変化について（色、臭い） 小テスト
	12	卵の調理性	卵を調理することによる変化について（色、臭い） 小テスト
	13	乳製品、油脂の調理性	牛乳や油類を調理することによる変化について（色、臭い） 小テスト

	14	砂糖、寒天、ゼラチンの調理性	寒天やゼラチンを調理することによる変化・違いについて (色、臭い) 小テスト
	15	調理設備、器具、熱源	オープン・電子レンジ・IHについて 小テスト
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	小テストを用いて、最低1時間の復習が必要。		
教科書	「調理学」森高初恵、建帛社、2020 「調理のためのベーシックデータ 第5版」香川明夫、女子栄養大学出版部、2020		
参考図書、教材、準備物等	「調理学」化学同人 青木三恵子 第一回目、第二回目の授業で、栄養計算の説明を行うので、電卓と成分表を持参のこと。		
課題 (試験・レポート等) のフィードバック	授業終了時に小テストを行い、返却する。その小テストをしっかりと復習しておくこと。		
評価の配点比率	目標①定期テスト30%、小テスト10% 目標②定期テスト20%、小テスト10% 目標③定期テスト20% 目標④定期テスト10%		
受講上の注意	日頃から、食べ物に興味を持つことで、楽しく勉強しましょう。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位	必修
担当教員			
森 恵見			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	実習	ナンバリング：16G104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、和・洋・中の基礎的な調理の基本を身につけることである。実習は理論に基づいていることを理解する。前回の実習のポイントを小テストで確認する。1グループ4～5人編成で実習するので各人が実習できないものもあるため、他の人と協力し、コミュニケーション能力を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①基本的な切り方や味付けができる。	DP 1	20
	目標②衛生的に調理することができる。	DP 4	25
	目標③一人分の栄養価、塩分濃度の計算ができる。	DP 4	25
	目標④他者と共に協力し合いながら実習できる。	DP 7	20
	目標⑤自分の考えや作品を客観的に評価できる。	DP 9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 7：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：「仁愛兼濟」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	講義と演習（計量、器具、調味について）	計量、器具、調味について
	2	講義と演習（包丁の使い方、栄養価計算）	食品成分表、電卓を持参すること。
	3	日本料理の基礎 1	炊飯、だし汁 小テスト
	4	日本料理の基礎 2	味付け飯、煮魚 小テスト
	5	日本料理の基礎 3	赤飯、酢の物 実習ノート提出 小テスト
	6	日本料理の基礎 4	すし、和え物 小テスト
	7	西洋料理の基礎 1	スープ、ゼラチンの調理 小テスト
	8	西洋料理の基礎 2	ルウ、魚の調理 小テスト
	9	西洋料理の基礎 3	カレー、プリン 実習ノート提出 小テスト
	10	調理科学実験 1	米・だし汁に関する実験 小テスト
	11	中国料理の基礎 1	炒飯、拌菜 小テスト
	12	中国料理の基礎 2	涼拌麺、炸菜 小テスト
	13	中国料理の基礎 3	溜菜、甘点心 小テスト
	14	西洋料理の基礎 4	パスタ、ソース 実習ノート提出 小テスト
	15	実技チェック	包丁法、卵焼きの実技チェック 振り返りレポート 小テスト
16	日本料理 1	井もの、まんじゅう	

17	西洋料理 1	サンドイッチ、飲み物 小テスト
18	中国料理 1	餃子、点心 小テスト
19	日本料理 2	茶碗蒸し 小テスト
20	西洋料理 2	ひき肉に調理、特殊スープ 実習ノート提出 小テスト
21	中国料理 2	春巻き、炒菜 小テスト
22	調理科学実験 2	野菜・いもに関する実験 小テスト
23	西洋菓子の基本	小テスト
24	日本料理 3	福井県の伝承料理
25	中国料理 3	炒麺、炸菜 実習ノート提出 小テスト
26	西洋料理 3	クリスマス行事食 小テスト
27	西洋料理 4	グラタン、卵の起泡性 小テスト
28	日本料理 4	炊き込み飯、天ぷら 小テスト
29	庖丁研ぎ講習会、年代別弁当（お弁当コンテスト）	テーマごとのお弁当を作り持参。 小テスト
30	主材料を指定した自主献立（実技試験）	実習ノート提出 振り返りレポート提出
定期試験	試験に代わって、実技テストを行い、それに加えレポート・実習ノートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎日、自宅で10分以上の調理時間が必要です。時間がない場合は、2分ほど千切りの練習をするだけでもいいので、毎日包丁に触れること。特に最終日の実技テストでは、自宅での調理時間が結果に現れます。	
教科書	日本食品成分表2021 八訂 医歯薬出版株式会社 2021	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：「わかりやすい調理」みらい1998 食育に役立つ調理実習 「調理のためのベーシックデータ」女子栄養大学出版部 香川芳子	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	一人分の栄養価計算をした「実習ノート」を作成し必ず提出すること。栄養計算の解答は、掲示する。返却されたら次回提出までに直し理解しておくこと。	
評価の配点比率	目標①実技試験20% 目標②実技試験10% お弁当コンテスト評価5% 実習ノート10% 目標③実習ノート10% 小テスト15% 目標④実習ノート10% 小テスト10% 目標⑤振り返りレポート10%	
受講上の注意	おいしいものを作るにはまずは基本の調理技術の習得が必要です。一緒に一から練習していきましょう。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
野村 卓正			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修・フードスペシャリスト資格必修	講義	ナンバリング：16D102
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の【最終的な目的】は、「将来、栄養士として提供する食事サービスの安全を確保し、食品消費者（サービス利用者）の健康を守ること」です。したがって、その【最終目標】は、「卒業後、就職してから退職するまでの全キャリアにおいて一度も食中毒事故を起こさないこと」になります。</p> <p>そのための【手段】として、「食品消費者の健康を害する食中毒事故を予防し、食品の安全性を確保するために必要な食品衛生管理の実践に関わる基礎知識を習得する」ことを、本授業の【目的】および【到達目標】とします。</p> <p>食品衛生管理における栄養士の【社会的責務（職責）】を理解・自覚し、食品を安全に取り扱うための知識や技術の必要性を理解した上で、主体的・継続的な学修への意識変容を期待しています。</p> <p>講義と並行して、過去の重大な食中毒事例の事例分析を行い、再発防止のための予防策をまとめた事例検証報告レポートをグループで作成・発表します【課題解決型学習】。</p> <p>アクティブラーニング要素： 課題解決型授業（PBL）、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション（相互評価）</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 人の命と健康を守る栄養士の職責を自覚して、その目的のために真摯に学修を継続するセルフマネジメントができる。	DP 8	10
	目標② 食品の生産・流通体制を前提知識として、食中毒の分類と近年の発生状況について説明できる。	DP 6	20
	目標③ 食品中の汚染物質や食中毒の原因物質について理解し、食中毒予防の原則を説明できる。	DP 2	35
	目標④ 食品の変質による安全性低下とその衛生管理法の原理や手段、関連法規について説明できる。	DP 1	25
	目標⑤ チームとして課題解決・成果発表し、メンバー全員が成長できるチームマネジメントができる。	DP 9	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。 DP 9：「仁愛兼濟」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かすことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食品衛生概念成立の歴史的経緯と現在の諸問題	【事前学習】（1時間） 講義概要（シラバス）を熟読し、要点を整理する。 【事後学習】（2時間） 食品衛生を学ぶ意義と目的についてまとめる。
	2	○食中毒①（食中毒総論・食中毒統計・疫学） ○グループ課題①：テーマとまとめ方の説明	【事前学習】（1時間） 第4章第1～2節（p64～p70）を読んで、学修項目をノートに写す。 【事後学習】（1時間） 学修内容（→小試験①）をノートにまとめる。

3	<p>○【理解度確認小試験①】試験（→教員採点）</p> <p>○グループ課題②：【グループワーク】 【事例レポート①】のテーマ確認</p> <hr/> <p>○食品中の汚染物質①： 化学物質・有害元素・放射性物質</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第5章第2～4節（p113～p124）を読んで、 学修項目をノートに写す。 【課題レポート】（1時間） 食中毒事例を各自で調査して、 分析する【事例①】候補を探しておく。</p> <hr/> <p>【事後学習】（1時間） 学修内容をノートにまとめる（→小試験②）。 【グループ学習】（2時間） 各自で選択した事例①に関する資料をする。</p>
4	<p>○【理解度確認小試験②】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験①】解答・解説</p> <hr/> <p>○食品中の汚染物質②： カビ毒</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第5章第1節（p108～p112）を読んで、 学修項目をノートに写す。</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験③）をノートにまとめる。 【小試験①】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（3時間） グループで事例分析をして、 【事例レポート①】をまとめる。</p>
5	<p>○【理解度確認小試験③】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験②】解答・解説</p> <hr/> <p>○グループ課題③： 【事例レポート①】提出→教員採点</p> <hr/> <p>○食品の変質②： 食品成分の化学変化により生じる有害物質</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第2章第1節（p34～p56）を読んで、 学修項目をノートに写す</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験④）をノートにまとめる。 【小試験②】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（2時間） グループで事例分析をして、 【事例レポート②】をまとめる。</p>
6	<p>○【理解度確認小試験④】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験③】解答・解説</p> <hr/> <p>○グループ課題④：【グループワーク】 【事例レポート①】の講評 【事例レポート②】のテーマ確認</p> <hr/> <p>○食中毒②： 天然自然毒</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第4章第12～13節（p98～p102）を読んで、 学修項目をノートに写す。 【グループ学習】（1時間） 食中毒事例を各自で調査して、 分析する【事例②】候補を探しておく。</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験⑤）をノートにまとめる。 【小試験③】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（2時間） 各自で選択した事例②に関する資料をする。</p>
7	<p>○【理解度確認小試験⑤】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験④】解答・解説</p> <hr/> <p>○食中毒③： 細菌性食中毒（毒素型）</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第4章第4節（p79～p81）を読んで、 学修項目をノートに写す。</p> <hr/> <p>【事後学習】（1時間） 【小試験④】で不正解だった問題を復習する。</p>
8	<p>○【理解度確認小試験⑥】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験⑤】解答・解説</p> <hr/> <p>○グループ課題⑤： 【事例レポート②】提出（→教員採点）</p> <hr/> <p>○食中毒④： 細菌性食中毒（感染型）</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第4章第4節（p79～p81）を読んで、 学修項目をノートに写す。</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験⑦）をノートにまとめる。 【小試験⑤】で不正解だった問題を復習する。</p>
9	<p>○【理解度確認小試験⑦】試験（→教員採点）</p> <p>○【理解度確認小試験⑥】解答・解説</p> <hr/> <p>○グループ課題⑦：【グループワーク】 【事例レポート②】の相互評価</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第4章第3節（p71～p76）を読んで、 学修項目をノートに写す。</p> <hr/> <p>【事後学習】（1時間） 【小試験⑥】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（2時間） 相互評価の指摘を反映させて修正し、 【事例レポート②】を完成させる。</p>
10	<p>○【理解度確認小試験⑦】解答・解説</p> <p>○グループ課題⑧： 【事例レポート②】再提出（→教員採点）</p> <hr/> <p>○食中毒⑤： 細菌性食中毒（感染症型） ウイルス性食中毒</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第4章第3節（p76～p79）、第5節（p81～p83）を 読んで、学修項目をノートに写す。</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験⑧）をノートにまとめる。 【小試験⑦】で不正解だった問題を復習する。</p>
11	<p>○【理解度確認小試験⑧】試験（→教員採点）</p> <hr/> <p>○グループ課題⑦：【グループワーク】 【事例レポート③】のテーマ確認</p> <hr/> <p>○食中毒⑥： 寄生虫性食中毒</p>	<p>【事前学習】（1時間） 第3章第5節（p81～p83）を読んで、 学修項目をノートに写す。 【グループ学習】（1時間） 食中毒事例を各自で調査して、 分析する【事例③】候補を探しておく。</p> <hr/> <p>【事後学習】（2時間）</p>

		学修内容（→小試験⑨）をノートにまとめる。 【グループ学習】（2時間） 各自で選択した事例③に関する資料をする。
12	○【理解度確認小試験⑨】試験（→教員採点） ○【理解度確認小試験⑧】解答・解説 ○食品の変質①： 食品成分の化学変化	【事前学習】（1時間） 第2章第1～5節（p38～p44）を読んで、 学修項目をノートに写す。（1時間） 【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験⑨）をノートにまとめる。 【小試験⑧】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（2時間） グループで事例分析をして、【事例レポート③】を まとめる。
13	○【理解度確認小試験⑩】試験（→教員採点） ○【理解度確認小試験⑨】解答・解説 ○食品の変質②： 食品の変質防止法	【事前学習】（1時間） 第2章第7節（p47～p51）を読んで、 学修項目をノートに写す。 【事後学習】（2時間） 学修内容（→小試験⑩）をノートにまとめる。 【小試験⑨】で不正解だった問題を復習する。 【グループ学習】（2時間） グループで事例分析をして、【事例レポート③】を まとめる。
14	○【理解度確認小試験⑩】解答・解説 グループ課題⑨：【グループワーク】 【事例レポート③】発表用のパワーポイント 原稿作成	【事前学習】（なし） 【事後学習】（1時間） 【小試験⑩】で不正解だった問題を復習する
15	○【理解度確認小試験⑩】解答・解説 グループ課題⑩：【発表】【グループワーク】 【事例レポート③】最終発表・相互評価	【事前学習】（なし） 【グループ学習】（2時間） グループ発表のプレゼンテーション練習をする。 【事後学習】（3時間） 定期試験に備えて、これまでの学修内容を 復習する。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する（配点比率20%、持込み不可、原則として再試験は実施しない）。	
準備学習に必要な時間	毎回のノート作成を重視するため毎週3時間程度の自主学習（予習・復習）と、 課題レポート作成のために1.5時間程度のグループ学習が必要となります。 （2単位・合計60時間、課題の詳細は「授業の計画」に記載） カテゴリ終了毎に、復習・理解度確認のための小試験を実施します。 （配点比率50%、自筆ノートのみ持込可能）	
教科書	栄養科学イラストレイテッド『食品衛生学 改訂第2版』（羊土社・2019年改訂）	
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。 授業内で実施する理解度確認のための小試験は、「自筆ノートのみ持込可」です。 毎週、継続的に、授業の内容をノートにまとめるよう心掛けてください。 毎回の小試験は、教員が採点后、翌週、返却時に解説を行います。 期末の定期試験（持込不可）では、小試験で正答率が低かった問題を中心に改変して再出題しますので、必ず復習してください。 グループ課題レポートでは、過去の重大な食中毒事例の分析を通して、問題点（課題）を抽出し、その解決法（再発防止対策）を提案する事例分析レポートを成果物として作成します。 同様な課題レポートの提出・添削指導、ルーブリック評価表に基づく教員評価および相互評価等を3回繰り返すことで、問題分析力+問題改善・解決力がブラッシュアップされることを期待します。 最期の事例分析レポートは、学生（グループ）間の相互評価も成績に反映させます。 また、新聞・ニュース等で報じられる食品衛生に関する事件について日頃から関心を持ち、それらの事件がどのような原因で発生し、どのような脅威を公衆衛生に及ぼしたのか洞察し、再発防止の枠組みの妥当性を評価するために必要な食品衛生学上の知識を修得できているか常に自己点検してください。 授業に関する質問、ノート術について不安がある場合は、オフィスアワー（月曜日15:30～19:00）に研究助手室を訪問してください。	
評価の配点比率	平常点（小試験）：50%、課題レポート（グループ）：30%、期末定期試験：20% で評価する。 【目標①】 平常点 5%、課題レポート 5%、定期試験 0% 【目標②】 平常点 10%、課題レポート 5%、定期試験 5% 【目標③】 平常点 20%、課題レポート 5%、定期試験 10% 【目標④】 平常点 15%、課題レポート 5%、定期試験 5% 【目標⑤】 平常点 0%、課題レポート 10%、定期試験 0%	
受講上の注意	本科目の最終目標は、「卒業後、（専門職として）就職してから退職するまでの全キャリアにおいて一度も食中毒事故を起こさない」ことです。 この目標はつまり、将来、皆さんが食事サービスを提供するすべての食品消費者（サービス利用者様）の生命と健康に責任を負うという意味です。 したがって、食品の安全に関する授業をおろそかにする受講態度は、すなわち、皆さんから食事サービスを提供される将来のサービス利用者様の健康や生命がどうなっても私はかまわない、という意思表示に他なりません。卒業必修だから、栄養士資格に必修だから、単位認定（C評価）さえされればそれでいいというような形式的な理由だけで履修しないよう、なんのための学びなのか、目的とその意義を十分理解した上で履修してください。	
教員の実務経験		

アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習 (PBL) □討議 (ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表 (プレゼンテーション) □実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク ■反転授業 ■双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) □自主学習支援 (LMS 等)
-------------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
野村 卓正			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許選択・フードスペシャリスト資格必修	実験	ナンバリング：16D104
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、食品の保存や調理における衛生管理技術の原理を理解し、厳密に実践できるよう習熟することである。食品を介して人の健康を害する諸要因の特質・作用、危害の特質とその防止方法、食品をとりまく環境因子(水・光・温度等)と健康、環境因子の異常原因、予防、改善技術や方策などを理解する。食の安全確保を実現するために必要な保存法・調理技術および食品衛生検査の原理や効果を理解し、衛生的な食品の取扱い技術を習得する。</p> <p>授業の実験と並行して、将来、調理員へより効果的な食品衛生教育を実施できる教材・資料をグループで作成する【課題解決型学習】。</p> <p>アクティブラーニング要素： 課題解決型授業（PBL）、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション（相互評価）</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 様々な環境(土壌・水中等)あるいは生物(食物)の体表面・腸管内等に微生物群が常在しており、ヒトの健康に影響を与えていることを理解する。	DP 2	20
	目標② 微生物の増殖を制御するための「食中毒予防の3原則」を理解し、説明できる。各種の保存法および加工・調理法の原理と効果を理解する。	DP 1	30
	目標③ 給食施設における調理工程上の危害因子を分析し、「大量調理施設衛生管理マニュアル」の各プロトコルを把握し、その意義と効果を説明できる。	DP 6	10
	目標④ 「食中毒予防の三原則」に基いた食品衛生管理のための資料を作成し、指導できる。	DP 5	10
	目標⑤ チームとして課題クリア・成果発表し、メンバー全員が成長できるチームマネジメントができる。	DP 9	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 9：「仁愛兼済」の理念のもとに、他者から学ぶ姿勢をもち、互いに慈しみ合い、支え合い、共に生かし合うことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食品衛生検査概論（品質と安全性の管理） 【実験1】微生物実験の基本操作と培地の作成	【事前学習】（0.5時間） 講義概要（シラバス）を熟読する。 【事後学習】（なし）
	2	【実験1】環境・体表面からの菌の分離① 【講義】食品と微生物：微生物概論	【事前学習】（なし） 【事後学習】（なし）
	3	【実験1】環境・体表面からの菌の分離② 【実験レポート①】レポート作成方法の説明 【グループ課題①】 大量調理施設衛生管理マニュアルの概説 【課題成果物】の作成と発表について告知	【事前学習】（なし） 【事後学習】（1時間）【グループワーク】 【実験レポート①】をグループでまとめる。 【事後学習 グループ学習】（1時間） 大量調理施設における作業工程についてまとめる。
	4	【実験2】食材の微生物検査①（検査） 食品の一般生菌数検査 【実験レポート①】提出（→教員採点・添削）	【事前学習】（なし） 【事後学習 グループ学習】（1時間） 食品群別の流通工程を調査し、「重要管理点1：原材料の受入れ」についてまとめる。

5	【実験2】食材の微生物検査②(成績) 食品安全の衛生指標および一般生菌数検査 【実験レポート①】返却	【事前学習】(なし) 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート②】をグループでまとめる。
6	【実験3】手指・調理器具類の衛生管理① 【実験レポート②】提出(→教員採点・添削)	【事前学習】(なし) 【事後学習 グループ学習】(1時間) 微生物の殺菌・消毒法について調査し、「重要管理 点3:二次汚染防止」についてまとめる。
7	【実験3】手指・調理器具類の衛生管理② 「食中毒予防の3原則【つけない】」 【実験レポート②】返却 【実験レポート②】相互評価	【事前学習】(なし) 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート③】をグループでまとめる。
8	【実験4】畜肉類の加熱調理効果の確認① 【実験レポート③】提出(→教員採点・添削)	【事前学習】(なし) 【事後学習 グループ学習】(1時間) 食品の加熱調理法について調査し、 「重要管理点2:加熱温度管理」についてまとめる。
9	【実験4】畜肉類の加熱調理効果の確認② 「食中毒予防の3原則【こらす】」 【実験レポート③】返却 【実験レポート③】相互評価	【事前学習】(なし) 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート④】をグループでまとめる。
10	【実験5】鮮魚介類の冷蔵保存効果の確認① 【実験レポート④】提出(→教員採点・添削)	【事前学習】(なし) 【事後学習 グループ学習】(1時間) 食品の保存法について調査し、「重要管理点4:食 品の温度管理」についてまとめる
11	【実験5】鮮魚介類の冷蔵保存効果の確認② 「食中毒予防の3原則【ふやさない】」 【実験レポート④】返却 【実験レポート④】相互評価	【事前学習】(なし) 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート⑤】をグループでまとめる。
12	【実験6A】油脂類の品質評価 【実験レポート⑤】提出(→教員採点・添削)	【事前学習】(1時間) 教科書第2章4~5節(p42~p44)を読んで、油脂 類の酸敗について調査し、ノートにまとめる。 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート⑥】をグループでまとめる。
13	【実験6B】食品添加物の検査(発色剤の検出) 【実験レポート⑤】返却 【グループ学習②】 課題解決型学習テーマと課題成果物の作成方 法、発表方法および評価方法の説明	【事前学習】(1時間) 教科書第6章1~3節(p131~p142)を読んで、食 品添加物について調査し、ノートにまとめる。 【事後学習】(1時間)【グループワーク】 【実験レポート⑥】をグループでまとめる。 【課題成果物】をグループで作成する。
14	【理解度確認試験】実施→自己採点・解説 【実験レポート⑥】提出(→教員採点・添削)	【事前学習】(1時間) 理解度確認試験に備えて、復習する。 【事後学習】(2時間)【グループワーク】 試験で不正解だった問題を中心に復習する。 【課題成果物】の発表用原稿を作成する。
15	食品衛生管理のまとめ 【実験レポート⑥】返却 【グループ課題③】【発表】【グループワー ク】 【課題成果物】発表・相互評価 【課題成果物】提出(→教員採点)	【事前学習】(1時間)【グループワーク】 【課題成果物】の発表練習をする。 【事後学習】(なし)
定期試験	期末定期試験に代えて、 第14回に【理解度確認試験】を実施し、個別の理解度を確認します。 第15回に【グループ課題成果物】の提出・発表を課します。 (グループ課題テーマ:「食品衛生管理マニュアル」に基づく「食品衛生講習会」の資料)	
準備学習に必要な 時間	各実験のレポート作成に各2時間程度、課題レポート作成に5時間程度の グループワークが必要となります。 (1単位・合計15時間、課題の詳細は「授業の計画」に記載)	
教科書	栄養科学イラストレイテッド『食品衛生学 改訂第2版』(羊土社・2019年改訂)	
参考図書、教材、 準備物等	必要に応じて資料を配付します。	
課題(試験・レ ポート等)の フィードバック	実験レポートの作成にあたっては、第一に「精確な観察」、第二に「論理的な考察」に留意して記述してください。 ①観察された事実・現象から何が示唆されるか? ②どのような仮説を構築すれば、それらの観察結果を矛盾なく説明できるのか?すなわち「考察」しながら 「結論」を導いてください。実験および課題レポートは、グループで1部作成してください。 提出された実験レポートは、【ルーブリック評価表】に基づいて教員が評価・添削指導して返却します。 課題成果物については、教員評価だけでなく、学生(グループ)間の相互評価も成績に反映させます。 授業に関する質問、ノート術について不安がある場合は、オフィスアワー(月曜日15:30~19:00)に研究助手 室を訪問してください。	
評価の配点比率	実験レポート50%(グループ)、理解度確認試験20%(個別、持込不可)、課題成果物30%(グループ) で評価します。 【目標①】 実験レポート15%、理解度確認試験5% 【目標②】 実験レポート20%、理解度確認試験10%	

	<p>【目標③】 課題レポート 5%、理解度確認試験 5%</p> <p>【目標④】 課題レポート10%</p> <p>【目標⑤】 実験レポート15%、課題レポート15%</p>
受講上の注意	<p>本科目の最終目標は、「卒業後、(専門職として)就職してから退職するまでの全キャリアにおいて一度も食中毒事故を起こさない」ことです。</p> <p>この目標はつまり、将来、皆さんが食事サービスを提供するすべての食品消費者(サービス利用者様)の生命と健康に責任を負うという意味です。</p> <p>したがって、食品の安全に関する授業をおろそかにする受講態度は、すなわち、皆さんから食事サービスを提供される将来のサービス利用者様の健康や生命がどうなっても私がかまわない、という意思表示に他なりません。卒業必修だから、栄養士資格に必修だから、単位認定(C評価)さえされればそれでいいというような形式的な理由だけで履修しないよう、なんのための学びなのか、目的とその意義を十分理解した上で履修してください。</p>
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<p>■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション)</p> <p>■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク ■反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)</p> <p>□自主学習支援(LMS等)</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
森 恵見			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	フードスペシャリスト資格必修	演習	ナンバリング：16H501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、食品の品質とその評価法を理論的・実践的に修得することである。フードスペシャリスト資格の必須科目である「食品の官能評価・鑑別論」の内容に沿って授業を展開する。食品を選ぶという行為には多くの背景と同期が存在しており、その行為を補助するフードスペシャリストにとっては食品についての深い知識と品質を見抜く技術が非常に重要である。本科目は食品の生産・流通・消費についての知識を深め、鑑別や品質評価に必要な食品の検査法を学ぶことを目的としており、官能評価法・化学的評価法・物理的評価法の3分野について、特に重点的に演習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人の命と健康を守る栄養士としての職責を自覚する。	DP 1	10
	目標②食の専門家として、食品の品質を決定づける因子について、食品の化学的・物理学的性質について深い知識を修得し、食品の品質を見抜く能力を身につける。	DP 3	30
	目標③食の専門家として、食品の品質を評価する方法として、官能評価法・化学的評価法・物理的評価法の3分野の評価法の意義・目的について理解を深め、その評価技術を修得し、食品の品質を見抜く能力を身につける。	DP 3	30
	目標④食品の品質について、消費者が食品を選定する際に実際に指標になるものについての知識を深め、その活用術を修得し、消費者に対し適切なアドバイスができる能力を身につける。	DP 7	15
	目標⑤食品の生産・流通・消費についての知識を深め、食品の選定について消費者に対し適切なアドバイスができる能力を身につける。	DP 7	15
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 7：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食品の品質とは	食品の安全性や、食品表示について学んだことをスーパーマーケット等で確認する。
	2	官能評価とは	官能評価の基本
	3	官能評価 1	2点識別試験法、3点識別試験法について学ぶ。 レポート提出
	4	官能評価 2	順位をつける官能評価について学ぶ。 レポート提出
	5	官能評価 3	評点法について学ぶ。 レポート提出
	6	化学的評価法 1	食品中の水分・水分活性について学ぶ。
	7	化学的評価法 2	食品の色について学ぶ。
	8	化学的評価法 3	酸度と糖度について学ぶ。
	9	物理的評価法 1	食品の状態について学ぶ。
	10	物理的評価法 2	レオロジーとテクスチャーについて学ぶ。
	11	物理的評価法 3	破断特性について学ぶ。
	12	物理的評価法 4	色の評価方法について学ぶ。
	13	個別食品の識別 1	植物性食品について学ぶ。
	14	個別食品の識別 2	動物性食品について学ぶ。
	15	授業のまとめ	

定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。
準備学習に必要な時間	毎回1時間以上の予習と復習が必要である。
教科書	「食品の官能評価・鑑別演習」(公社)日本フードスペシャリスト協会、建帛社、2020
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じてプリントを配布する。
課題(試験・レポート等)のフィードバック	実験のレポートは翌週までに完成させ提出すること。確認後返却するので、定期試験に向けて学習すること。
評価の配点比率	目標①定期試験5%、レポート5% 目標②定期試験20%、レポート10% 目標③定期試験20%、レポート10% 目標④定期試験15% 目標⑤定期試験15%
受講上の注意	実験室内では、白衣及び上履き着用などの授業前の注意事項を必ず守ること。 鑑別実習は、5～6人のグループで行う。 レポートは提出期限を厳守すること。消費者の健康と生命を守る「食のスペシャリスト」として、食品を見抜く目を養って行きましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
相良 多喜子			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16F101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康増進や疾病予防・治療のために必要な基礎知識と方法を理解することである。栄養指導は、食を通しての健康づくりの支援を行うことである。それには生活する人間を理解し、人間の心を捉えた指導と、科学的根拠に基づいた指導が重要になっている。授業では、このような栄養指導を行うために必要な知識及び指導方法の基礎について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①栄養指導の歴史や法的根拠を理解する。	DP 1	18
	目標②栄養指導の基礎的知識を習得する。	DP 2	21
	目標③栄養指導の方法と技術について理解する。	DP 3	21
	目標④栄養指導に活かすためのカウンセリング技法を習得する。	DP 6	13
	目標⑤ライフステージ・健康状態別の栄養指導に関する理解ができる。	DP 8	27
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	栄養指導の概念/栄養指導の歴史・栄養指導の目標、栄養指導の対象と場	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	2	食生活・栄養の変遷と栄養指導	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	3	食行動変容のための行動科学理論と栄養指導	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	4	食環境づくりと栄養指導	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	5	栄養指導マネジメント	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	6	栄養指導のためのアセスメント	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	7	栄養指導計画	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	8	栄養指導の具体的方法と実施：学習形態、教材と媒体	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	9	カウンセリングの基本と栄養指導への応用	事後学習にレポート作成を行い、次週に提出
	10	妊娠・授乳期の栄養指導	栄養指導の特徴と留意事項のレポート作成を行い、次週に提出
	11	乳幼児期の栄養指導	栄養指導の特徴と留意事項のレポート作成を行い、次週に提出
	12	学童期・思春期の栄養指導	栄養指導の特徴と留意事項のレポート作成を行い、次週に提出
	13	成人期の栄養指導	栄養指導の特徴と留意事項のレポート作成を行い、次週に提出
	14	高齢期の栄養指導 障がい者の栄養指導	栄養指導の特徴と留意事項のレポート作成を行い、次週に提出
	15	栄養指導と国際的動向	事後学習の振り返り、まとめ
定期試験	試験期間中に試験を実施する。		

準備学習に必要な時間	レポート作成は、積極的に、図書館やインターネットから情報収集を行い、十分な時間確保（約3時間）に努める。
教科書	『栄養教育論 -栄養の指導-』（学建書院）第23版
参考図書、教材、準備物等	適宜資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出したレポートは、添削しコメントする。 質問に対しては、授業内で解説し履修者全員で共有できるようにする。
評価の配点比率	定期試験48% レポート合計52% 目標①栄養指導や法的根拠に関する 定期試験12% 各レポート3%（1回・2回） 目標②栄養指導の基礎知識に関する 定期試験12% 各レポート3%（3回・4回・5回） 目標③栄養指導の方法と技術に関する 定期試験12% 各レポート3%（6回・7回・8回） 目標④栄養指導に活かすカウンセリングに関するレポート13%（9回） 目標⑤ライフステージ・健康状態別の栄養指導の理解に関する定期試験12% 各レポート3%（10回～14回）
受講上の注意	レポートは手書き、次週に必ず提出する。 自主的学習が深まるようよう、適宜資料を配布する。栄養士としての資質の向上を図り、栄養指導に高い関心をもって臨んでほしい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
木内 貴子			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16G102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、給食の対象者を的確に把握し、効果的な食事提供ができるよう、食事管理の運営方法を理解、安全・衛生かつ利用者に喜ばれる食事を提供するための知識を習得することである。そのために、給食であっても、個々に対応した栄養・食事管理を行うことができるよう基本事項について理解する。また、給食経営においては関連資源を有効に活用し、それぞれの施設の目標を達成するための管理方法や考え方について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 特定給食施設の意義と目的を理解し、利用者の特性に応じた栄養管理に基づく食事提供につなげられる。	DP 1	30
	目標② 食事計画・調理・サービスを効率的にかつ安全・衛生的に運営するための手法を理解できる。	DP 4	30
	目標③ 組織管理、原価管理などのマネジメントの考え方を基に、給食を運営することができる。	DP 6	20
	目標④ 給食を教育の媒体として活用し、利用者自らが食事管理ができるよう働きかけることができる。	DP 7	10
	目標⑤ 栄養士として社会における使命や役割を知り、自分の考えや行動を省察できる。	DP 8	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 4：栄養学・食品学・調理学などの専門的知識にもとづく食事を提供することができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。 DP 7：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：自分を律して行動し、何事にも誠実に精一杯の力で取り組むことができる。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 給食の概要	授業の取り組みの説明 給食の全体像を理解する 給食の意義と目的を理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：特定給食施設の特徴、法的根拠についてまとめる
	2	給食施設の意義と特徴	給食を提供する各施設の目的と特徴について理解する 関連法規の概要を学ぶ 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：施設の種類ごとの給食の目的と関連法規についてまとめる
	3	給食経営管理の概要	給食業務の全体像を把握し、それぞれの管理業務が全体の中でどのように関連しているか理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：給食の資源についてまとめる
	4	栄養食事管理の概要	栄養・食事管理についての流れを学び、その内容を理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：栄養・食事管理の具体的な進め方について体系的に整理する。
	5	栄養食事管理の実際	PDCAサイクルに基づいた栄養・食事管理とをの評価について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：栄養・食事計画の手順および評価の方法を整理する

6	食事の品質	食事とサービスの品質を管理する基本的な考え方について理解する。 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：給食における品質評価の基準について整理する
7	食材管理	食材管理の目的や手順について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：各食材料ごとの発注から保管の方法を整理する
8	食事の生産と提供	調理システムや大量調理の特徴について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：大量調理の特徴をまとめる
9	給食の安全・衛生	安全・衛生管理の意義と目的、衛生管理体制について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：HACCPの流れについてまとめる、大量調理施設衛生管理マニュアルについてまとめる
10	給食の施設・設備	施設・設備の特徴を知り、効果的かつ合理的な運用方法や保守管理の方法を理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：調理機器の特徴についてまとめる
11	献立業務と事務管理	献立のシステム構築と留意点について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：献立に係る書類を整理する
12	マネジメントの概念	一般的なマネジメント概念の基礎を理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後準備：組織の形態を整理する
13	給食の人事・労務と給食システム	給食施設の資源である人的資源の管理活動を理解する 労務に関する課題と対策、法令を理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後準備：教育・訓練・評価について整理する
14	給食の会計・原価	給食の品質に影響を与える費用の管理について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後準備：給食の原価について整理する
15	危機管理	事故や災害時の対策について理解する 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：事故や災害時の対策について時系列にまとめる
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施します。	
準備学習に必要な時間	毎回2時間程度の事前・事後学習を要します。	
教科書	岩井達、名倉秀子、松崎政三 著「新版 給食経営管理論」(株建帛社 2020)	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：藤原政嘉、田中俊治、赤尾正編集「給食経営管理論」(株みらい 2019) 赤羽正之、朝見祐也、飯樋洋二 他著「給食施設のための献立作成マニュアル」(医歯薬出版(株) 2016) その他、適宜案内します。	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで詳しく説明します。課題の提出は期日厳守とします。課題は確認後、返却します。課題・レポートの内容が十分でない場合は再提出となることがあります。	
評価の配点比率	期末定期試験65% 小テスト15% 課題20% 目標①期末定期試験25% 小テスト5% 目標②期末定期試験25% 小テスト5% 目標③期末定期試験15% 小テスト5% 目標④課題10% 目標⑤課題10%	
受講上の注意	栄養管理に基づいた食事は、対象者に必要なエネルギーや栄養素を提供するだけでなく、望ましい食習慣を形成する栄養教育の教材にもなります。毎日繰り返される給食により、対象者自らが、食事を管理できるよう導くことも給食管理のたいせつな役割です。望ましい給食やサービスの在り方を学ぶことにより、学外実習や、就職後の業務に生かせるよう努めましょう。	
教員の実務経験	病院の管理栄養士業務に携わった経験のある教員が、給食業務を行うために必要な食事計画や食事サービスについて具体例を挙げながら、基本的知識を講義します。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
齋藤 正一			
生活科学学科食物栄養専攻 専 門科目	栄養士免許必修	講義	ナンバリング：16C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、人体の構造と機能に関する知識水準を高めると同時に、その理解を深めることである。栄養について学ぶ際には、人間の身体づくりとはたらきに関する知識（前者が解剖学、後者が生理学に相当する）が不可欠だが、両者を関連づけて理解することはさらに重要である。「器官系（系統）」と呼ばれる身体の機能的なまとまりを手掛かりに、人体の構造と機能について、必要ならば疾病などの異常についても学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 人体の構造と機能に関する基礎的な知識と情報を説明できる。	DP 2	60
	目標② 栄養の意味を健康・病気と関係づけて述べられる。	DP 3	30
	目標③ 医療関係者とのスムーズな意思疎通ができるよう、専門的な用語や言い回しに慣れる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 2：人体の構造と生理を理解し、自然の営みや社会のしくみのなかで食と人間のかかわりを総合的に理解している。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 7：専門的な知識と豊かな人間性を基盤としたコミュニケーションができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	生体のなりたち	LMSに掲示する受講上の注意を読み頭に入れておく 導入講義、講義前に教科書の目次に目を通しておく (予習)。
	2	組織と細胞の構造と機能	教科書の各回に該当する章の、1) 見出しや図表に目を通しておく(予習)、2) 最後におかれた「問題」を解いてみる(復習)。過去の講義を含め、講義に用いたプレゼンテーションをLMS上に置くので、プリントとともに繰り返し見直す(復習)。
	3	DNA・遺伝・遺伝子、細胞の構造と機能(再訪)	同上
	4	消化器系(1)	同上
	5	消化器系(2)	同上
	6	呼吸器系	同上
	7	循環器系	同上
	8	体液と血液、リンパ管、免疫系	同上
	9	泌尿器系、体液の調節、生殖系	同上
	10	内分泌系	同上
	11	神経系	同上
	12	運動器系(骨格系、筋系)	同上
	13	感覚器系、外皮(皮膚)系	同上
	14	エネルギー代謝	同上
	15	復習と期末試験の案内	終了した講義のプレゼンテーションと配布済みプリントを見返し、期末試験にも備える(復習)。
定期試験	後定期試験の期間中に筆記試験を実施する。		

準備学習に必要な時間	未知の内容が多いので、学習時間は復習に重点配分すること（例：予習1時間、復習3時間）。 予習：授業内容に相当する教科書の章の表題、キーワード、図表等に目を通す（精読はしなくても良い）。 復習：教科書の指示された箇所を精読し、プリントを見直し、授業中に強調された重要事項をふり返る。
教科書	河田光博・三木健寿・鷹股亮（編）『栄養科学シリーズNEXT 解剖生理学 第3版』（講談社 2020）
参考図書、教材、準備物等	教材：各回の、①講義プレゼンテーションおよび②プリントのファイル：全15回の講義が終了するまで閲覧可能な状態でLMSにアップロードしておく。各回の講義内容は、それ以前に学んだ事柄と関連付けることで理解が深まるので、繰り返し参照して復習に利用するとよい。 準備物：プリントの保存用にファイルフォルダー（A4サイズ）を準備しておくことよい。 参考図書：清水茜「はたらく細胞、1-5」（コミック、講談社KCシリーズ 2015）。漫画なので面白く読める。内容に多少不正確なところはありますが、専門用語の修得や身体機能全体の理解に役立つので、薦める。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回の講義の後、小テストを行う。その目的は、①知識の整理、②理解度の評価、③さらなる理解の深化なので、小テストの解答後、正解を提示するとともに必要により解説を加える。十分な理解が得られない、あるいは誤解が生じていることが推測された場合は、次の回以後の講義で、改めて解説を加える。なお、小テストは成績評価にも用いる（下記）。
評価の配点比率	目標① 期末試験の成績50%、小テストの成績 10% 目標② 期末試験の成績 30% 目標③ 小テストの成績 10%
受講上の注意	①令和3年度後期も感染防止の観点から対面による授業が困難となった場合、遠隔講義となる可能性がある。その場合は、非同期・オンデマンド形式で、受講、小テスト解答、レポート課題・提出その他の応答を含め、すべてLMSを通じて行うことにする。 ②対面、遠隔いずれの方式であっても授業にはLMSを併用する。受講上の注意その他重要な事柄は、初回講義開始前にLMSの掲示で案内するとともに、初回の講義でも説明する。 ③LMSの利用はスマートフォンがあれば最低限可能となるよう設定するが、以下を備えるネットワーク・PC環境を推奨する。1) ネットワークに接続され、通信とファイルのアップ/ダウンロードが可能なPC、2) プレゼンテーションマネージャー、またはビューイングアプリケーション（パワーポイント/パワーポイントビューワーなど）、3) ダウンロードしたファイル等が印刷できるプリンタ。 ④環境が整わないとき、動作不良などの不都合があるときは、大学の設備（ラーニング・コモンズ等）の利用も可能なので、早い段階で大学（クラスアドバイザーの教員、学び支援課職員など）の助言や支援を求めること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
吉見 泰治			
生活科学学科食物栄養専攻 専門科目		講義	ナンバリング：16E103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、栄養素である有機化合物を分子レベルで系統的に理解することである。有機化学は、主に炭素を骨格として構成される化合物の構造・性質・合成・反応等を幅広く研究するものであり、食品化学・栄養学・生化学等の授業に必要と思われる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①専門科目の理解を助けるための有機化学の基礎を習得する。	DP 1	10
	目標②化学構造式を書ける。	DP 1	10
	目標③栄養素の種類や役割を理解する。	DP 5	10
	目標④栄養素の化学構造式を書ける。	DP 6	20
	目標⑤栄養素の分子レベルでの役割を理解する。	DP 3	50
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：栄養士として人々の健康管理及び健康の保持・増進に貢献していくために必要な専門知識を体系的に身につけている。 DP 3：食品及び栄養と健康における多種・多様な情報を的確に取捨選択し、科学的な根拠にもとづく分析と活用ができる。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：常に生活や社会を見据えて、自ら新たな課題を見出し、それを解決することができる。 DP 6：栄養と健康に関する情報や問題点を論理的に分析し、表現することができる。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	有機化学入門	事前学習・事後学習：高校時代に学習した化学もしくは理科を見直す。
	2	有機化合物の化学結合	事前学習：高校時代に学習した化学結合の理論を見直す。 事後学習：ルイス構造を用いて化学結合を理解する。
	3	有機化合物の構造による特徴 1 (炭化水素)	小テスト実施 事後学習：炭化水素の結合様式および性質と名前を理解する。
	4	有機化合物の構造による特徴 2 (アルコール・エーテル)	小テスト実施 事後学習：アルコールの結合様式および性質と名前を理解する。
	5	有機化合物の構造による特徴 3 (カルボニル化合物)	事後学習：ケトンやアルデヒドなどのカルボニル化合物の結合様式および性質と名前を理解する。
	6	有機化合物の構造による特徴 4 (芳香族化合物)	事後学習：芳香族化合物の結合様式および性質と名前を理解する。
	7	有機化合物の反応	小テスト実施 事後学習：どのように有機化合物が化学反応を起こすかを理解する。
	8	アミノ酸とタンパク質 1	事後学習：約10種類のアミノ酸の化学構造と名前を理解する。また、タンパク質はアミノ酸から構成していることも理解する。
	9	アミノ酸とタンパク質 2	小テスト実施 事後学習：残り約10種類のアミノ酸の化学構造と名前を理解する。
	10	有機化合物の立体化学	事後学習：有機化合物には立体異性体があることを理解する。
	11	炭水化物 1	事後学習：重要な栄養素である炭水化物の化学構造と名前を理解する。
12	炭水化物 2	事後学習：重要な栄養素である炭水化物の結合の違いによる性質の差を理解する。	

	13	ビタミン	事後学習：重要な栄養素であるビタミンの化学構造と名前を理解する。
	14	脂質	小テスト実施 事後学習：重要な栄養素である脂質の化学構造と名前を理解する。
	15	核酸	事後学習：生命の情報伝達物質である核酸の化学構造と名前を理解する。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回、2時間ほどの事後学習が必要。特に、重要な部分は小テストを授業の初めにするために、多くの学習時間が必要である。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	適宜資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実施した小テストを返すとともに、正解を授業中に教え、復習を行う。成績評価を含め、質問等がある場合は、授業の後に直接聞きに来るか電子メール(yyoshimi@u-fukui.ac.jp)で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①有機化学の基礎を習得しているか小テストと期末定期試験で確認、10%。 目標②化学構造式を書けるか小テストと期末定期試験で確認、10%。 目標③栄養素の種類や役割を理解しているか小テストと期末定期試験で確認、10%。 目標④栄養素の化学構造式を書けるか小テストと期末定期試験で確認、20%。 目標⑤栄養素の分子レベルでの役割を理解しているか期末定期試験で確認、50%。		
受講上の注意	高校時代に学習した化学の中の有機化学を栄養学と結びつけながらより詳しく学びます。 授業が始まる前に、高校時代に学習した有機化学の領域を復習しましょう。 タンパク質、脂質やビタミンなど栄養素は有機化合物です。また、食品添加物などの多くが有機化合物であり、これらを化学構造式で書けるようになれば、どのように働いているか分子レベルで理解できるようになります。 期末試験では、書籍およびコピーの持ち込みは禁止しますが、「自分で書き込みしたノート」の持ち込み可とします。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
香月 拓			
幼児教育学科 教養科目		講義	ナンバリング：20A101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神「仁愛兼濟」のこころを育て、自分の人生をいきいきと生きていく力を身に付けることである。 そのため、釈尊の生涯やことばを中心に学んでいく。また、それらを通して「本当の自分とは何か」を尋ねていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①釈尊の生涯と思想について述べるができる。	DP 9	20
	目標②自分の考えを読み手に伝わるようレポートにまとめることができる。	DP 7	20
	目標③仏教における人間観をもとに「本当の自分とは何か」を考察し、述べるができる。	DP 7	20
	目標④「仁愛兼濟」を生きる学生像について、具体的に自分の考えを述べるができる。	DP 8	10
	目標⑤仏教に照らし合わせて自分の考えや行動を省察できる。	DP 9	30
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 DP 9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	イントロダクションー仏教に何を学ぶのか	授業の取り組み方に関する説明をする
	2	仁愛学園の歩みーキャンパスのモニュメントについて	『和』を持参すること
	3	仁愛学園の歩みー聖徳太子の願いと仁愛兼濟	『和』を持参すること
	4	自我と自己ー本当に生きるとは	
	5	四恩の自覚ーいのちの大地	『和』 p. 1～15、p. 40～45を読んでおくこと
	6	四恩の自覚ー仁愛兼濟	第1回レポート
	7	釈尊の生涯ー誕生、青色青光・各々安立	『仏教聖典』 p. 2～8を読んでおくこと
	8	釈尊の生涯ー四門出遊～出家生活	
	9	釈尊の生涯ー苦行の放棄～成道、自己への目覚め	『仏教聖典』 p. 8～10を読んでおくこと
	10	釈尊の生涯ー梵天勸請と初転法輪	
	11	釈尊の生涯ー伝道生活、仏弟子たちとの生活	第2回レポート
	12	釈尊の生涯ー涅槃、死もまたいのちのすがた	『仏教聖典』 p. 10～15を読んでおくこと
	13	親鸞の生涯ー法然との出遇い	『礼讃抄』を持参すること
	14	親鸞の生涯ー『歎異抄』の世界	『礼讃抄』を持参すること
	15	まとめ	『和』を持参すること
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に「ふりかえりシート」及び第3回レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、講義で学んだことを通して「本当の自分とは何か」を思索するよう努めること。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『仏教聖典』（仏教伝道協会，1996） 教材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	「ふりかえりシート」は毎授業終了時に提出し、授業担当者が確認した後、次回授業時に返却される。成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、「ふりかえりシート」に記入するか、オフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	目標①第3回レポート20% 目標②第1回レポート10%、第2回レポート10% 目標③第3回レポート10%、ふりかえりシート10% 目標④第3回レポート10% 目標⑤ふりかえりシート30%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	必修
担当教員			
CI委員長			
幼児教育学科 教養科目		演習	ナンバリング：20A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたAHの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	DP7	30
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	DP7	20
	目標③「仁愛兼済」を实践する姿勢を身につける。	DP8	25
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	DP9	25
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 DP9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月 2年後の理想像と1年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の説明および記入 ※遠隔非同期にて実施
	2	4月 降誕会	※遠隔非同期にて実施
	3・4	5月 開学記念日	※詳細は後日連絡
	5	5月 第1回講義	第1回レポート ※遠隔非同期にて実施
	6	6月 第2回講義	第2回レポート ※遠隔非同期にて実施
	7	9月 CI企画 1年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	12月 成道会	
	9	1月 讃仰会（追弔会）	
	10	2年次 4月 降誕会・・・講演 1年次の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11・12	5月 開学記念日	
	13	9月 CI企画 2年次前期の自己評価と後期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	14	11月 成道会	
	15	12月 讃仰会（追弔会）・・・講演	第3回レポート
	16	1月 2年間の自己評価	『充実した学生生活を送るために』の記入
	定期試験	試験に代わって、全講義終了後に『充実した学生生活を送るために』を記入してもらう。	
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の实践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。		
教科書	使用しない		

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各レポートは授業担当者が確認した後、返却されるので、修学ポートフォリオ（ファイル）にまとめておくこと。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（30%） 目標②第2回レポート（20%） 目標③第2回レポート（10%）、第3回レポート（15%） 目標④第3回レポート（15%）、『充実した学生生活を送るために』（10%）
受講上の注意	AHは必ずスーツを着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長			
幼児教育学科 教養科目		演習	ナンバリング：20A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	DP7	10
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	DP8	5
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	DP9	35
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	DP7	10
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	DP8	5
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	DP9	35
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 DP9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に教務課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出すること。	
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	
定期試験	試験に代わって、レポートを提出してもらう。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。		
評価の配点比率	目標①②レポート（100%）		

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
早川 秋子			
幼児教育学科 教養科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：20B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、幼稚園教諭として、一般人としての法の理解、リーガルマインドの習得である。日本は、第二次世界大戦終結のためにポツダム宣言を受諾し、今後の近代国家のあり方を憲法に示した。それぞれが、国民主権、基本的人権の尊重、戦争放棄を三本柱とする憲法の内容を理解し、国民の権利を尊重するには具体的に何をすべきなのか等、事例の整理を通して理解し、国民主権を実現するためにも、各自が自分の言葉で権利、義務、平和維持、国づくりのあり方を考え、他者に伝えることができるようにする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①憲法の理念を正しく整理し直し、その知識が机上の空論でなく、現実の私たちの生活の中で活用されていることを個々の事例の中で確認する。	DP 1	20
	目標②それにより、「今」のありかたが自分の納得できるものなのか、法の実現にどのような困難、限界があるのか、それぞれに考える能力を修得できる。	DP 1	20
	目標③裁判のしくみ、判例について理解を深める。	DP 3	20
	目標④相反する立場の考えを理解し、教育者としての資質を高める。	DP 7	20
	目標⑤社会人として法の支配を理解できる。	DP 6	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	憲法の意義、日本の「ルール」について理解する	憲法受講にあたり、情報の収集に努める。教科書の憲法該当部分を確認。期間中毎日3時間程度必要。
	2	権利の主体・特別な法律関係（子供の人権制限について法的に整理する）	権利を主張し、義務を果たし合う集団生活の中でのルールを日々の生活や保育者としての立場にあてはめて考える。
	3	人権とは何か、新しい人権（プライバシー権、環境権）	
	4	自己決定権（尊厳死）	小レポート作成 権利について条文テキストを読み返して復習。3時間程度。
	5	人身の自由（刑罰・死刑制度・国民裁判員制度）	
	6	違憲審査制度（尊属殺人罪 婚外子相続差別 違憲訴訟）	国民の権利を守る大切さについて3～4人の小グループで話し合い、意見をまとめる。
	7	法の下での平等（女性の再婚禁止期間）	
	8	表現の自由（公共の福祉による制限、権利相互のバランス）	折り返し地点です！今までの知識を整理しておこう。集中講義の前半で整理した内容をノート中心に復習。3時間程度。
	9	信教の自由（靖国神社公式参拝訴訟、政教分離）	後半戦は、戦争放棄、統治機構、改正。予めニュース等をチェックしておくとう理解が深まる。
	10	平和主義：戦争放棄（ポツダム宣言受諾）	
	11	平和主義：政府憲法解釈の推移、国際貢献の必要性	
	12	社会権 教育権・労働基本権・生存権（朝日訴訟と社会福祉制度）	小レポート実施。テキストやノートをまとめておくこと。3時間程度必要。
	13	民主主義の政治制度（外国人の参政権、両院制）	
	14	地方自治の本旨（青少年保護条例）	
	15	憲法の改正（問題点・国民投票法）	講義を通して確認した知識を今後の生活の中で精査し続ける。

定期試験	試験に代わって、全講義終了後にレポートを作成、提出させる。
準備学習に必要な時間	毎日2時間程度の事後学習が必要である。特に、集中講義のため、講義開始前に事前に憲法改正議論等の知識を整理しておくことが望ましい。
教科書	田中敦子・大野正博編『法学入門』（第2版）（成文堂2021）
参考図書、教材、準備物等	他に必要な資料はプリントを配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明する。集中講義の中で行う小レポート等提出物についてはその都度指示する。開講日以降、実施する小レポートや評価等についての質問を随時受け付ける。成績評価を含め、質問等がある場合は、講義の前後あるいは電子メールでの連絡を受け付ける。
評価の配点比率	目標①② 個々の事例に即した中間レポート40% 目標④ 講義中における発表20% 目標③⑤ 定期試験40%
受講上の注意	「今、憲法が面白い！」戦後70年を目前に動き出した憲法改正の議論をそれぞれの視点で考える場にしていきましょう。集中講義ですので、体調に注意して下さい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

講義科目名称： 野外スポーツ

授業コード： 2110501

英文科目名称： Field Sports

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
内田 雄・出村 友寛			
幼児教育学科 教養科目		演習	ナンバリング：20C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。そのために今年度は、野外スポーツの中から、ゴルフを集中的に行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に野外スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	DP 7	50
	目標② 野外スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	DP 4	30
	目標③ 野外スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	DP 4	10
	目標④ 野外スポーツの特徴を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	①ゴルフの運動効果、スイングの基本	全体オリエンテーションを含む
	2	②フルスイングショット	
	3	③9番アイアン打撃	
	4	①7番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	5	②5番アイアン打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	6	③アイアンのテストとまとめ	学外ゴルフ打撃場を使用
	7	①アプローチショット	学内運動場を使用
	8	②ピッチとラン	学内運動場を使用
	9	③パッティング	
	10	①ウッドショット打撃	学外ゴルフ打撃場を使用
	11	②ドライバーとスプーン	学外ゴルフ打撃場を使用
	12	③ウッドのテストとまとめ	
	13	①ルールとマナー	
	14	②コースでのプレーの仕方	
15	③ミニ・ラウンド	ゴルフ場を使用	
定期試験	試験に代わって、集中授業終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	授業で習得した練習内容や技能の振り返りとして、各回45分程度の事後学習が必要。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントして配布予定。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。		

評価の配点比率	目標①、②実技試験80% 目標③、④レポート20%
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
諏訪 いずみ			
幼児教育学科 教養科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：20D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、大学、職場、家庭にて必要となるコンピュータリテラシーの基礎的な能力を理解・習得することである。 本学のICT環境を習熟し、情報倫理・OSの基礎・インターネットの利用・文書作成・表計算の基礎を学ぶ。特に、幼稚園や保育所における事例課題に取り組むことにより、保育現場でのICT活用法を学習する。また、初年次教育科目として、情報収集の方法（図書館の活用を含む）、レポートの書き方、プレゼンテーションの技法についても学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育者のための情報倫理と情報セキュリティを説明できる。	DP 3	20
	目標②保育者としてICTを活用するための基礎的知識について述べられる	DP 4	10
	目標③保育者としてICTを活用して考えが伝わる情報発信ができる	DP 6	25
	目標④保育者としてICTを活用して効率的な情報管理ができる	DP 6	25
	目標⑤社会人としてのマナーに則ったメール利用や文書の作成を迅速に行うことができる	DP 7	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 電子メールの使い方 Moodle基本的な使い方	配布プリントを事前に読んでおく 小テスト（以下小テスト、発展小テスト、発展課題は事後の知識確認として行う）
	2	Moodleでの課題提出方法 ファイル（写真）の提出 オンラインテキストの提出	Moodle上の説明資料を事前に読んでおく 小テスト
	3	情報収集（情報検索・図書館活用）の基礎 情報倫理 検索のしかた（Webのしくみ、検索の基礎、辞書検索、図書検索、図書館の利用）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 16-31 小テスト 発展小テスト
	4	Windowsの起動・終了 タッチタイピングの基礎 Wordの基本的な入力方法	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 4-10, pp. 32-47 Moodle上の課題提出 小テスト
	5	Windowsの利用（フォルダの作成、ショートカットキー） 文書作成の基礎	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 11-15, pp. 48-56 Moodle上の課題提出 小テスト
	6	文書作成（フォント、箇条書き、段組み）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 53-62 Moodle上の課題提出 発展課題 1 小テスト
	7	表を活用した文書作成（表、罫線、文字の割り付け）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 62-76 Moodle上の課題提出 小テスト
	8	画像を活用した文書作成（ワードアート、クリップアート、図形、ページ罫線）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 77-95 Moodle上の課題提出 小テスト 発展課題（お便りの作成）

9	Excelの基本 表計算Ⅰ（データ入力、ワークシート編集、罫線）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 96-119 pp. 134-141 Moodle上の課題提出 小テスト
10	表計算Ⅱ（表の作成 数式 基本の関数 グラフ）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 120-151 Moodle上の課題提出 小テスト
11	表計算Ⅲ（比・割合を求める、条件判定、順位、絶対参照・相対参照）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 152-167 Moodle上の課題提出 小テスト 発展小テスト
12	表計算Ⅳ（セルの連結、並べ替え、フィルタ、条件付書式）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 168-185 Moodle上の課題提出 小テスト
13	レポートの作成法（「レポートの作成法」に基づいた作成練習、文書のPDF化）	Moodle上の説明資料を事前に読んでおく Moodle上の課題提出 小テスト
14	パワーポイントの利用Ⅰ（発表の基本と基本的な作成方法）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 194-209 Moodle上の課題提出 小テスト
15	パワーポイントの利用Ⅱ（発展的な作成方法と発表実践）	教科書の該当ページを事前に読んでおく pp. 212-221 小テスト
定期試験	定期試験は実施しない。	
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前・事後学習が必要。事前に教科書及び配布プリントの該当項目のページに目を通しておくことが望ましい。	
教科書	『30時間でマスター Office 2016』（実教出版）	
参考図書、教材、準備物等	『電子メールを使おう』（配布プリント）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第1回のガイダンスで説明する。課題は、基本的に講義時間内で作成・提出とする。指定の項目が達成されていない場合は再提出を指示する。Moodle小テスト及び発展課題は、事後学習として行う。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（suwa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。	
評価の配点比率	目標①授業内課題15%、Moodle上の小テスト5%、 目標②授業内課題5%、Moodle上の小テスト5% 目標③授業内課題13%、Moodle上の小テスト5%、発展課題・発展小テスト7% 目標④授業内課題12%、Moodle上の小テスト5%、発展課題・発展小テスト8% 目標⑤授業内課題15%、Moodle上の小テスト5%	
受講上の注意	初年次教育科目として入学後の学習及び社会人として必要となる情報処理の基礎を身に着けると同時に、保育の現場で活用できる力を修得することを目標としています。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
増田 翼			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A101
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育者として理解しておくべき教育の基礎理論のうち、とりわけ「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史的変遷」「学校教育制度」「生涯学習社会における教育の現状と課題」「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について修得することを目的とする。具体的には、そもそも「教育」とは何であるかを考えることから出発し、生涯学習社会で求められる学習方法、ユニークな教育実践の取り組み、教育の歴史と学校教育制度などについて順に学んでいく。各回において、教育に関する基礎的概念を身につけるとともに、現代日本の教育課題を様々な角度から捉えるための見方・枠組みを修得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わり」「教育の思想と歴史的変遷」「学校教育制度」についてそれぞれ説明できる。	DP 1	50
	目標②「生涯学習社会における教育の現状と課題」について説明できる。	DP 3	10
	目標③「教育実践の基礎理論（内容・方法・計画・評価）」について説明できる。	DP 5	10
	目標④ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	DP 6	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：短期大学での学び方	【本講義15回すべてに共通する事項】 毎回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に取り組み、LMS（仁短Moodle）に提出すること。 また、その日の授業内容に関する「事後学習プリント」を各回Moodle上でPDF配布するので、必ず目を通すこと。 ※併せて、各授業内では実習等で活用できる「手遊び」の紹介をしていきたい。一部の「手遊び」については、仁短YouTubeチャンネル動画「てあそびであそぼう」シリーズに収録されているので、あらかじめ視聴しておくといい（オープンな教育リソースの活用）。
	2	教育とは何か（1）：教育の意義と目的（教育基本法）	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	3	教育とは何か（2）：教育と子ども家庭福祉等との関わり（日本国憲法、学校教育法、児童福祉法）、乳幼児期の教育の特性	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	4	教育とは何か（3）：人間形成と文化、家庭の文化、園文化・学校文化、しつけと社会化	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	5	生涯学習社会における教育（1）：生涯学習とは、リカレント教育、Open University	事前に、「福井県生涯学習センター」「放送大学」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	6	生涯学習社会における教育（2）：成人期の学習、自己決定型学習	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	7	教育実践の多様な取り組み（1）：かつやま子どもの村小・中学校、教科カリキュラムと経験カリキュラム	事前に、「かつやま子どもの村小・中学校」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	。	教育実践の多様な取り組み（2）：森のようちえん、持続可能な開発のための教育（ESD）	事前に、「NPO法人 森のようちえん全国ネットワーク連盟」のwebページを調べておく。授業終了後に「事後

	°		学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	9	教育実践の多様な取り組み(3)：ICT利活用教育、反転授業、アクティブ・ラーニング、ポートフォリオ、ルーブリック	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	10	教育の思想と歴史の変遷(1)：コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチ	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	11	教育の思想と歴史の変遷(2)：近代教育制度の確立、デューイと児童中心主義	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	12	教育の思想と歴史の変遷(3)：江戸時代までの教育	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	13	教育の思想と歴史の変遷(4)：明治期における近代教育制度の成立、大正新教育運動、戦時下の教育	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	14	学校教育制度：一条校、各国の学校体系	授業終了後に「事後学習プリント」などを参考にしながら学習内容を整理する。
	15	まとめ：現代の教育課題	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。
定期試験		試験期間中の試験に代わって、全講義終了後に最終レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間		復習：学習した内容について、「事後学習プリント」などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、指定されたwebページを読むなどして事前に理解を深めておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート作成には、多くの時間が必要となる。	
教科書		使用しない。適宜、資料を配布する。	
参考図書、教材、準備物等		『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック		毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。	
評価の配点比率		目標①授業内小課題 30%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④最終レポート 30%	
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用		<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
田中 洋一			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修	講義	ナンバリング：21C102
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、幼稚園教諭として幼児一人一人の特性に応じた教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用方法を身につけることである。</p> <p>そのために、以下の3単元を学ぶ。(1)教育目標にもとづき、教育課程、授業目標・評価・教育方法が設計されていることを理解した上、幼児教育学科の授業を批判的に分析し、ポスターツアーで議論する。(2)8つの特色ある幼稚園（認定こども園）の入園事前説明会を行い、多様な教育理念や方法を学ぶ。(3)幼稚園における視聴覚教育のマイクロティーチングを設計・実施・評価する。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、教育目標に合わせた教育方法及び評価を設計できる。	DP1	27
	目標②教育課程や指導計画等（年間計画・月案・週案・日案）を理解し、指導技術を批判的に分析できる。	DP4	27
	目標③情報機器を活用した視聴覚教育の授業を設計・実施・評価できる。	DP5	27
	目標④保育者として、自分の考えや行動を省察できる。	DP9	19
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、資質・能力及び幼稚園教育要領の理解、到達目標と評価との関係	ジェスチャーを用いたグループ分け。良い授業及び悪い授業に関するグループワーク。事後学習：1年前期の授業科目について、講義概要（シラバス）、教科書、配付資料、ノート、課題等を見直す。
	2	グループごとに幼児教育学科1年の1つの授業に関して課題分析	マインドフルネスの体験①呼吸瞑想。課題分析に関するグループワーク。事前学習：オープンな教育リソース（東京大学教材）を反転学習として視聴。事後学習：1つの授業に関する課題分析を行う。特に、到達目標、授業内容、教育方法を整理する。
	3	授業の分析結果に関するポスター制作	マインドフルネスの体験②ジャーナリング。ポスターを作成するグループワーク。事後学習：授業分析ポスターを完成する。特に、到達目標、授業内容、教育方法、評価方法の関係性に注目する。その上で、授業の良い点、改善提案を説明できる。
	4	ポスターツアーを行い、授業及び分析結果に関して議論	発表と質疑応答。事後学習：他のグループ・ポスターをスマートフォン等で撮影し、分析内容を振り返る。
	5	単元1に関する振り返り、グループ替え・テーマ決定	マインドフルリスニングの体験：単元1の振り返り。良い幼稚園及び入園事前説明会に関するグループワーク。事後学習：他のクラスも含めたポスターを閲覧した上で、単元1「幼児教育学科における授業設計」レポートの作成。入園事前説明会のための調べ学習。
	6	テーマにもとづく入園事前説明会の設計、発表スライドの制作	入園事前説明会用のスライドを作成するグループワーク。事後学習：担当スライド及び発表原稿の完成。
	7	入園事前説明会(1)「教師と保護者としての質疑、相互評価」前半グループ	スライドとプロジェクターを用いた発表。事前学習として発表準備。事後学習としてスライドの修正。
	8	入園事前説明会(2)「教師と保護者としての質疑、相互評価」後半グループ	スライドとプロジェクターを用いた発表。事前学習として発表準備。事後学習としてスライドの修正。
	9	自己評価、単元2に関する振り返り、グループ替え	単元2を振り返りディスカッション。後半に情報倫理シナリオを用いたPBL型グループワークを実施。事後学習：単元2「良い幼児教育の方法」レポートの作成。

10	幼稚園における情報機器及び教材の活用	メディア活用に関するグループワーク。クリッカーの使用。事後学習：視聴覚教育の企画。
11	視聴覚教育としての設定保育（マイクロティーチング）の設計、指導案の作成	視聴覚教育の指導案を作成するグループワーク。事後学習：視聴覚教育指導案の完成。
12	視聴覚教育のマイクロティーチング(1) 前半グループ	設定保育として発表し、検討会（※グループによりクリッカーを使用）。事前学習として発表準備、事後学習として発表内容の修正。
13	視聴覚教育のマイクロティーチング(2) 後半グループ	設定保育として発表し、検討会（※グループによりクリッカーを使用）。事前学習として発表準備、事後学習として発表内容の修正。
14	単元3の振り返り、相互評価	単元3を振り返りディスカッション。修正した設定保育の指導案を個別作成。事後学習：単元3「視聴覚教育」レポート作成。
15	本授業全体の振り返り	本授業全体を振り返りディスカッション。事後学習：振り返り
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に振り返りノート及び単元3レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事後学習が必要。特に、ポスター、スライド等の制作時には多くの時間が必要となる。また、入園事前説明会や視聴覚教育の実施に関しては、数時間の事前学習を行うことが望ましい。	
教科書	『幼稚園教育要領』（文部科学省、フレール館、2017） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレール館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレール館、2017） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレール館、2018）	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『教育の方法と技術：主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』（稲垣忠、北大路書房、2019）、『イラストで読む！幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領はわかりBOOK』（無藤隆・汐見稔幸、学陽書房、2017）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	リンクマップ、授業分析ポスター等、紙メディアの提出物は、学習管理システム（LMS）の仁短Moodleを用いて、PDFや写真として学生へフィードバックする。単元レポートの提出や相互評価にはLMS（仁短Moodle）を用いて、課題モジュールのコメント機能やフィードバック・モジュールで結果を学生へフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メール（you@jin-ai.ac.jp）やMoodleメッセージで連絡すること。	
評価の配点比率	目標①単元1レポート20%、授業評価ポスター発表及びポスターなど単元1提出物7%。 目標②単元2レポート20%、入園事前説明会発表及びスライドなど単元2提出物7%。 目標③単元3レポート20%、視聴覚教育のマイクロティーチング（設定保育）及び指導案など単元3提出物7%。 目標④振り返りノート（1～14回：1×14回＝14%、15回：総まとめ5%）19%として評価する。 ※幼稚園児向け教材等に対する、教育的配慮以外の「漢字の使用、わかちがきの不使用、ユーザビリティ（使いやすさ）の欠如」は減点する。入園事前説明会及び視聴覚教育の設定保育において保護者等として質問すれば加算（1回：1点）する。	
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンスで説明する。ケースごとに園の教諭や保護者に成りきって授業に取り組むことが望ましい。各回の最後、振り返りノートに自分の行動変容等について記述する。本科目は、コンピュータやソフトウェアの使用方法を学ぶのではなく、園児への教育の方法を学ぶことを目的としています。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■ 課題解決型学習（PBL） ■ 討議（ディスカッション、ディベート） ■ グループワーク ■ 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク ■ 反転授業 ■ 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） ■ 自主学习支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位	必修
担当教員			
小川 智枝・賞雅 さや子			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A113
添付ファイル			

授業の概要	本授業では保育の基盤となる子ども家庭福祉の価値観について理解を深めることを目的とする。教科書、その他の文献講読と解説により、子ども家庭福祉従事者として、子どもがもっている力を信じ、子どもと家庭を見守りながら、その権利を護ることができるやわらかなまなざしと強い使命感、ゆるぎない人権意識を身につけることの意義について考えるとともに、保育への展開過程を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。	DP1	20
	目標②子ども家庭福祉の理念を理解し、子どもの最善の利益について自分の言葉で述べるができる。	DP6	30
	目標③子ども家庭福祉の社会資源について説明する。	DP8	20
	目標④子ども家庭福祉の現状、課題について理解し、自分の意見を述べるができる。	DP9	15
	目標⑤子ども家庭福祉の理念を具体化する保育実践について説明する。	DP5	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。 DP9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子ども家庭福祉とは何か	事後にアウトプットノートをまとめる。
	2	保育と子ども家庭福祉	事前に教科書Ch.1を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	3	子ども家庭福祉の概念と歴史	事前に教科書Ch.3を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	4	子ども家庭福祉に関わる国の施策	事前に教科書Ch.5を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	5	子ども家庭福祉の制度と法体系	事前に教科書Ch.4 Sec.1を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	6	子ども家庭福祉を実施する行政機関	事前に教科書Ch.4 Sec.2を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	7	子ども家庭福祉の施設	事前に教科書Ch.4 Sec.3を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	8	子ども家庭福祉の専門職	事前に教科書Ch.11を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	9	子ども家庭福祉と権利擁護	事前に教科書Ch.2を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	10	子育て支援・多様な保育ニーズへの対応	事前に教科書Ch.9を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	11	子ども虐待対策	事前に教科書Ch.7を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	12	社会的養護・ひとり親家庭への支援	事前に教科書Ch.8を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	13	諸外国の動向	事前に配布資料を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
14	現代社会における子ども家庭福祉の課題	事前に教科書Ch.10を読み、キーワードをノートに書き	

	14		出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
	15	子どもの最善の利益	事前に配布資料を読み、キーワードをノートに書き出しておく。事後にアウトプットノートをまとめる。
定期試験	試験に代わって毎回の小課題と、全授業終了後にレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前に教科書や資料を読みキーワードをノートに書き出し、事後は学んだことをアウトプットノートにまとめる。毎回2時間程度必要。		
教科書	『みらい×子どもの福祉ボックス こども家庭福祉』（喜多一憲監修、みらい、2020）		
参考図書、教材、準備物等	適宜資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードや学んだこと等を記入したノートを作成する。ノートは毎回小課題として講義終了後に提出し、後日返却する。 ・重要なことは口頭で説明するので、しっかり聴講すること。 ・質問等がある場合は、研究室を訪問するか、電子メール、Moodleで連絡すること。 		
評価の配点比率	目標①小課題20% 目標②レポート30% 目標③小課題20% 目標④小課題15% 目標⑤小課題15%		
受講上の注意			
教員の実務経験	保育士として保育、家庭支援に携わった経験を活かし、子ども家庭福祉の理念を具体化する保育実践について事例を挙げながら講義する。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
近藤 俊英			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、児童家庭福祉はもとより、高齢、障害等の多領域の専門職との連携に対応できる能力を身につけることを目的とする。 そのため、社会福祉・社会保障全般の基礎的知識を身につけるとともに、事例検討を通して、困難事例での対応方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会福祉の制度・サービスや意義、理念等を理解し、それを他者に伝えることができる。	DP 3	42
	目標②得られた情報を分析し、課題解決のための支援策を講じることができる。	DP 6	30
	目標③支援対象者や関係者の意向をくみ取りつつ、課題解決のための結論を導き出すことができる。	DP 7	20
	目標④地域で社会福祉に取り組むことの意義を理解し、地域の課題について考察する。	DP 8	8
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス・保育における社会福祉	テキストの序章。現代社会が抱える福祉的課題、児童家庭分野における福祉的課題の概要。
	2	現代社会における社会福祉の意義	テキストの第1章第1節・第2節。社会福祉の概念、歴史的変遷。
	3	社会福祉と子ども家庭福祉	テキストの第1章第3節。子ども家庭福祉の概念と保護者・親権者との関わり、子どもの権利擁護。
	4	社会福祉の制度法体系	テキストの第2章第1節。社会福祉制度に関する各種法律。
	5	社会福祉行政と実施機関／社会福祉施設・専門職など	テキストの第2章第2～4節。行政における社会福祉制度の仕組み、公的な社会福祉の実施機関・施設、社会福祉の専門職。
	6	社会保障及び関連制度①	テキストの第2章第5節。公的年金制度、雇用保険制度。
	7	社会保障及び関連制度②	テキストの第2章第5節。労働者災害補償保険制度、医療保険制度。
	8	社会保障及び関連制度③	テキストの第2章第5節。高齢者福祉・介護保険制度。
	9	社会福祉における相談援助	テキストの第3章第1・2節。（社会福祉）相談援助の意義と概念。
	10	相談援助の対象と方法・展開過程	テキストの第3章第3・4節。相談援助の種類と援助方法。
	11	相談援助の具体例	テキストの第3章第5節。保育現場における相談援助の実施方法。
	12	利用者の権利擁護と福祉サービスの質の保証	テキストの第4章。福祉サービス対象者の権利擁護。
	13	少子高齢化社会への対応・包容社会の実現・在宅福祉・地域福祉の推進・諸外国の状況	テキストの第5章。少子高齢化の状況と今後の社会福祉の動向。
	14	事例検討①	子ども家庭福祉の現場をもとにした事例検討をグループワークまたは個人ワークで行う。
15	事例検討②	子ども家庭福祉の現場をもとにした事例検討をグループ	

	10	グループワークまたは個人ワークで行う。
定期試験	試験に代わって、毎授業ごとに小課題を課す。	
準備学習に必要な時間	事前学習・事後学習に2時間程度が必要。仁短Moodleに授業レジュメを提示するので、事前に目を通しておく。また、各授業の最後に小課題を課すので、授業の振り返りとして取り組むこと。	
教科書	教科書：改訂3版 新 保育士養成講座 第4巻 社会福祉/社会福祉と相談援助：新保育士養成講座編集委員会／編 全社協（2019年）	
参考図書、教材、準備物等	教材：必要に応じて配布。また、毎回レジュメを配布。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の進め方等に関しては初回のガイダンスで説明する。 毎回の授業後、小課題を提示するので授業終了後1週間以内に提出すること。 小課題の提出をもって出席とみなし、成績評価も小課題により行う。 質問がある場合は授業中もしくは仁短moodleにある質問コーナー、Gmail等で質問すること。	
評価の配点比率	目標①4, 5, 6, 7, 8, 10, 12回目の小課題それぞれ6%、計42% 目標②1, 2, 3, 9, 11回目の小課題それぞれ6%、計30% 目標③14, 15回目の授業（事例検討①、②）において、グループワークの結果をまとめたものをグループごとに発表及び提出。事例検討①10%、事例検討②10%、計20% 目標④13回目小課題 8%	
受講上の注意	社会福祉や社会保障は小難しい、取っつきにくい分野ですが、就職して社会に出る皆さんにとっては必須の事柄です。生活の知恵を身につける意味でも興味を持って取り組んでください。	
教員の実務経験	高齢、障害、児童（スクールソーシャルワーカー）、専門職後見人など、福祉の各分野での実践経験を持つ教員が、福祉実践現場の実情を交えながら講義を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位	選択
担当教員			
小川 智枝			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子育て家庭に対する理解を深めるとともに、支援の意義や保育の専門性を活かした支援の方法について考察することである。子どもの発達にとって基礎的な環境（集団）のひとつが家庭である。その家庭の機能やあり方は、核家族化や少子高齢化などの社会のさまざまな影響を受け、大きく変化している。同時に、地域や家庭での子育てを支援する形態も多様に展開されている。保育者には、そのような家庭への理解に基づいた支援が求められる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、説明する。	DP6	15
	目標②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。	DP1	50
	目標③子育て家庭に対する支援の体制について理解し、社会資源を活用できる。	DP5	15
	目標④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について調べる。	DP3	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子ども家庭支援の意義と必要性	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	2	子ども家庭支援の目的と機能	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	6	子どもの育ちの喜びと共有	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	7	保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	8	保育者に求められる基本的態度	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	9	家庭の状況に応じた支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	10	子ども家庭支援の内容と対象	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	11	保育所等を利用する子どもの家庭への支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	12	地域の子育て家庭への支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	13	要保護児童等及びその家庭に対する支援	事後学習：テーマについてのワークシート作成
	14	事例検討	保育所における子育て支援計画作成のグループワーク。各グループで作成した支援計画についてディスカッションを行う。事後学習：テーマについてのワークシート作成
	15	子育て支援に関する課題と展望	事後学習：テーマについてのワークシートとまとめのレポート作成
定期試験	毎回のワークシート作成と、試験に代わって、全授業終了後にレポートを提出させる。		

準備学習に必要な時間	事後にワークシートを作成する。毎回2時間程度必要。
教科書	『新基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』（松原康雄他編、中央法規出版、2019）
参考図書、教材、準備物等	『保育の関わりの理論と実践 教育と福祉の専門職として』（高山静子、エイデル研究所、2019） 『MINERVAはじめて学ぶこどもの福祉10家庭支援論』（倉石哲也/伊藤嘉余子監修 伊藤嘉余子/野口啓示編著、ミネルヴァ書房、2017）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども家庭福祉」の復習をしておく。 ・講義内容、質問、考察を記入したワークシートを毎回作成する。シートは全授業終了後返却する。 ・質問等がある場合は、研究室を訪問するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①ワークシート15% (5%×3) 目標②ワークシート50% (5%×8、10%×1) 目標③ワークシート15% (5%×3) 目標④レポート20%
受講上の注意	
教員の実務経験	保育士として保育、家庭支援に携わった経験に基づき、保育の専門性を活かした子ども家庭支援について実例を挙げながら講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input checked="" type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
橋本 達昌			
幼児教育学科専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A114
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、現行の社会的養護に関する制度や仕組み、体系、対象、形態、専門職の責務、運営・支援のあり方等を子どもの人権を擁護する観点から具体的かつ実践的に学ぶことで、社会的養護の意義や基本原理、課題等について理解を深めることである。さらにこれまでの歴史の変遷を踏まえつつ、今日、一層のイノベーションが期待されている児童虐待防止施策や子どもの貧困対策についても考察していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①社会的養護領域における諸制度や社会資源について、その目的や機能を理解できる。	DP 1	30
	目標②子どもの人権擁護の視座から、社会的養護にかかわる専門職（支援者）の役割や責務を説明できる。	DP 6	10
	目標③すべての子どもを社会全体で育む児童福祉施策の大切さを自分の言葉で述べるができる。	DP 3	20
	目標④子どもの貧困問題を解消し児童虐待を防止するために、地域の社会資源を活用する力を養える。	DP 8	10
	目標⑤社会的養護システムの今日的課題を理解したうえで、近未来をも展望することができる。	DP 5	30
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 8：地域社会に貢献したいという熱意を有している。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	社会的養護の基本原則	
	2	社会的養護の歴史	
	3	子どもの権利擁護と社会的養護の基本	
	4	社会的養護の基本、意義、歴史	社会的養護の基本、意義、歴史に関するレポート課題〔1〕を提示する
	5	社会的養護の体系	
	6	乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設の実際	
	7	児童養護施設における子ども家庭支援の実際	施設養育の実践者から直接支援のあり様を聞く
	8	児童心理治療施設、児童家庭支援センター等の実際	
	9	里親、ファミリーホーム、障害系施設等の実際	
	10	社会的養護の実施体系と支援の実際	社会的養護の実施体系と支援の実際に関するレポート課題〔2〕を提示する
	11	社会的養護に関わる専門職	
	12	社会的養護とソーシャルワーク	
	13	地域福祉・子どもの貧困ソーシャルワークの実際	地域支援の実践者から直接支援のあり様を聞く
	14	施設等の運営管理	レポート〔2〕の返却と講評
	15	社会的養護の現状と課題	社会的養護制度全体を俯瞰しての現状と課題に関するレポート課題〔3〕を提示する
定期試験	試験期間中の試験に代えて、一定の単元毎に提出を求めるレポート課題3本を総合的に評価する		

準備学習に必要な時間	復習：毎回添付するPDF資料を再読するとともに、テキストの「学びを振り返るアウトプットノート」を中心に学習した内容を整理する。（2時間程度）予習：テキストの「イメージをつかむインプットノート」及び該当頁を読み込み、概要を把握する。（2時間程度）
教科書	喜多一憲監修・堀場純矢編集 「みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ」（みらい2020）
参考図書、教材、準備物等	その他、授業時に必要に応じて資料等（新聞記事等）を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回の講義時に説明する。レポートの作成方法等についても最初のレポート課題提示時に説明する。一部（課題〔2〕）のレポートはコメントを付して返却する。授業（第14回）においてレポートの講評も行う。可能な限り今日の実践をベースとした学びを提供していく
評価の配点比率	目標①レポート〔1〕30%、目標②レポート〔2〕10%、目標③レポート〔2〕20% 目標④レポート〔3〕10%、目標⑤レポート〔3〕30%
受講上の注意	本講義が、児童虐待問題や子どもの貧困問題への関心を喚起し、社会的養護の担い手を育むことに期待しています。
教員の実務経験	児童養護施設、児童家庭支援センター、子育て支援センター（地域子育て支援拠点）の統括所長として要保護児童等への支援業務に携わっている教員が、その経験を活かして社会的養護の現状や課題、最新の実践例や知見について解説する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
乙部 貴幸			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格選択	講義	ナンバリング：21B112
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、教育心理学で学んだことを基礎として、乳幼児の発達過程やそのメカニズムについてより深く理解することを目的とする。そのため、保育所保育指針・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領と関連しながら、乳幼児の心身の発達、生活と遊びを通じた学習過程について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①子どもの心身の発達を理解する	DP 2	50
	目標②生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する	DP 2	30
	目標③保育の実践と発達援助について考察できる	DP 2	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	保育心理士資格についても説明する。
	2	乳児の運動発達	
	3	乳児の認知発達	
	4	3歳未満児の運動発達	ワークシートを提示する。
	5	3歳未満児の認知発達	
	6	3歳以上児の運動発達	
	7	3歳以上児の認知(1)：数量概念	
	8	3歳以上児の認知(2)：「物語る」能力と読み書きの発達	
	9	3歳以上児の社会性(1)：遊びの発達と心の理論	課題を提示する。
	10	3歳以上児の社会性(2)：自己制御と道徳性	
	11	感覚器官の働きと発達	
	12	神経系の発生、解剖学的特徴と機能局在	
	13	ニューロンと神経伝達物質	
	14	遺伝と行動	
	15	まとめ	
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の授業外学習の時間を持つことを前提に課題、ワークシート、試験を実施します。		
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018） その他、適宜資料を配布する。		
参考図書、教材、準備物等	参考図書 谷田貝公昭・高橋弥生『データでみる幼児の基本的な生活習慣』（一藝社 2009） 新版K式発達検査法2001年版 標準化資料と実施法（ナカニシヤ出版 2008）		

課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題・ワークシートについて、特に良い取り組みであったものを個人名を伏せて授業にて紹介することがあります。
評価の配点比率	期末試験：60%（目標①：40%、目標②：10%、目標③：10%） 課題：20%（目標①：10%、目標②：10%） ワークシート：20%（目標②：10%、目標③：10%）
受講上の注意	子どもを「可愛い」と思うことは大変重要です。しかし、それだけでは子どもを理解することは難しいです。授業を通じて、子どもに対する幅広い見方を身に付けてください。なお、やむを得ない理由で欠席した場合は、担当教員にその旨を伝えてください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
乙部貴幸			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B101
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、各発達段階の運動、言語、認知、社会性等の発達のな変化とその特徴をこれまでの研究や代表的な理論を通じて理解する。また、学習の基本的原理や学習に影響を及ぼす諸要因を従来の代表的研究を基に理解し、それらを踏まえた学習を支える具体的な指導に関する基礎的な考え方を理解する。このため、講義を中心としながら、適宜ワークシートなどを用いて自ら考える機会を持ちながら授業を進めていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	①幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。	DP 2	50
	②幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習活動を支える指導について基礎的な考え方を理解する。	DP 2	50
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	発達・学習の過程を理解することの意義	授業冒頭にオリエンテーションを実施する。
	第2回	新生児期・乳児期における心身の発達のな変化	
	第3回	幼児期における心身の発達のな変化	
	第4回	児童期における心身の発達のな変化	
	第5回	青年期以降における心身の発達のな変化	
	第6回	発達の過程と規程因	
	第7回	発達の諸理論	レポート課題を提示する。欠席した場合は、担当者の研究室に説明を受けに来ることを推奨する。
	第8回	定型発達と各種障害、グレーゾーン	
	第9回	学習の基本的原理	
	第10回	注意・記憶と学習方略	
	第11回	動機づけと原因帰属	
	第12回	教育・保育における学習援助の設計	
	第13回	学級集団の特性と人間関係	
	第14回	教育・保育の評価	
第15回	教育・保育における統計		
定期試験	試験期間に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回3時間程度の授業外学習の時間を持つことを前提としてレポート課題、期末試験を実施し、評価する。		
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） その他、適宜資料を配布する。		

参考図書、教材、準備物等	『ガイドライン学校教育心理学—教師としての資質を育む—』（大野木裕明・二宮克美ほか5名、ナカニシヤ出版、2016） 『実践につながる教育心理学』（櫻井茂男監修、黒田裕二編著、北樹出版、2012）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題レポートについて、特に良かったものを個人名を伏せて授業にて紹介することがあります。
評価の配点比率	期末試験60%（目標①：30%、目標②：30%） 課題レポート40%（目標①：20%、目標②：20%）
受講上の注意	大人にとっての「当たり前」は、子どもにとってもそうだとは限りません。発達と学習に応じて変化していく「子どもたちにとっての当たり前」を理解できるように学んでください。なお、やむを得ない理由で欠席した場合は、担当教員にその旨を伝えてください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
川端 起代美			
幼児教育学科専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育士として不可欠である子どもの健康及び安全を守るための具体的な知識や技能等を身につけることである。子どもの成長発達や日常生活の養護、安全な環境整備、衛生管理、感染症対策、健康安全教育、災害対策支援等に必要な知識や技術を講義、演習を通して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育における保健的観点をふまえた保育環境や援助について理解する。	DP 1	10
	目標②関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、事故防止及び安全対策、危機管理、災害対策、子どもの発達や状態について理解し、適切な対応ができる。	DP 3	60
	目標③子どもの体調不良、けが、事故、災害等の救急時に、子どもの発達、状況に応じて適切な対応ができるように理解し、実践力をつける。	DP 2	10
目標④子どもの健康及び安全管理に関わる、組織的取り組みや健康安全教育、保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。	DP 5	20	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもの健康と安全の目的・ねらい	授業科目の課題と学習内容について理解する。
	2	子どもの成長発達と健康・保育の環境	教科書に沿っての学習
	3	子どもの日常生活の養護（生活環境、栄養、排泄、睡眠）	教科書に沿っての学習
	4	子どもの事故とその予防	教科書に沿っての学習
	5	子どもに多い病状・病気とその対処および予防①	教科書に沿っての学習
	6	子どもに多い病状・病気とその対処および予防②	教科書に沿っての学習
	7	障害をもつ子どもと家族へのかかわり方	教科書に沿っての学習
	8	児童虐待	教科書に沿っての学習
	9	災害の影響から子どもをできるだけ守る	教科書に沿っての学習
	10	地域との連携・協働	教科書に沿っての学習
	11	沐浴実習	保育の技術の習得
	12	おんぶ・抱っこの実習	保育の技術の習得
	13	女性の体	スライドにて女性の体、妊娠・子育てについての講義
	14	子どもの発達について	スライドにて子どもの発達についての講義
15	まとめ	学習内容の復習、テストに備えて学習	
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	事前学習として教科書で予習しておく（毎回1時間程度）。		
教科書	「子どもの健康と安全」 大西文子 中山書店 2019/09		

参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	教科書を基に授業を進めていく。保育の実技に関しては実習を行い実践できるように学習していく。プリントとスライドで講義をすすめていく。質問等は、講義終了時に個別対応していく。
評価の配点比率	目標① 定期試験 10% 目標② 定期試験 60% 目標③ 実技、実習態度 10% 目標④ 定期試験 20%
受講上の注意	講義と実習を取り入れながら、子どもの成長・発達、関わり方を学び、保育現場での確かな行動が取れるように、専門知識を身につけること。
教員の実務経験	助産師、妊産婦・新生児訪問指導員等、常に子育て中の保護者と関わる機会が多い経験を活かし、主に乳幼児の発達段階に応じた関わり方について教授し、実際に保育士としての乳幼児、保護者への対応、育児法や実践法について指導する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input checked="" type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
木内 貴子			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	演習	シラバス番号：21B113
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、食生活を含む生活習慣が乳幼児期に形成され、生涯にわたる基盤となることを理解し、保育者に求められる子どもの栄養や食生活に関する基本的な知識を習得することである。食事をおいしく、楽しく食べることが、心も体も健康に育つ上での基本となる。授業では①子どもを取り巻く食生活の現状、②栄養や食品の基礎知識、③子どもの発育・発達する体の生理と食の関係、④アレルギーなど特別な配慮を要する子どもの食事に関する基本的な知識について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育者に求められる栄養や食品の基礎知識を習得し、活用できる。	DP 2	20
	目標②調理実習を通して、子どもの気持ちに寄り添った食事について考えを深める。	DP 3	10
	目標③子どもの発育・発達に応じた食行動を理解し、段階に応じた援助・指導ができる。	DP 4	30
	目標④子どもの食生活上の課題や特別な配慮を要する子どもの食生活について学習し、問題や不調の早期発見、早期対応などの判断力を養う。	DP 6	30
目標⑤グループ活動では和を尊重し、協力しながら学びを高めることができる。	DP 7	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、子どもの発達と健康	授業の取り組み方の説明、子どもの栄養と食生活の意義 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：成長期にある子どもの栄養の特徴についてまとめる
	2	子どもを取り巻く食環境	子どもの食生活の現状と課題 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：食の安全性について自分の考えをまとめる
	3	子どもの発育・発達	成長発達の基本的な考え方、発育と栄養状態のアセスメント、発育・発達のリズム、発育曲線、体格指数について 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：体格指数の算出ができるようにする
	4	食べる機能と消化吸収機能の発達と栄養	食べ方の発達、栄養の生理 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：消化器系の働きについて整理する
	5	栄養素の種類と基礎（糖質、脂質、たんぱく質）	3大栄養素の働き、その食品と栄養的特徴 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：3大栄養素の働きと特徴についてまとめる
	6	栄養素の種類と基礎（ビタミン、ミネラル）	ビタミン・ミネラルの働き、その食品と栄養的特徴 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：ビタミン、ミネラルの働きと特徴についてまとめる
	7	虫歯予防と歯の栄養	歯と栄養について情報収集とまとめ、発表（グループワーク） 事前学習：虫歯予防と食についての情報収集 事後学習：発表の振り返り
	。	子どもの疾病と体調不良	子どもの疾病と体調不良の原因、対処方法 事前学習：範囲の教科書を読む

	○		事後学習：子どもの疾病とその対処法を一覧にまとめる
	9	障がいのある子どもの食生活	障がいのある子どもの食生活の特徴、食事支援の方法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：障害のある子どもの食事支援についてまとめる
	10	子どもと食物アレルギー	食物アレルギーの原因と症状、その対処法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：アレルギー児に対する保育の場での注意点をまとめる
	11	バランスの良い食事の実践	「日本人の食事摂取基準」「食品群」「食事バランスガイド」 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：食品群の特徴をまとめる
	12	望ましい献立と調理の基本	献立の考え方と基本的な調理の方法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習手順に沿って自分の1日分の献立を作成する
	13	子どもの食生活の現状と課題	子どもの食生活の現状と課題の情報収集、考察、解決策の提案発表（グループワーク） 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：発表の振り返り
	14	調理実習（野菜を食べよう）	14・15回、2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成
	15	調理実習（野菜を食べよう）	14・15回、2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成
定期試験	試験期間中に筆記試験を行います。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習を要します。事前学習では教科書の予定範囲部分を読んでおきましょう。事後学習で授業内容をノートにまとめるようにしましょう。		
教科書	岩田章子 寺嶋昌代 編 「新・子どもの食と栄養」 出版社（株みらい 2021）		
参考図書、教材、準備物等	「日本食品標準成分表七訂」（医歯薬出版(株) 2020）、厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）その他適宜案内します。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組みについては第1回のガイダンスで詳しく説明します。提出物は期日厳守とします。課題の内容が十分でない場合は再提出となることがあります。		
評価の配点比率	期末定期試験45% 課題40% グループワーク活動10% 調理実習5% 目標①期末定期試験15% 課題5% 目標②調理実習5% 課題5% 目標③期末定期試験15% 課題15% 目標④期末定期試験15% 課題15% 目標⑤グループワーク10% 実習態度、課題・レポートの内容を総合的に評価する。		
受講上の注意	この授業を通して、栄養の基礎知識をしっかりと身に付け、保育者として子どもに寄り添い、子どもが食事を楽しめるような支援ができるようになることを目指しましょう。グループワークに備え、下調べ、情報収集をしましょう。調理実習ではマニキュアを取る、清潔なエプロンを着用するなど身なりを整え、衛生管理に努めましょう。また、けがのないように注意しましょう。		
教員の実務経験	保育園において栄養士経験がある教員が、現代の子どもの食を取り巻く環境をふまえ、適正な食習慣を支援するための食について講義し、実践的な演習を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	必修
担当教員			
松川 恵子			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育の基本について理解するとともに、全体的な計画（教育課程）と指導計画の関係や編成・作成方法を理解することである。幼児教育現場（幼稚園・保育所・認定こども園）の保育は、計画－実施－反省・評価－改善という循環を積み重ねることにより、保育の質を向上させている。この授業では、「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み進めながら、保育の基本について、全体的な計画（教育課程）と指導計画の意義やカリキュラム・マネジメントの重要性などについて学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①「幼稚園教育要領」および「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに乳幼児期の教育・保育についての基本的な考え方を説明することができる。	DP 1	60
	目標② 全体的な計画（教育課程）及び指導計画の意義や役割、作成・編成の方法等について説明することができる。	DP 5	20
	目標③計画－実施－反省・評価－改善の過程やカリキュラム・マネジメントの重要性について説明することができる。	DP 5	10
	目標④部分指導案を作成することができる。	DP 5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育・保育をめぐる動向（保育所と幼稚園、認定こども園）	事前に、講義概要を読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	2	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の成立・改訂の変遷並びにその社会的背景	事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	3	乳幼児期の教育・保育の基本①（環境を通して行う教育・保育）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	4	乳幼児期の教育・保育の基本②（乳幼児期にふさわしい生活の展開）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
	5	乳幼児期の教育・保育の基本③（遊びを通しての総合的な指導）	事前に「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
		乳幼児期の教育・保育の基本④（一人一人の発達の特性に応じた指導）	事前に「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。

6		事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
7	ねらい及び内容の考え方と領域の編成	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
8	ねらい及び内容と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び幼稚園幼児指導要録（保育所児童保育要録）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
9	教育課程・全体的な計画の意義や役割	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
10	教育課程・全体的な計画編成の方法（長期的な視野、乳幼児の発達過程、地域の実態）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
11	教育課程・全体的な計画と指導計画の関係	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
12	指導計画の作成方法	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
13	指導計画作成演習	課題② 附属幼稚園実習の指導案作成
14	指導計画作成から実施、反省・評価（保育士の自己評価）、改善の過程の循環による教育・保育の質の向上	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。
15	教育課程・全体的な計画の評価・改善とカリキュラム・マネジメント及び学校評価（保育所の自己評価）	事前に、「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の該当するところを読んでおきましょう。 事後に、配布資料を基に授業の内容を復習しましょう。 課題③ 第9回～第15回の授業内容に関するレポート
定期試験	試験期間中に筆記試験を行います。	
準備学習に必要な時間	毎回、事前学習 1 時間程度、事後学習 1 時間程度が必要です。特に、附属幼稚園実習の指導案作成には多くの時間が必要です。	
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）	
参考図書、教材、準備物等	倉橋惣三『育ての心』（フレーベル館） 小泉裕子編著『保育原理～世界の保育者と共に～』（東洋館出版 2017） 適宜、資料を配布します。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題1・3は、授業の内容について自分の考えをまとめ、記入してください。後期「保育内容総論」の第1回目の授業でフィードバックします。 課題2については、添削し、実習前に返します。	
評価の配点比率	目標① 試験期間中の試験 30%、課題① 25%、ポートフォリオ 5% 目標② ポートフォリオ 10%、課題③ 10% 目標③ 課題③ 10% 目標④ 課題② 10%	
受講上の注意	授業で配布される資料はファイルに綴っておきましょう。授業終了後、ポートフォリオとしてまとめ、提出してもらいます。 提出物は期限を守りましょう。提出物の遅れについては減点します。	

教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、「計画 (P) - 実践 (D) - 評価 (C) - 改善 (A)」の過程、教育課程 (全体的な計画) と指導計画の関係性などについて、具体例を挙げながら授業を行うとともに、附属幼稚園実習の指導計画を作成できるよう指導を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習 (PBL) <input type="checkbox"/> 討議 (ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 (プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習 (実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業 (クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援 (LMS 等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
江端 佳代			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、幼稚園教育要領、保育所保育指針等の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いを理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識や技術を身に付ける。特に、乳幼児期の発育発達の過程などの特徴を理解し、具体的な指導の場面を想定して、保育の構想や指導方法を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。	DP 1	30
	目標②乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	DP 4	20
	目標③指導案の構造について理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	DP 5	40
	目標④「健康」において幼児が経験し身に付いていく内容と小学校教育の関連について理解する。	DP 3	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（教育・保育における「健康」とは）	自分自身の健康について、生活習慣などのアンケートで考察する。授業後は子どもの身近なモデルになることを意識し、自己の向上に努めていくようにする。
	2	乳幼児の健康をめぐる現状と課題について『幼児期運動指針』の理解	『幼児期運動指針』を事前に読み、問題点や課題について自分なりに考えをまとめておく。
	3	領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いの理解①（3歳未満児）	事前に『保育所保育指針解説』を読んでおく。また、復習として再度読み返し、ポイントなどまとめ、教科書の事例等で確認する。
	4	領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いの理解②（3歳以上児）	事前に『幼稚園教育要領解説』を読んでおく。また、復習として再度読み返し、ポイントなどまとめ、教科書の事例等で確認する。
	5	乳幼児期の基本的な生活習慣の形成について	事前に教科書を読んでおく。授業後はワークシート等で見直し、整理しておく。
	6	食育について	事前に配布される関係資料や教科書を読んでおく。食育に関する絵本を用意し、読み聞かせができるようにしておく。授業後はワークシート等で見直し、整理しておく。
	7	安全教育・事故防止について	DVDを視聴し、幼児の事故やけがの実態について知り、安全への意識を高める。「災害の備え」について自分の考えをまとめておく。
	8	食事や排泄、生活など基本的な生活習慣①（情報機器及び教材を活用した保育の構想）	第5, 6, 7回の授業を活かしながら、基本的な生活習慣、食育、安全のいずれかでグループでテーマを決め、教材を作成する。幼児に実際に指導するつもりで教材作成を行うこと。
	9	食事や排泄、生活など基本的な生活習慣②（模擬保育と振り返りによる保育の改善）	第5, 6, 7回の授業を活かしながら、基本的な生活習慣、食育、安全のいずれかでグループでテーマを決め、教材を作成する。幼児に実際に指導するつもりで教材作成を行うこと。

10	避難訓練、交通安全などの安全指導①（情報機器及び教材を活用した保育の構想）	設定保育として発表し、グループで検討する。事前学習として、グループで発表の練習を十分行っておくこと。事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
11	避難訓練、交通安全など安全指導②（模擬保育と振り返りによる保育の改善）	設定保育として発表し、グループで検討する。事前学習として、グループで発表の練習を十分行っておくこと。事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
12	運動遊びを中心とした指導計画の立案	指導案について理解し、各自指導案を作成する。
13	運動遊びの実際と評価①（模擬保育と振り返りによる保育の改善-鬼遊び・ルールのある遊び）	各自作成した指導案を、実習のグループ毎で検討をし、模擬保育を行う。事前学習として、実習配属年齢の発達について資料を読み、理解し、発表の準備をしておくこと。また、事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
14	運動遊びの実際と評価②（模擬保育と振り返りによる保育の改善-ボールやフープなどを利用した遊び）	各自作成した指導案を、実習のグループ毎で検討をし、模擬保育を行う。事前学習として、実習配属年齢の発達について資料を読み、理解し、発表の準備をしておくこと。また、事後学習として発表内容を修正し、附属幼稚園実習に活かす。
15	領域「健康」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育とのつながり	最後に授業全体としてのレポート課題を提示する。
定期試験	試験期間中の試験に代えて、全授業終了後にレポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前事後学習を必要とする。特に、指導案の作成や指導に必要な教材作成においては、各自入念に準備をすること。また、模擬保育やグループ発表の前には、練習時間が必要となる。	
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』（無藤隆監修、萌文書林、2018） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）	
参考図書、教材、準備物等	『これで安心！保育指導案の書き方』（開仁志著、北大路書房、2008）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第1回目のオリエンテーションで説明する。実際の保育の場をイメージして、授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。作成した指導案、教材など学習した足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。ポートフォリオやレポート課題は添削、講評し、返却する。なお、質問などある場合はオフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。	
評価の配点比率	目標① 確認テスト30% 目標② 課題レポート20% 目標③ 指導案作成及び模擬保育40% 目標④ 課題レポート10%	
受講上の注意	自分自身の生活リズムや健康について意識しながら、学んでいきましょう	
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、実際に保育で活用できるような教材の作成や指導のあり方について演習を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
江端 佳代			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C502
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針等領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解し、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な知識や技術を身に付ける。特に乳幼児期の社会的な発達の過程を理解し、具体的な姿を想定して、保育の構想や指導方法を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児期の教育・保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。	DP 1	30
	目標②乳幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。	DP 5	40
	目標③乳幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育の構想に活用することができる。	DP 4	20
	目標④幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教育等とのつながりについて理解する。	DP 3	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（教育・保育における「人間関係」とは）	毎回配布する資料はファイルに綴じておく。授業後は幼児の身近なモデルになることを意識し、自己の向上に努めていくようにする。
	2	乳幼児の人間関係をめぐる諸問題や課題について	問題提起の資料を前の授業で配布するので、自分なりに課題について考えをまとめておく。授業後は、資料・教科書等で振り返り、復習する。
	3	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて①（3歳未満児）	事前に『保育所保育指針解説』を読んでおく。教科書やワークシートにて授業の振り返りを行う。
	4	領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて②（3歳以上児）	事前に『幼稚園教育要領解説』を読んでおく。教科書やワークシートにて授業の振り返りを行う。
	5	乳幼児と保育者との関わり①（信頼関係を形成する環境や関わり）	0, 1, 2歳児を意識した教材を作成する。授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、発達について復習する。
	6	乳幼児と保育者との関わり②（自己主張から自立に向かう保育者の援助や関わり）	手作り教材のグループ発表をする。授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、保育者の援助や関わりについて復習する。
	7	遊びの中での人との関わり①（けんかやトラブルなどいざこざにおける保育者の援助）	授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、保育者の援助や関わりについて復習する。
	8	遊びの中での人との関わり②（規範意識や道徳性の芽生えを育てるとは）	授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、保育者の援助や関わりについて復習する。第2回から第8回の授業内容について、確認テストを行う。
	9	集団で活動する楽しさとは（協同的な遊びを通して育まれること）	事前に教科書や『幼稚園教育要領解説』を読んでおく。ワークシートにて授業の振り返りを行う。
10	協同的な活動の展開①（運動会やごっこ遊びのための情報機器及び教材を活用した保育の構成と指導案作成）	指導案を作成するグループワーク。必要な教材についてもグループで作成する。	

11	協同的な活動の展開②（模擬保育と振り返りによる保育の改善）	設定保育として発表し、グループで検討する。事前学習として、発表の準備、事後学習として発表内容を振り返り改善する。
12	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通じた幼小接続についての理解	幼小接続の資料を前の授業で配布するので、自分なりに課題について考えをまとめておく。授業後は、資料等で振り返り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について説明できる。
13	気にかかる乳幼児、特別な支援を要する乳幼児への関わりと援助	授業後は教科書を読み、保育者の関わり、支援についてのポイントを確認する。また、授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、復習する。
14	乳幼児の育ちを支える環境（保育の構想並びに情報機器及び教材を活用した保育構想の向上）	授業後は教科書を読み、保育者の関わり、支援についてのポイントを確認する。また、授業中に作成したワークシートや教科書の事例を読み返し、復習する。
15	領域「人間関係」における保育者の役割（保育構想の向上に向けて）	授業全体を通して、レポート課題を提示する。
定期試験	試験期間中に試験に代えて、全授業終了後にレポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前事後学習が必要とする。特に指導案作成や指導に必要な教材作成においては、各自入念に準備をすること。また、模擬保育やグループ発表の前には、練習時間が必要となる。	
教科書	『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』（無藤隆監修、萌文書林、2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）	
参考図書、教材、準備物等	『これで安心！保育指導案の書き方』（開仁志著、北大路書房、2008）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第1回目のオリエンテーションで説明する。実際の保育の場をイメージして、授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。作成した指導案、教材など学習した足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。振り返りカードやポートフォリオ、レポートは、講評や添削を行い、返却する。なお、成績評価を含め、質問などある場合はオフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。	
評価の配点比率	目標① 確認テスト30% 目標② 指導案作成及び模擬保育、教材作成40% 目標③ 課題レポート 20% 目標④ 課題レポート 10%	
受講上の注意	自分と人とのかかわりを意識しながら学んでいきましょう。	
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、乳幼児への関わりや援助のあり方について、具体的な事例を挙げながら講義を行う。また、「計画（P）-実践（C）-評価（C）-改善（A）」の過程や保育の構成について、模擬授業等を通して演習を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
山下 清美			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	科目ナンバリング：21C503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、領域「環境」の 1ねらい 2内容 3内容の取扱いを理解した上で、指導法を学び身に付けることを目標とする。そのために、(1)身近な自然との関わり、(2)身近な物との関わり、(3)身近な動植物との関わり、(4)生命の尊さ、(5)文化・伝統・行事、(6)数量・図形、(7)標識・文字等について、アクティブラーニングや実践的体験を積み、子どもの発達段階や安全面を考慮した上で、『主体的・対話的で深い学び』が実現する保育を学び、保育者としての技術や資質を高める。また、授業で『聞く・見る・話す・考える・体験する・振り返る』という学びを通して、思考力・判断力・表現力を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて理解できる。	DP 1	10
	目標②領域「環境」のねらいを達成する具体的な遊びや保育内容、指導法を知る。	DP 2	10
	目標③子どもの発達段階に応じた補助教材を作ることができる。	DP 3	10
	目標④環境構成や保育者の援助の大切さについて知り、身に付ける。	DP 4	10
	目標⑤アクティブラーニングを通して、保育内容や環境構成、教材準備について、他者と話し合ったり評価したり等、意見交換ができる。	DP 5	20
	目標⑥領域「環境」のねらいの『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育を計画、立案、実践（模擬保育）から、振り返りを通して保育者としての技術や資質を高める。	DP 5	30
目標⑦自然や生命に関する豊かな心情を育成できる。	DP 6	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	・オリエンテーション ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて（3～5歳児） ・自然を意識した歌の補助教材作り	・授業の領域「環境」について到達目標や内容等を知る。 ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて知る。（3～5歳児） ・附属幼稚園実習の経験を通して、グループで話し合い気付いたことや感想等をまとめる。 ・実際に補助教材作りを行い、歌を歌う。 【自主学習】 ・要領・指針等の領域「環境」を読んでくる。 ・学びのワークシート①を記入する。
2	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて（0～2歳児） ・虫取り・園外保育等を通しての育ちや、出かける時の安全や準備物等の指導法について①	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱いについて（0～2歳児） ・グループワークを通して、虫取り・園外保育の育ちや出かける時の注意点について、まず、自分たちで考える。 【自主学習】 ・『学びをつなぐ希望のボタンカリキュラム』【10の姿が育つプロセス】を読んでくる。 ・学びのワークシート②を記入する。	

3	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を意識した環境構成と遊びについて 虫取り・園外保育等を通しての育ちや、出かける時の安全や準備物等の指導法について②（虫取りを経験する） 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然を意識した環境構成と遊びについて話し合い考える。（グループワーク） 実際に堤防に出かけ、虫取りを経験する。 昆虫を知る。（バッタ・カマキリ・コオロギ等） 【自主学习】 学びのワークシート③を記入する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 栽培・飼育を中心とした環境構成と遊びの発展について① 身近な動植物との関わり（カブトムシ） 自然や生命の尊さに関する指導法について 	<ul style="list-style-type: none"> 実際にカブトムシを見て、触れて、観察する。 特に飼育を通して、子どもが生命の尊さを学ぶ指導法について考える。（グループワーク） 【自主学习】 学びのワークシート④『カブトムシの生態や飼育の『仕方』の補助教材用飼育パネルA4作成。（個人）
5	<ul style="list-style-type: none"> 栽培・飼育を中心とした環境構成と遊びの発展について② 	<ul style="list-style-type: none"> 『昆虫の生態や飼育の仕方』の環境としての飼育パネル作成。（題材や内容をグループで話し合う） 【自主学习】 グループで作成するパネルの内容を下調べする。 学びのワークシート⑤を記入する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 栽培・飼育を中心とした環境構成と遊びの発展について③ 	<ul style="list-style-type: none"> 『昆虫の生態や飼育の仕方』の環境として、飼育パネルを作成。（題材や内容をグループで作成） 昆虫の生態・飼育パネルを説明する。（グループ内で他者に話したり、他者の話を聞いてたりして学ぶ） 【自主学习】 要領・指針等の領域「環境」を読んでくる。 学びのワークシート⑥を記入する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な遊びと園行事における環境構成について 	<ul style="list-style-type: none"> 伝統的な行事の内容の取扱いについて知る。 伝統的な遊びを経験する。 【自主学习】 伝統的な行事を調べる。 学びのワークシート⑦を記入する。
8	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形・標識や文字等を意識した環境構成と遊びについて 	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形・標識や文字等を意識した環境構成と遊びについて知り、話し合う。（グループワーク） 実際に数量や図形・標識や文字等を意識した遊びを経験する。 【自主学习】 要領・指針等の領域「環境」を読んでくる。 学びのワークシート⑧を記入する。
9	<ul style="list-style-type: none"> 身近な物を意識した環境構成と遊びについて 園生活を豊かにする環境構成について（生活・安全等） 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で様々な物に触れたり、身近な物を遊びに取り入れたりすることで、生活を豊かにする環境構成を考える。また、物を大切に育てる保育を考える。 生活や安全面についての環境構成について話し合い考える。（グループワーク） 【自主学习】 ハサミの使い方について考える。 学びのワークシート⑨を記入する。
10	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材等のICTを利用した環境作りの工夫について 模擬保育① 領域「環境」のねらいを達成する『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育（保育の計画と指導案の作成） 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚教材等のICTを利用した環境作りの工夫について具体的に考える。 子どもが環境に関わり、考えたり、工夫したり試したり出来る、『主体的・対話的で深い学び』に向かう遊びや環境について考える。（グループワーク） 【自主学习】 学びのワークシート⑩指導案を書く。
11	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育② 領域「環境」のねらいを達成する『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育（環境の準備） 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な環境について話し合い準備する。（グループワーク） 【自主学习】 学びのワークシート⑪を記入する。
12	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育③ 領域「環境」のねらいを達成する『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育（環境の準備と練習） 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な環境について話し合い準備する。（グループワーク） 【自主学习】 学びのワークシート⑫を記入する。
13	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育④ 当日 領域「環境」のねらいを達成する『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育 	<ul style="list-style-type: none"> 実際に附属幼稚園・保育園の5歳児を招いて領域「環境」の模擬保育をする。 【自主学习】 学びのワークシート⑬模擬保育の振り返りを記入する。
14	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育⑤ 振り返り 領域「環境」のねらいを達成する『主体的・対話的で深い学び』を実現する保育（評価と改善） 保育ドキュメンテーションについて 	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育を振り返り、グループで意見交換をして、指導案の『評価・反省（振り返り）』の欄に記入する。 【自主学习】 学びのワークシート⑭保育ドキュメンテーションを書く。
15	<ul style="list-style-type: none"> 模擬保育を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を確認し、幼児教育から小学校教育への接続を意識する 授業のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ノートのとまとめと確認 【自主学习】 ノートを見直し、試験に備える。
定期試験	試験期間中に試験を行う。	
準備学習に必要な時間	毎回自主学习として、1時間程度の事前・事後学習が必要である。（具体的な内容は授業計画の中に記入及び、授業毎に説明する）	
教科書	使用しない。	

参考図書、教材、準備物等	参考図書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 教材：テーマに基づいて資料を作成し、配布する。								
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内容をまとめるためのノートを準備する。（配布されたプリント、課題、授業で学んだことなどをまとめる。） 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験とする。 ノートは定期試験終了時に、解答用紙とともに提出するが、後日、フィードバックするので、将来現場で役に立たせる。								
評価の配点比率	授業のまとめ及び最終レポート（50%） 目標①・・・5%・目標②・・・5%、目標③・・・10%・目標④・・・5%・目標⑤・・・10%・目標⑥・・・15%・目標⑦・・・5% 筆記試験（50%） 目標①・・・5%・目標②・・・5%、目標③・・・10%・目標④・・・5%・目標⑤・・・10%・目標⑥・・・15%・目標⑦・・・5%								
受講上の注意	本科目は、乳幼児に携わる保育者の、領域「環境」に関する具体的な指導法を学び、保育者としての資質・能力を高めることを目的としている。授業では『聞く・見る・話す・考える・体験する・振り返る』ことを大切にし、ノートのまとめ方も学んで欲しいので、忘れ物がないように注意すること。								
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かして実際に模擬保育を行い、指導案を書いたり、環境を整えたり、保育ドキュメントを書いたりしながら、子どもの学びを読み取る力を養い援助する保育者の資質・能力の向上に重点を置いた授業を行う。								
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<table border="0"> <tr> <td>■課題解決型学習（PBL）</td> <td>■討議（ディスカッション、ディベート）</td> <td>■グループワーク</td> <td>■発表（プレゼンテーション）</td> </tr> <tr> <td>■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク</td> <td>□反転授業</td> <td>□双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等）</td> <td>□自主学习支援（LMS等）</td> </tr> </table>	■課題解決型学習（PBL）	■討議（ディスカッション、ディベート）	■グループワーク	■発表（プレゼンテーション）	■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク	□反転授業	□双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等）	□自主学习支援（LMS等）
■課題解決型学習（PBL）	■討議（ディスカッション、ディベート）	■グループワーク	■発表（プレゼンテーション）						
■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク	□反転授業	□双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等）	□自主学习支援（LMS等）						

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
前田 敬子			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C504
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、言葉の領域によって乳幼児が身に付ける内容と、小学校以降の生活や学習との関連を取り上げ、小学校との円滑な接続の必要性とその具体的な実践について理解できること、及び、保育者として必要な言葉に関する知識や技能を修得し、物語や言葉に関する感性を高めることを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された保育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。	DP1	20
	目標②領域「言葉」に関わる乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。	DP5	50
	目標③自分の考えを表現し、他者の助言や意見を聴いた上で、自分なりに考えを広げ深めるように努力して課題解決することができる。	DP6	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（実習の振り返り・領域「言葉」のねらい）	観察参加実習の体験を振り返り、子どもの言葉をめぐる観察事項をまとめ、領域「言葉」の項目と結び付ける。
	2	領域「言葉」の理解	幼児教育の具体的な場面を思い起こし、幼稚園教育要領の領域「言葉」を結び付けて関連を説明できるように準備しておく。
	3	領域「言葉」の「ねらい及び内容」と保育の構想	幼稚園・保育園の「ことば」に関する環境整備や保育活動における言葉の要素を具体的に挙げるようにしておく。
	4	言葉を育む保育活動の展開を考える（指導案の作成）	自身が経験したり、見聞きしたりした幼児教育現場の言葉を育てる活動の指導案を書いてみよう。
	5	模擬保育①（第1グループの発表）	『幼稚園教育要領』の言葉以外の領域に目を通し、具体的な活動と結び付けて説明できるようにしておく。
	6	模擬保育②（第2グループの発表）	いくつかの手遊びを覚え、実践できるようにする。
	7	模擬保育③（第3グループの発表）	絵本の読み聞かせの仕方や選び方の注意事項を確認する
	8	模擬保育④（第4グループの発表）	パネルシアターの演じ方を確認する。
	9	模擬保育⑤（第5グループの発表）	紙芝居の演じ方を確認する。
	10	領域「言葉」と小学校「国語」との関連①（小学校学習指導要領「国語」編）	小学校「国語」の思い出を振り返り、それが幼児期とどのようなつながりをもつかを考える。
	11	領域「言葉」と小学校「国語」との関連②（小学校低学年の教材）	絵本と教科書とで、同じ話を扱うものを例として、その違いを理解する。
	12	言葉の感覚を豊かにする実践①（情報機器や教材の工夫—ことば遊び）	手遊びや絵描き歌など、言葉の楽しさに触れる体験を探してみよう。
	13	言葉の感覚を豊かにする実践②（情報機器や教材の工夫—なぞなぞ遊び）	なぞなぞを仲間同士で出し合うとき、より興味をひく表現方法を考えよう。
14	言葉の感覚を豊かにする実践③（情報機器や教材の工夫—聴いて描く）	正しく伝え、わかり合うためには、どのように工夫すべきかを考えよう。	

	15	言葉の感覚を豊かにする実践④（実践の振り返りと保育構想の向上に向けた改善）	実習時の指導案を振り返り、更に豊かに展開する保育活動を目指すにはどのようにすべきか考える。
定期試験	試験期間中の試験に代わって、毎時間のレポートと「ねらい・内容」の書き方を中心とした指導案、まとめレポートで評価する。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度、テキストの下読みや事前課題、事後課題の学習を必要とする。		
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編 新版実践保育内容シリーズ④『言葉』（谷田貝公昭・廣澤満之編、一藝社、2018）		
参考図書、教材、準備物等	参考書：『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第1回のガイダンスで説明する。子どもの育ちを言葉の面から概観し、子どもの心と言葉を豊かにできる保育者をめざす。ほぼ毎時間、授業内容を振り返り、学んだ内容を文章にまとめるが、後日その文章は返却される。その活動を通して、学び取る力、総合的な指導力を身につける。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。		
評価の配点比率	目標①言葉に関する保育活動・教育の本質に関心を深めるために研究レポートを提出する。20% 目標②領域「言葉」に関連する指導案を作成し、わかりやすく説明する。50% 目標③指導案の発表をふまえて改善点をあげ、具体的な方法を提示する。30%		
受講上の注意	言葉に対して自覚的になることがスタート地点である。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
山下 清美			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C505
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業は、領域「表現」の 1ねらい 2内容 3内容の取扱いを確認した上で、「子どもと表現(造形)」及び「子どもと表現(音楽)」の授業と連携しながら、指導場면을想定した保育を体験する。そのために、表現活動を(1)造形表現活動 (2)音楽表現活動 (3)身体表現活動 (4)言語表現活動の4つに分けて、具体的な指導法を学ぶ。また、指導場면을「発表会」とした模擬保育を実施し、指導案を立てて環境構成をした中で、幼児を招いて発表したり指導したりする。経験からの学びを重視し、「振り返り」を行い、保育を改善する方法を身に付ける。授業の形態としては、アクティブラーニングが中心であるが、講義や情報機器の活用、実技や体験など、授業内容によって最も効果的な方法で行う。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等における領域「表現」を理解し説明ができる。	DP 1	10
	目標②心情・意欲・態度など表現遊びを通しての学びの過程を理解し説明ができる。	DP 2	10
	目標③乳幼児の発達に即した表現遊びと環境作りや、乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し説明ができる。	DP 3	20
	目標④領域「表現」のねらいや内容を達成するために具体的に保育を計画し、指導案を作成して実際に模擬保育をする。	DP 4	20
	目標⑤指導場면을「発表会」とした模擬保育を実施し、実際に幼児と体験する。	DP 4	20
	目標⑥振り返りを通して保育を改善する視点を身に付ける。	DP 5	10
目標⑦領域「表現」における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教育との接続を確認し、理解する。	DP 5	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における領域「表現」について（3～5歳児） ・当番表を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・幼稚園教育要領及び保育所保育指針等における領域「表現」について（3～5歳児） ・当番表を作成 【自主学習】 ・要領・指針の領域「表現」を読んでくる。 ・学びのワークシート①を記入する。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域「表現」について（0～2歳児） ・造形表現活動①（描いたり作ったりする遊びと乳幼児の育ちについて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針における領域「表現」のねらい・内容・内容の取扱いについて知る。（0～2歳児） ・造形表現活動について考える。 【自主学習】 ・『学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム』【10の姿が育つプロセス】を読んでくる。 ・学びのワークシート②を記入する。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動②（描いたり作ったりする遊びと乳幼児の育ちについて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・造形表現活動について考える。 ・描いたり作ったりする遊びと指導法を学ぶ。 【自主学習】 ・学びのワークシート③を記入する。
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現活動①（歌・手遊び・歌遊び・わらべうたあそびの指導のあり方と乳幼児の育ちについて） 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現活動について考える。 ・いろいろな歌や手遊び・歌遊びやわらべうたあそびを実際に行う。 【自主学習】 ・学びのワークシート④を記入する。

5	・音楽表現活動② (歌と合奏の指導のあり方と乳幼児の育ちについて)	・打楽器の種類や持ち方、奏法を知る。 ・合奏指導について考える。 ・実際に歌と合奏をする。 【自主学习】 ・学びのワークシート④を記入する。
6	・身体表現活動① (乳幼児の発達段階にあったダンスや体操)	・身体表現活動について考える。 ・ダンスや体操を行い、紙面に描く方法を知る。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑥を記入する。
7	・身体表現活動② (乳幼児の発達段階にあったダンスや体操の創作と紙面の描き方)	・乳幼児の発達段階にあったダンス・体操等の振り付けを考え、紙面に描く。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑦を記入する。
8	・言語表現活動 (感じたこと・考えたことを言葉で表現する乳幼児を支える指導法)	・言語表現活動について考える。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑧を記入する。
9	・領域「表現」に関する指導案の作成	・指導案作成の必要性について知る。 ・指導案の書き方を知る。 ・授業で行った表現活動の指導案を書く。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑨指導案を完成させる。
10	・模擬保育「発表会」に取り組む① (乳幼児の年齢を想定したプログラムの構想)	・「発表会」を通しての幼児の学びと指導法を知る。 ・グループ毎に、出し物を相談して決め、内容を具体化する。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑩を記入する。
11	・模擬保育「発表会」に取り組む② (大道具・小道具・衣装について) (準備・練習)	・「発表会」に必要な、大道具・小道具・衣装を作成し、練習する。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑪を記入する。
12	・模擬保育「発表会」に取り組む③ (準備・練習)	・「発表会」に必要な、大道具・小道具・衣装を作成し、練習する。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑫を記入する。
13	・模擬保育「発表会」に取り組む④ (情報機器及び教材の活用—プログラムの具体化) (準備・練習)	・情報機器及び教材を活用してプログラム作りをする。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑬プログラムを作成する。
14	・模擬保育「発表会」に取り組む⑤ 当日 (園児を招いて発表・園児と一緒に遊ぶ)	・幼児を招いて発表したり指導したりする。 【自主学习】 ・学びのワークシート⑭振り返りを記入する。
15	・模擬保育「発表会」の振り返り ・領域「表現」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の確認及び、幼児教育から小学校教育への接続を意識した、保育構想の向上 ・授業のまとめ	・模擬保育の振り返りをする。 ・領域「表現」に関する「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の確認 ・ノートのまとめと確認 【自主学习】 ・ノートを見直し、試験に備える。
定期試験	試験期間中に筆記試験を行う。	
準備学習に必要な時間	毎回自主学习として、1時間程度の事前・事後学習が必要である。(具体的な内容は授業計画の中に記入及び、授業毎に説明する)	
教科書	使用しない。	
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フューエル館、2018) 『保育所保育指針解説書』(厚生労働省、フューエル館、2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フューエル館、2018) 教材：テーマに基づいて資料を配布する。	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	授業内容をまとめるためのノートを準備する。(配布されたプリント、課題、授業で学んだことなどをまとめる。) 定期試験は、授業でまとめたノートを持ち込んでの筆記試験とする。 ノートは定期試験終了時に、解答用紙とともに提出するが、後日、フィードバックするので、将来現場で役に立たせる。	
評価の配点比率	授業のまとめ及び最終レポート (50%) 目標①・・・5%・目標②・・・5%、目標③・・・10%・目標④・・・10%・目標⑤・・・10%・目標⑥・・・5%・目標⑦・・・5% 筆記試験 (50%) 目標①・・・5%・目標②・・・5%、目標③・・・10%・目標④・・・10%・目標⑤・・・10%・目標⑥・・・5%・目標⑦・・・5%	
受講上の注意	本科目は、乳幼児に携わる保育者の、領域「表現」に関する具体的な指導法を学び、保育者としての資質・能力を高めることを目的としている。授業では『聞く・見る・話す・考える・体験する・振り返る』ことを大切にし、ノートのまとめ方も学んで欲しいので、忘れ物がないように注意すること。	
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かして、実際に指導場面を想定した保育を体験する授業や、指導案を書いたり環境を整えたりしながら、子どもの学びを読み取る力を養い、適切な援助をすることに重点を置いた授業を行う。また、授業の積み重ねの中で、保育者としての表現力も養っていききたい。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習(PBL) ■討議(ディスカッション、ディベート) ■グループワーク ■発表(プレゼンテーション) ■実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) □自主学习支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	必修
担当教員			
前田 敬子			
幼児教育学科必修科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、生活に必要な国語について特質を理解し適切に使うことができ、人との関わりの中で伝え合う力を高め、言葉がもつ良さを認識するとともに、言語感覚を養うことを目的とする。 ※本授業は、初年次教育科目である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①正しい漢字や仮名遣い、慣用句、四字熟語などを理解し、話や文章のなかで使うことができる。	DP3	50
	目標②目的や意図に応じて、題材を決め、伝えたいことを明確にして、文章や口頭で表現することができる。	DP6	20
	目標③読み手や聴き手の質問に答えたり、助言を聴いたりする中で、自己の表現を謙虚に振り返り、改善することができる。	DP9	10
	目標④実習に臨むために必要な文章表現及び社会人として必要な文章表現の基礎を身に付ける。	DP6	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	実習ノートやエピソード記述の文章例を見て、気付いたことを発表しよう。 筆記具の持ち方、話し言葉と書き言葉	小説、新聞などの散文の中で、自分が乗り越えて行くべき課題の力になる文章を見つけて、書き写していこう。(初年次教育)
	2	自己紹介の文章を書こう。正しい漢字表記を知ろう(1)	どのような自己紹介をすれば、その先の展開があるかを考えよう。
	3	インタビューした内容をまとめよう。	見聞きしたことと書いたことを書き分けよう。人物像を描き出そうとするとき、どの部分を丁寧に書けばよいかを工夫しよう。
	4	正しい漢字表記を知ろう(2)・調べるテーマを決めよう。	高校までに学んだ漢字の中で、自分によって誤り易い漢字を挙げてみよう。調べたい内容をリストアップして書き出してみよう。
	5	送り仮名の決まりを知ろう。	動詞・形容詞・形容動詞の活用表を確認し、理解しておく。
	6	同音異義語	同音意義語に気をつけて調べる習慣をつけよう。
	7	調べたことをまとめる文章の構成を知ろう。調べる方法や結論の予想を書いて、班で話し合おう。	班の話し合いに備えて、メモ書きを準備しよう。
	8	正しい仮名遣い(「じ」「ぢ」「ず」「づ」の使い分け)を知ろう。 調べたことをA4 1枚の文章にまとめよう。	調査や書き方の疑問点を整理しておこう。
	9	効果的な口頭表現を工夫しよう。	よい話し手、よい聴き手になれるように、目標を設定しよう。
	10	なぞなぞを発表したときの経験を文章にまとめよう。	実習ノートやエピソード記述の文章と、調べたことをまとめる文章の違いを見つけよう。
	11	ことわざ・四字熟語に親しもう。	今の自分に身近なことわざや四字熟語を探しておこう。
	12	実習礼状の書き方、封筒や便箋の選び方、字配り、宛名書きを知る。	実習要項の文章例や手紙の書き方に関する書籍を参考にしよう。(初年次教育)
	13	語彙を豊かに・学習のまとめ等の書き方を知ろう。	実習ノートやエピソード記述の文章例の言葉から、覚えておきたい言葉を探そう。(初年次教育)
14	慣用句	慣用句をつかった短文を書いてみよう。	

	15	四字熟語	四字熟語をつかった短文を書いてみよう。
定期試験	全授業終了後、試験を実施する。		
準備学習に必要な時間	毎回の事前事後学習に1時間程度は必要。		
教科書	教科書:前田敬子『保育者養成校の言語表現』(2021 三恵社)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書:厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館2018) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館2008) 内閣府文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館2018) 文化庁「敬語の指針」「敬語おもしろ相談室」		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第1回のガイダンスで説明する。できる限り多く「話す」「聴く」「書く」「読む」活動を取り入れ、それらの活動を通して、学び取る力、総合的な表現力を身につける。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。		
評価の配点比率	目標①試験期間中の試験 50% 目標②授業時間内の活動や事前事後学習としてのノート作成活動 40% 目標③試験期間集の試験のうち文章記述 10% 目標④は、上記目標①～③のすべてを通して培われるものとする。		
受講上の注意	保育現場を意識した言語活動を展開していきますが、何より学生の皆さんが、保育者になった自身を思い描きつつ、取り組みましょう。また、一人の社会人としても、言葉を大切にすることを養っていきましょう。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1 年次	1 単位	選択
担当教員			
乾 典子			
幼児教育学科専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21D101
添付ファイル			
添付ファイル「表現」について .docx			

授業の概要	<p>・本授業の目的は、保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて具体的に学ぶ。また豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする援助者となる力を身につけることである。</p> <p>・近年の動画配信サイトから模倣した踊りを子どもたちに強要する行為は望ましい保育とは言えない。子どもたちの自由な発想から動きを見つけてこそその身体表現であり、その援助者になるのが保育者であるということを理解する必要がある。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標① 保育者として知るべき身体表現の内容に気づくことができる。	DP 1	30
	目標② 保育者として必要なダンスの表現と創作の手順を学ぶことができる。	DP 4	20
	目標③ 実習を中心に専門知識を学習し、保育者として幼児の前で即実践できる身体表現を学ぶことができる。	DP 6	30
目標④ グループで活動することにより、リーダーの育成とその指導方法を習得することができる。	DP 7	20	
本科目で身に付ける学習成果 (DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 身体表現 (ダンス) のねらいと内容・表現探し・簡単なダンスの体験	講義要項 (シラバス) の内容を見ておく。 初回から動ける服装が望ましい。
	2	ステップ遊び・プレイバルーンの体験と創作。	実習。リズムに合わせて子どもの好きな動きの体験と理解。 大きなバルーンの動かし方とその創作の方法を学ぶ。
	3	ステップ遊び・プレイバルーンの創作。	実習。集団で協力してバルーンを創作する。集団の中での自分の活動内容を把握する。他に動きがないか考えておく。
	4	ステップ遊び・プレイバルーンの発表。 ポンポンの製作	実習。集団で創作したバルーンを発表する。集団の中での個人の役割を果たせたか顧みる。ダンスで使うポンポンを作ってみる。 事後学習としてプレイバルーンの振り返りレポートをまとめる。
	5	前回のプレイバルーンの発表映像鑑賞。 童謡の歌詞を使ってダンスを創作してみよう。	プレイバルーンの発表映像を見ての振り返り。 実習。2人組で歌詞に合わせた動きを組み合わせ作品を創作し発表する。自由な発想の重要性を理解する。
	6	身体表現遊びの体験 (ポンポンダンス)	ダンスを体験 (実技) ポンポンを使ったダンスを習い実際に踊ってみる。事後学習として習ったダンスを練習しておく。
	7	身体表現遊びの体験 (ポンポンダンス) 身体表現遊び (ポンポンダンス) 個人発表 練習 (60分) 試験 (30分)	ポンポンダンスを習得 (実技)、個人発表。 事前学習として発表の準備。
	8	身体表現遊び (ポンポンダンス) グループ別構成	グループワーク。習ったダンスを元にグループで構成を考える。グループで教え合い各個人のグループでの関わりを体験する。
9	身体表現遊び (ポンポンダンス) 発表 「動きの発見」のダンス (1) の説明。	グループワーク。発表。スマホ使用 (ダンスの映像を撮影・振り返り) 事前学習として発表の準備・事後学習として創作と発表の振り返りレポートを提出する。 内容の説明と理解。	

10	「動きの発見」のダンス(2)の展開。	グループワーク。ダンスの創作。事前学習としてダンスの案を考えて来る。
11	「動きの発見」のダンス(3)の展開・発表	グループワーク。ダンスの創作と発表。スマホ使用(ダンスの映像を撮影・振り返り) 事前学習として発表の準備・事後学習として創作と発表についてレポートを提出する。
12	ダンス グループ別創作 (1) 創作方法の説明と理解	グループワーク。課題曲を使ってダンスを踊りからグループで創作するための内容を理解しその手法を考える。
13	ダンス グループ別創作 (2) 動きの発見・創作方法の説明と理解	グループワーク。課題曲を使ってダンスを踊りからグループで創作するための内容を理解しその手法を考える。
14	ダンス グループ別創作 (3) 動きの発見・振付	グループワーク。発表。課題曲のダンスを創作して発表用のダンスに仕上げ、その練習をする。事前学習として創作したダンスの発表用の衣装を作る。
15	作品発表 練習(30分)発表(30分)鑑賞・まとめ(30分)	創作したダンスを発表。スマホ使用(ダンスの映像を撮影・振り返り)レポート提出。
定期試験	試験に代わって毎回の実技発表と、ダンス創作レポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。習ったダンスを忘れないように、踊ってみるなどの復習が十分にされること。欠席をした場合などは、特にグループ活動の場合は同じグループの受講生から習うなどして、次回授業に臨むことが望ましい。	
教科書	使用しない	
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配布する。 参考図書 事例で学ぶ保育内容 領域 表現(無藤隆 監修 浜口順子 著作 萌文書林 2018年)	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	身体表現であるので個人での技術を身に付けることは重要だが、グループ活動の中で個人の関わり方を身に付けることは、現場ではとても大切なことである。そのことを今から自覚する必要がある。毎回の授業後のグループでの関わり方の反省を各自行うことを希望する。それから保育者を日指すのであれば服装も大切である。必ず実技ができる服装で出席すること。	
評価の配点比率	身体表現であるので個人での技術を身に付けることは重要だが、保育者としてはグループ活動の中で個人の関わり方を身に付けることは、現場ではとても大切なことである。作品の映像を撮影して、自分の動きや創作したダンスやその方法について振り返る。毎回の授業後のグループでの関わり方の反省を各自行うこと。 目標①身体表現の気づき、動きの創作体験と発表。30% 目標②ダンス創作レポートを各テーマごとに提出20% 目標③ダンスの体験と発表。30% 目標④グループでのダンス創作と発表20%	
受講上の注意	保育者としてダンスの必要性と、その創作の基本を学ぶ。模倣ではない自由な発想の大切さを理解・体験するために、授業中はこちらで言うまでスマホ動画を検索しないこと。また保育者を日指すのであれば服装も大切である。必ず実技ができる服装で出席すること。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
重村 幹夫			
幼児教育学科専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D103
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、造形表現の上で必要な基礎的な観察力や表現力を養うため、デッサンや着彩を行なうとともに、工作材料、工作器具の扱い等に習熟する。また、乳幼児の年齢に応じた絵画表現の特徴と指導法を理解する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①線遠近法や空気遠近法を理解し、形態や明暗を写実的に把握し、描写することが出来る。	DP4	20
	目標②色彩の3属性や、3原色による混色を理解し、効果的な配色を行うことが出来る。	DP4	20
	目標③ダンボールの素材特製を理解し、様々な技法を用いた工作を行うことが出来る。	DP4	40
	目標④乳幼児の年齢に応じた絵画表現の特徴と指導法を理解することが出来る。	DP4	10
	目標⑤お互いにコミュニケーションをとり、協力して構想、製作を行うことが出来る。	DP7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	オリエンテーション：学習内容の概略と目的、評価の基準について。 デッサンの基礎：線遠近法について	後半に小テストを行う
	第2回	デッサンの基礎：デッサン1。構図や形の取り方	後半に対話形式の講評を行う
	第3回	デッサンの基礎：デッサン2。明暗の入れ方	後半に対話形式の講評を行う
	第4回	色彩の基礎：色相環、三原色、混色練習	
	第5回	色彩の基礎：色の三属性、混色練習	
	第6回	色彩の基礎：着彩練習	
	第7回	ダンボールの工作：立方体の展開図考案、切断、折り曲げ等の技法の習得	
	第8回	ダンボールの工作：動物の製作1。全体構想。平面図の作成	
	第9回	ダンボールの工作：動物の製作2。平面図の完成	
	第10回	ダンボールの工作：動物の製作3。段ボールの切り方	
	第11回	ダンボールの工作：動物の製作4。段ボールの仮組の仕方	
	第12回	ダンボールの工作：動物の製作5。完成へ向かって製作継続	
	第13回	ダンボールの工作：動物の製作6。完成へ向かって製作継続	
	第14回	ダンボールの工作：動物の製作7。着彩の仕方、作品発表	後半グループごとの作品発表
第15回	乳幼児の絵画表現の特徴と指導法	講義、レポート執筆	
定期試験	試験期間中の試験に代わって、各授業時の作品及びレポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。振り返りのレポートを作成すること。		

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	宮脇 理他編、「新版 造形の基礎技法」、建帛社、1993年。材料、道具はこちらで用意する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実技内容は、保育現場の実践や実習の事前学習として、直接関係するものではないが、造形の基礎技能として不可欠な内容であるので、その重要性を認識して取り組んで欲しい。
評価の配点比率	目標①～③作品80%。目標④レポート10%。目標⑥製作への参加態度10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
河野 久寿・川崎 美砂子			
幼児教育学科専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、幼児教育に有効な音楽基礎理論、および演奏能力の習得である。音名、楽譜の読み方に始まり、音の高さやリズム、そして音階や和音などといった基礎的な音楽知識の習得や、保育の現場で実践するための歌唱技術の向上を目的とした発声法理論など、理論と実習の両面から総合的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①音楽理論分野において、楽譜上の記号や音符、調や音階等、様々な情報を分析できる。	DP4	50
	目標②歌唱分野において、幼児教育の現場を想定し、綺麗な発声、正しい音程、はっきりとした言葉で表情豊かに歌うことができる。	DP4	50
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	音楽理論【河野担当】 音名、譜表	授業の進め方、評価の仕方について説明します。
	2	音符休符、拍子記号、演奏記号	授業前に前回の授業内容の復習をしましょう。
	3	音程	授業では毎回プリントを配布します。
	4	音階	プリントは、教材「音楽通論」の
	5	調と調号	内容をまとめたものです。
	6	三和音、七の和音	試験問題もプリントの内容から出題します。
	7	コードネーム	プリントの内容をしっかりと見直すこと。
	8	歌唱【川崎担当】 発声法、声と体、「こどものうた200」より季節または行事の歌	繰り返し練習し、音楽（ピアノ基礎演習）弾き歌いに繋がられる
	9	発声法、リズムと拍子①、「こどものうた200」より季節または行事の歌	様に取り組むこと。
	10	発声法、リズムと拍子②、「こどものうた200」より季節または行事の歌	様に取り組むこと。
	11	発声法、音程①、「こどものうた200」より季節または行事の歌	
	12	発声法、音程②、「こどものうた200」より季節または行事の歌	
	13	発声法、発語表現①、「こどものうた200」より季節または行事の歌	
	14	発声法、発語表現②、「こどものうた200」より季節または行事の歌	
	15	歌唱総合演習（テスト）および復習	
定期試験	試験期間中に音楽理論の試験を実施する。歌唱においては、歌唱総合演習にてテストを行う。		
準備学習に必要な時間	毎回、授業前に1時間程度の『改訂音楽通論』の予習や歌唱の事前練習を必要とする。		

教科書	理論：教芸音楽研究グループ『改訂音楽通論』（教育芸術社 2009） 歌唱：『こどものうた200』（チャイルド本社 小林美実編 1975） 『続こどものうた200』（チャイルド本社 小林美実編 1996）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018） 教材：理論：授業担当者用意資料
課題（試験・レポート等）のフィードバック	欠席せず、授業内容をしっかり実践する事。
評価の配点比率	目標①音楽理論試験50% 目標②歌唱総合演習（テスト）50%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
内田 雄			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C111
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、乳幼児期の運動遊びや、心身の発育発達、安全管理等についての専門的事項に関する知識・技術を身につけることを目的とする。特に、各種運動遊びの実施を通して、様々な運動遊びの動作特性の理解を図るとともに、運動遊びと心身の発育発達や各種健康課題との関連を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	乳幼児期の運動遊び特性を理解し、基本的な技術を習得することができる。	DP4	40
	乳幼児における心身の発育発達と運動遊びの関連を理解し、説明できる。	DP2	20
	乳幼児の体力・運動能力や動きの測定・観察方法を理解し、適切に評価することができる。	DP3	10
	乳幼児期の健康課題を理解し、運動と生活習慣との関連を踏まえて説明できる。	DP3	10
	乳幼児の安全を守るために適切な遊具の使い方を理解し、説明できる。	DP3	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	オリエンテーション・乳幼児期における運動遊びの種類と理解	事後学習：LMS (Moodle) 上の授業資料確認および復習問題の回答を通して幼児期運動指針の内容を復習する。
	第2回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(1) (けん玉、なわとび)	実技試験① 事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題 (実施した運動種目修得のコツや特性に関して) を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第3回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(2) (お手玉、こま)	実技試験② 事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題 (実施した運動種目修得のコツや特性に関して) を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第4回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(3) (ボール遊び)	事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題を通じて授業で実施した遊びのルールや特性を復習する。
	第5回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(4) (おにあそび)	事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題を通じて授業で実施した遊びのルールや特性を復習する。
	第6回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(5) (マット運動、跳び箱)	実技試験③ 事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題 (実施した運動種目修得のコツや特性に関して) を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第7回	乳幼児期における運動遊び特性の理解と習得(6) (一輪車、鉄棒)	実技試験④ 事後学習：LMS (moodle) 上に提示される課題 (実施した運動種目修得のコツや特性に関して) を実施するとともに、習得できなかった技に関して適宜練習を実施する。
	第8回	乳幼児の発育発達と運動遊びの関連(1) (乳幼児期の心身の発育発達状況)	事後学習：LMS (Moodle) 上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
	第9回	乳幼児の発育発達と運動遊びの関連(2) (運動遊びが乳幼児の発育発達に及ぼす影響)	事後学習：LMS (Moodle) 上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。

第10回	乳幼児の体力測定と動きの観察評価(1)(体力測定の注意点と観察評価のポイント)	事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
第11回	乳幼児の体力測定と動きの観察評価(2)(体力測定及び観察評価の実施)	事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
第12回	乳幼児期における健康課題および生活習慣・運動の関連	事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
第13回	運動遊びにおけるリスクとハザード	事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
第14回	遊具の使用における留意事項	レポート課題提示 事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
第15回	乳幼児における救急救命方法	事後学習:LMS(Moodle)上の授業資料確認および復習問題の回答を通して授業内容を復習する。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。	
準備学習に必要な時間	運動遊びの実践後には、授業内で習得できなかった運動遊びの基礎技能に関しては事後に自主的な練習が必要となる(1時間程度)。講義では	
教科書	『幼児のからだところを育てる運動遊び』(出村慎一監修、杏林書林、2012)	
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』(文部科学省、フレール館、2018) 『保育所保育指針解説』(厚生労働省、フレール館、2018) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレール館、2018)	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	実技試験の結果に関しては、その場で到達状況をフィードバックする。テストおよびレポートの評価に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール(yuchida.ys@jin-ai.ac.jp)で対応する。	
評価の配点比率	目標①運動遊びに関する実技試験(40%) 目標②筆記試験(20%) 目標③筆記試験(10%) 目標④筆記試験(10%) 目標⑤レポート(20%)	
受講上の注意	実技を伴う授業回では、体調を整え、靴、運動に適した服装で出席して下さい。掲示でお知らせすることもあるので、気を付けて見ておいて下さい。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
小川 智枝			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C112
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、領域「人間関係」の指導の基礎となる、乳幼児の人と関わる力の育ちに関する専門的事項についての知識を身に付けることである。乳幼児の生きる力の基礎は、豊かな人間関係の中で愛着、信頼や協同、葛藤を体験しながら育まれることを具体的な事例を基に理解しつつ、全体的な乳幼児の育ちにおける人間関係の意義についての考察を試みる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人と関わる力の育ちが人生を支える力となることを理解している。	DP1	30
	目標②乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、身近な大人や乳幼児との関係から説明できる。	DP6	40
	目標③自立心・協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて説明できる。	DP2	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーションー「領域 人間関係」とは何か	事前学習：教科書Lecture1を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	2	社会の変化にともなうこれからの子どもの育ち	事前学習：教科書Lecture2を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	3	子どもの人間関係をめぐる課題 領域「人間関係」がめざすもの	事前学習：教科書Lecture3を読み、疑問点をまとめておくこと。グループワーク「砂場で学ぶことは？」。事後学習：ワークシート作成。
	4	領域人間関係の基礎知識① 乳幼児期の人間関係の発達ー愛着と信頼関係の形成、情緒の安定	事前学習：教科書Lecture4を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	5	領域人間関係の基礎知識② 乳幼児期の人間関係の発達ー自我の発達、他者意識の形成	事前学習：教科書Lecture4を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	6	子どもの生活と人間関係	事前学習：教科書Lecture5を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	7	遊びの発達と人間関係	事前学習：教科書Lecture6を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	8	自立心の育ち	事前学習：教科書Lecture7を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	9	協同性の育ち	事前学習：教科書Lecture8を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	10	道徳性・規範意識の芽生え・遊びでつなぐ友だちとの関係	事前学習：教科書Lecture9を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	11	家庭や地域との関わり	事前学習：教科書Lecture10を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	12	人間関係を育てる実践の原理	事前学習：教科書Lecture11を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	13	気になる子どもと関係性	事前学習：教科書Lecture12を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
	14	関わりの育ちを「みる」	事前学習：教科書Lecture13を読み、疑問点をまとめておくこと。事後学習：ワークシート作成
15	エピソード記述	エピソードを通じた事例検討のグループワーク。事後	

	10	学習：ワークシート作成
定期試験	毎回ワークシートを作成し、試験期間中の試験に代わって、全授業終了後にレポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	事前事前学習として教科書を読み疑問点をまとめ、事後には考察、小課題をワークシートに記入する。毎回1時間程度必要。	
教科書	『体験する・調べる・考える 領域 人間関係』（田宮縁、萌文書林、2018）	
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『新時代の保育双書 保育内容人間関係第2版』（濱名浩編、みらい、2020）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・質問、考察、小課題を記入したワークシートを毎回作成する。全授業終了後に返却する。 ・質問等がある場合は、研究室（E201）を訪問するか、電子メール（takamasa@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。	
評価の配点比率	目標①ワークシート30%（5%×6） 目標②ワークシート15%（5%×3）、レポート25% 目標③ワークシート30%（5%×6）	
受講上の注意		
教員の実務経験	保育士として保育に携わった経験を活かし、遊びのなかで育まれる子どもたちの人間関係と保育者の援助について、実例を挙げながら講義する。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位	選択
担当教員			
大久保 嘉雄			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C113
添付ファイル			

授業の概要	<p>本授業の目的は、子どもが身の回りの自然や社会の事象に関心を示して健やかに育つことを実践的に学ぶことである。 そのために、草花の栽培や野外での観察などの体験を積み、天体や気象、四季の行事、子どもの安全管理などの学習を通して、領域「環境」に関する保育内容を理解し、深めることができるようにする。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児を取り巻く環境の重要性や乳幼児と環境との関わり方について説明できる。	DP 1	20
	目標②乳幼児が遊びや生活の情報に興味を持ち、地域に親しむ工夫ができる。	DP 3	20
	目標③自作の教材を通して、乳幼児に対する適切な接し方、安全管理を説明できる。	DP 4	20
	目標④自然や生命に関する豊かな心情を、自らが持つことの重要性に気づくとともに、乳幼児に伝えることを工夫できる。	DP 4	20
	目標⑤自作の教材を他者に説明したり、話し合ったりすることができる。	DP 5	10
	目標⑥乳幼児の科学的な思考や概念の発達、身の回りの標識や文字等の認識を育成する方法を説明できる。	DP 6	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	領域「環境」のねらいと内容、子どもを取りまく環境	教育法規について学ぶ。次回にスケッチブックと色鉛筆を準備。
	2	草花の栽培と子どもの成長、種子の播種	事後学習：草花の種子をまいて開花するまでの経過をスケッチブックにまとめる。
	3	春の七草と野外における草花の観察、草花遊び	事後学習：花のつくりをまとめる。
	4	季節の行事や気象に関わる子どもの活動	季節の行事や気象に関わる子どもの活動
	5	七夕と月や星、天候にかかわる事象	七夕飾りを作る。事後学習：月の動きを観察する。
	6	小動物を知ろう	事後学習：「動物ビッグパズル」を作る。
	7	昆虫の世界	粘土でアリを作る。
	8	危険な昆虫とその対応、前期の振り返り	折紙で昆虫を折る。
	9	秋の七草と野外における草花の観察、園内における自然環境と保育者の役割とネイチャーゲーム	フィールドビンゴを自作する。
	10	どんぐりと動物散布種子	童謡「どんぐりころころ」の三番を創作し、紙芝居を作る。
	11	色の世界（光と色の三原色、色覚のしくみ）	色を認識するしくみを学ぶ。色水の混合の実験を行う。
	12	標識や施設、図形	園内の標識を作る。
	13	フレーベルの恩物、動くおもちゃの制作	動くおもちゃの構想を練る。
	14	日本の伝統遊び（すごろくや福笑い）	数量・図形、文字の工夫を入れて、すごろくや福笑いを作る。
	15	動くおもちゃのプレゼンテーション、後期の振り返り	動くおもちゃを完成して持ってくる。

定期試験	定期試験期間中に筆記試験を行う。
準備学習に必要な時間	授業内容によっては30分程度の事後学習が必要になることがある。鉢植えの草花の観察は、成長段階においてスケッチや記録を取ることが必要になる。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書:田宮縁『体験する調べる考える領域環境』(萌文書林2011) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館2008)、厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館2008) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館2015) 教材:必要に応じてプリントを配付する、準備物:スケッチブック、色鉛筆
課題(試験・レポート等)のフィードバック	○課題をまとめたスケッチブックや制作物を提出すること。課題はコメントや評価などを付けて返却し、アイデア豊かなものは講義で紹介する。
評価の配点比率	筆記試験40%、課題とミニレポート(講義資料)60% 目標① 草花の栽培や草花の観察(課題)と、その分野の筆記試験20% 目標② 季節の行事の表現や七夕飾り(課題)と、その分野の筆記試験20% 目標③ すごろくや福笑い、動くおもちゃの制作(課題)と、その分野の筆記試験20% 目標④ 動物ビッグパズルや折紙の昆虫、フィールドビンゴの制作、月の観察(課題)と、その分野の筆記試験20% 目標⑤ 童謡「どんぐりころころ」の三番(課題)のプレゼンテーションと、その分野の筆記試験、10% 目標⑥ 色を認識するしくみや色水の混合(ミニレポート)と、その分野の筆記試験10%
受講上の注意	本科目を通して、生き物や自然、文化、そして、人間を再認識することを望みます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位	選択
担当教員			
前田 敬子			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C114
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、乳幼児の言葉の発達を概観して理解を深めるとともに、乳幼児にとっての児童文化財の意義を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践について基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①人間にとっての話し言葉や書き言葉などの意義と機能について説明できる。	DP 7	30
	目標②乳幼児の言葉の発達過程について説明できる。	DP 2	20
	目標③言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を考え工夫することができる。	DP 3	20
	目標④児童文化財について基礎的な知識と技能を身につける。	DP 4	30
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	養育者のかかわりから育つ言葉・自身が言葉の楽しさ 美しさ（擬声語・擬態語）
	2	絵本と紙芝居	絵本の部屋のつかい方を知り、テーマを設けて絵本に 対する興味関心を深める。
	3	ことばを話す前に・前言語期のコミュニケーション	非言語コミュニケーション、喃語、初語などを理解する。
	4	子どもにとっての「言葉」（1）言葉の3つの機能	「内言」が思考のことばであることを理解する。
	5	子どもにとっての「言葉」（2）話し言葉の発達	子どもの話し言葉と保育者の援助について考える。
	6	子どもにとっての「言葉」（3）書き言葉の発達	書き言葉の課題を知る。
	7	子どもにとっての「言葉」（4）領域「言葉」・言葉を育てる	「言葉の楽しさ美しさ」「想像をする楽しさ」を身近な例で説明してみよう。
	8	児童文化財（1）年中行事の紙芝居を通して年中行事を知る（前半）	年中行事の紙芝居を演じることを通じて、保育者のはたらきについて考えよう。
	9	児童文化財（2）年中行事の紙芝居を通して年中行事を知る（後半）	年中行事の紙芝居を演じることを通じて、保育者のはたらきについて考えよう。
	10	児童文化財（3）パネルシアター作り①（型紙を写す）	視覚的に示すことによって、伝えやすい利点を、どの場面で活かしたら効果的かを考えよう。
	11	児童文化財（4）パネルシアター作り②（色塗りをする）	文化財の色使いについて考えよう。
	12	児童文化財（5）パネルシアター作り③（演じ方を工夫する）	立ち方や声の表情について考えよう。
	13	人間にとっての言葉の意義や機能（1）「げき」を演じる①（脚本を考える）	子どもに伝わりやすい表現を考えよう。
	14	人間にとっての言葉の意義や機能（2）「げき」を演じる②（練習する）	仲間と協力して、表現力を高めよう。
	15	人間にとっての言葉の意義や機能（3）「げき」を演じる③（発表会）	演じ方を互いに見せあい、その工夫点を見つけよう。
定期試験	レポートとノートの提出をもって試験に代える。		

準備学習に必要な時間	毎回、児童文化財（絵本、紙芝居）の準備、ノート作成など1時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	『実践保育内容シリーズ④言葉』（谷田貝公昭・廣澤満之編、一藝社、2018） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
参考図書、教材、準備物等	『保育に役立つ！年中行事の言葉かけ』（堀祐美子、ナツメ社、2012） 『年中行事のことばがけスピーチ』（阿部恵、ひかりのくに、2010）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回のガイダンスで説明する。適宜「発表」の時間を設け、総合的な言葉の能力の向上をめざす。成績評価なども含めて質問があれば、オフィスアワーなどを利用して随時連絡すること。
評価の配点比率	目標①自ら保育者としての資質を高めるように努力し、学習内容を総合的に文章にまとめることができる。30% 目標②乳幼児の発達を考慮した手遊びやげきを実践し、その実践を省察することができる。20% 目標③「言葉」の領域を念頭におきながら、自ら効果的な保育実践を考案することができる。20% 目標④児童文化財の特徴を理解し、適切に保育に活かすことができる。30%
受講上の注意	保育現場を意識した言語活動を展開していきますが、何より学生の皆さんが、保育者になった自身を思い描きつつ、取り組んでほしいと思います。また、一人の社会人としても、言葉を大切にする態度を養ってほしいと思います。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
重村 幹夫			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C115
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、領域「表現」について理解し、感性や表現力、創造性を豊かにすることを通して、乳幼児の様々な表現を受容し援助できるようになることを目的とする。そのため、領域「表現」の位置付け、生成過程についての講義や、主題、環境、身体性、素材に触発された造形活動を行なう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	DP 1	10
	目標②造形活動における造形表現と造形遊びの違いについて説明できる。	DP 2	10
	目標③乳幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	DP 3	10
	目標④乳幼児の様々な表現や環境の構成等に対応する知識・技能・表現力を身につけることができる。	DP 4	70
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	オリエンテーション：領域「表現」の位置付けや、乳幼児の発達に伴う表現の特徴、造形遊びの概念について	後半、レポートを執筆提出する。
	第2回	風を感じる造形活動①凧の製作と凧あげ 幼児造形の考え方、指導法について理解できる	
	第3回	風を感じる造形活動②プロペラだこ及び自由製作	
	第4回	風を感じる造形活動③自由製作	後半、プロペラ凧及び自由製作のグループ発表を行う。
	第5回	光を感じる造形活動①ファイルとセロハン	
	第6回	光を感じる造形活動②自由製作	後半、ファイルとセロハン及び自由製作のグループ発表を行う。
	第7回	カラードテープによる造形活動	造形表現と造形遊びの違いを理解する。
	第8回		
	第9回	小麦粉粘土による造形活動	
	第10回	新聞紙による造形活動	
	第11回		
	第12回	木材等による造形活動	
	第13回	乳児の遊具の製作	
	第14回	絵具による造形活動①スタンプ、ローラー遊び	
第15回	絵具による造形活動②共同制作		
定期試験	試験期間中の試験に代わって、各授業時の作品及び活動記録、レポート等を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。振り返りのレポートを作成すること。		

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」, 株式会社フレーベル館, 2018 文部科学省「幼稚園教育要領解説」, 株式会社フレーベル館, 2018 厚生労働省「保育所保育指針解説」, 株式会社フレーベル館, 2018 村田夕紀, 「0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ」, ひかりのくに株式会社, 2012 平田智久, 「3・4・5歳児が夢中になる実践! 造形あそび」, 株式会社ナツメ社, 2015
課題(試験・レポート等)のフィードバック	グループによる演習活動が中心となる。したがって、作品を提出するだけでなく、その過程を振り返るとともに、作品の良さを共感し合うことが重要となる。
評価の配点比率	目標①②レポート20%、目標③④作品70%、参加、発表態度10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
木下 由香			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C116
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につけることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①乳幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	DP 1	20
	目標②発達段階に応じた、表現が生成される過程について説明ができる。	DP 2	20
	目標③乳幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感しながら、課題を設定することができる。	DP 3	20
	目標④音楽表現の基礎的な知識・技能を生かし、乳幼児の表現活動を展開させることができる。	DP 4	40
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション、「音楽とは何か」「表現とは何か」について考える。	事後学習：自分自身が考える「音楽」や「表現」の定義が、授業後どのように変化したか、または変化しなかったか整理する。
	2	領域「表現」のねらい及び内容の理解ー子どもの音楽的な表現について考える。	事後学習：自分自身の幼少期を思い出しながら音楽的な表現を抜き出し、どのような目的をもって行われたものか考える。
	3	乳幼児の表現の発達の理解①ー子どもの音を聴く力の発達と音楽的表現の発達について学ぶ。	事後学習：月齢、年齢を追って子どもの聴覚をはじめとする音楽的発達についてまとめる。
	4	乳幼児の表現の発達の理解②ー小学校学習指導要領や教科書から理解し、学びの連続性について考える。	事後学習：学習指導要領にみられる歌唱、演奏、鑑賞、創作などの音楽活動と音楽の構成要素について整理し、幼児教育の現場で行われる音楽活動を分析する。
	5	身の周りの音に気付くーサウンドマップ作りを通して環境と対話する。	グループワーク。事後学習：より良い音環境について考える。
	6	声と歌唱表現①ー子どもの声域の発達、絵本を使った擬音語遊びを通じた表現活動を行う。	子どもの歌唱指導に関する難しさについて知り、その解決策を探る。
	7	声と歌唱表現②ーわらべうた、手遊び、唱歌、童謡を使った歌唱活動と支援方法について学ぶ。	様々な歌唱表現を体験し、子どもの年齢や発達に応じた歌唱活動について考える。
	8	声と歌唱表現③ー季節や行事の歌を用いて、言葉の意味や情景が伝わるような表情豊かな歌唱表現を身に付ける。合唱を通じて声の重なり合う美しさを体験する。	子どもに分かりやすいように目的にあった補助教材を用いながら、歌唱活動の楽しさを伝える方法を考える。
	9	楽器を使った表現①ー手作り楽器を通して音の出る仕組みについて学ぶ。	事後学習：楽器の種類について整理する。
	10	楽器を使った表現②ー簡易楽器を用いて、幼児の発達に即したリズム遊びの展開例を考える。	具体的なリズム遊びを考え、模擬実践を行う中で、改善点を話し合う。
	11	楽器を使った表現③ーピアノを使って即興的な創作活動を行う。	動物や情景など、自由にピアノで表現し、他者のアイデアを共有する。
	イメージを音に表現する①ー心情や情景など	グループワーク。	

	12	を、楽器や声、身の周りの音を使い、協働して表現する。	
	13	イメージを音に表現する②一言葉のイントネーションやリズムを生かし、協働して簡易な曲を創作する。	グループワーク。
	14	イメージを音に表現する③図形楽譜を作成するなど、音と視覚的なものを結び付けて表現する。	後半にグループワーク。
	15	ICTの活用と総括ー保育現場でのICT活用について考える。学習のまとめを行う。	事後学習：本授業全体の振り返りを行う。
定期試験	試験に代わって、全講義終了後に全体振り返りシートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	授業の終わりに次の授業の導入となる話をしますので、一日10分程度音楽について意識的に感じたり考えたりしながら過ごしてもらえればと思います。		
教科書	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018）、『保育所保育指針解説』（厚生労働省編、フレーベル館、2018）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）		
参考図書、教材、準備物等	『子どものための音楽表現技術ー完成と実践力豊かな保育者へ』（今泉明美・有村さやか編、萌文書林、2017）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のオリエンテーションで説明する。各回毎に課題を課し、仁短Moodleに提出する。質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①ポートフォリオ20%、目標②ポートフォリオ20%、目標③ポートフォリオ20%、目標④ポートフォリオ40%		
受講上の注意	音楽は私たちの身の周りに当たり前存在するものです。子どもに与える音や音楽の影響や効果について学び、保育の現場で積極的に音楽活動を取り入れてもらいたいと思います。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位	選択
担当教員			
河野久寿、木下由香、大城修子、加藤俊裕、川崎美砂子、西尾順子、福岡智子、福田安希子、三輪眞理、和田 芳			
幼児教育学科専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D105
添付ファイル			

授業の概要	幼稚園教諭・保育士として必要なピアノ技術・弾き歌い技術の習得を目指す。学生のレベルに応じた5段階のグレード制とし、それぞれに設定された教材における指定楽曲を弾きこなすことを通して、乳幼児に対する音楽教育に必要な技能を身に付ける。個人レッスン方式によるグループ指導（3人程度45分）、MLでの演習授業（グループによる集団演習45分）で行う。MLでは、初心者向け講習、または仁愛附属幼稚園実習曲「黙想」「仏の子ども」「おべんとうのうた」「おかえりの歌」の4曲について指導する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①楽譜の指示通りに、音間違い弾き直し無くピアノが弾ける。	DP4	20
	目標②正確なリズムで演奏できる。	DP4	20
	目標③豊かな表現によるピアノ演奏ができる。	DP6	10
	目標④子どもの前で歌うことを想定し、はっきりとした発声で歌うことができる。	DP4	20
	目標⑤歌いやすい弾き歌い伴奏ができる。	DP4	20
目標⑥歌詞に込められた意味を理解し、歌詞の内容が伝わるように表現できる。	DP6	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	概要の説明とグレード決め	アンケート、演奏を元にグレードを決める。
	2	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	練習の課題ポイントを整理する。
	3	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	4	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
	5	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	6	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	7	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(指使い等ピアノの基本的技術の習得)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。
	8	第1回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
	9	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	練習の課題ポイントを整理する。
	10	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
	11	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
	12	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向上を図る。
	13	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指す。
	14	各グレード指定楽曲及び仁愛幼稚園実習曲(拍子・速さ・強さ・曲想に関する理解)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行い、見直しを図る。
	15	第2回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
16	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌い曲(音楽的表現とピアノスキルの向上)	練習の課題ポイントを整理する。	

17	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
18	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と予習、曲の構成、コード等について理解 を深める。
19	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向 上を図る。
20	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向 上を図る。
21	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指 す。
22	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾き歌 い曲 (音楽的表現とピアノスキルの向上)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行 い、見直しを図る。
23	第3回小テストと復習	ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。
24	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	練習の課題ポイントを整理する。
25	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、練習計画を立てる。
26	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、曲の構成について理解を深める。
27	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向 上を図る。
28	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、音楽的な表現とピアノスキルの向 上を図る。
29	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と予習、表情豊かに音楽的な演奏を目指 す。
30	各グレード指定楽曲及びこどものうた200弾 き歌い曲(楽曲の完成度を高める)	課題の復習と仕上げ、評価項目に沿って自己評価を行 い、見直しを図る。
定期試験	試験期間中に実技試験を行う。ピアノ曲1曲と弾き歌い曲1曲を演奏する。	
準備学習に必要な 時間	必ず毎日20分間以上のピアノ・弾き歌い練習を行う。予習と復習を毎日の習慣にしなければピアノ演奏技術習 得・子どもの前での弾き歌い実践は難しい。	
教科書	『全訳バイエルピアノ教則本』(全音楽譜出版社)、『こどものうた200』(チャイルド本社 1975)、『続こ どものうた200』(チャイルド本社 1996)	
参考図書、教材、 準備物等	準備物：仁愛附属幼稚園実習使用の楽譜プリント、音楽(ピアノ基礎演習)レッスンカード	
課題(試験・レ ポート等)の フィードバック	グレードや受講に関する規定は音楽(ピアノ基礎演習)レッスンカードを参照する。連絡事項等は幼児教育学 科掲示板にて掲示する。小テストおよび期末実技テストは就職試験の予行演習として臨み、話し方、服装、履 物、爪なども配慮する。小テスト後には、担当教員から個別講評があり、次回の小テストに生かす。 質問等があれば、河野研究室まで。	
評価の配点比率	目標①20%、目標②20%、目標③10%、目標④20%、目標⑤20%、目標⑥10%	
受講上の注意	保育現場で子どもに音楽性豊かで魅力的な演奏をするためには、技術の獲得は不可欠です。そのためには適切 な練習を継続しなければなりません。子どもの心を育むにはまずは保育者の心から。しっかり取り組みましょ う。	
教員の実務経験		
アクティブ・ラー ニング、ICT活用	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表(プ レゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(ク リッカー、スマホ使用等) <input checked="" type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1 年次	2 単位	選択
担当教員			
高間 佳子			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21C104
添付ファイル			

授業の概要	<p>授業の目的は、乳児保育の意義・目的を理解し、生命の保持と心身の発達を保障する乳児保育に必要な専門的知識を身につけることである。</p> <p>我国における乳児保育の変遷をたどりながら、今日の保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育や子育て支援事業などの現状と課題及び、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。さらに、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。</p>		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。	DP 1	15
	目標②保育所・乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。	DP 3	30
	目標③3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。	DP 2	40
	目標④乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。	DP 6	15
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（授業の概要説明） 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷	事後学習：乳児保育の定義や意義、乳児保育の歴史的経緯、役割と機能とは何か。また、「養護」と「教育」の関係性などについて復習してください。
	2	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	ビデオ視聴 事後学習：子どもや子育て家庭を取り巻く社会的環境から、支援の在り方や課題について復習してください。
	3	保育所における乳児保育	事後学習：養護と教育の意味と重要性及び保育所における乳児保育の課題について復習してください。
	4	保育所以外の児童福祉施設における乳児保育	ビデオ視聴 事後学習：児童福祉施設の現状と課題及び乳児院の役割と支援方法について復習してください。
	5	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育	家庭的保育・小規模保育・保育所・認定こども園幼稚園の比較表作成し提出 事後学習：地域型保育と乳児保育の実際と違いを復習して下さい。
	6	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	事後学習：保護者の現状の理解と具体的な支援方法や目的について復習して下さい
	7	3歳未満児の生活と環境	乳児の人形を使っでの体験 事後学習：環境を通した保育とは何かについて復習してください。
	8	3歳未満児の遊びと環境	発達と遊びの環境表作成 事後学習：遊びを通してどのように発達していくのか、遊びは環境構成によってどのように展開されていくのかについて復習してください。
	9	3歳以上児の保育に移行する時期の保育	事後学習：子どもの発達の連続性をふまえ、3歳以上児の保育につながる移行について復習してください。
10	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり	事後学習：乳児の発達の様子や援助のポイント、発達を考慮しながら保育を進めることについて復習してください。	

		さい。
11	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮	チャイルドビジョン作成 事後学習：発達に応じた安全・安心の保育を行うためにはどのような配慮が必要かについて復習してください。
12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義	事後学習：保育計画の概要と計画から記録、評価までの流れについて復習してください。
13	職員間の連携・協働	まとめの試験について説明します。 事後学習：保育者として求められる専門性や人間性、保育者同士のチームワークについて復習してください。
14	保護者との連携・協働	ビデオ視聴 事後学習：子どもの育ちを実現するためにどのように保護者と連携すればよいのかについて復習してください。
15	自治体や地域の関係機関との連携・協働	事後学習：健康と安全を守るために、保健や医療関係の専門機関との連携について復習してください。 まとめの試験と解説
定期試験	試験期間中の筆記試験に代わって、授業⑮の講義終了後、課題レポートとあわせてまとめの試験を実施する。	
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事後学習が必要。(復習レポートを通して、授業内容・重要ポイントを振り返りファイルに綴っておく。特に、授業で学んだ保育所保育指針の内容は必ず自分の保育所保育指針でチェックし読むこと。)	
教科書	新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (中央法規2019年) 公益財団法人児童育成協会=監修/寺田清美、大方美香、塩谷香=編集	
参考図書、教材、準備物等	乳児の保育新時代(乳児保育研究会編(ひとなる書房2018年)) 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 MINERVAはじめて学ぶ保育 第7巻乳児保育(ミネルヴァ書房2019年)	
課題(試験・レポート等)のフィードバック	・教科書以外の授業の教材は、必要に応じてプリントを配布する。ファイルに綴ること。 ・毎回、授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出された復習レポートは、重要ポイントをはじめ一人ひとりの質問に対してコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴ること。 ・参考図書「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。	
評価の配点比率	目標①授業復習レポート6%(2%×3)、試験9% 目標②授業復習レポート6%(2%×3)、家庭的保育・小規模保育・保育所・認定こども園幼稚園の比較表作成4%、試験20% 目標③授業復習レポート16%(2%×8)、発達と遊びの環境表4%、試験20% 目標④授業復習レポート2%、試験13%	
受講上の注意	楽しいふれあい遊びなどを交えながら、身体的・精神的・社会的発達の基盤を培う3歳未満児の保育に必要な専門的知識を身に付けましょう。	
教員の実務経験	保育士として幼児教育に携わった経験を活かし、乳児保育に必要な専門的知識について実際の乳児の姿や関わり方など具体的な例を交えながら講義を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学习支援(LMS等)	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
高間 佳子			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C117
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、3歳未満児の発育・発達の過程や特性及び養護と教育の一体性を踏まえた、保育の計画・内容・方法等について理解し、乳児保育に必要な専門的技術を身に付けることを目的とする。3歳未満児の発達を捉え、その時期にふさわしい心豊かな体験・主体性を尊重する生活や遊びを支える環境構成や援助等について学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。	DP 2	15
	目標②養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。	DP 4	35
	目標③乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。	DP 6	40
	目標④上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。	DP 5	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション（授業の概要説明） 乳児保育の基本	事後学習：応答的なかわりや共感性が言葉や社会性の発達と密接であることについて復習してください。
	2	子どもの生活の流れ（0歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：乳児が安心して心地よく過ごせる生活と何かについて復習してください。
	3	子どもの保育環境（0歳児クラス）	事後学習：0歳児にとって室内環境をどう整えたらよいか、成長に合わせた玩具とは何かについて復習してください。
	4	子どもの援助の実際（0歳児クラス）	乳児の人形を使つての実習（ミルクの作り方、飲ませ方、オムツ交換の方法など）実習レポート作成 事後学習：0歳児の生活と遊びの援助について復習してください。
	5	子どもの生活の流れ（1歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：1歳児の生活の様子と保育者の配慮について復習してください。
	6	子どもの保育環境（1歳児クラス）	事後学習：1歳児クラスの環境設定や、地域性における工夫について復習してください。 課題：手作りペープサートの制作
	7	子どもの援助の実際（1歳児クラス）	事後学習：生活と遊びの両面から具体的な援助について復習してください。 課題：手作りペープサートの実践
	8	子どもの生活の流れ（2歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：2歳児の成長を知り、生活習慣の自立を促すための環境構成や保育者のかかわりについて復習してください。
	9	子どもの保育環境（2歳児クラス）	ビデオ視聴 事後学習：2歳児の成長を知り、生活習慣の自立を促すための環境構成や保育者のかかわりについて復習してください。

10	子どもの援助の実際（2歳児クラス）	事後学習：2歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性について復習してください。
11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	グループワーク 事後学習：子どもが安全に過ごすために必要な保育者の気付きやかかわりについて復習してください。
12	集団での生活における配慮	母子手帳から学ぶ 事後学習：乳児の集団での生活における配慮と保護者や他職種との連携の重要性について復習してください。
13	環境の変化や移行に対する配慮	グループワーク 事後学習：環境の変化や移行の際にどのような配慮が必要かについて復習してください。
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画	事後学習：長期的な指導計画と短期的な指導計画とその必要性について復習してください。 課題：個人記録を作成
15	個別的な指導計画と集団の指導計画	事後学習：個別計画と集団の指導計画について復習してください。
定期試験	試験期間中に筆記試験を実施する。	
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要。（コメントを含む復習レポートを通して、授業内容を振り返り、ファイルに綴っておく）特に、授業で学んだ保育所保育指針の内容は自分の保育所保育指針にチェックし再読しておくこと。 ペーパーサートは、作成する材料や用具など事前準備に時間が必要。 自分の母子手帳を準備しておく。準備できない場合は、授業⑫までに担当教員に伝えること。	
教科書	新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（中央法規2019年） 公益財団法人児童育成協会＝監修／寺田清美、大方美香、塩谷香＝編集	
参考図書、教材、準備物等	乳児の保育新時代（乳児保育研究会編（ひとなる書房2018年） 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 MINERVAはじめて学ぶ保育 第7巻乳児保育（ミネルヴァ書房2019年）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・教科書以外の教材は、必要に応じてプリントを配布する。各自ファイルに綴ること。 ・毎回授業を振り返り復習レポートを記載提出する。提出した復習レポートは、重要ポイントをはじめ質問に対しコメントし、フィードバックする。確認してファイルに綴ること。 ・「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」は各自準備すること。 ・ペーパーサート・手作りおもちゃは、事前に案や作り方を考え、自分で材料・用具を準備して授業にのぞみ、時間内に仕上げる。	
評価の配点比率	目標①授業復習レポート10%（2%×5）、試験5% 目標②授業復習レポート10%（2%×5）、実習レポート作成4%、グループワークのまとめ（2%×3）6%試験15% 目標③授業復習レポート6%（2%×3）、ペーパーサート制作7%、保育実践7%、試験20% 目標④授業復習レポート2%（2%×1）、個人記録の作成5%、試験3%	
受講上の注意	子どもの発達を保障する保育ができるよう、専門的な知識・技術を身に付けましょう。復習レポートのやりとりをしながら個別指導します。低年齢児向けの絵本も楽しみたいと思います。	
教員の実務経験	保育士として幼児教育に携わった経験を活かし、指導計画等の作成や発達を押さえた関わり方などについて、助言を行いながら演習する。また、3歳未満児の発達の特性や環境をとおしての保育などについて乳児保育の経験に基づいて具体的に質問に答えたり助言を行ったりする。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート） ■グループワーク □発表（プレゼンテーション） ■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） □自主学习支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位	選択
担当教員			
南出 眞代			
幼児教育学科専門科目		演習	ナンバリング：21C118
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は指導者自身のリズム感を高めながら子どもたちへの人間形成を、リトミックにより身に付けることである。 子ども達は、生活の中で様々なものの美しさなどを感じ取り、感じた事や考えた事を自分なりに表現する。この科目は、このような豊かな感性と表現する意欲と創造性を育てるための適切な援助が出来る保育者としての資質を身につけることを目的にしている。特に子ども達が音を聞き、感じ、理解し、その上で楽器に触ってみることに楽しさを身体全体で味わい、その喜びの中で音楽表現を育むという指導法である「リトミック」を学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園、保育園で実践・応用できる内容で、リズム・ピアノ演奏を含む幼児を対象とする指導法及び基礎的な動きを中心に修得する。	DP 1	30
	目標②幼稚園・保育園のための指導資格認定試験に合格できるレベルに到達することである。	DP 2	15
	目標③保育者として幼児のためのリトミックが人間教育としての多方面への成長を促すことを理解する。	DP 3	15
	目標④保育者として自覚を持った上で本授業で学んだ楽しい保育方法を自分の考えで指導計画を立てることができる。	DP 5	15
	目標⑤保育者として子どもたちに接する中で自分の考えや行動を省察できる。	DP 4	15
	目標⑥保育者として自分でアイデアを出し、園児の人的成長を図るための考えをまとめ、他者に説明できる。	DP 6	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 3：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	リトミックについての説明と体験	
	2	楽しいリトミックの経験 強弱・テンポ・空間・アクセント 基礎的な動き 基礎リズム(2拍子)	
	3	楽しいリトミックの経験 基礎的な動き 基礎リズム(2拍子) 拍子	
	4	リズムの演奏法 (3歳児指導法：1学期)	次回までにピアノ演奏予習
	5	ティーチング3歳児指導法：1学期	ピアノ小テスト
	6	リズムの演奏法 (3歳児指導法：2学期)	次回までにピアノ演奏予習
	7	ティーチング3歳児指導法：2学期 模擬発表の練習	ピアノ小テスト
	8	楽しいリトミックの経験 基礎リズム(2拍子) 拍子 3歳児指導案2学期の中から模擬発表	模擬発表指導案提出
	9	リズムの演奏法 (3歳児指導法：3学期)	次回までにピアノ演奏予習
10	ティーチング3歳児指導法：3学期 模擬発表の練習	ピアノ小テスト	

	11	3歳児指導案3学期の中から模擬発表	リトミック指導案(クリスマス・お正月)の作成 模擬発表指導案提出
	12	3歳児指導法総括1～3学期 リズムの演奏法(3歳児指導法:1～3学期) クリスマスでリトミック指導	リトミック指導案(クリスマス・お正月)提出
	13	楽しいリトミックの経験 リズムカノン導入 リズムフレーム2・3拍子	
	14	リトミックの理論とダルクロワーズについて	
	15	リズム試験・ピアノ実技試験	筆記試験を実施する 15週授業についてのレポート提出
定期試験	試験期間中の試験に代わって、レポートを提出させる。		
準備学習に必要な時間	3週前に提示がされる実技試験について、リズム(CDを聴いて)練習、ピアノ課題曲に(6曲)対する事前学習を行う(毎回1時間程度)。		
教科書	『幼稚園・保育園のためのリトミック3歳児用』『カラーボード(4色4枚セット)』『スティック』『試験練習用CD』(リトミック研究センター出版)		
参考図書、教材、準備物等	参考図書:岩崎光弘『リトミックってなあに』(ドレミ楽譜出版社1993) 『子どもがぐんぐん伸びる音楽あそび』 厚生労働省『保育所保育指針解説』(フレーベル館2018) 文部科学省『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館2018) 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館2018)		
課題(試験・レポート等)のフィードバック	実習の後に振り返りレポート提出。提出したレポートはコメントを添えて返却。		
評価の配点比率	目標① 実技試験 リズム15% ピアノ15% 目標② 幼児のためのリトミック教育理念の確認テスト15% 目標③ 園児に対し実際にリズム指導を行う中で何が育つかを理解する15% 目標④ 指導案を立て模擬レッスンを経験する15% 目標⑤ 附属幼稚園・保育園リトミック公開指導見学による15% 目標⑥ リトミックの資格を取得するにあたり、振り返りレポート提出10%		
受講上の注意	動きやすい服装で、裸足または底の薄い上履きで受講の事。 本科目は、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導者資格を取得するための授業である事を自覚し取り組んでほしい。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習(PBL) <input type="checkbox"/> 討議(ディスカッション、ディベート) <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表(プレゼンテーション) <input checked="" type="checkbox"/> 実習(実験、実技を含む)、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等) <input type="checkbox"/> 自主学習支援(LMS等)		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	4単位	選択
担当教員			
松川 恵子			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に幼稚園の教育に参加し、体験を通して幼稚園や幼稚園教諭の役割を理解するとともに、幼稚園教諭としての保育技術を習得することである。1年次9月に附属幼稚園で1週間、2年次6月に学外幼稚園で3週間、計4週間の実習を行い、各授業において学んだ理論と技術に基づいて直接幼児と接し、具体的に幼稚園教育を体験し、保育に必要な知識や技能を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育実践を通して、計画－実践－反省・評価－改善という循環の重要性について説明することができる。	DP 5	30
	目標②幼児理解に基づいたねらい・内容の設定、ねらい・内容を達成するための環境構成、援助などについて具体的に理解し、指導計画を作成・実践することができる。	DP 1	20
	目標③実際に幼児とふれ合い、指導計画を作成して保育を体験する中で、一人一人の幼児の姿及び一人ひとりに応じた指導法を身に付けることができる。	DP 4	20
	目標④教育実習に臨む態度が身に付き、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	DP 7	10
	目標⑤自己の実習を省察し、適切に実習ノート・日誌を記入・提出するとともに、幼稚園教諭としての自己の課題を明確化することができる。	DP 9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		<p>〔附属幼稚園実習〕 1年次9月を中心として1週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。 〈実習の概要〉 見学・観察を通して幼児の心身の発達過程と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握する。また、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握するとともに、指導計画を作成して保育を行う。</p>	<p>〔附属幼稚園実習〕 1. 附属幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2. 実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3. 毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習ノートに記入して実習担当教諭に提出すること。 4. 実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」「全体反省会の記録」及び「実習を終えて」を記入し、附属幼稚園に提出すること。</p>
	<p>〔学外指導実習〕 2年次6月に3週間、出身地等の幼稚園（各自が交渉する）において実習をする。 〈実習の概要〉 附属幼稚園実習において習得したものを基に、指導実習を行う。 教師の役割について意識しながら行動したり、指導計画を作成して保育を実践・反省・評価するという体験をしたりして、教師の役割を理解し、自覚を強くもつ。</p>	<p>〔学外指導実習〕 1. 実習幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2. 実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3. 毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習日誌に記入して実習担当教諭に提出すること。 4. 実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」及び「実習を終えて」を記入し、実習園に提出すること。</p>	

定期試験	試験に代わって、実習終了後に教育実習ノートを提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートは、実習後回収し、閲覧後返却する。 ・質問等がある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①②③④⑤実習園からの評価表 60% 目標①②③④⑤実習ノート 40%
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 I は幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次の履修科目のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・通算GPAが1年次前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の教育実習を履修できない場合がある。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、教育実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	1単位	選択
担当教員			
松川 恵子・河合 紀子・中里 弘穂			
幼児教育学科 専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E111
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、教育実習Ⅰ（1年次9月の附属幼稚園実習及び2年次6月の学外指導実習）がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握し、実習への心構えや目標を明確にもつことができるようにすることである。2年間を通して適切な時期に、実習内容・方法などを取り上げ、事前指導、または、事後指導を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①教育実習の意義・目的を説明することができる。	DP 1	10
	目標②保育に必要な表現技術を身に付けている。	DP 2	30
	目標③保育の計画、実践、反省、評価、改善の循環について説明することができる。	DP 5	20
	目標④教育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にもつことができる。	DP 6	10
	目標⑤教育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	DP 9	20
	目標⑥挨拶や言葉遣い等教育実習に必要なマナーを身に付けることができる。	DP 7	10
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育実習オリエンテーション（全体計画）	毎回配布する資料はファイルに綴じて、実習前に復習すること。
	2	子どもの発達理解①（3歳児）	毎時間感想レポートを提出する。
	3	子どもの発達理解②（4・5歳児）	
	4	清掃体験（仁愛女子短期大学附属幼稚園）	動きやすい服装で臨むこと。
	5	幼稚園教育実習の心構えについて	『実習要項』を事前に読んでおく。授業後、附属幼稚園実習の心構えを記入しておく。
	6	実習要項・実習ノート等について	『実習要項』『実習ノート』の関連ページを読んでおく。
	7	附属幼稚園実習オリエンテーションについて	オリエンテーションの項目を確認し、研究テーマなどの課題について考えておく。
	8	附属幼稚園でのオリエンテーション	
	9	教育実習ノートの記入について	
	10	指導計画作成について	実習で活用できるような教材を準備しておく。
	11	附属幼稚園実習事後指導（自己評価及び指導実習に向けて）	自己評価アンケートを行う。また、グループワークにより実習を振り返り、各自次の実習に向けての課題を明確にしておく。
	12	幼児が楽しめる遊びの環境づくりと実践（「じんあいこどものくに」）	「じんあいこどものくに」に向けて、準備しておく。
	13	電話対応の基本	
	14	電話対応の応用	
	15	実習先を訪問するときのマナー	
16	教育実習報告会（1年次発表）		

	17	幼稚園（学外指導）実習 事前指導	
	18	実習幼稚園でのオリエンテーション	オリエンテーションで質問することを整理しておく。
	19	敬語表現について	
	20	文体の統一 手紙文について	
	21	幼稚園（学外指導）実習心構え 諸注意	オリエンテーションの内容や指示されたことを教育実習ノートにまとめておく。
	22	幼稚園（学外指導）実習総括 実習報告会オリエンテーション	
	23	教育実習報告会（2年次発表）	学習成果のポートフォリオを作成し、提出する。
定期試験	試験に代わってレポートを課し、全授業終了後にポートフォリオを提出させる。		
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。		
教科書	<p>【1回生で使用】関仁志編著『これで安心！保育指導案の書き方』（北大路書房2009）</p> <p>【2回生で使用】財団法人幼少年教育研究所編著『遊びの指導 乳幼児編』（同文書院 2009）</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）</p> <p>内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）</p>		
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配付する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第1回目のオリエンテーションで説明する。実際の実習の場をイメージして授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。配布した資料は足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。質問などある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メールで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②③④⑤⑥ レポート80% ポートフォリオ20%		
受講上の注意	教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。幼稚園実習に直結する授業なので、やむを得ず欠席した場合は、その時の授業内容を必ず確認に来ること。		
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育を携わった経験を生かし、実習に向けての心構えや態度、指導案作成など事例を挙げながら講義及び演習を行う。		
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学习支援（LMS等）		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	4単位	選択
担当教員			
小川 智枝・松川 恵子・中尾 繁史			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	実習	ナンバリング：21E112
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に保育所・施設の保育に参加し、体験を通して子ども・利用者への理解、保育士の役割や職務内容等への理解、保育所・施設の役割や機能への理解等を深めることである。1年次2月に保育所で（担当：小川）、2年次8月に保育所以外の児童福祉施設等で（担当：中尾）、各80時間実習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。	DP 1	10
	目標②観察や子どもとの関わりを通して子ども一人一人の理解を深め、説明することができる。	DP 2	20
	目標③個に応じた援助をすることができる。	DP 4	10
	目標④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について、具体的に説明することができる。	DP 5	10
	目標⑤保育士の業務内容や職業倫理を理解し、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	DP 7	30
	目標⑥自己の実習を省察し、実習ノートを適切に記入・提出することができる。	DP 9	20
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 2：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		保育所実習〔小川 担当〕 実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開	・保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておきましょう。 ・実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって保育所（参加・観察）実習に臨みましょう。 ・毎日、一日を振り返り、心に残る出来事、子どもの姿、保育士の援助について学んだこと、話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習ノートに記入しましょう。 ・保育所（参加・観察）実習終了後に、保育実習ノートの「参加・観察実習でのまとめ」を記入し、実習園に提出してください。
		2. 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり	
		3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全	
		4. 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価	

	5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携・協働 (3) 保育士の役割と職業倫理	
	施設実習 [中尾 担当] 実習施設で、以下の内容を学ぶ。 1. 施設の役割と機能 (1) 施設における子どもの生活と保育士等の援助や関わり (2) 施設の役割と機能	1. 実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておきましょう。 2. 実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨みましょう。 3. 毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入しましょう。 4. 実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出してください。
	2. 子ども（利用者）の理解 (1) 子ども（利用者）の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助や関わり	
	3. 施設における子どもの生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3) 子どもの活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解	
	4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価	
	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理	
定期試験	試験に代わって、実習終了後に実習ノートを提出させる。	
準備学習に必要な時間	実習時間外に、実習ノート等を記入するなどの学習が必要です。	
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）	
参考図書、教材、準備物等	適宜、資料を配布します。	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。	
評価の配点比率	目標①②③④⑤⑥ 実習先からの評価表 60% 目標①②③④⑤⑥ 実習ノート 40%	
受講上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 ・ 1年次の全履修科目のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習は履修できません。 ・ 通算GPAが1年前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における保育実習は履修できません。 ・ 実習前に保育実習指導Ⅰの授業内容を復習し、熱意をもって実習に臨んでください。 	
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	<input type="checkbox"/> 課題解決型学習（PBL） <input type="checkbox"/> 討議（ディスカッション、ディベート） <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表（プレゼンテーション） <input checked="" type="checkbox"/> 実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> 双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） <input type="checkbox"/> 自主学習支援（LMS等）	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1・2年次	2単位	選択
担当教員			
小川 智枝・中尾 繁史・山下 清美			
幼児教育学科 専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21E102
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅰ(1年次2月の保育所実習及び2年次8月の施設実習)が有意義なものとなるように、事前に実習への心構えや目的等を明確にもつことができるようになるとともに、実習後には自己の実習を省察して保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲへの課題を明確にもつことができるようになることを目的とする。2年間を通して適切な時期に、保育所実習については松川・山下が、施設実習については中尾が、実習内容に応じた指導を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学習成果番号	重み付け%
	目標①保育実習の意義・目的を説明することができる。	DP 1	20
	目標②実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。	DP 7	10
	目標③保育に必要な表現技術を身につけている。	DP 4	10
	目標④保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法について具体的に説明することができる。	DP 5	10
	目標⑤保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確に説明することができる。	DP 6	20
	目標⑥実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	DP 9	20
目標⑦挨拶や言葉遣いなどの保育実習に必要なマナーを身につけることができる。	DP 7	10	
本科目で身に付ける学習成果(DP)	【知識・技能】	DP 1：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 DP 4：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	DP 5：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 DP 6：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	DP 7：他者への思いやり、社会人としてのマナー及びコミュニケーションを通じて、他者と協働する態度を身につけている。 DP 9：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育所実習指導〔小川・山下 担当〕 実習に役立つ表現遊び講習①(手遊び・うた遊び)	資料はファイルに綴っておき、実習前に復習しましょう。 毎時間、感想レポートを提出してもらいます。 事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	2	実習に役立つ表現遊び講習②(絵本)	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	3	実習に役立つ表現遊び講習③(折り紙遊び)	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	4	保育者のマナーと実習生の心構え	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	5	清掃体験(仁愛保育園)	
	6	保育実習の意義・目的及び実習の概要について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	7	実習の内容と課題、実習保育所依頼の手続き等について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	8	保育所の機能と目的について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	9	保育士の仕事と役割について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	10	保育所実習報告会への参加	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	11	保育所実習の心構えについて(子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務、など)	実習前にファイルに綴った資料を確認し、復習しましょう。
12	実習保育所でのオリエンテーションについて	事後に、オリエンテーションで質問することを整理し	

	14		ておきましょう。
	13	実習保育所でのオリエンテーション	オリエンテーションの内容や指示されたことを保育実習ノートにまとめましょう。
	14	実習における計画と実践、観察・記録及び評価について	実習までに「私の心構え」と「自己の研究テーマ」を記入しましょう。
	15	実習の総括と課題の明確化－自己評価及び保育実習Ⅱに向けて	学習成果のポートフォリオを作成し、提出しましょう。
	16	施設実習指導 [中尾 担当] 施設実習の目的・概要	
	17	実習の内容と課題	
	18	2回生による実習報告会への参加	
	19	実習に際しての留意事項（人権、守秘義務、マナー等）	
	20	施設見学に関するオリエンテーション、諸注意	
	21	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	22	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	23	実習の計画と記録、実践・観察の視点	
	24	各実習種別における特徴及び実習の目的と概要	
	25	実習日誌の書き方、心構え、諸注意	
	26	実習施設でのオリエンテーション	
	27	実習の総括(1)－自己評価・課題の明確化	
	28	実習の総括(2)－グループワーク	
	29	実習の総括(3)－報告会に向けて	
	30	実習報告会での発表（1・2回生合同）	
定期試験		（保育所実習指導）試験に代わってレポートを課し、全授業終了後にポートフォリオを提出させる。 （施設実習指導）試験に代わってレポートを提出させる。	
準備学習に必要な時間		毎回1時間程度資料を基に復習し、実習前にはもう一度資料を確認するなどの事後学習の時間が必要です。	
教科書		大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著『新しい保育講座⑫ 保育・教育実習』（ミネルヴァ書房 2020）	
参考図書、教材、準備物等		厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）	
課題（試験・レポート等）のフィードバック		レポート等は、適宜添削し返却します。	
評価の配点比率		〔小川・山下担当〕目標①②③④⑤⑥⑦ レポート 35%、ポートフォリオ 15% 〔中尾担当〕目標①②③④⑤⑥⑦ 授業中の提出課題 30%、レポート 20%	
受講上の注意		保育実習指導Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 積極的に質問等をしてください。感想レポートに記入していただいた質問にも対応します。 実習時に、自分で考え、自分で判断し、行動することができるよう、主体的に授業に臨んでください。	
教員の実務経験		保育者としての実務経験を活かし、保育所実習に必要な表現技術、実習の心構えやマナーなどについて、具体的な事例なども取り入れながら授業を行う。	
アクティブ・ラーニング、ICT活用		□課題解決型学習（PBL） □討議（ディスカッション、ディベート） ■グループワーク □発表（プレゼンテーション） ■実習（実験、実技を含む）、フィールドワーク □反転授業 □双方向型授業（クリッカー、スマホ使用等） □自主学习支援（LMS等）	